

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第587集

みずしり したんだ  
水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・  
したんだ こじょうほうはっちょう  
四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡  
発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業古城2期地区関連遺跡発掘調査

2011

岩手県県南広域振興局農政部農村整備室  
(財)岩手県文化振興事業団

水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・  
四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡  
発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業古城2期地区関連遺跡発掘調査



水尻遺跡SB01 (3×2間四面庇付建物)



水尻遺跡SK01 (内面黒色土器出土状況)



四反田I遺跡S101 (北から)



四反田I遺跡SB01 (東から)



四反田 I 遺跡 SK01 (南東から)



四反田 I 遺跡 SK06 (東から)



古城方八丁遺跡SK31出土石帯



古城方八丁遺跡S Z01出土瀬美窯産陶器出土状況

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、経営体育成基盤整備事業古城2期地区に関連して平成21年度に行われた奥州市前沢区水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査により、各遺跡で古代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が確認されました。そして、水尻遺跡では旧石器時代の石器集中部と平安時代の複数の建物跡が確認されました。また、四反田Ⅰ遺跡では土師器坏がまとまって出土した土坑や十和田a火山灰が堆積した土坑が調査されています。そして古城方八丁遺跡では平安時代末期の陶器埋設遺構、中世から近世の堀跡などが確認されました。今回の調査結果は、旧石器時代から近世に至るまでの前沢地区の歴史を知る上で貴重な資料となると思われます。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県県南広域振興局農政部農村整備室をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成23年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 池田克典

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県奥州市前沢区古城字水尻113ほか、字四反田154-1ほか、字四反田6ほか、字宿ノ前153ほかの所在する水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡の発掘調査結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は、「経営体育成基盤整備事業古城2期地区」に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県県南広域振興局農政部農村整備室との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。なお、費用負担は岩手県教育委員会が岩手県県南広域振興局農政部に農家負担分を補助している。
- 3 本遺跡の調査成果の概略は、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第571集「平成21年度発掘調査報告書」に公表しているが、本書の内容を優先するものとする。
- 4 本遺跡の岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード番号並びに遺跡略号は、以下の通りである。
  - 水 尻 遺 跡 NE46-0370/MS-09
  - 四反田Ⅰ遺跡 NE46-0394/STDⅠ-09
  - 四反田Ⅱ遺跡 NE46-0383/STDⅡ-09
  - 古城方八丁遺跡 NE46-1307/KJH-09
- 5 各遺跡の調査期間・調査面積(調査対象面積)・担当者は、以下のとおりである。

### 野外調査

遺跡名	調査面積	野外調査期間	担当者
水 尻 遺 跡	1,496㎡	平成21年10月1日～11月27日	米田 寛・高橋静歩
四反田Ⅰ遺跡	500㎡	平成21年10月1日～11月16日	丸山直美・佐々木智久
四反田Ⅱ遺跡	60㎡	平成21年10月1日～11月16日	丸山直美・佐々木智久
古城方八丁遺跡	1,285㎡	平成21年10月1日～11月27日	村田 淳・星 雅之・佐藤里恵

### 室内整理

遺跡名	室内整理期間	担当者
水 尻 遺 跡	平成21年11月1日～平成22年3月31日	米田 寛・高橋静歩
四反田Ⅰ遺跡	平成21年11月1日～平成22年3月31日	丸山直美・佐々木智久
四反田Ⅱ遺跡	平成21年11月1日～平成22年3月31日	丸山直美・佐々木智久
古城方八丁遺跡	平成22年2月16日～平成22年3月31日	村田 淳・佐藤里恵

- 6 野外調査での遺構写真撮影は調査員、遺物写真撮影は当センター写真撮影を専門とする期限付職員及び村田が担当した。
- 7 本報告書の執筆は、第Ⅰ章第1節を岩手県県南広域振興局農政部農村整備室が、第Ⅰ章第2節を米田、第Ⅱ・Ⅲ章を高橋・米田、第Ⅳ章を丸山、第Ⅴ章を村田が執筆し、編集は米田が担当した。
- 8 出土遺物の鑑定・分析及び業務委託は次の機関に委託した。
  - 放射性炭素年代測定……………株式会社 加速器分析研究所
  - 種子化石同定分析・炭化材樹種同定……古代の森研究舎
  - 土壌分析……………バリノ・サーヴェイ株式会社

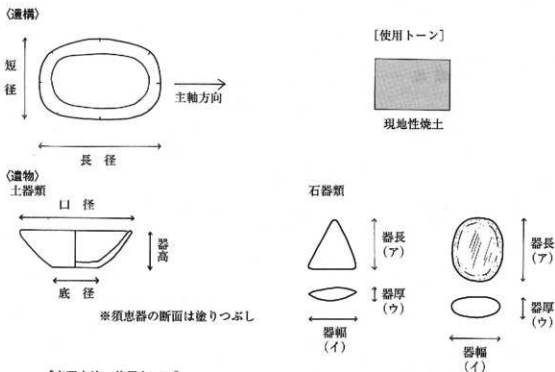


石帯の化学分析.....(株) 第四紀地質研究所

鉄製品分析.....岩手県立博物館

- 9 発掘調査・整理作業・報告書作成にあたって以下の方々に御教示・御協力をいただいた。  
伊藤博幸、佐藤良和、伊藤才城、神田和彦、吉川耕太郎、柴垣勇夫、安井俊則、及川司、島原弘  
征、八重郡忠郎、佐藤宏之(敬称略、順不同)
- 10 本報告書に掲載した地図は以下の通りである。  
国土交通省国土地理院 1:25,000地形図「前沢」(NJ-54-14-14-2)
- 11 本遺跡から出土した遺物及び調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管し  
ている。

## 凡 例



[表現方法・使用トーン]



ミガキ



ヘラナダ



ヘラケズリ



ハケメ



回転ナダ



黒色処理



欠損部



使用面(石器)

遺構略号

S A: 柱穴列、S B: 掘立柱建物、S D: 溝、S E: 井戸、S F: 焼土遺構

S I: 竪穴住居・住居状遺構、S K: 土坑、S X: 性格不明遺構・不定形遺構、P: 柱穴

※当センターで使用しているコンテナの大きさは以下の通りである

大: 42×32×30cm

中: 42×32×20cm

小: 42×32×10cm

# 目 次

## I 調査に至る経過

1 調査経緯	1
2 調査経過	1

## II 立地と環境

1 遺跡の位置	2
2 地理的環境	2
3 歴史的環境	5

## III 水尻遺跡

1 概 要	8
2 調査・整理の方法	11
3 基本層序	13
4 検出遺構	14
5 出土遺物	48

## IV 四反田Ⅰ・四反田Ⅱ遺跡

1 概 要	81
2 調査・整理の方法	81
3 検出遺構	81
4 出土遺物	115

## V 古城方八丁遺跡

1 概 要	131
2 調査・整理の方法	131
3 検出遺構	139
4 出土遺物	184

## VI 自然科学分析

1 放射性炭素年代測定	201
2 検出土坑の内容物(水尻遺跡)	205
3 炭化種実分析(四反田I遺跡)	207
4 炭化材樹種同定(古城方八丁遺跡)	209
5 石帯の化学分析(古城方八丁遺跡)	211
6 鉄関連資料の金属考古学的調査(古城方八丁遺跡)	215

## VII 調査のまとめ

1 水尻遺跡	225
2 四反田I・II遺跡	232
3 古城方八丁遺跡	236
報告書抄録	359

## 図版目次

第1図 遺跡位置図	3	第3図 周辺遺跡分布図	6
第2図 表層地質分類図	4		
(水尻遺跡)			
第4図 水尻遺跡遺構配置図	8	第20図 S B02	29
第5図 A区遺構配置図	9	第21図 S B03	30
第6図 B区遺構配置図	9	第22図 S B04	31
第7図 C区遺構配置図	10	第23図 S A01~04	32
第8図 基本土層	13	第24図 S K01~07	33
第9図 旧石器集中部配置図	14	第25図 S D01~04・07	36
第10図 石器集中部1器種別分布図	16	第26図 S D05・06	39
第11図 石器集中部1石材別分布図	17	第27図 S D08~11	40
第12図 石器集中部2・3器種別分布図	18	第28図 S X01~03性格不明遺構	42
第13図 石器集中部2・3石材別分布図	19	第29図 S X04性格不明遺構	43
第14図 石器集中部4器種別分布図	21	第30図 A・B区柱穴配置図	44
第15図 石器集中部4石材別分布図	22	第31図 C区柱穴配置図	45
第16図 石器集中部5・6器種別・石材別 分布図	24	第32図 出土遺物(1)	51
第17図 1号環群	25	第33図 出土遺物(2)	52
第18図 S I01	26	第34図 出土遺物(3)	53
第19図 S B01	28	第35図 出土遺物(4)	54
		第36図 出土遺物(5)	55

第37回	出土遺物 (6) .....	56	第42回	出土遺物 (11) .....	61
第38回	出土遺物 (7) .....	57	第43回	出土遺物 (12) .....	62
第39回	出土遺物 (8) .....	58	第44回	出土遺物 (13) .....	63
第40回	出土遺物 (9) .....	59	第45回	出土遺物 (14) .....	64
第41回	出土遺物 (10) .....	60			
	(四反田 I・II 遺跡)				
第46回	S I 01 (1) .....	82	第65回	S D 01~03 .....	108
第47回	S I 01 (2) .....	83	第66回	S D 04 .....	109
第48回	S B 01 (1) .....	86	第67回	S D 05、柱穴 .....	110
第49回	S B 01 (2) .....	87	第68回	四反田 I 遺跡遺構配置図 .....	113
第50回	S K 01・08・09・14 .....	90	第69回	四反田 II 遺跡遺構配置図 .....	114
第51回	S K 02・03・05 .....	91	第70回	S I 01出土遺物 (1) (四反田 I 遺跡) .....	118
第52回	S K 06・07 .....	92	第71回	S I 01出土遺物 (2) (四反田 I 遺跡) .....	119
第53回	S K 04・10~12 .....	93	第72回	S I 01 (3)、S B 01出土遺物 (四反田 I 遺跡) .....	120
第54回	S K 13 .....	95	第73回	S K 01出土遺物 (四反田 I 遺跡) .....	121
第55回	S D 01 .....	96	第74回	S K 03・06 (1) 出土遺物 (四反田 I 遺跡) .....	122
第56回	S D 02 .....	97	第75回	S K 06 (2)・07・09・11 (1) 出土遺物 (四反田 I 遺跡) .....	123
第57回	S D 03 .....	98	第76回	S K 11 (2)・14、S D 02・03・06、 遺構外出土遺物 (四反田 I 遺跡) .....	124
第58回	S D 04・05 .....	99	第77回	S K 01、S D 03出土遺物 (四反田 II 遺跡) .....	125
第59回	S D 06 .....	101			
第60回	S X 01性格不明土坑 .....	102			
第61回	S X 02細跡 .....	103			
第62回	柱穴 .....	104			
第63回	S K 01・02 .....	105			
第64回	S K 03 .....	107			
	(古城方八丁遺跡)				
第78回	グリッド配置図 .....	133	第97回	S D 06~10 .....	164
第79回	A区遺構配置図 .....	135	第98回	S D 11~13 .....	165
第80回	B区遺構配置図 .....	136	第99回	S Z 01 .....	166
第81回	C区遺構配置図 .....	137	第100回	S B 01・03 .....	168
第82回	D区遺構配置図 .....	138	第101回	S B 02 .....	169
第83回	S K 101・102 .....	140	第102回	S B 04・05 .....	170
第84回	S I 01 (1) .....	141	第103回	柱穴 (A・B区) .....	171
第85回	S I 01 (2) .....	142	第104回	柱穴 (C区) .....	172
第86回	S I 02 .....	144	第105回	柱穴 (D区①) .....	173
第87回	S I 03 (1) .....	145	第106回	柱穴 (D区②) .....	174
第88回	S I 03 (2) .....	146	第107回	S F 01・02、S X 01 .....	176
第89回	S K 01~08 .....	149	第108回	土器 (1) .....	186
第90回	S K 09~17 .....	150	第109回	土器 (2) .....	187
第91回	S K 18~25 .....	151	第110回	土器 (3) .....	188
第92回	S K 26~33 .....	152	第111回	土器 (4) .....	189
第93回	S K 34~43 .....	153	第112回	土器 (5) .....	190
第94回	S E 01~03 .....	155	第113回	陶磁器 (1) .....	191
第95回	S D 101・102 .....	157	第114回	陶磁器 (2) .....	192
第96回	S D 01~05 .....	163	第115回	金属製品、石器・石製品 (1) .....	193

第116図 石器・石製品(2)……………	194	第118図 石器・石製品(4)、木製品……………	196
第117図 石器・石製品(3)……………	195		
(Ⅳ 調査のまとめ)			
第119図 土器変遷図……………	229	第121図 古城地区祭祀関連遺跡及び環壕屋敷	
第120図 土器相関図……………	231	分布図……………	241
		第122図 岩手県内出土石帯の諸例……………	242

## 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧……………	7		
(水尻遺跡)			
第2表 石器集中部別器種組成表……………	15	第12表 B区柱穴観察表……………	45
第3表 石器集中部別石材組成表……………	15	第13表 C区柱穴観察表……………	47
第4表 石器集中部1器種・石材組成表……………	15	第14表 石器観察表(旧石器)……………	65
第5表 石器集中部2器種・石材組成表……………	18	第15表 裸腹察表……………	74
第6表 石器集中部3器種・石材組成表……………	18	第16表 石器・石製品・鉄滓観察表	
第7表 石器集中部4器種・石材組成表……………	20	(縄文時代以降)……………	76
第8表 石器集中部5器種・石材組成表……………	23	第17表 縄文土器観察表……………	76
第9表 石器集中部6器種・石材組成表……………	23	第18表 土師器・須恵器観察表……………	77
第10表 1号礫群石材別集計表……………	25	第19表 陶磁器観察表……………	80
第11表 A区柱穴観察表……………	45	第20表 土製品観察表……………	80
(四反田Ⅰ・Ⅱ遺跡)			
第21表 土師器・須恵器観察表		第26表 陶磁器観察表(四反田Ⅱ遺跡)……………	130
(四反田Ⅰ遺跡)……………	126	第27表 木製品観察表(四反田Ⅱ遺跡)……………	130
第22表 土製品観察表(四反田Ⅰ遺跡)……………	130	第28表 土師器・須恵器観察表	
第23表 石器・石製品観察表(四反田Ⅰ遺跡)……………	130	(四反田Ⅱ遺跡)……………	130
第24表 陶磁器観察表(四反田Ⅰ遺跡)……………	130	第29表 石器観察表(四反田Ⅱ遺跡)……………	130
第25表 木製品観察表(四反田Ⅰ遺跡)……………	130		
(古城方八丁遺跡)			
第30表 遺構名変更一覧……………	134	第38表 柱穴計測表(7)……………	183
第31表 土坑計測表……………	148	第39表 土器観察表(1)……………	197
第32表 柱穴計測表(1)……………	177	第40表 土器観察表(2)……………	198
第33表 柱穴計測表(2)……………	178	第41表 土器観察表(3)……………	199
第34表 柱穴計測表(3)……………	179	第42表 陶磁器観察表……………	199
第35表 柱穴計測表(4)……………	180	第43表 金属製品観察表……………	200
第36表 柱穴計測表(5)……………	181	第44表 石器・石製品観察表……………	200
第37表 柱穴計測表(6)……………	182	第45表 木製品観察表……………	200

## 写真图版目次

写真图版1	古城地区遗址……………	245			
〈水坑遗迹〉					
写真图版2	遗迹全景……………	246	写真图版23	S D01~03……………	267
写真图版3	基本I层、石器集中部……………	247	写真图版24	S D04……………	268
写真图版4	S I 01……………	248	写真图版25	S D05~07……………	269
写真图版5	S B01 (1)……………	249	写真图版26	S D08~11……………	270
写真图版6	S B01 (2)……………	250	写真图版27	S X01·02性格不明遗構……………	271
写真图版7	S B01 (3)……………	251	写真图版28	S X03·04性格不明遺構……………	272
写真图版8	S B01 (4)……………	252	写真图版29	石器 (1)……………	273
写真图版9	S B01 (5)……………	253	写真图版30	石器 (2)……………	274
写真图版10	S B01 (6)……………	254	写真图版31	石器 (3)……………	275
写真图版11	S B02……………	255	写真图版32	石器 (4)……………	276
写真图版12	S B03 (1)……………	256	写真图版33	石器 (5)……………	277
写真图版13	S B03 (2)……………	257	写真图版34	石器 (6)……………	278
写真图版14	S B03 (3)……………	258	写真图版35	石器 (7)……………	279
写真图版15	S B03 (4)……………	259	写真图版36	土器 (1)……………	280
写真图版16	S B03 (5)……………	260	写真图版37	土器 (2)、陶器 (1)……………	281
写真图版17	S B04 (1)……………	261	写真图版38	土器 (3)、陶器 (2)……………	282
写真图版18	S B04 (2)、S A01……………	262	写真图版39	土器 (4)、陶器 (3)……………	283
写真图版19	S A03 (1)……………	263	写真图版40	土器 (5)……………	284
写真图版20	S A03 (2)·04……………	264	写真图版41	土器 (6)……………	285
写真图版21	S K01·02……………	265	写真图版42	土器 (7)、土製品、礫石、鉄滓 ……	286
写真图版22	S K03~07……………	266			
〈四反田 I·II 遗迹〉					
写真图版43	航空写真……………	287	写真图版59	S D04~06……………	303
写真图版44	調査前現況、試掘、検出……………	288	写真图版60	S X01性格不明土坑、S X02堀跡…	304
写真图版45	S I 01……………	289	写真图版61	調査区全景、S K01~03……………	305
写真图版46	S I 01床面Pit (1)……………	290	写真图版62	S D01~05、柱穴……………	306
写真图版47	S I 01床面Pit (2)……………	291	写真图版63	S I 01出土遺物 (1)……………	307
写真图版48	S I 01床面Pit (3)……………	292	写真图版64	S I 01出土遺物 (2)……………	308
写真图版49	S I 01床面Pit (4)……………	293	写真图版65	S I 01、S B01、S K01出土遺物…	309
写真图版50	S I 01床面Pit (5)……………	294	写真图版66	S K01出土遺物……………	310
写真图版51	S B01 (1)……………	295	写真图版67	S K01·03·06出土遺物……………	311
写真图版52	S B01 (2)……………	296	写真图版68	S K06~09·11出土遺物……………	312
写真图版53	S K01·08·09·14……………	297	写真图版69	S K11·14、S D02·03·	
写真图版54	S K01·08~10·14……………	298		06出土遺物……………	313
写真图版55	S K02~05·13……………	299	写真图版70	S X01性格不明土坑、	
写真图版56	S K06·07·11·12……………	300		遺構外出土遺物……………	314
写真图版57	S D01·02……………	301	写真图版71	S K01出土遺物……………	315
写真图版58	S D03~05……………	302	写真图版72	S D04·05、遺構外出土遺物……………	316

〈古城方八丁遺跡〉

写真図版73	調査区全景(1)……………	317	写真図版94	S E 01~03……………	338
写真図版74	調査区全景(2)……………	318	写真図版95	S D 101……………	339
写真図版75	調査区全景(3)、調査前現況……………	319	写真図版96	S D 102……………	340
写真図版76	基本層序、SK101・102……………	320	写真図版97	S D 01~03……………	341
写真図版77	S I 01(1)……………	321	写真図版98	S D 04~07……………	342
写真図版78	S I 01(2)……………	322	写真図版99	S D 08・09……………	343
写真図版79	S I 02……………	323	写真図版100	S D 10~13……………	344
写真図版80	S I 03(1)……………	324	写真図版101	S Z 01……………	345
写真図版81	S I 03(2)……………	325	写真図版102	S B 01……………	346
写真図版82	S K 01~04……………	326	写真図版103	S B 02……………	347
写真図版83	S K 05~08・10……………	327	写真図版104	S B 03……………	348
写真図版84	S K 09・11~13……………	328	写真図版105	S B 04・05……………	349
写真図版85	S K 14~16……………	329	写真図版106	柱穴(1)……………	350
写真図版86	S K 17~20……………	330	写真図版107	柱穴(2)、S X 01……………	351
写真図版87	S K 21~23……………	331	写真図版108	出土遺物(1)……………	352
写真図版88	S K 24~26……………	332	写真図版109	出土遺物(2)……………	353
写真図版89	S K 27~29……………	333	写真図版110	出土遺物(3)……………	354
写真図版90	S K 30~32……………	334	写真図版111	出土遺物(4)……………	355
写真図版91	S K 33~36……………	335	写真図版112	出土遺物(5)……………	356
写真図版92	S K 37~40……………	336	写真図版113	出土遺物(6)……………	357
写真図版93	S K 41~43、S F 01・02……………	337	写真図版114	出土遺物(7)……………	358

## I 調査に至る経過

### 1 調査経緯

水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡は、「経営体育成基盤整備事業古城2期地区」の圃場整備に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本地区は奥州市前沢区中心部より北東部に位置し、現況は、小区画・不整形な水田で、かつ幅員狭小な農道となっていることから、作業効率が悪く、また用排水兼用の土間排水路のため、用水不足や排水不良となっており、維持管理に支障を来しているところである。このため、本事業地区においては、大区画圃場整備を実施することで、農作業の効率化、生産コストの削減、生産性の向上等を図り、農地集積による安定した経営体および担い手農家の育成を目的として、事業着手したものである。

当事業の施工に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県県南広域振興局農林部農村整備室から平成20年10月27日付け県南広農整第140-3号「経営体育成基盤整備事業古城2期地区における埋蔵文化財試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会は平成20年11月10日から14日にかけて試掘調査を実施し、工事に着手するには当該遺跡の発掘調査が必要となる旨を、平成20年12月9日付け教生第1176号「埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答してきた。この回答を受け、当農村整備室は平成21年1月27日付け県南広農整第140-4号「埋蔵文化財試掘調査結果による工法協議について」により、盛上工法による保存箇所と、発掘調査による記録保存箇所について協議を行った。その結果を踏まえて当農村整備室は、岩手県教育委員会の調整を受けて、平成21年4月1日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(岩手県県南広域振興局農政部農村整備室)

### 2 調査経過

水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡は、平成21年10月1日より調査を開始した。調査区内には船刈作業中の範囲があり、地権者、県南広域振興局農政部農村整備室と協議し、畑地や休耕地などから調査を開始した。各調査区によって船刈作業の進捗状況が異なるため、当初の予定期間を越えて調査を継続した範囲も数ヵ所あった。水尻遺跡は3ヵ所の調査区を北から順にA区（現況水田）・B区（現況畑地）・C区（現況農道）とした。四反田Ⅰ遺跡は現況が畑地と水田で、四反田Ⅱ遺跡は現況が水田であった。古城方八丁遺跡の調査区は、A・B区（現況水田）とC・D区（現況畑地）の4ヵ所を設定した。調査中は台風の通過や雨天によって、各調査区がたびたび冠水した。その都度、水の汲み取り作業を行った。平成22年11月7日には現地説明会を行い、周辺住民を中心に、80名近い来訪者があった。11月16日には四反田Ⅰ遺跡と四反田Ⅱ遺跡の野外調査が終了し、11月27日には水尻遺跡と古城方八丁遺跡の野外調査が終了した。



## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置

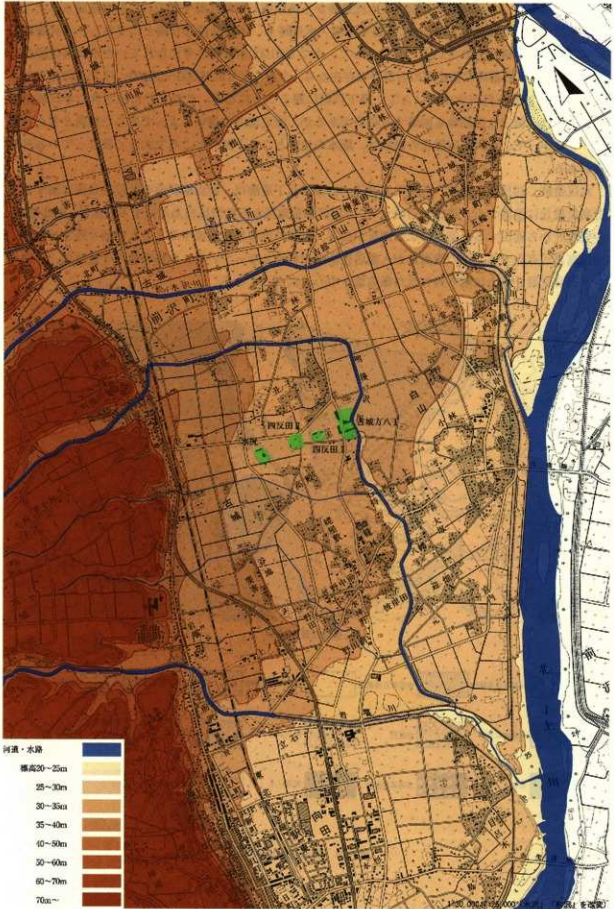
水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡の4遺跡は、JR東北本線前沢駅から北東約3～3.5km、北上川右岸の海拔30～35mの河岸段丘上にある(第1図)。その位置は国土地理院発行の地形図2万5千分の1「前沢」NJ-54-14-14-2図幅に含まれており、北緯39度04分31秒～32秒、東経141度08分27秒～09分02秒付近〔世界測地系〕である。遺跡は胆沢扇状地の水沢高位段丘面東端部の中央付近に位置し、南東側を北上川、東側を明後沢川等の小河川が南流する河岸段丘の微高地上に広がっている。現況では、微高地の大部分が宅地・畑地・水田となっている。また、古城方八丁遺跡の東側には平成17～20年度に当里蔵文化財センターが調査を実施した道上遺跡、合野遺跡、小林繁長遺跡などが位置している。

### 2 地理的環境

4遺跡は、岩手県奥州市前沢区古城字水尻・字四反田・字宿ノ前に所在する。奥州市は平成18年2月20日の市町村合併により、水沢市・江刺市・前沢町・胆沢町・衣川村の5市町村を集め新設された名称である。遺跡の所在する前沢区(旧前沢町)は岩手県南部の内陸部に位置し、西側の奥羽山脈と東側の北上山地に挟まれた南北に長い北上盆地にある。この盆地は南流する北上川によって盛岡以北を上流域、盛岡～前沢間を中流域、前沢以南を下流域と3区域に区分されている。前沢区はこの中流域南端に位置し、北は水沢区、東は一関市東山町、南は平泉町、西は胆沢区、衣川区と境を接している。

北上川は岩手県内に南北に延びる北上低地帯を南流し、宮城県石巻市で太平洋に注ぐ全長249km、流域面積10,150km<sup>2</sup>の東北地方有数の河川である。流路は低地帯の東側に偏り、また北上川に注ぐ支流のうち大きな河川の殆どが奥羽山脈に源をもつことから、扇状地や段丘の発達は奥羽山脈に接する西側で良好である。これらの扇状地は北上川の支流で開析され、発達した河岸段丘や扇状地、河岸平野および起伏量の小さい丘陵地が互いに入り組む構造となっている(第2図)。

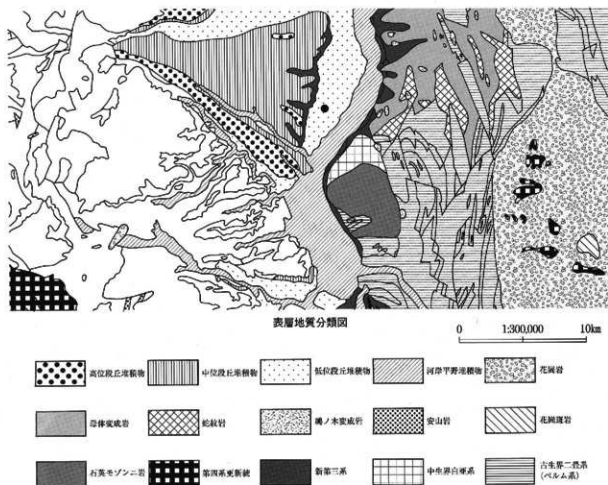
本遺跡の所在する前沢区においてもこの傾向はそのまま現れるが、南流する北上川によって分断される東部と西部では対照的な様相を示している。東部地域は北上山地が近くに迫る丘陵地帯を呈し、標高90m以上の浸食面と標高50～90mの段丘面が認められ、多くの小支谷によって分断されている。一方、西部地域は胆沢区の若柳、市野々を扇頂部とする広大な胆沢扇状地の東部に位置する。この扇状地は大きく高位・中位・低位の段丘に区分され、さらにその中で細分されている。胆沢川南岸の高位段丘面(一首坂段丘)から、中位段丘面(胆沢段丘:比高上位から順に上野原、横道、堀切、福原に4細分)、低位段丘面(水沢段丘:水沢高位段丘と水沢低位段丘に細分)へと続く。水沢段丘面は、高・中位段丘を取り巻くように北と南、扇端部に広がっている。すなわち、水沢段丘面の堆積物は胆沢川から前沢区にまで広がっており、北上低地帯にまで及んでいる。水尻、四反田Ⅰ、四反田Ⅱ、古城方八丁遺跡は、この水沢段丘面のうち、高位段丘面上に位置している。水沢高位段丘面の形成年代は、花泉段丘(35,000～21,430y. B. P.)に対比されている(斎藤1978)。また、胆沢扇状地の段丘区分を示した柱状図上に、水沢段丘の形成年代が19560+540y. B. P.(大上・古田1984)と記載されている。これは、水沢段丘の堆積物(木炭)の放射性炭素年代である。



第1図 遺跡位置図

今回の調査で、水沢高位段丘面上の水尻遺跡から後期旧石器時代前半期の石器群が確認された。また、水尻遺跡より南南東約6 kmに位置する鶯ノ木遺跡も、水沢高位段丘面上に立地し、水尻遺跡と同様の石器群が確認されている。したがって、かつて20,000年前頃と考えられていた水沢高位段丘の形成は、後期旧石器時代前半期の石器群の存在から、少なくとも約25,000~26,000y. B. P. (約29,000cal. y. B. P.)の始良・丹沢火山灰(AT)降下以前に遡ることになる。これまでに示された年代測定値については、測定上の問題も加味する必要があるが、測定箇所の違いによって生じた差異と考えられる。したがって、水沢高位段丘の形成は、雑水の速いところと遅いところで大きく異なっている可能性がある。

水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡は、胆沢扇状地の低位段丘面に属する水沢高位段丘に位置する。遺跡周辺のうち、水沢区姉帯地区から前沢区白鳥川に至る地区は、扇状地高・中位段丘から流出する小河川による開析が進み、無数の沖積地を形成するとともに削り残された多くの微高地が存在する。この微高地が人類居住活動の舞台となっている。本書所収の4遺跡は、いずれも水沢高位段丘面上に削り残された微高地を中心に広がっている。



第2図 表層地質分類図

### 3 歴史的環境

#### 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は胆沢扇状地に分布している。胆沢扇状地の中位段丘面には下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡、上森遺跡、岩洞遺跡、二の台長根遺跡など、石器集中部が確認された遺跡が複数ある。低位段丘面では本書所収の水尻遺跡と鵜ノ木遺跡で石器集中部が確認されている。第2節に記載したとおり、胆沢扇状地の低位段丘面に位置する水尻高位段丘面は、約2万年前に形成されたと考えられていた。この形成年代が正しければ、水尻遺跡と鵜ノ木遺跡の石器群は約2万年前以降となるが、編年学的研究成果からはそれよりも古いA T降下前の石器群と考えられる。水尻高位段丘面の年代測定資料が増加すれば、このミスマッチは次第に解消されていくものと期待される。後期旧石器時代前半期の石器群は、上森遺跡、二の台長根遺跡、鵜ノ木遺跡で確認され、台形石器と打面残置のナイフ形石器が出土している。一方、後期旧石器時代後半期の石器群としては、いわゆる「真正の石刃技法」を保有していることが特徴のひとつであるが、岩洞遺跡や北上川東岸の生母宿遺跡でその存在が明らかとなっている。

#### 縄文時代・弥生時代

古城・白山地区では、中期以降の遺跡が散見される。小林繁長遺跡（第3図80、以下第3図省略）では包含層が形成されており、大木7b~8式土器が多量に出土した。道上遺跡（74）では低湿地から縄文時代後期～晩期の土器が出土した。川岸場Ⅱ遺跡（78）では縄文時代晩期～弥生時代の包含層が形成されている。

#### 古代

古代の遺跡は、古城地区に昭和38年に史跡跡に指定された明後沢遺跡（39）がある。水沢区胆沢城跡、江刺区瀬谷子窟跡群と同範囲関係にある瓦が大量に出土している。古くから城柵説、窯跡説、寺院説などの仮説がたてられ、古代東北史において重要視されてきた。これまでの調査により、明後沢遺跡では平安時代の集落と粘土採掘坑が検出され、瓦、かわらけ、瀝美・常滑窯産陶器、白磁、青磁が出土している（及川ほか2005）。しかし、遺跡の性格については解明に至っていないため、今後の調査が期待される。また、白山地区には、平安時代の杭列の構成材の中から「禁制」木簡が出土した道上遺跡（74）がある。この木簡の出土は極めて珍しく、全国で2遺跡3例目である。そしてこれは道上遺跡とその周辺が畿内や周辺地域とはほぼ同時期に寄進田の禁制や「字」呼称などが実施されていたことを確実に立証する貴重な資料であり、遺跡周辺に条理プランが施行されていた可能性が想定されている（丸山浩ほか2009）。水尻遺跡、四反田Ⅰ遺跡、四反田Ⅱ遺跡、古城方八丁遺跡は、この2つの遺跡のほぼ中間地点に位置している。

#### 参考・引用文献

- 大上和直・吉田 充 1984 「北上川中流域・胆沢扇状地における火山灰層序」『岩手大学工学部研究報告』137  
 齋藤享治 1978 『岩手県胆沢川流域における段丘形成』『地理学評論』51  
 丸山浩治<sup>※</sup> 2009 「道上遺跡第3次・合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業費文化財調査報告書第544集（財）岩手県文化振興事業団

- 及川真紀<sup>1)</sup> 2005 「明後沢遺跡群第7・10・15次発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第18集 前沢町教育委員会  
 丸山直美<sup>4)</sup> 2008 「道上遺跡第2次発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第518集 (財)岩手県文化振興事業団  
 岩手県教育委員会 2009 「岩手県遺跡情報検索システムCD-ROM」



第3図 周辺遺跡分布図

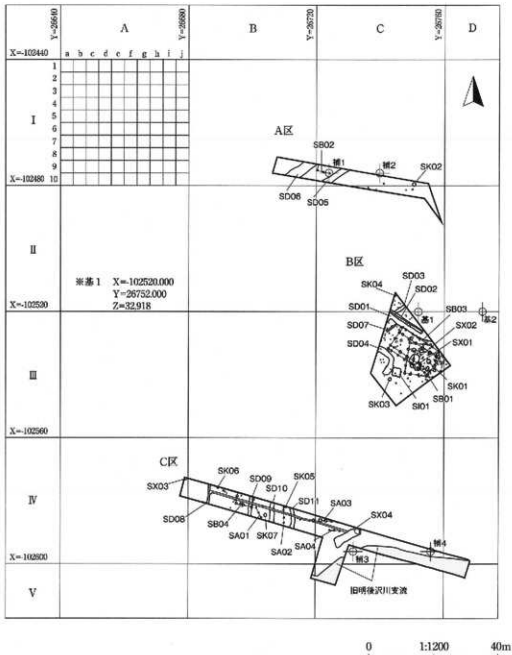
第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	種別	時代	所在地	No.	遺跡名	種別	時代	所在地
1	上林下	散布地	古	水沢区真城字上林下	44	寺ノ上跡	稲藪	中	前沢区古城字寺ノ上
2	中林下	集落跡	平	水沢区真城字中林下	45	古城上野	散布地	縄中・古	前沢区古城字寺野上野
3	真城集合	散布地	平	水沢区真城字集合	46	砂子田	散布地	古	前沢区古城字砂子田
4	土手北	散布地	平	水沢区真城字土手	47	都合下	散布地	平	前沢区古城字都合下
5	土手南	散布地	平	水沢区真城字土手	48	下野	散布地	縄・平	前沢区古城字下野
6	二ツ洞	散布地	平・中	水沢区真城字二ツ洞	49	寺御沖	散布地	古	前沢区古城字寺御沖
7	二ツ洞北	散布地	平	水沢区真城字二ツ洞	50	中船城(舟山)	城跡跡	中	前沢区古城字水面上
8	二ツ洞南	散布地	平	水沢区真城字二ツ洞	51	内ノ町	環状集落跡	中	前沢区古城字内ノ町
9	谷地船	散布地	平	水沢区真城字谷地船	52	水沢	集落跡	旧・縄・平・近	前沢区古城字水沢
10	谷地	散布地・城跡跡	中・近	水沢区真城字谷地	53	西反田1	集落跡	平	前沢区古城字西反田地内
11	粟吉	城跡跡	中・近	水沢区真城字粟吉	54	西反田2	集落跡	奈・平・近	前沢区古城字西反田地内
12	下樋田	散布地	平	水沢区真城字下樋田	55	古城方八丁	集落跡	縄・古・近	前沢区古城字御ノ栗
13	南下田	散布地	平	水沢区真城字南下田	56	高取	集落跡	古・近	前沢区古城字高取地内
14	洞野1	散布地	古	水沢区真城字洞野	57	境田	散布地	縄・平	前沢区古城字境田ほか
15	洞野2	散布地	古	水沢区真城字洞野	58	野善	散布地・環状集落跡	古・中	前沢区古城字野善
16	高取1	散布地	古	水沢区真城字高取・砂川	59	粟吉2	散布地・環状集落跡	古・中	前沢区古城字粟吉・亀田・谷地
17	高取2	散布地	古	水沢区真城字高取	60	亀田	環状集落跡	中	前沢区古城字亀田
18	栗林	塚跡・屋敷跡	中・近	水沢区真城字八反町	62	宮久内東	散布地	縄	前沢区古城字水林野ほか
19	空田1	散布地	古	水沢区真城字空田	61	上ノ台	環状集落跡	中	前沢区古城字上ノ台
20	空田2	散布地	古	水沢区真城字空田	63	田高1	散布地	縄	前沢区古城字田高・豊林
21	榎林1	散布地	縄?・古	水沢区榎林町字榎林	64	田高2	散布地・環状集落跡	縄中・古・中	前沢区古城字田高
22	榎林2	散布地	古	水沢区榎林町字榎林	65	林1	散布地	古	前沢区金葉寺(一蓮台)字林1
23	本宿塚	散布地	近	水沢区榎林町字本宿	66	林2	散布地	古	前沢区古城字林後
24	源郷	散布地・城跡跡?	平?	水沢区榎林町源郷	67	六日入	城跡跡	古・中	前沢区白山字古館
25	内城野中	散布地	縄~平	水沢区榎林町内城・野中	68	水ノ口	集落跡	縄・平	前沢区白山字水ノ口
26	内城吹張	散布地	縄~平?	水沢区榎林町吹張・内城・吹張	69	勝栗田	散布地	平	前沢区白山字勝栗田
27	吹張	散布地	平	水沢区榎林町吹張	70	松前	散布地	平	前沢区白山字松前
28	吹張堀戸	散布地	平	水沢区榎林町吹張・堀戸	71	川前	集落跡	古	前沢区白山字川前
29	堀戸	散布地	古	水沢区榎林町字堀戸	72	字堂	散布地	平	前沢区白山字字堂
30	五輪	散布地	縄	水沢区榎林町字五輪	73	字堂2	散布地	古	前沢区白山字字堂・字堂
31	北館	環状集落跡	中	前沢区古城字北館	74	道上	集落跡	縄・平・中・近	前沢区白山字道上
32	北館東1	散布地	古	前沢区古城字北館東	75	合野	集落跡	縄・平・近	前沢区白山字合野
33	北館東2	散布地	縄・古	前沢区古城字北館東	76	内蔵敷	集落跡	平	前沢区白山字内蔵敷
34	熊野	散布地	平	前沢区古城字熊野	77	川原崎1	集落跡	縄・奈・平	前沢区白山字川原崎
35	堀	散布地・瓦葺跡?	縄・平	前沢区古城字堀・堀道・志人沢	78	川原崎2	集落跡・環状集落跡	縄・奈・平・近	前沢区白山字川原崎
36	新堀	散布地	縄・古	前沢区古城字新堀	79	大室稲塚	一字一石塚	中東	前沢区白山字川原崎
37	八郎殿	散布地・城跡跡	縄・平・中	前沢区古城字高代寺	80	小林葉長	集落跡	縄?・環状・奈・平	前沢区白山字小林・古前
38	鳥子沢	散布地・城跡跡	平・中	前沢区古城字鳥子沢	81	白山上野	散布地	縄跡	前沢区白山字上野
39	明成沢	瓦葺跡・城跡跡	平	前沢区古城字明成沢・建沢	82	上東(東大町)	城跡跡	古・中	前沢区白山字上野
40	栄高	城跡跡	平・中	前沢区古城字栄高	83	八幡	集落跡	古・中	前沢区白山字八幡
41	栗吉館	城跡跡	中	前沢区古城字南上野	84	遊畑	散布地	奈・平	前沢区白山字遊畑・宮内
42	九郎館	城跡跡	中	前沢区古城字南上野	85	佐野田	散布地	縄・平	前沢区白山字佐野田
43	寺ノ上	散布地	古	前沢区古城字寺ノ上	86	安納館	城跡跡?	古~中	前沢区字安納館

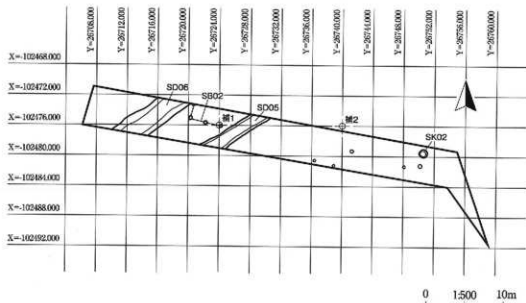
### Ⅲ 水 尻 遺 跡

#### 1 概 要

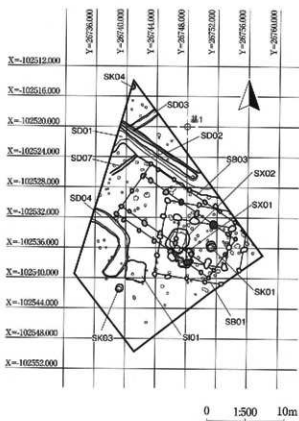
遺跡範囲は水尻字121・135・139番地に跨る微高地を中心に広がっている。現況は水田、畑地、農道、墓地であった。地権者によると墓地内には享保年間の墓碑もあり、近世墓が並んでいたという。これを、圃場整備事業に伴い、墓碑のみ撤去・移転したとのことであった。なお、墓地範囲については、協議によって盛土保存地区となり、今回の調査対象にはならなかった。圃場整備以前は明後沢川が水



第4図 水尻遺跡遺構配置図



第5図 A区遺構配置図



第6図 B区遺構配置図

尻遺跡と四反田II遺跡の間を流れていた。その支流と見られる河川跡がC区東側で確認された。

調査区は3カ所に分かれ、北からA区（現況水田）、B区（現況畑地）、C区（現況農道・水田・水路）と呼称し調査を行った（第4図）。

検出遺構は、石器集中部6カ所、礫群1基、竪穴住居状遺構（S I）1棟、掘立柱建物跡（S B）4棟、土坑（S K）7基、柱穴列（S A）4条、溝（S D）11条、周溝（S D）1条、柱穴（P）217個である。遺構の主な構築時期は旧石器時代と平安時代に分けられる。

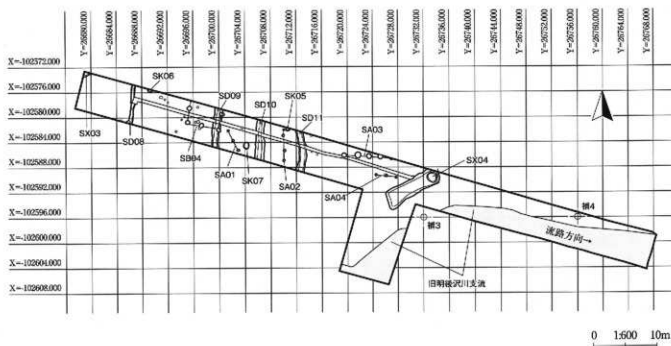
出土遺物は、旧石器305点（石器集中部内は275点）、礫群構成礫38点、単独出土礫42点、縄文土器47点、土師器・須恵器大コンテナ1.5箱、緑釉陶器1点、渥美産陶器2点、東北産中世陶器1点、基石2点、土壁26点、石鏃、石錐、石筥など縄文時代以降の剥片石器137点、磨石、敲石など礫石器2点である。年代は後期旧石器時代、縄文時代、9世紀後半～10世紀前半、12世紀代に大別される。

### (1) A区概要

A区（第5図）は現況が水田である。水田床土を重機によって掘削すると黄褐色土（Ⅲ層）と部分的に礫層（Ⅳ層）が現れた。溝2条、土坑1基、柱穴9個を検出した。水田造成による削平が進み、遺構・遺物の残存状況は良好ではない。



# 1 概要



第7図 C区遺構配置図

SD05範囲は現況が幅2m程度の細い農道であった。SD05は圃場整備以前に利用していた水路であり、これを圃場時に埋め立てたようである。SD06は堆積土がグライ化しており水路であったと考えられる。

## (2) B区概要

調査区中央部をB区(第6図)とした。現況は畑地である。北側は近世以降の墓地と隣接するが、調査区内で墓地関連の遺構・遺物はなかった。B区では遺物を包含するⅡ層の堆積が認められた。主にⅡb層～Ⅲ層上部で旧石器時代の遺物が出土した。遺構の検出はⅡb層上面で行った。B区内のⅡa層より上位層は、圃場整備後の堆積と考えられる。部分的に残るⅡa層以下の地層から遺物が出土した。検出遺構は、石器集中部6ヶ所、礫群1基、堅穴住居状遺構(SI)1棟、掘立柱建物跡(SB)2棟、土坑(SK)3基、溝跡(SD)4条、方形周溝(SD)1条、柱穴(P)175個、性格不明遺構(SX)2基である。遺構の主な構築時期は旧石器時代と平安時代に分けられる。

## (3) C区概要

C区(第7図)は現況が水路、水田、幅3m程度の農道である。調査区東側では旧明後沢川の支流路が確認された。農道は前回の圃場整備によって一度表土除去とⅢ層面の削平後に残土で作られたものである。C区は水田耕作土や表土を掘削するとⅢ層面が露出したので、これを検出面とした。検出遺構は、掘立柱建物跡(SB)1棟、柱穴列(SA)3条、溝(SD)4条、土坑(SK)3基、柱穴(P)34個、性格不明遺構(SX)2基である。遺構の構築年代は古代以降である。

## 2 調査・整理の方法

### (1) 野外調査

3級基準点から世界測地系座標にしたがってグリッドを組み、遺物の取り上げを行っている。大グリッドは20×20m、小グリッドは2×2mである。遺構は4分法ないしは2分法で調査した。旧石器時代の遺物と平安時代以降の遺構内山土遺物の一部については、光波測量器を使用して遺物点を測量した。

遺構は光波測量器と電子平板システム（Cubic社製実測支援システム「遺構くん」）を用いて図化した。

### (2) 室内整理と遺物分類

遺構図面は電子データを加工して、版下を作成した。遺物は洗浄、接合、復元作業を経て実測、計測、実測図トレースを行い、図版の作成を行った。出土遺物のうち、土師器・須恵器については、遺構内出土遺物を優先し、その中でも口径推定可能な資料を優先した。

遺物の分類

#### a) 石器器種分類

台形石器

I 類：素材の頭部と末端部に急斜度調整を施し、主に素材を横位に利用する。

撥形、台形、菱形などを呈し、平坦剥離痕、急斜度調整によって細分される。

II 類：素材を縦位に設定して、主に素材頭部側に加工を施すもの。ベン先形を呈する。

III 類：貝殻状、求心状剥片の端部に微細な二次加工を施すもの。

ナイフ形石器 素材の鋭利な縁辺部を未加工のまま刃部として残し、他の部位に刃潰し加工を施した石器。

掻器 スクレイパー刃部を持つもののうち、刃部角が45°以上の刃部を有するもの。素材末端に刃部をもつものが多い。なお、石籠と呼ばれるものを本書では掻器として報告している。

削器 スクレイパー刃部を持つもののうち、刃部角が20～45°程度の刃部を有するもの。素材縁辺に刃部をもつものが多い。

楔形石器 両極剥離痕を持つ石器で、最終剥離面がネガ面のもので形状が楔形を呈するもの。

石刃 石刃製作技術によって連続的に作られた縦長剥片のうち、両側縁と稜がほぼ平行するもの。

剥片 長さまたは幅が1.5cm以上のものとした。

砕片 長さか幅が1.5cm未満のものとした。

石核 最終剥離面がネガ面で、素材剥片の製作を意図したもの。

石鏃 縄文時代の遺物で矢先に装着されたと考えられる刺突具。便宜的に長さ5cm未満を石鏃、5cm以上を尖頭器とした。

石匙 スクレイパー刃部をもつもののうち、握み部を持つ石器。刃部の遺存状態によって縦型、横型、斜行型に分けられる。

石錐 素材の端部に錐部を作り出している石器。長い錐部と握み部からなるものと、素材端部に抉入部を作出するものなどがある。なお、石鏃の先端部と錐部の作出方法は類似するが、素材の厚みやボーリングの痕跡の有無も考慮して分離している。

敲石 ハンマーとして利用された痕跡をもつもの。

磨石 礫の自然面に磨痕を持つもの。

#### b) 石材略号

頁岩：Sh、凝灰質頁岩：TSh、メノウ：Ag、玉ずい：Jya、黒曜石：Ob、安山岩：An、

凝灰岩：Tuff、砂岩：S.S、チャート：Ch、ホルンフェルス：Ho

#### c) 石材分類

頁岩A (ShA)：黒色～灰色で北上山地系のもの。通称で黒色頁岩とされているものとした。

頁岩B (ShB)：灰色で、やや青黒い。

1類 (ShB1)：B類の中で、礫面に近い部分が茶褐色～赤褐色のもの。

2類 (ShB2)：接合資料(29・30)と同じ母岩と思われるもの。

頁岩C (ShC)：灰白色のもの。砕片はメノウと肉眼レベルでは見分けがつかないため、本類に含めた。

1類 (ShC1)：パティナの発達したクリーム色に近いもの。ナイフ形石器、台形石器の一部で利用されている。

2類 (ShC2)：ベースは灰白色で玉ずいに近く、青みがかる。

3類 (ShC3)：透き通らない。C1類よりも濁りが少ない。

頁岩D (ShD)：乳白色。

頁岩E (ShE)：赤褐色。

頁岩F (ShF)：青色。

頁岩G (ShG)：チョコレート色。

頁岩H (ShH)：黄色。砕片は黄色の玉ずいと肉眼レベルでは見分けがつかないため、本類に含めた。

その他の頁岩 (Sh)：上記A～Hに分類し難いものを一括した。

凝灰質頁岩 (TShA)：クリーム色。

メノウA (AgA)：赤色～白色。

メノウB (AgB)：白色。

メノウC (AgC)：黄色～白色。

玉ずいA (JyaA)：青灰～青白色。

#### d) 観察項目

頭部調整：有「○」、無「-」

礫面：有「○」、無「-」

末端形状：フェザーエンド「F」、ヒンジフラクチャー「H」、ウートラパッセ「O」、欠損「-」

背面構成：頭部側から「A」、末端側から「B」、側縁から「C」

遺存度：完形「A」、90%～「B」、75%～「C」、50%～「D」、25%～「E」、1%～「F」

礫赤化：全面赤化「A」（完形礫が赤化しているもの。）

礫面赤化「B」（湖口をもつ礫のうち、礫面のみ赤化しているもの。）

剖面赤化「C」（剖面のみで構成される礫で、剖面が赤化しているもの。）

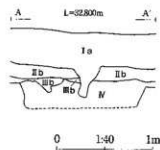
## 3 基本層序

本遺跡は第2章で紹介したとおり、北上川西岸、胆沢扇状地の低位段丘面に属する水沢高位段丘面にあり、段丘面上に残る微高地上に位置している。今回調査に及んだ層は、水沢高位段丘を構成する礫層までで、その上に明黄褐色土層が堆積する。人類の痕跡は明黄褐色土層内とその上部層に見られる。

調査区は北よりA・B・C区に分けられる。遺跡範囲内は、ほ場整備や長年の耕作によって削平と盛土が繰り返されている。そのため、盛土・耕作土（第I a～I b層）より下位層の残存状況は調査区によって異なる。A区とC区は、第II a層、および第II b層がほとんど残存せず、第I層を除去すると第III層や第IV層が現れる。遺物の最終検出面は第III層である。また、C区の調査区東側で旧明後沢川支流と思われる河川跡を検出した。B区は、削平を免れた微高地に第II b層が残存していた。この第II b層～第III層にかけて旧石器時代の遺物が出土している。

## 基本土層

- I a層 10YR5/8 にぶい黄褐色土（盛土）層厚35～40cm  
 I b層 10YR3/3 暗褐色土（耕作土）層厚10～20cm  
 II a層 10YR2/2～10YR2/3 黒褐色土  
 （古代の遺構堆積土の主体）粘性弱、  
 炭化物微量包含、層厚5cm  
 II b層 10YR3/3～10YR3/4 暗褐色土  
 （旧石器包含層）層厚20cm  
 III層 10YR6/8 明黄褐色土  
 （旧石器包含層）粘性強、しまり密、  
 層厚5～30cm  
 IV層 10YR4/3～10YR4/4 黄褐色礫層  
 （水沢高位段丘礫層）  
 粘性強、しまり密、  
 直径5～10cm大の円礫含む



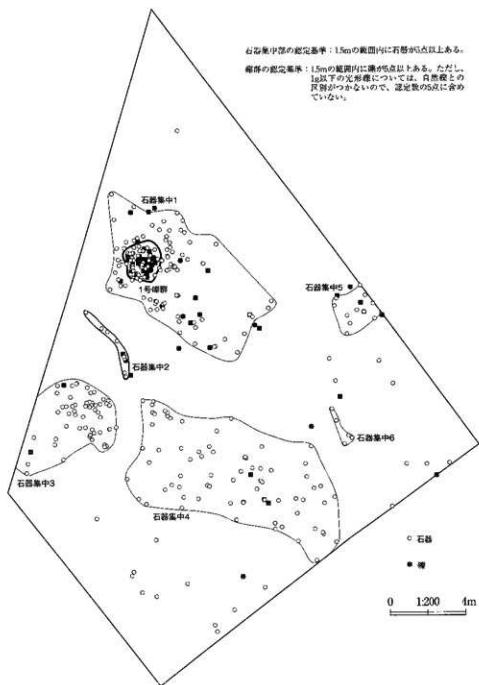
第8図 基本土層

## 4 検出遺構

## (1) 石器集中部

石器集中部は平面分布上で1.5mの範囲内に5点以上の石器があるものとした。操作概念上の遺構であり、掘り込みのある住居や建物跡などとは概念規定が異なる。

B区での重機による表土掘削中に、旧石器らしきパティナの発達した剥片類が出土したことから、古代の遺構検出・調査と同時に旧石器遺物の調査（ドットマップの作成）を進めた。



第9図 旧石器集中部配置図

第2表 石器集中部別器種組成表

遺物	器 種										総計
	ナイフ	台形石器	扇形石器	鏃部	二次加工 ある剥片	除顔割痕 ある剥片	石母	剥片	砕片	石核	
集中1								24	93	3	120
集中2						1		1	7		9
集中3			1			1		13	40		55
集中4	1	3		1	1		1	25	44		76
集中5								2	7	1	10
集中6								1	4		5
総計	1	3	1	1	1	2	1	67	199	4	275

第3表 石器集中部別石材組成表

遺物	石 材														総計		
	Ob	Sh	ShA	ShB	ShC	ShD	ShE	ShF	ShG	ShH	TShA	Ag	AgA	AgB		AgC	
集中1		6	11	34	54		2	1	5			1		1	5	120	
集中2				2	5				1		1					9	
集中3	1		1	22	19				2	2		3		2	1	2	56
集中4		1	5	19	33	1	2	3	4	1	2			1	1	3	76
集中5	1		2	2	4	1											10
集中6				1	4												5
総計	2	7	19	80	124	2	4	6	12	1	6	1	3	3	10	275	

## 石器集中部1 (第9~11図、写真図版3)

〈構成〉120点(総重量99.9g)で構成される。剥片24点(34.3g)、砕片93点(15.5g)、石核3点(50.1g)である。石材別では頁岩製113点、メノウ製7点である。ツール類は組成しない。〈分布〉遺物は標高32.37m~32.59mの約20cmの範囲から出土している。Ⅱa~Ⅲ層上部内にあり、その垂直分布ピークはⅡb層にある。縄文時代の遺物が混入している可能性は排除できない。占有面積は約43m<sup>2</sup>である。北西-南東方向に長い。範囲の西側にチャート礫を主体とする1号礫群の構成礫が分布する。分布範囲の北側と東側に遺物分布の空白域がある。北側はSD 01・02、東側は柱穴群が位置する。実態としては砕片集中部と言っても過言ではない。

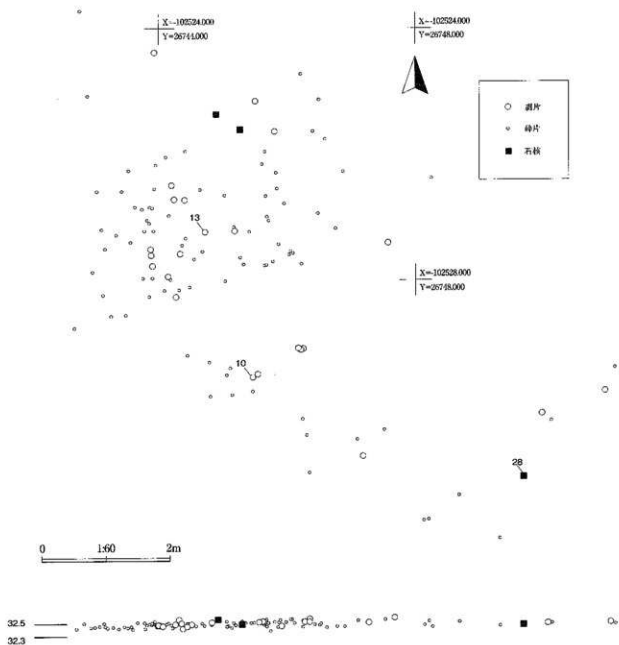
〈堆積状況〉調査区内でⅡa層とⅡb層が最も残存していた範囲である。Ⅱb層は乾燥すると表面が非常に硬くなり、地割れが発生していたが、Ⅲ層まで下げると、地割れや表面の硬化は見られなくなった。遺物の長軸方向の傾向を把握できるほど大形の遺物は出土していない。〈遺物〉頁岩製の剥片(10)と石核(28)を掲

第4表 石器集中部1  
器種・石材組成表

石材	器種			総計
	剥片	砕片	石核	
Sh	1	5		6
	23	0.5		2.8
ShA	5	6		11
	3.1	0.6		3.7
ShB	9	23	2	34
	14.4	4.7	19.3	68.4
ShC	6	48		54
	10.9	7.3		18.2
ShD		2		2
		0.3		0.3
ShF		1		1
		0.6		0.6
ShG	3	2		5
	3.6	0.4		4
Ag		1		1
		0.1		0.1
AgB		1		1
		0.2		0.2
AgC		4	1	5
		0.8	0.8	1.6
総計(個)	24	93	3	120
総計(g)	34.3	15.5	50.1	99.9

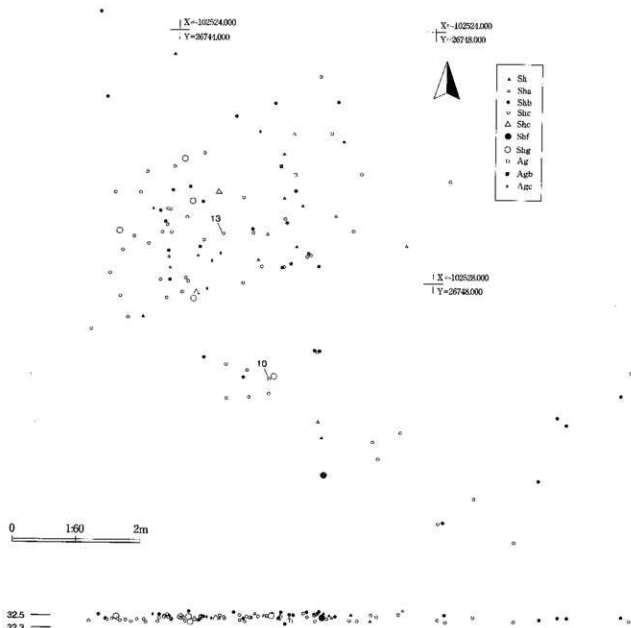
※上段：個数、下段：重量

4 検出遺構



第10図 石器集中部1 器種別分布図

載した。これらは同一母岩の可能性がある。10は礫面を打面とする貝殻状の剥片である。28は単剥離面の打面を持つ石核である。小形の剥片が連続的に剥がされている。



第11図 石器集中部1 石材別分布図

石器集中部2 (第9・12・13図)

〈構成〉9点(総重量55.0g)で構成される。微細剥離痕のある剥片1点(1.1g)、剥片1(52.4g)、碎片7点(1.5g)である。石材別では頁岩製8点、凝灰質頁岩1点である。ツール類は組成しない。範囲内に礫が3点分布する。

〈分布〉遺物は標高32.28m～32.51mの約20cmの範囲から出土している。Ⅱa～Ⅲ層上部内にあり、その垂直分布ピークはⅡb層にある。縄文時代の遺物が混入している可能性は排除できない。占有面積は約1.5㎡である。北西-南東方向に細長い。SD04の北側に位置する。石器集中部3とはSD04によっ



第5表  
石器集中部2 器種・石材組成表

石材	器種			総計
	剥片	微細剥離痕 ある剥片	碎片	
ShB	1		1	2
	1.1		0.2	1.3
ShC			5	5
			1.1	1.1
ShG			1	1
			0.2	0.2
TShA		1		1
		52.4		52.4
総計(個)	1	1	7	9
総計(g)	1.1	52.4	1.5	55

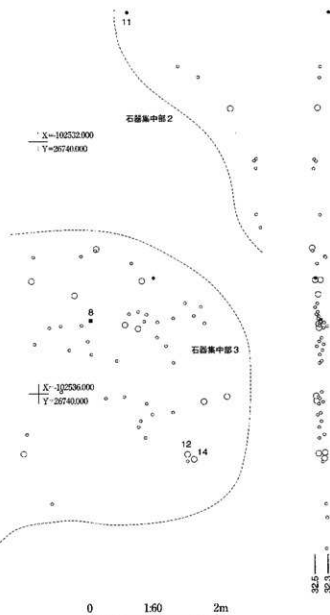
※上段：個数、下段：重量



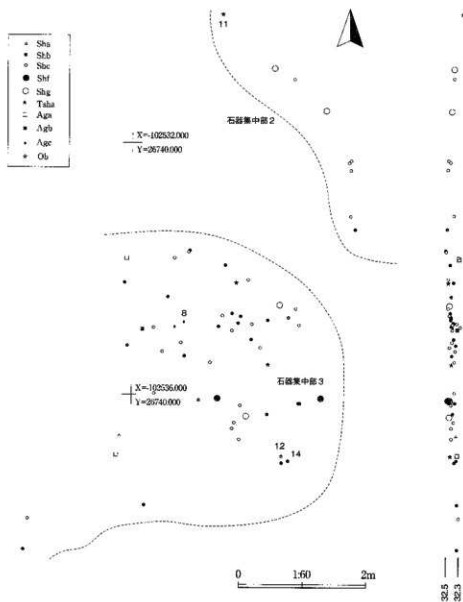
第6表  
石器集中部3 器種・石材組成表

石材	器種				総計
	剥離 石器	剥片	微細剥 離痕あ る剥片	碎片	
Ob				1	1
				0.2	0.2
ShA				1	1
				0.1	0.1
ShB		8		14	22
		9.2		2.8	12.1
ShC		1	1	17	19
		0.6	0.7	4	5.3
ShF		1		1	2
		1.3		0.1	1.4
ShG				2	2
				0.2	0.2
TShA		2		1	3
		18.4		0.1	18.5
AgA		1		1	2
		1.7		0.4	2.1
AgB				1	1
				0.1	0.1
AgC		1		1	2
		3.2		0.1	3.3
総計(個)	1	13	1	40	55
総計(g)	3.2	31.5	0.7	8.1	43.5

※上段：個数、下段：重量



第12図 石器集中部2・3器種別分布図



第13図 石器集中部2・3石材別分布図

で分断されている。

〈堆積状況〉調査区内でⅢ層面がやや窪んでいた。その窪地に沿うように遺物が分布することから、北西方向から水流によって流れ着いた可能性も考えられる。また、S D04の構築によって、見かけの分布が細長くなったとも考えられる。遺物の長軸方向も北西から南東となっている。堆積過程で何らかの水的作用が関与した可能性がある。

〈遺物〉凝灰質頁岩製の微細剥離痕のある剥片(11)を掲載した。大形の縦長剥片で、單剥離面である。裏面右側縁部に微細剥離痕が連続する。微細剥離痕は三角形や四角形など、硬質の対象物との接触を窺わせる形状を呈する。

## 石器集中部3 (第9・12・13図)

〈構成〉55点(総重量43.5g)で構成される。楔形石器1点(3.2g)、微細剥離痕のある剥片1点(0.7g)、剥片13点(31.5g)、砕片40点(8.1g)である。石材別では黒曜石裂1点、頁岩製46点、凝灰質頁岩製3点、メノウ製5点である。ツール類は頁岩製の楔形石器のみである。

〈分布〉遺物は標高32.30m~32.53mの約20cmの範囲から出土している。Ⅱa~Ⅳ層内にあり、その垂直分布ピークはⅡb層にある。縄文時代の遺物が混入している可能性は排除できない。占有面積は約17.2㎡である。S D04(方形周溝)によって、北側の石器集中2と、東側の石器集中4と分断されている。本来の分布は石器集中部2・4と分離できない状態であった可能性もある。分布はほぼS D04で囲まれた範囲にまとまる。

〈堆積状況〉密集部が東側に偏っている。S D04の内部空間のため、他の石器集中に比べて削平の影響が小さかったと考えられる。石器集中3から南側はⅢ層の堆積が薄い。

〈遺物〉楔形石器(8)、剥片(12~14)を掲載した。12・13の打面は単剥離面、14は線状である。

## 石器集中部4 (第9・14・15図、写真図版3)

〈構成〉76点(総重量227.4g)で構成される。ナイフ形石器1点(22.9g)、台形石器3点(32.1g)、搔器1点(33.9g)、二次加工のある剥片1点(3.4g)、石刃1点(6.1g)、剥片25点(120.7g)、砕片44点(8.3g)である。石材別では頁岩製70点、凝灰質頁岩製2点、メノウ製5点である。ツール類は頁岩製のナイフ形石器、台形石器、搔器がある。

〈分布〉遺物は標高32.33m~32.51mの約20cmの範囲から出土している。Ⅱb~Ⅲ層上部内にあり、その垂直分布ピークはⅡb層にある。縄文時代の遺物が混入している可能性は排除できない。占有面積は約54㎡である。西側はS D04(方形周溝)によって、中央部はS X01・02や柱穴群によってそれぞれ攪乱されている。範囲内出土率は3点と少ない。南側に同一母岩の可能性のあるナイフ形石器、石刃、台形石器が分布する範囲がある。本石器集中部は他の石器集中部に比べてツール類の組成率が高い。

〈堆積状況〉Ⅱa層~Ⅲ層上部にかけて出土している。重量のある遺物はⅡb層とⅢ層の崩理面から出土する。Ⅲ層上部の遺物は少ない。遺物

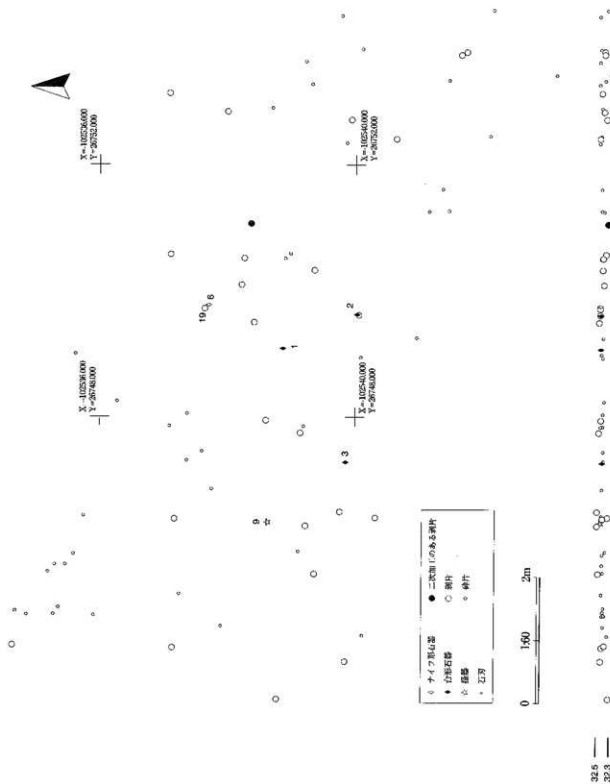
第7表 石器集中部4 器種・石材組成表

石材	器種						合計	
	ナイフ	石刃	搔器	剥片	二次加工 ある剥片	台形石器		砕片
Sh							1 0.1	1 0.1
ShA			1 33.9	1 46.8			3 0.6	5 81.3
ShB				9 37.6			10 1.8	19 30.4
ShC	1 22.9	1 6.1		8 7.3	1 3.4	2 27.5	20 2.7	33 68.9
ShD							1 2	1 0.2
ShE							0.3 3	0.3 3
ShF							0.3 3	0.3 3
ShG				3 19.3			1 0.1	4 19.4
ShH						1 4.6		1 4.6
TShA				1 4.8			1 0.3	2 5.1
AgA				1 1.2				1 1.2
AgB							1 1.6	1 1.6
AgC				2 3.7				3 0.3
合計(個)	1	1	1	25	1	3	44	76
総計(g)	22.9	6.1	33.9	120.7	3.4	32.1	8.3	227.4

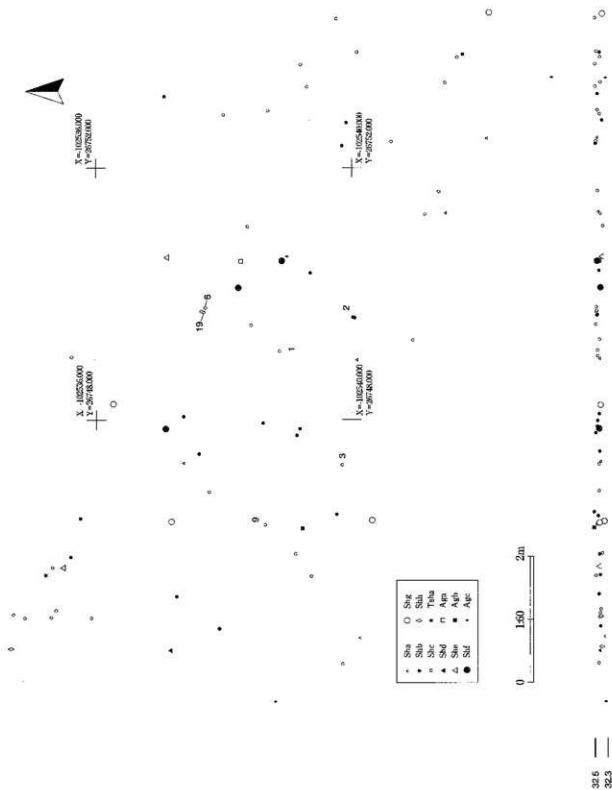
※上段：個数、下段：重量

はほぼフラットな状態で出土した。

〈遺物〉台形石器（1～3）、ナイフ形石器（6）、挿器（9）、剥片（15～23）を掲載した。台形石器は素材打面と素材先端部に加工を施すタイプではない。2はやや大形で素材打面側に頂部調整を施す。両側縁に扶入部があり、着柄痕の可能性ある。刃部はガジリで破損しているが、正面右側に微



第14図 石器集中部4器種別分布図



第15図 石器集中部4石材別組成図

細割離板が不連続にみられる。なお、集中部内に位置するS X02からもナイフ形石器、台形石器が出土している。

石器集中部5 (第9・16図)

〈構成〉10点(総重量26.3g)で構成される。剥片2点(2.8g)、砕片7点(0.8g)、石核1点(22.7g)である。石材別では黒曜石製1点、頁岩製9点である。ツール類はない。

〈分布〉遺物は標高32.38m～32.48mの約10cmの範囲から出土している。Ⅲ層内にあり、その垂直分布ピークはⅢ層上部にある。縄文時代の遺物が混入している可能性は排除できない。占有面積は約4㎡である。西側はS D01・02によって、南側は柱穴群によってそれぞれ攪乱されている。範囲内出土量は4点と少ない。

〈堆積状況〉Ⅲ層で出土している。黒色頁岩製石核を中心に遺物が分布する。

〈遺物〉剥片(2)、石核(26)を掲載した。26の石核作業面形成は試割によるものであろうか。

石器集中部6 (第9・16図)

〈構成〉5点(総重量2.1g)で構成される。剥片1点(1.3g)、砕片4点(0.8g)である。石材は5点とも頁岩製である。

〈分布〉S K01の西側に分布する。遺物は標高32.43m～32.52mの約10cmの範囲から出土している。Ⅱa～Ⅲ層上部内にあり、その垂直分布ピークはⅢ層上部にある。縄文時代の遺物が混入している可能性は排除できない。占有面積は約0.76㎡である。

〈堆積状況〉遺物はⅡa層とⅢ層から出土している。

〈遺物〉図化した遺物はない。

第8表 石器集中部5器種・石材組成表

石材	器種			総計
	剥片	石核	砕片	
Ob			1	1
			0.1	0.1
ShA	1	1		2
	0.9	22.7		23.6
ShB			2	2
			0.2	0.2
ShC	1		3	4
	1.9		0.4	2.3
ShD			1	1
			0.1	0.1
総計(個)	2	1	7	10
総計(g)	2.8	22.7	0.8	26.3

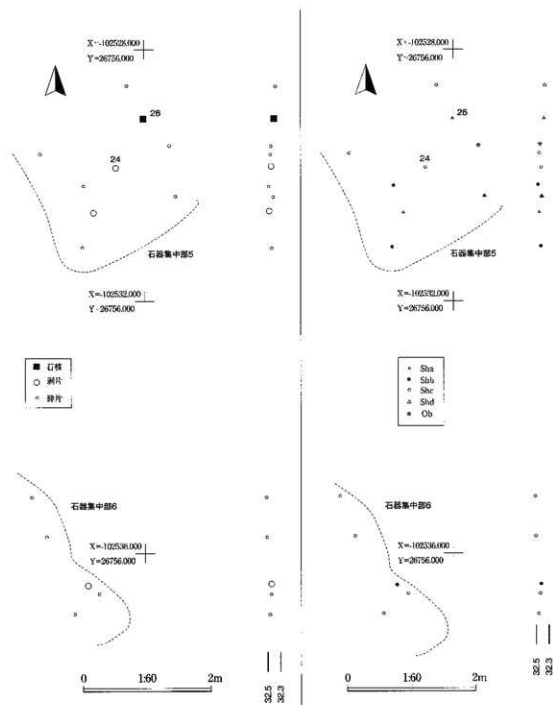
※上段：個数、下段：重量

第9表 石器集中部6器種・石材組成表

石材	器種		総計
	剥片	砕片	
ShB	1		1
	1.3		1.3
ShC		4	4
		0.8	0.8
総計(個)	1	4	5
総計(g)	1.3	0.8	2.1

※上段：個数、下段：重量

4 検出遺構



第16図 石器集中部5・6器種別・石材別分布図

## (2) 礫 群

## 1号礫群 (第9・17図)

〈構成〉38点で構成される。石材は赤色チャート、安山岩、凝灰岩、ホルンフェルス、頁岩で、チャートの破損礫が構成点数の主体となる。チャート礫3点のみ接合した。構成礫は破損礫が主体であり、完形礫は頁岩製1点を除けば、10g未満の小礫に限られる。

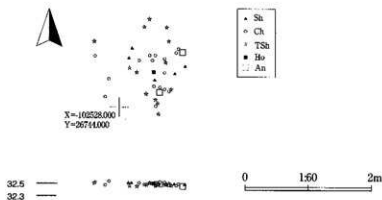
〈分布〉1.85×1.74mの範囲に密集する。構成礫はⅡa～Ⅱb層で出土している。構成礫の垂直分布は、標高32.45～32.54mの範囲であり、そのピークは32.49m付近でⅡb層にある。これは石器集中1の垂直分布ピークとほぼ同じである。

〈構成礫の特徴〉破損礫は27点ある。遺存度では50%以下が主体で、赤化は顕著である。剖面赤化資料が多い。赤色チャートはススが付着し、表面が被熱礫に特徴的なザラついた質感となっている。1

号礫群は母岩数が少ない。構成礫の一部は何らかの施設の構築を意図して搬入されたのではなく、石器石材として利用するために熟で水分除去し、剥片剥離作業を容易にすることが目的であったとも考えられる。利用可能な礫か石核は遺跡外へ持ち出された結果、遺存礫が破損礫主体となったのではないだろうか。

第10表 1号礫群石材別集計表

石材	点数	総重量 (g)	重量 平均値	遺存	赤化
Ch	16	892.3	55.8	E・F	B・C・-
An	2	135.7	67.9	F	C・-
Tuff	14	387.2	27.7	B・F	C・-
Ho	1	177	177	F	-
Sh	5	288.5	57.7	A・F	C・
合計	38	1880.7			



第17図 1号礫群



## (3) 竪穴住居状遺構

## S101竪穴住居状遺構 (第18図、写真図版4)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC5gグリッド、座標値 ( $X = -102538.000\text{m}$ ,  $Y = 26747.000\text{m}$ ) 付近に位置する。現況は水田である。検出層位はⅢ層で、暗褐色土の方形のプランを検出した。ベルトを設定して掘り下げたところ、堆積土は薄く1層の堆積で床面に達した。埋土中および床面には土師器、須恵器、土錐が包含されていた。遺構の上部は削平されていると思われる、カマドや柱穴などは検出されなかった。そのため、竪穴住居跡と認定しがたく、竪穴住居状遺構とした。

〈形態〉平面形は方形である。規模は北壁2.40m、東壁2.24m、南壁2.45m、西壁2.24m、床面積は6.42㎡、壁高は残存している南壁で8cmとなっている。床面はほぼ平坦である。

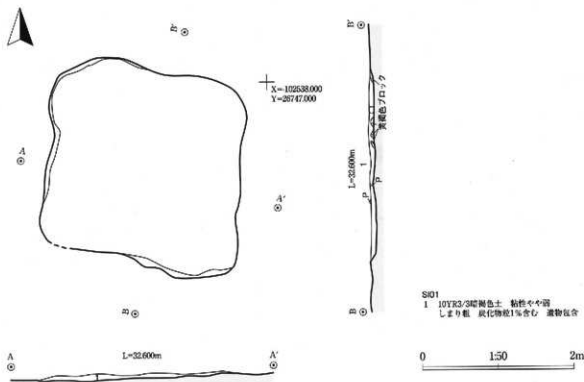
〈埋土〉暗褐色土を主体とする。

〈遺物分布〉遺物は遺構の南側に分布する。主に土師器坏・甕、須恵器甕、土錐が出土した。

〈遺物〉〈土師器〉坏類52片311.3g、甕類8片118.8g、その他・不明72片170.8g出土した。内面黒色処理の坏(48)、内外面黒色処理の高台付坏(49)がある。〈須恵器〉甕7片373.4gが出土した。甕片(50)ある。〈土製品〉土錐6点(151~156)が出土した。〈その他〉縄文土器が24.8g、土壁9.5gが出土した。

〈時期〉埋土と出土遺物から平安時代に属すると思われる。

S101



第18図 S101

## (4) 掘立柱建物跡

## SB01掘立柱建物跡(第19図、写真図版5~10)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC4iグリッド、座標値(X=-102532.000m、Y=26752.000m)付近に位置する。現況は水田である。検出層位はⅡb~Ⅲ層で、調査区の東側で一列に並ぶ楕円形の柱穴プランを検出した。これを基に掘立柱建物跡を構成する他の柱穴を検出するに至った。

〈重複関係〉SX01・02、SB03に切られる。

〈形態〉調査区内の24個の柱穴で構成される。一部が東側の調査区外へ続いているものと推測される。規模は、桁行11.20m(37尺)、梁間9.98m(33尺)の3間×2間の掘立柱建物に四面庇を持つ構造である。面積は111.78㎡である。桁行の柱間寸法は8尺を基準としている。梁行軸方向はN-8.5度-Eとなる。当初はP2・12・13・16で構成される範囲を張出部と捉えていたが、各柱穴の規模に差があり、東側の柱配置を張出部と解釈するよりも、柱間寸法や柱穴規模から3×2間の四面庇付建物と捉えるほうが合理的であると判断した。ただし、庇の隅間の隅行は等間隔になっていないため、屋根構造として入母屋造や寄棟造は想定しがたい。したがって、切妻造の屋根が想定される。

〈埋土〉暗褐色土を主体として4層に細分される。1層は柱痕跡である。2層は人為堆積層である。3層は柱の抜き取り痕と思われる。3層はP46で確認された。P46は何らかの理由で新たに柱を設置し直した様子が窺える。4層は2層よりも灰褐色の濃い人為堆積層である。4層はP45で確認され、後述のSB3に伴う柱穴の痕跡と考えられる。

〈遺物分布〉P12・13・16・20・38・45・46周辺、およびP139に集中する。これらの柱穴は直径50cm前後の大型のものである。

〈遺物〉〈土師器〉坏類306片1507.2g、甕類45片564.2g、不明166片368.9gが出土した。坏は内面黒色処理されているもの(61~68)とされないもの(51~59)がある。(69)は内外面黒色処理されている。(60)は摩耗が著しく、判断が難しいが、内面黒色処理が施されている可能性もある。全ての坏の外表面は回転ナデがされ、底部は回転糸切りによって切り離されている。甕は小形(70~72)がある。〈須恵器〉坏類4片14.6g、甕類31片607.1g、不明3片34.3gが出土した。甕(73~76・78)、壺(77)がある。〈その他〉縄文土器2片23.4g、緑釉陶器碗1片、基石1点、鉄滓1点、不明1片が出土した。基石(162)、鉄滓(163)は写真掲載した。緑釉陶器(81)は、碗の口縁部破片で、P139の堆積土上部から出土した。産地は東濃窯産で、年代は10世紀前半のものと思われる。

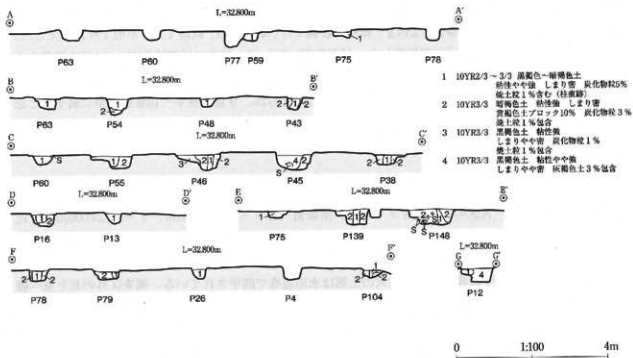
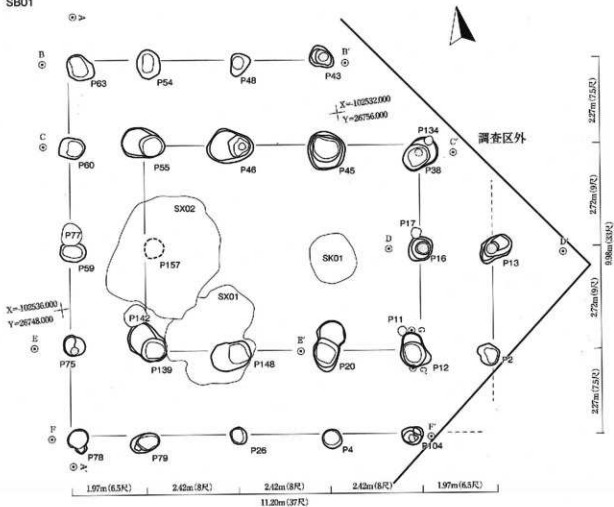
〈時期〉出土遺物からSK01と同時期に存在したと考えられ、9世紀後半~10世紀前半に属すると思われる。なお、P12・46から採取された木炭片各1点ずつを放射性炭素年代測定したところ、9世紀後半の年代が得られた。

## SB02掘立柱建物跡(第20図、写真図版11)

〈位置・検出状況〉A区のIC9aグリッド、座標値(X=-102471.000m、Y=26724.000m)付近に位置する。現況は水田である。耕作土および盛土を除去したところ、Ⅲ層でL字に並ぶ黒褐色土の円形プランを検出した。

〈形態〉4個の柱穴で構成される。柱穴の上部は水田造成で削平されている。調査区外の北と東へ続く可能性があり、東側の柱穴はSD05の構架によって消失したと考えられる。規模は桁行3.94m(13尺)、梁間1.97m(6.5尺)以上の方形である。桁行の柱間寸法は1.97m(6.5尺)で、梁行軸方向はN-14度-Eである。

SB01

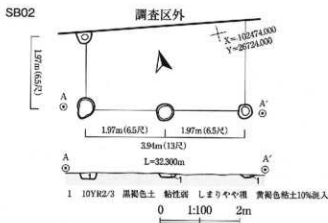


第19図 SB01

〈堆積土〉黒褐色土を主体とする。  
 〈遺物〉P 303から土師器の坏1片6.2gが堆積土中から出土した。  
 〈時期〉不明。

**S B03掘立柱建物跡** (第21図、写真図版12~16)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC4f~ⅢC4jグリッド、座標値(X=-102532.000、Y=26748.000)付近に位置する。S B01を構成する柱穴の検出時に、S B01を構成せず、かつ礫層まで掘り込まれた柱



第20図 S B02

穴を検出した。同様の特徴をもつ柱穴が列をなすことが確認されたため、掘立柱建物跡とした。  
 〈重複関係〉S B01を切る。また、S D01、S X01、S X02に切られる。  
 〈形態〉34個の柱穴で構成される。東南隅のP126の半分は調査区外に続いている。規模は桁行14.50m (48尺)、梁間7.85m (26尺)の7間×2間の側柱建物に二面庇をもつ構造で、面積は111.83㎡である。桁行の柱間寸法は1.21mと2.42m (4尺と8尺)で、桁行軸方向はN-55度-Wである。

〈埋土〉1層は柱痕跡で、暗褐~黒褐色土である。2層は掘り方で、明黄褐色土~褐色土を主体とする。  
 〈遺物分布〉P 7・10・21・161周辺の南東側に集中する。

〈遺物〉〈土師器〉坏類36片137.1g、甕類12片169.2g、不明47片98.0gが出土した。甕の底部と思われる(83)がある。(83)は内面ミガキ後に黒色処理が施されている。〈須恵器〉坏類5片29.1g、甕類5片78.6gが出土した。坏の口縁部破片(82)がある。

〈時期〉S B01の廃絶後に建てられた。10世紀前半以降に属すると思われる。なお、二面庇付建物自体は近世まで確実に存在することから、明確な時期は決定しがたいが、埋土の類似と建物の軸方向などから、S D04との関連性が考えられる。なお、S D04からは、埋土から土師器、須恵器、12世紀の渥美産陶器が出土している。

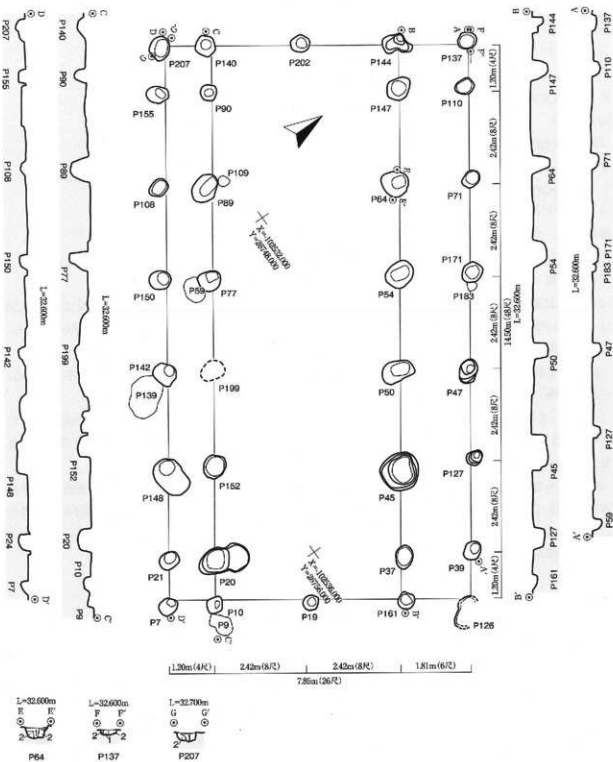
**S B04掘立柱建物跡** (第22図、写真図版17・18)

〈位置・検出状況〉C区のⅣB6eグリッド、座標値(X=-102580.000m、Y=26696.000m)付近に位置する。現況は農道と水路、水田である。検出層位はⅢ層で、コの字に並ぶ黒褐色土の円形プランを検出した。プランの形状から掘立柱建物跡とした。

〈重複関係〉東側の柱穴がS D09によって切られる。  
 〈形態〉柱穴5個で構成される。調査区外の北へ続いているものと推測される。規模は桁行不明、梁間5.00m (16.5尺)以上の建物である。柱間寸法は2.27mと2.73m (7.5尺と9尺)等で、軸方向はN-12度-Eである。

〈埋土〉1層は柱痕跡で、黒色土である。2層は掘り方で、黒褐色土を主体とする。  
 〈遺物〉〈土師器〉坏類2片7.5g、甕類1片2.2g、不明1片4.4gが出土した。内面黒色処理された坏(84)がある。  
 〈時期〉出土遺物から平安時代に属すると思われる。

SB03

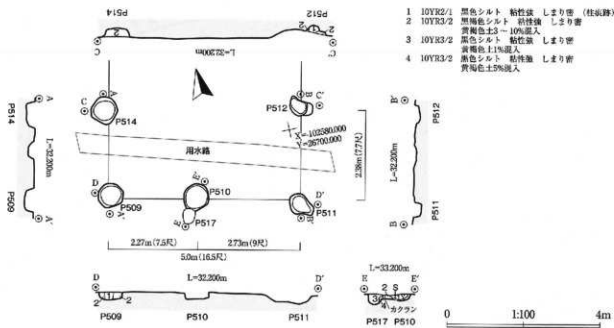


- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性弱 しまり痕
- 2 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや弱 しまりやや著

0 1:100 4m

第21図 SB03

SB04



第22図 SB04

(5) 柱 穴 列

S A 01柱穴列 (第23図、写真図版18)

〈位置・検出状況〉C区のIV B 6 f グリッド、座標値 (X = -102583.000m, Y = 26701.000m) 付近に位置する。現況は農道と用水路、水田である。Ⅲ層で1列に並ぶ黒褐色土の円形プランを検出した。  
 〈形態〉3個の柱穴で構成される。調査区外の南東方向に延びる可能性が考えられる。調査区内で長さ3.48m (約11.5尺) の範囲が確認された。

〈埋土〉黒褐色土が主体である。

〈遺物〉P 520から土師器の坏類2片22.9gが出土した。

〈時期〉不明。

S A 02柱穴列 (第23図)

〈位置・検出状況〉C区のIV B 7 H グリッド、座標値 (X = -102584.000m, Y = 26710.500m) 付近に位置する。現況は農道と用水路、水田である。Ⅲ層で1列に並ぶ黒褐色土の円形プランを検出した。平面図の図化のみ行っている。

〈形態〉4個の柱穴で構成される。調査区内で長さ4.89m (約16.1尺) の範囲が確認された。

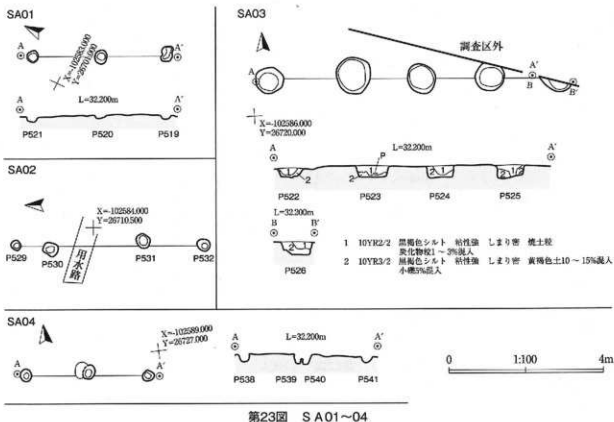
〈埋土〉黒褐色土が主体である。

〈遺物〉なし。

〈時期〉不明。

S A 03柱穴列 (第23図、写真図版19・20)

〈位置・検出状況〉C区のIV C 7 a グリッド、座標値 (X = -102586.000m, Y = 26720.000m) 付近に位置する。現況は農道と用水路、水田である。Ⅲ層で1列に並ぶ黒褐色土の円形プランを検出した。



〈形態〉5個の柱穴で構成される。調査区外の東へ伸びる可能性が考えられる。調査区内での長さ7.58m (約25尺) の範囲が確認された。

〈埋土〉黒褐色を主体とする。2層に細分される。

〈遺物〉土師器) 坏類12片76.1g、その他6片31.8g、不明3片5.7gが出土した。〈須恵器〉坏類1片11.3gが出土した。そのうち、土師器坏(85~88)はすべて内面ミガキ後に黒色処理が施されている。

〈時期〉出土遺物から平安時代に属すると考えられる。

#### S A04柱穴列 (第23図、写真図版20)

〈位置・検出状況〉C区のIV C 8 b グリッド、座標値 ( $X = -102589.000m$ ,  $Y = 26727.000m$ ) 付近に位置する。現況は水田である。Ⅲ層で1列に並ぶ黒褐色土の円形プランを検出した。

〈形態〉4個の柱穴で構成される。調査区内での長さ3.15m (約10.4尺) の範囲が確認された。

〈埋土〉黒褐色土が主体である。

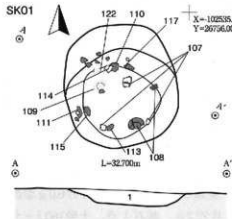
〈遺物〉なし。

〈時期〉不明。

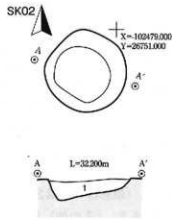
#### (6) 土 坑

#### S K01土坑 (第24図、写真図版21)

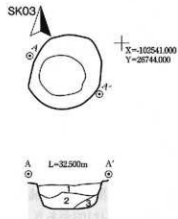
〈位置・検出状況〉B区のⅢ C 4 i グリッド、座標値 ( $X = -102535.000m$ ,  $Y = 26756.000m$ ) 付近に位置する。現況は水田である。Ⅱ b 層で土師器を包含する黒褐色の円形プランを検出した。また、S B01内に位置している。



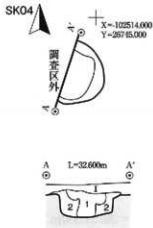
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや固  
しまり密 炭化物・粘土混入



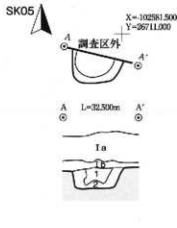
- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや固  
しまりやや密



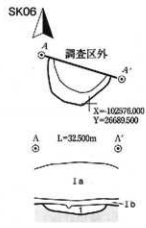
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性強  
しまりやや密 礫5%大1%混入  
2 10YR2/3 黒褐色土 粘性強  
しまりやや密 遺物包含  
3 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや密  
暗褐色土3%混入



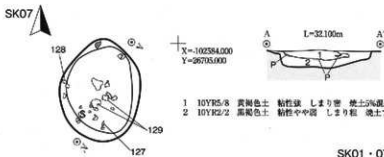
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性強 しまりやや密  
(柱遺跡?)  
2 10YR5/6 明黄褐色土 粘性強 しまりやや密



- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性強  
しまり密 黄褐色土10%混入  
2 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強  
しまり密 黄褐色土3%・礫3%混入



- 1 10YR2/1 黒色シルト 粘性強  
しまり密 黄褐色土3%混入  
土層部包含



- 1 10YR5/8 黄褐色土 粘性強 しまり密 粘土5%混入 土層部包含  
2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや固 しまり粗 焼土ブロック1% 遺物包含



第24図 SK01~07



〈重複関係〉P131、132を切る。

〈規模・形状〉平面形は円形を呈する。規模は北西-南東1.29m、北東-南西1.17mで、最深部14.4cmである。壁は外傾する。底面は平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。人為堆積である。

〈遺物〉土師器 坏類84片1118.7g、甕類17片265.9g、その他3片151.9g、不明13片37.6gが出土した。坏類は、内面黒色処理(108~116)、非内面黒色処理(107)、高台付坏(118)がある。109、110、116は二次被熱を受けた痕跡が見られる。甕類は、120、121、123、125がある。いずれも小型のものと思われる。その他に鉢(119)、羽釜(126)、ミニチュアの甕(122)がある。119、122は内面ミガキ後に黒色処理が施されている。〈須恵器〉坏類2片14.0g、甕類3片34.6g、不明1片6.0gが出土した。坏は103があり、甕は124がある。〈その他〉縄文土器6片22.2g、基石1点、土壁160.1gが出土した。縄文土器は149がある。基石(161)は写真掲載した。

〈時期〉遺構の位置と出土遺物から、S B01に関連する遺構と考えられる。9世紀後半から10C前半に属する。

#### S K02土坑(第24図、写真図版21)

〈位置・検出状況〉A区のI C10hグリッド、座標値(X=-102541.000m、Y=26744.000m)付近に位置する。IV層で検出した。

〈規模・形状〉平面形は円形を呈する。規模は、南北0.87m、東西0.86mで、最深部は22.5cmを測る。壁は外傾する。底面は西へ傾斜している。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉土師器が1片3.1g出土している。埋土中からの出土である。

〈時期〉不明。

#### S K03土坑(第24図、写真図版22)

〈位置・検出状況〉B区のIII C6fグリッド、座標値(X=-102479.000m、Y=26751.000m)に位置する。III層で検出した。

〈規模・形状〉平面形は円形を呈する。規模は、北東-南西0.84m、北西-南東0.72mで、最深部は28.5cmを測る。壁は外傾する。底面は平坦である。

〈堆積土〉1層は暗褐色土、2層は黒褐色土で遺物を包含する。3層は黄褐色土を主体とする。人為堆積である。

〈遺物〉土師器の坏類7片41.6g、不明3片16.6gが出土した。

〈時期〉埋土と出土遺物から平安時代に属すると思われる。

#### S K04土坑(第24図、写真図版22)

〈位置・検出状況〉B区のII C9gグリッド、座標値(X=-102514.000m、Y=26745.000m)付近に位置する。III層で検出した。

〈規模・形状〉遺構の半分が調査区外の西へ続いている。平面形は円形をなすと推測される。残存部の最大径で北東-南西0.67m、最深部は24.3cmを測る。壁は垂直に立ち上がり、底面は平坦である。

〈埋土〉暗褐色土を主体として2層に細分される。堆積状況から柱穴の可能性も考えられる。しかし、本遺構の周辺に同規模の柱穴が検出されていないため、現状では断定できない。本遺構が柱穴の場合、

1層は柱痕跡、2層は掘り方と思われる。

〈遺物〉なし。

〈時期〉不明。

#### S K05土坑 (第24図、写真図版22)

〈位置・検出状況〉C区のIV B 6 h グリッド、座標値 (X = -102581.500m, Y = 26711.000m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈規模・形状〉遺構の半分が調査区外の北へ続いている。平面形は円形をなすと推測される。残存部の最大径で北西-南東0.55m、最深部は22.5cmを測る。壁は外傾する。底面は平坦である。

〈埋土〉1層は黒褐色土を主体とし、2層は暗褐色土を主体とする。

〈遺物〉なし。

〈時期〉不明。

#### S K06土坑 (第24図、写真図版22)

〈位置・検出状況〉C区のIV B 4 c グリッド、座標値 (X = -102576.000m, Y = 26689.500m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈規模・形状〉遺構の半分が調査区外の北へ続いている。平面形は円形をなすと推測される。残存部の最大径で北西-南東0.68m、最深部は9.4cmを測る。壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉黒色土を主体とする。

〈遺物〉〈土師器〉坏類2片6.5gが出土した。〈須恵器〉坏類1片9.6gが出土した。

〈時期〉堆積土と出土遺物より、平安時代に属すると思われる。

#### S K07土坑 (第24図、写真図版22)

〈位置・検出状況〉C区のIV B 7 g グリッド、座標値 (X = -102584.000m, Y = 26705.000m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈規模・形状〉平面形は楕円形を呈する。規模は南北1.09m、東西84.7cmで、最深部は19.0cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は南西から北東へ傾斜する。

〈埋土〉1層はⅢ層由来の黄褐色粘土を主体とし、焼土がモザイク状に堆積している。2層は黒褐色土を主体とする。堆積土から古代の遺物が出土している。人為堆積である。

〈遺物〉〈土師器〉坏類16片139.3g、甕類11片232.0g、不明11片30.7gが出土した。坏は内面黒色処理された127~129があり、甕は131がある。〈須恵器〉坏類1片10.8g、甕類3片69.7gが出土した。坏は130がある。

〈時期〉出土遺物から平安時代に属すると思われる。

### (7) 溝

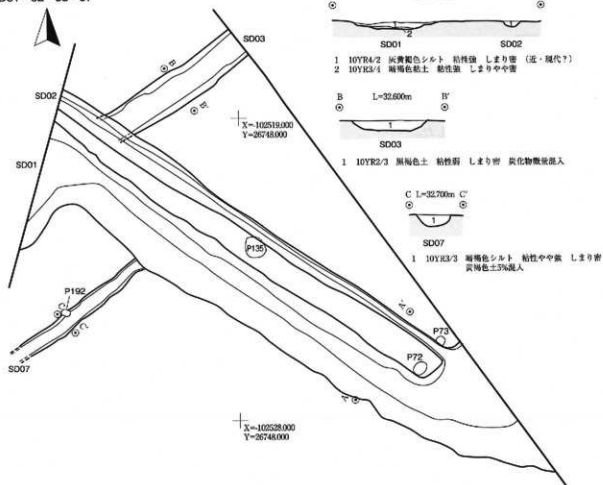
#### S D01溝 (第25図、写真図版23)

〈位置・検出状況〉B区のIII C 1 f ~ III C 3 j グリッド、座標値 (X = -102524.000m, Y = 26748.000m) 付近に位置する。II b ~ III層で検出した。

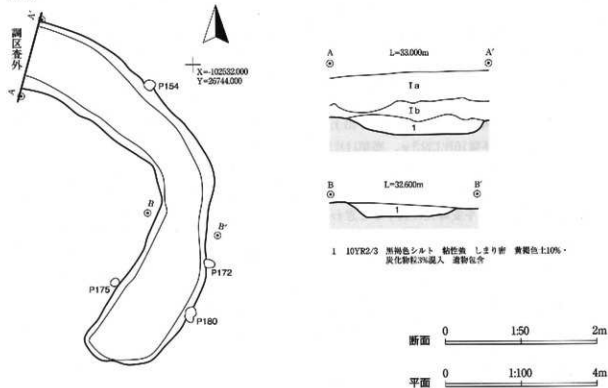
〈重複関係〉南東でS D02と合流する。また、S D07を切る。

〈規模・形状〉調査区外の北西と東へ延びると考えられる。規模は、長さ13.72m (調査区内)、幅1.26

SD01・02・03・07



SD04



第25図 SD01~04・07

～3.37m、深さ10cmを測る。壁は緩やかに外傾する。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉灰黄褐色土を主体とし、2層に細分される。水田の床上に類似している。圃場整備以前の水路の堆積層と考えられる。

〈遺物〉〈土師器〉坏類3片11.5g、不明5片22.5gが出土した。〈須恵器〉甕類5片88.5gが出土した。

〈時期〉埋土から近・現代で、S D02と同時期に存在し、S D07より新しい。

#### S D02溝 (第25図、写真図版23)

〈位置・検出状況〉B区のⅡC10f～ⅢC2iグリッド、座標値(X=-102521.000m、Y=26748.000m)付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈重複関係〉S D01と南東で合流する。また、S D03を切る。

〈規模・形状〉調査区外の東西へ延びると考えられる。規模は、長さ12.17m(調査区内)、幅0.25～0.70m、深さ8cmを測る。断面形は半月状を呈する。

〈埋土〉灰黄褐色土を主体とする。

〈遺物〉〈土師器〉2片18.8g、不明2片5.4gが出土した。

〈時期〉埋土から近・現代で、S D01と同時期に存在し、S D03より新しい。

#### S D03溝 (第25図、写真図版23)

〈位置・検出状況〉B区のⅡC10gグリッド、座標値(X=-102519.000m、Y=26748.000m)付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈重複関係〉S D02に切られる。

〈規模・形状〉調査区外の北東へ延びると考えられる。規模は、長さ4.04m(調査区内)、幅0.98m、深さ7.0cmを測る。壁は外傾する。底面は平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。礫層(Ⅳ層)まで掘り込まれている。

〈遺物〉〈土師器〉坏類18片56.8g、甕類12片80.4g、その他22片55.6gが出土した。内面ミガキ後に黒色処理が施された甕(89)がある。〈須恵器〉甕類3片20.4gが出土した。

〈時期〉埋土から平安時代に属すると思われる。

#### S D04溝 (第25図、写真図版24)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC4f～ⅢC5fグリッド、座標値(X=-102532.000m、Y=26744.000m)付近に位置する。検出層位はⅡb～Ⅲ層で、くの字に曲がる黒褐色土プランを検出した。

〈規模・形状〉平面形は方形を早する可能性があり、調査区外の西へ延びるものと推測される。その内側には土が盛られ、塚のようになっていた可能性が考えられる。規模は、北西-南東5.20m以上、北東-南西5.35m、幅1.25～2.00m、深さ5～11cmを測る。壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。形状から塚に付属する周溝と考えられる。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする人為堆積である。礫層まで掘り込まれている。

〈遺物〉〈土師器〉坏類86片423.7g、甕類26片518.3g、不明202片479.1gが出土した。甕(90～92)がある。〈須恵器〉甕類29片646.3gが出土した。甕(93～95、97)がある。〈その他〉縄文土器16片152.4g、瀬美半島産陶器甕1片が出土した。縄文土器は147、148がある。瀬美半島産陶磁器片(96)は12世紀後半のものである。

〈時期〉埋土と出土遺物から平安時代に属すると思われる。12世紀の瀬美産陶器の存在から、本遺構が12世紀まで埋没しなかった可能性が考えられる。

## SD05溝 (第26図、写真図版25)

〈位置・検出状況〉A区のIC9c～IC10aグリッド、座標値 (X=-102476.000m, Y=26730.000m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈規模・形状〉調査区外の北東と南西へ延びると考えられる。規模は、長さ7.09m (調査区内)、幅2.00m、深さ17cmを測る。壁は外傾する。底面は平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする水性堆積層である。

〈遺物〉土師器 甕類2片17.8gが出土した。〈その他〉陶器2片513.3gが出土した。鉢(98)は東北産中世陶器と思われる。

〈時期〉不明であるが、埋土がⅡa層に由来し、埋土の陶器を考慮すれば、中世の可能性も考えられる。

## SD06溝 (第26図、写真図版25)

〈位置・検出状況〉A区のIB9j～IB10hグリッド、(X=102474.000m, Y=26720.000m) に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈規模・形状〉調査区外の北東と南西に延びる。現況は畦道であった。規模は、長さ6.87m (調査区内)、幅3.60m、深さ40～50cmを測る。壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉グライ化した褐灰色土を主体とする。水性堆積である。

〈遺物〉土師器 坏類8片48.6g、甕類6片96.0g、不明6片39.5gが出土した。甕(99)がある。〈須恵器〉坏類1片4.6g、甕類5片327.9gが出土した。〈その他〉陶器1片59.8gが出土した。これは鉢(100)で、東北産中世陶磁器と思われる。

〈時期〉本遺構の北にある畦道は、圃場整備時に埋め立てられてつくられたと考えられる。本遺構は、圃場整備以前に水路として利用していたと考えられる。完全に埋没したのは現代である。

## SD07溝 (第25図、写真図版25)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC2f～ⅢC2gグリッド、座標値 (X=-102524.000m, Y=26744.000m) 付近に位置する。Ⅱb～Ⅲ層で検出した。

〈重複関係〉SD01、P192に切られる。

〈規模・形状〉規模は、長さ4.12m、幅0.30～0.45m、深さ8cmを測る。断面形は半月状を呈する。

〈埋土〉暗褐色土を主体とし、土師器を包含する。

〈遺物〉土師器 坏類45片134.1g、甕類17片187.0g、不明61片157.1gが出土した。坏は内面黒色処理された101があり、甕は103・104がある。101と104はともに底面からの出土である。〈須恵器〉坏類2片14.4g、甕類6片148.6g、が出土した。坏(102)がある。

〈時期〉埋土と出土遺物から平安時代に属すると思われる。

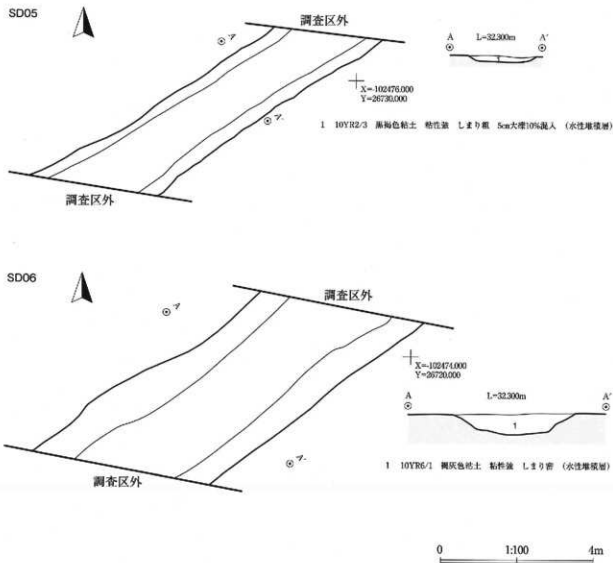
## SD08溝 (第27図、写真図版26)

〈位置・検出状況〉C区のIVB4b～IVB6bグリッド、座標値 (X=-102578.000m, Y=26686.000m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈重複関係〉用水路に切られる。

〈規模・形状〉調査区外の北と南へ延びている。南側で溝の幅が広がる。規模は、長さ6.00m (調査区内)、幅0.42～0.95m、深さ8cmを測る。壁は緩やかに外傾する。底面は東へ傾斜している。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。



第26図 S D05・06

〈遺物〉須恵器 甕類 8片435.6gが底面付近からまとまって出土した。105・106がある。この2点は同一個体と考えられる。

〈時期〉堆積土と出土遺物から平安時代に属すると思われる。

S D09溝 (第27図、写真図版26)

〈位置・検出状況〉C区のIV B 5 e～IV B 7 eグリッド、座標値 (X=-102580.000m、Y=26701.000m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

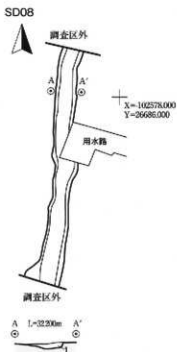
〈重複関係〉S B04の東側柱穴列を切る。また、用水路に切られている。

〈規模・形状〉調査区外の北と南へ延びている。規模は、長さ6.15m (調査区内)、幅0.90～1.23m、深さ20cmを測る。断面形は半月状を呈する。

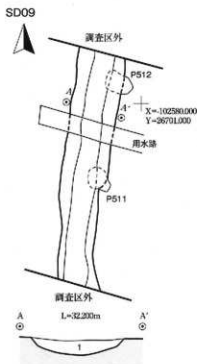
〈埋土〉黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉なし。

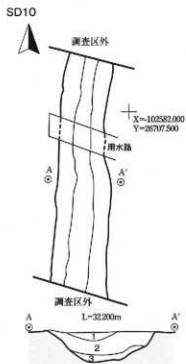
〈時期〉平安時代以降でS B04より新しい。



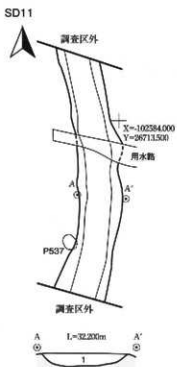
1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強  
しまり密 炭素器出土



1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり密

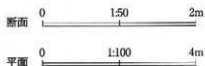


1 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強 しまり密  
2 10YR2/1 黒色シルト 粘性強 しまり密  
層10~15%混入  
3 10YR3/1 黒褐色砂質シルト 粘性強  
しまり密 層3%混入



1 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性強 しまり密

第27図 SD08~11



SD10溝 (第27図、写真図版26)

〈位置・検出状況〉C区のIVB 6g~IVB 7gグリッド、座標値(X=-102582.000m, Y=26707.000m)付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈重複関係〉用水路に切られる。

〈規模・形状〉調査区外の北と南へ延びている。規模は、長さ6.15m(調査区内)、幅1.20~1.47m、深さ39.0cmを測る。断面形は半月状を呈する。

〈埋土〉1層は黒褐色土で、2層は黒色土で礫を含んでいる。3層は黒褐色砂質土である。

〈遺物〉(土師器)不明1片1.8gが出土した。

〈時期〉不明。

## SD11溝 (第27図、写真図版26)

〈位置・検出状況〉C区のⅣB6i~ⅣC8iグリッド、座標値 (X = -102584.000m, Y = 26713.000m) 付近に位置する。Ⅲ層で検出した。

〈重複関係〉P537を切る。また、用水路に切られる。

〈規模・形状〉調査区外の北と南に延びている。規模は、長さ6.49m (調査区内)、幅0.97~1.29m、深さ70cmを測る。壁は外傾する。底面はほぼ平坦である。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉なし。

〈時期〉不明。

## (8) 性格不明遺構

## SX01性格不明遺構 (第28図、写真図版27)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC5h~ⅢC5iグリッド、座標地 (X = -102538.000m, Y = 26753.000m) 付近に位置する。Ⅱb~Ⅲ層で、SX02と併に不定形の範囲として検出した。

〈重複関係〉SB01、SB03、P153を切る。

〈規模・形状〉平面形は不定形を呈する。規模は北東-南西2.75m、北西-南東2.29m (最大幅)、深さ0.28mを測る。壁は外傾する。底面は凸凹である。根拠と考えられる。

〈埋土〉6層に細分される。1層は明黄褐色土で風倒木痕に関連する。2層は黒褐色土で、SB1の1層と同じで、遺物を包含する。3層は明黄褐色土、4層は暗褐色土、5層は黒褐色土、6層は黄褐色土をそれぞれ主体とする。3~6層間に暗~黒褐色の4・5層が堆積することから風倒木痕跡と考えられるが、断定し難い。

〈遺物〉〈土師器〉坏類19片50.5g、甕類1片167.7g、不明24片76.1gが出土した。坏は132、甕は134がある。〈須恵器〉坏蓋1片9.0g、甕類5片42.1gが出土した。坏蓋は133がある。〈その他〉縄文土器11片86.8gが出土した。

〈時期〉SB01、SB03より新しい。

## SX02性格不明遺構 (第28図、写真図版27)

〈位置・検出状況〉B区のⅢC4hグリッド、座標値 (X = -102538.000m, Y = 26753.000m) 付近に位置する。Ⅱb~Ⅲ層でSX01の北西側に位置する不定形の範囲として検出した。

〈重複関係〉SB01、SB03を切る。

〈規模・形状〉平面形は不定形を呈する。規模は最大幅で南-北3.30m、東-西3.10m、深さ0.40mを測る。壁は外傾する。底面は凸凹である。

〈埋土〉SX01と類似する。

〈遺物〉〈土師器〉坏類19片82.7g、甕類7片103.6g、不明27片82.0gが出土した。坏(135)、甕(136・137)がある。〈須恵器〉坏類1片2.8g、甕類1片6.4gが出土した。〈その他〉縄文土器3片21.1gが出土した。

〈時期〉SB01、SB03より新しい。

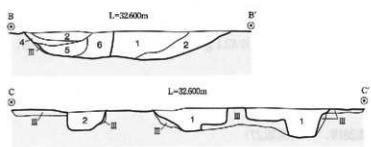
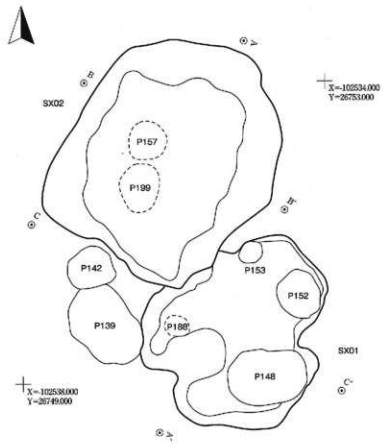
## SX03性格不明遺構 (第28図、写真図版28)

〈位置・検出状況〉C区のⅣA4jグリッド、座標値 (X = -102572.500m, Y = 26679.500m) 付近



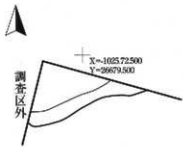
4 検出遺構

SX01・02



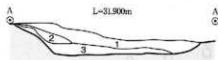
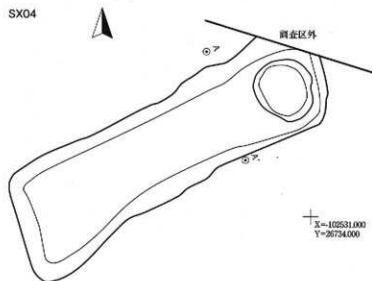
- 1 10YR7/6 明黄褐色土 粘性やや強 しまりやや密 暗褐色土5%混入
- 2 10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまりやや粗 遊物混合(SB1の層1層に散在)
- 3 10YR6/8 明黄褐色土 粘性やや強 しまり密 暗褐色土1%混入
- 4 10YR3/4 暗褐色土 粘性やや強 しまり密
- 5 10YR2/3 黒褐色土 粘性強 しまり密
- 6 10YR5/6 黄褐色土 粘性やや強 しまり密

SX03

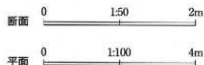


第28図 SX01~03

SX04



- 1 10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり弱(水性堆積層)  
 2 10YR4/6 におい黄褐色土 粘性弱 しまり弱  
 砂礫多量  
 3 10YR2/1 黒色土 粘性強 しまり弱(水性堆積層)



第29図 SX04

に位置する。調査区の北西隅でプランを検出した。

〈規模・形状〉調査区外の北西に延びると考えられる。平面の図化と写真撮影のみ行った。検出範囲は北東-南西0.83m、北西-南東1.41mで、深さ0.37mを測る。

〈埋土〉黒褐色土を主体とする。

〈遺物〉〈土師器〉環1片4.4g、不明2片4.6gが出土した。

〈時期〉不明。

#### SX04性格不明遺構 (第29図、写真図版28)

〈位置・検出状況〉C区のIVC8d~IVC9bグリッド、座標値(X=-102592m、Y=26728m)付近に位置する。黒褐色土の長方形プランを検出した。

〈規模・形状〉平面形は長方形を呈する。規模は、北東-南西9.04m、北西-南東2.555m、深さ0.40mを測る。壁は外傾する。底面は平坦だが、遺構内の北東部分に北東-南西1.56m、北西-南東1.68mの円形の窪みがある。長方形プランと円形プランの関係は不明である。

〈埋土〉1、3層は黒色土を主体とする。2層はにおい黄褐色土に砂礫が混入している。

〈遺物〉なし。

〈時期〉不明。

#### (9) 柱 穴

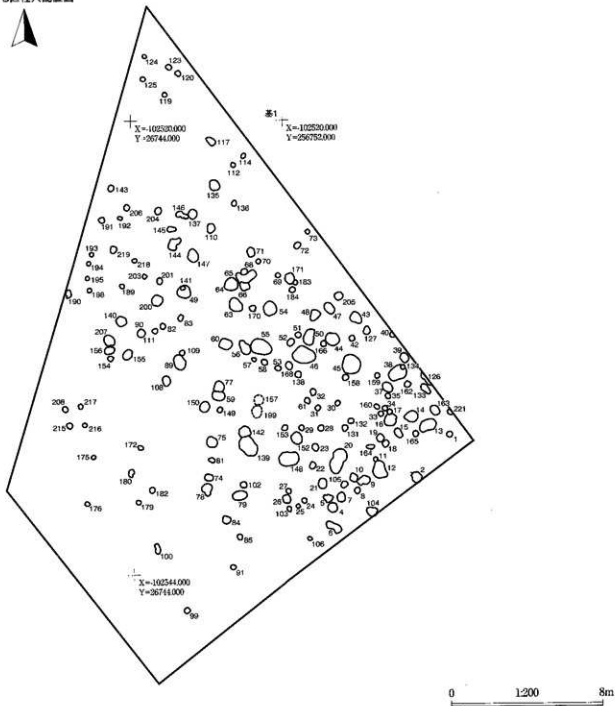
水尻遺跡では、柱穴が218個(A区-9個、B区-170個、C区-39個)検出された。そのうち、61個の柱穴が4棟の掘立柱建物を構成し、15個の柱穴が4列の柱穴列を構成している。出土遺物は、土師器、須恵器が大半を占める。その他に、縄文土器、石器、土壁が出土している。

本項では、柱穴上場の配置図と建物を構成していない柱穴の観察表を呈示する。

A区柱穴配置図

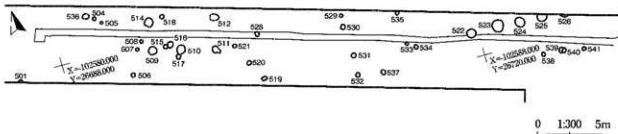


B区柱穴配置図



第30図 A・B区柱穴配置図

C区柱穴配置図



第31図 C区柱穴配置図

第11表 A区柱穴観察表

No	位置	平面形	開口部径(m)	深(m)	幅間隔(m)	主体土	混入物			柱状	出土遺物	重複関係
							土	炭化物	硬土			
305	ⅡC1e	円形	32.2×31.8	17.8	31.950	黒褐色土						
306	ⅡC1e	円形	34.6×31.6	17.0	31.982	黒褐色土						
307	ⅠC10f	円形	46.3×42.0	23.2	31.866	黒褐色土						
308	ⅡC1h	円形	52.5×47.8	15.2	31.924	黒褐色土						
309	ⅡC1h	円形	36.4×31.3	18.8	31.932	黒褐色土						

第12表 B区柱穴観察表

No	位置	平面形	開口部径(m)	深(m)	幅間隔(m)	主体土	混入物			柱状	出土遺物	重複関係
							土	炭化物	硬土			
1	ⅡD5a	円形	31.0×28.7	9.0	32.334	黒褐色土				土師器(1)須恵器(1)		
5	ⅡC5i	円形	50.6×40.2	29.4	32.214	黒褐色土	○	○	○	土師器(1)		
6	ⅡC6i	楕円形	85.7×39.5	38.6	32.100	黒褐色土				土師器(3)		
8	ⅡC5i	円形	31.4×28.3	29.2	32.208	黒褐色土		○	○	土師器(1)		
9	ⅡC5i	楕円形	63.5×46.0	39.2	32.126	黒褐色土				土師器(3)		
11	ⅡC5j	円形	21.2×20.4	20.2	32.262	黒褐色土				土師器(1)須恵器(1)		
14	ⅡC4j	楕円形	71.5×58.2	32.0	32.208	黒褐色土		○	○	土師器(2)須恵器(1)土埴(6)		
15	ⅡC5j	剛丸方形	51.8×36.7	37.2	32.140	黒褐色土	○			土師器(1)		
17	ⅡC4j	円形	28.0×24.1	27.0	32.228	黒褐色土				土師器(3)土埴(2)	P16より新しい	
18	ⅡC3j	剛丸方形	37.0×29.2	27.0	32.244	黒褐色土						
22	ⅡC5i	円形	33.8×31.2	7.6	32.410	黒褐色土	○		○	土師器(4)		
23	ⅡC5i	円形	37.9×31.7	37.8	32.096	黒褐色土	○			土師器(10)		
24	ⅡC6i	円形	25.4×24.4	40.6	32.138	黒褐色土		○				
25	ⅡC6i	円形	30.2×19.8	36.0	32.154	黒褐色土		○				
27	ⅡC5i	楕円形	27.2×23.0	20.4	32.304	黒褐色土		○		須恵器(1)		
28	ⅡC5i	円形	32.0×31.3	14.6	32.368	黒褐色土		○	○	土師器(4)		
29	ⅡC5i	円形	28.4×26.6	33.2	32.196	黒褐色土		○	○	土師器(4)		
30	ⅡC4i	円形	29.2×23.8	47.2	32.104	黒褐色土		○	○			
31	ⅡC4i	円形	29.2×26.4	13.2	32.412	黒褐色土		○	○			
32	ⅡC4i	円形	36.5×29.5	16.6	32.392	黒褐色土		○	○			
33	ⅡC4j	円形	26.6×23.2	10.2	32.384	黒褐色土				土師器(3)		
34	ⅡC4j	円形	23.0×25.8	22.2	32.270	黒褐色土				土師器(2)		
35	ⅡC4j	円形	27.4×26.4	28.2	32.220	黒褐色土				土師器(2)		
40	ⅡC3j	円形	29.8	25.4	32.262	黒褐色土		○	○	土師器(3)		
42	ⅡC3i	円形	30.5×26.1	27.2	32.256	黒褐色土	○			土師器(5)須恵器(1)		
44	ⅡC3i	剛丸方形	72.8×69.4	19.0	32.372	黒褐色土		○		土師器(3)		
49	ⅡC3g	楕円形	72.2×70.2	16.0	32.416	黒褐色土		○	○	土師器(2)		

## 4 検出遺構

No	位置	平面形	開口部径(m)	厚さ(m)	幅深径(m)	主体土	混入物			柱状	出土遺物	承取関係
							埴土	炭化物	焼土			
51	ⅡC3i	円形	28.0×26.4	11.8	32.406	黒褐色土		○	○			
52	ⅡC3j	円形	42.0×32.2	33.6	32.198	黒褐色土		○	○		須磨器(1)+土師(9)	
53	ⅡC4h	円形	28.9×28.2	26.8	32.278	暗褐色土						
56	ⅡC3h	楕円形	77.4×53.3	39.0	32.132	黒褐色土	○				土師器(1)	
57	ⅡC4h	円形	22.1×18.1	13.8	32.386	黒褐色土	○					
58	ⅡC4h	円形	34.6×29.0	25.0	32.260	暗褐色土			○			
61	ⅡC4i	円形	32.2×28.4	15.2	32.370	黒褐色土	○	○			土師器(1)	
63	ⅡC3h	楕円形	101.5×44.4	21.2	32.322	黒褐色土	○				土師器(3)	P66より古い
66	ⅡC3h	楕円形	47.6×46.6	25.6	32.266	黒褐色土					土師器(2)	P65より新しい
68	ⅡC2h	円形	35.6×29.4	22.2	32.272	黒褐色土					土師器(4)+須磨器(1)	
70	ⅡC2h	円形	22.4×22.4	18.6	32.288	黒褐色土					土師器(2)	
72	ⅡC2h	円形	38.8×29.9	8.0	32.304	黒褐色土		○				SD1より古い
73	ⅡC2h	円形	25.8×24.4	8.8	32.274	黒褐色土						SD2より古い
74	ⅡC5g	楕円形	45.2×33.5	29.0	32.248	黒褐色土	○				土師器(2)	
81	ⅡC5h	円形	33.9×19.8	21.8	32.322	黒褐色土	○				土師器(1)	
82	ⅡC3g	円形	28.7×24.7	23.8	32.288	黒褐色土		○				
83	ⅡC3g	楕円形	31.7×30.2	11.4	32.456	黒褐色土	○					
84	ⅡC6h		42.9×42.2	19.2	32.296	黒褐色土		○	○			
85	ⅡC6h	円形	27.0×26.0	31.4	32.154	黒褐色土	○					
91	ⅡC6h	円形	27.0×25.0	25.2	32.194	黒褐色土		○	○			
99	ⅡC7g	円形	29.1×30.1	8.6	32.208	黒褐色土		○	○		土師器(2)	
100	ⅡC6g	円形	32.5×27.3	17.8	32.252	黒褐色土		○			土師器(6)	
102	ⅡC5h	円形	31.2×31.4	20.4	32.284	黒褐色土						
103	ⅡC6i	楕円形	24.9×22.1	24.4	32.282	黒褐色土		○	○		土師器(7)	
106	ⅡC5i	円形	33.5×30.6	42.4	32.104	黒褐色土	○	○	○		土師器(1)	
106	ⅡC6i	円形	23.8×17.3	14.6	32.298	黒褐色土						
109	ⅡC4g	円形	29.9×27.4	33.0	32.216	黒褐色土						
111	ⅡC3g	円形	28.2×26.9	16.0	32.328	黒褐色土	○				土師器(3)	
112	ⅡC1h	円形	25.0×23.2	19.0	32.246	黒褐色土	○	○	○		土師器(2)	
114	ⅡC1h	円形	28.7×22.1	13.4	32.296	黒褐色土		○	○			
117	ⅡC1h	楕円形	50.4×33.2	26.0	32.174	黒褐色土	○				土師器(1)	
119	ⅡC10g	円形	25.0×24.4	14.6	32.318	黒褐色土					土師器(1)	
120	ⅡC10g	円形	28.6×29.4	14.4	32.292	黒褐色土						
123	ⅡC10g	円形	30.6×27.4	22.6	32.202	黒褐色土	○					
124	ⅡC10g	円形	23.8×20.8	9.6	32.342	黒褐色土		○	○		土師器(1)	
125	ⅡC10g	円形	27.2×25.4	21.8	32.224	黒褐色土	○					
131	ⅡC5i	円形	33.0×28.5	29.4	32.130	黒褐色土					土師器(1)	SK1より古い
132	ⅡC4i	円形	29.0×23.0	25.8	32.106	黒褐色土					土師器(3)	SK1より古い
133	ⅡC4j	楕円形	60.8×37.1	34.6	32.154	暗褐色土	○	○	○		土師器(3)	
134	ⅡC1j	円形	30.1×20.7	18.2	32.230	黒褐色土		○	○		土師器(3)+須磨器(1)	P38より新しい
135	ⅡC1h	隅丸方形	61.0×33.5	20.6	32.188	黒褐色土		○	○	○	土師器(1)	SD2より古い
136	ⅡC2h	円形	26.8×29.3	15.4	32.256	黒褐色土		○	○			
138	ⅡC4i	円形	34.7×33.5	26.2	32.298	黒褐色土					土師器(2)+須磨器(1)	
141	ⅡC3g	円形	25.8×19.0	20.4	32.254	黒褐色土		○	○			
143	ⅡC1i	円形	34.7×28.3	30.4	32.222	暗褐色土	○	○	○			
145	ⅡC2g	小楕円形	47.2×28.2	23.0	32.264	暗褐色土	○	○	○			
146	ⅡC2g	楕円形	65.5×30.0	25.0	32.256	暗褐色土		○	○	○	土師器(4)	
149	ⅡC4h	小円形	26.8×26.1	24.0	32.220	暗褐色土					土師器(1)	
153	ⅡC5i	円形	34.1×25.3	26.2	32.294							SK1より新しい
154	ⅡC4f	楕円形	29.4×29.3	32.0	32.224	黒褐色土						SD1より新しい

No	位置	平面形	開口部径(cm)	深さ(cm)	底面積(m <sup>2</sup> )	主体土	混入物			柱状	出土遺物	重複関係
							緑フナテ	炭化物	焼土			
156	ⅢC4f	楕円形	54.8×40.8	146	32.378	暗褐色土	○					
158	ⅢC4i	円形	33.1×30.0	23.4	32.336	暗褐色土	○	○	○			須恵器(1)
159	ⅢC4j	円形	27.1×21.8	19.8	32.336	黒褐色土	○	○	○			土師器(3)須恵器(1)
160	ⅢC4k	円形	27.3×25.3	13.4	32.370	暗褐色土	○	○	○			土師器(1)
162	ⅢC4l	円形	31.8×32.5	26.0	32.230	黒褐色土	○	○	○			
163	ⅢC4m	楕円形	57.0×44.2	24.8	32.246	黒褐色土	○	○	○	○		土師器(1)
164	ⅢC5j	楕円形	43.8×21.2	18.6	32.292	黒褐色土	○	○	○			
165	ⅢC5j	円形	30.3×28.0	28.2	32.116	黒褐色土	○	○	○	○		土師器(8)
166	ⅢC3i	円形	28.8×25.2	29.0	32.272	黒褐色土	○	○	○			
168	ⅢC4f	円形	41.4×33.9	33.4	32.210	黒褐色土						土師器(3)
170	ⅢC3h	円形	30.5×31.7	31.2	32.234	黒褐色土						
172	ⅢC5g	円形	25.4×20.2	10.1	32.102	暗褐色土	○					SD4より新しい
175	ⅢC5f	円形	20.8×16.6	12.4	32.282	黒褐色土						SD4より新しい
176	ⅢC6f	円形	23.2×20.9	17.0	32.176	黒褐色土	○	○	○			
179	ⅢC6g	円形	25.0×21.1	19.0	32.238	黒褐色土	○	○	○			
180	ⅢC5f	円形	36.8×28.4	7.6	32.244	黒褐色土	○	○	○			土師器(17)土釡(9)
181	ⅢC5h	円形	—	—	—	黒褐色土						SD4より新しい
182	ⅢC5g	円形	28.9×28.8	16.2	32.262	黒褐色土						SD1より古い
183	ⅢC3i	円形	21.4×20.5	12.2	32.336	暗褐色土			○			
184	ⅢC3i	円形	30.0×29.5	13.4	32.340	暗褐色土			○	○		
189	ⅢC3f	円形	25.8×23.8	22.2	32.330	暗褐色土			○			
190	ⅢC3f	楕円形	37.5×29.6	18.1	32.372	黒褐色土						土師器(2)
191	ⅢC2f	円形	35.5×31.7	17.8	32.360	黒褐色土	○					土師器(2)
192	ⅢC2f	円形	23.9×17.9	23.6	32.312	黒褐色土						土師器(1)
193	ⅢC2f	円形	21.3×19.5	16.2	32.260	黒褐色土		○	○			土師器(2)須恵器(1)
194	ⅢC2f	円形	23.2×23.0	14.0	32.286	黒褐色土		○	○			
195	ⅢC3i	円形	19.8×19.2	14.6	32.256	黒褐色土		○	○			土師器(4)
198	ⅢC3i	円形	23.8×23.4	17.2	32.248	黒褐色土		○	○			
200	ⅢC3g	円形	61.6×56.2	12.2	32.412	暗褐色土						土師器(2)縄文土器(9)
201	ⅢC3g	円形	33.8×27.2	22.4	32.358	暗褐色土						土師器(4)
203	ⅢC3g	円形	26.6×25.2	29.4	32.246	暗褐色土						土師器(3)
204	ⅢC2g	円形	39.8×35.2	28.1	32.224	暗褐色土						土師器(3)
205	ⅢC3i	円形	45.6×45.0	22.6	32.240	暗褐色土						土師器(2)
206	ⅢC2f	円形	30.7×30.2	22.8	32.244	暗褐色土						土師器(3)
208	ⅢC4f	円形	27.6×25.4	14.2	32.244	暗褐色土						
215	ⅢC5f	円形	28.2×29.0	11.8	32.196	暗褐色土	○					
216	ⅢC5f	円形	22.5×20.4	7.6	32.261	暗褐色土	○					
217	ⅢC4f	円形	25.4×21.4	14.8	32.200	暗褐色土	○					
218	ⅢC2g	円形	25.8×22.0	15.6	32.244	暗褐色土	○					
219	ⅢC2f	円形	33.6×33.2	13.6	32.260	暗褐色土	○					
221	ⅢD4a	円形	29.2	7.6	32.412							

第13表 C区柱穴観察表

No	位置	平面形	開口部径(cm)	深さ(cm)	底面積(m <sup>2</sup> )	主体土	混入物			柱状	出土遺物	重複関係
							緑フナテ	炭化物	焼土			
501	ⅣB6b	円形	36.2	22.0	31.790	黒褐色土	○					
504	ⅣB5c	円形	27.1×26.2	33.8	31.781	黒褐色土	○					
505	ⅣB5d	円形	20.9×22.1	31.8	31.802	黒褐色土	○					土師器(4)
506	ⅣD6d	円形	33.0×31.0	25.8	31.802	黒褐色土	○					土師器(1)
507	ⅣD6d	円形	26.7×23.6	30.1	31.772	黒褐色土	○					土師器(1)

No	位置	平面形	開口部径(cm)	深さ(cm)	幅(cm)	主色	混入物			柱状	出土遺物	重複関係
							緑フタナ	炭化物	焼土			
508	N785d	円形	27.0×26.9	29.8	31.794	黒褐色土						
515	N786e	円形	33.3×33.1	17.4	31.908	黒褐色土	○					
516	N786e	円形	52.9×44.3	17.6	31.900	黒褐色土	○					
517	N786e	楕円形	36.7×30.1	26.0	31.892	黒褐色土	○					
518	N785c	円形	34.1×33.0	25.2	31.878	黒褐色土	○			土師器(1)		
528	N786f	円形	37.0×29.7	26.4	31.720	黒褐色土	○					用水路より古い
533	N787i	円形	22.8×22.4	12.8	31.870	黒褐色土	○					用水路より古い
534	N787i	円形	34.0×30.4	26.4	31.728	暗褐色土	○					
535	N786f	円形	28.9×27.6	15.8	31.812	黒褐色土	○					
536	N785c	円形	50.2×39.2	15.0	31.932	黒褐色土	○					
537	N787i	円形	36.5×34.6	13.6	31.878	暗褐色土	○					SD11より古い
539	N788b	楕円形	41.6×21.3	26.8	31.704	暗褐色土	○					

## 5 出土遺物

### (1) 旧石器時代の遺物 (第32～37図、写真図版29～33)

**台形石器** 1～5が出土している。刃部がいわゆる「ボジ・ボジ」の面で構成される資料は5のみである。1～3・5は素材の剥片剥離軸を正位に配置し、側縁部に刃潰し加工を施す。1は両側縁に加工を施す。石核打面再生剥片が素材であろうか。2は頭部調整と左側縁に急斜度調整を施す。刃部はガジリによる破損が著しいが、右縁に微細剥離痕が連続する。背面は主に頭部側と末端側からの剥離が多い。両側縁部中央に挿入部をもつ。挿入部は着柄に関わる調整痕の可能性があるので、本資料は挿入部を水平に設置して掲載した。3は右側縁に調整を施す。素材打面側からの調整が顕著であり、裏面に平坦剥離が見られる。5はSX02の黄褐色土内から出土した。裏面に平坦剥離が連続し、刃部となる素材末端を欠損する。4は1類で、素材を横位に配置し、末端に急斜度調整を施す。SD02から出土した。

**ナイフ形石器** 6・7が出土した。6は石刃(19)と伴出した。2・6・19は同一母岩である。台形石器の素材となる只殻状剥片の製作に伴う石核を加工し、ナイフ形石器としたものであろう。パティナが発達し、裏面右側縁に只殻状剥片サイズの剥離痕が連続する。最終剥離面は下端部と正面左側縁の急斜度調整である。正面右縁を台形石器の刃部と見なすことも可能ではある。その場合は素材横位の台形石器となる。7はSX01の黄褐色土層から出土した。ガジリの多い資料であるが、正面右下側縁に急斜度調整が見られる。裏面左上側縁部の微小剥離痕は、形状が四角形や三角形で連続することから、硬質な物質との接触によって生じた使用痕と考えられる。素材は通常のナイフ形石器よりも厚手の剥片を用いている。以上の特徴から、7は刺突具ではなく、切断具として機能したと考えられる。

**楔形石器** 8を掲載した。8は石器集中部3から出土した。背面は球心状剥離となっている。

**掻器** 9を掲載した。9は黒色頁岩製で、素材末端部に刃部を設定している。素材は厚手で、素材の打面は自然面である。刃部は、刃角が80°前後で、裏面に使用痕と考えられる微小剥離痕が分布する。

**剥片類・石刃** 10～25・30を掲載した。11は凝灰質頁岩製の微細剥離痕跡のある剥片である。大形の

縦長剥片を素材とする。素材は単剥離打面でバルブが発達し、末端に自然面を有する。12は厚手の剥片で、背面に上下両方向からの剥離が見られる。19は2（台形石器）・6（ナイフ形石器）と同一母岩の石刃で、6と近接して出土した。線状打面で、頭部調整が顕著である。背面は打面側からの剥離で占められる。基部加工ナイフ形石器の素材として利用されることが多い形状である。30はSX01の黄褐色土から出土した微細剥離痕のある剥片である。正面に左縁辺に微細剥離痕が連続する。

石核 26～29を掲載した。26は頁岩製で自然面を打面とする。剥離面は割割の痕跡であろうか。27はSX01の黄褐色土から出土した両設打面石核である。右側面に細石刃核作業面状の剥離痕があるが、打点部分が潰れており、細石刃の剥離を意図したものと見るよりも、両極打撃などにみられる打面のはじけの痕跡であろう。28は打面が単剥離面で作業面の幅が狭いことから、只殻状の横長剥片を製作していたと考えられる。29はSD04出土で30と接合する。両設打面石核で、打面は単剥離面である。

接合資料 29・30を掲載した。29はSD04から、30はSX01の黄褐色土内から出土した。また、21は29・30と同一母岩と考えられる。この接合資料からは幅広い縦長剥片を石核の上下方向から連続的に剥離し、作業面が徐々に後退していく状況が窺える。30は打面形成剥片で、バルブの発達が目立つ。縄文時代にも両設打面石核はあるが、SX01の黄褐色土からの出土を重視して旧石器と捉えた。

## （2）縄文土器（第45図、写真図版42）

出土資料は晩期の粗製土器を中心に極微量である。147～150を掲載した。遺構内出土資料はすべて堆積上から出土している。

## （3）縄文時代以降の石器（第38・39図、写真図版33～35）

石鏃（31～33）、石匙（34～36）、搔器（37）、削器（38～41）、石錐（42）、楔形石器（43～45）、敲石（46）、磨石（47）、剥片、碎片が出土している。また、旧石器時代調査によって取り上げられた石器の中には、一部縄文時代以降の遺物が含まれている可能性がある。

石鏃 31はSD04出土で、厚手の素材を用いる。石錐の形態に近いが、先端の加工状態からは判断できない。32は平基式、33は凹基式石鏃である。

スクレイパー類 34～36は石匙である。34は横型で、器体の歪みが少ない。挟入部が深くないので、狭み部幅と挟入部幅の差は小さい。35・36は縦型で、表面側縁部に調整のある所謂松原型石匙である。裏面下端に微細剥離痕が連続する。35はSD04の堆積上上部から、36はP89の堆積上から出土した。37は頁岩製搔器でSD04から出土した。尖頭器基部であった可能性も考えられるが、彎曲した器体と裏面の平坦剥離の観察から搔器と判断した。パティナは発達していない。38～41は削器である。38はP166堆積上から、39はSX01黒褐色土から、40はSK03堆積上から、41はP2堆積上から出土した。いずれもパティナは発達していない。

石錐 42はP75堆積上から出土した。素材の正面右下半の折断面に調整を加え、錐部を作り出している。

楔形石器 43はP181堆積上から、44・45はSD04堆積上から出土した。パティナは発達していない。

敲石器 46はP200から出土した敲石で、正・裏面の中央部を中心に敲打痕が見られ、下端は礫器状である。47は分割された磨石でP138から出土した。正・裏面に磨面を有する。形状は古墳時代以降に見られる方角石、あるいは磨衣石と称されるものである。



## (4) 土師器・須恵器 (第40～45図、写真図版36～41)

## 土師器

**坏** すべてロクロ成形の製品で、内面黒色処理と非黒色処理に分けられる。個体数では、内面黒色処理が多い。完形に近い個体の多いSK01では、内面黒色処理の製品が主体を占める。これらは器高が高く、底面に糸切痕が残ることから9世紀後半の特徴を有する(108～116)。なお、110は底部外面にケズリ調整する。非黒色処理はSB01を構成する柱穴内から出土している(51～60)。これらは底面に糸切痕が残り、器高は3.5cm未満の低い個体が多く、口縁部は直立もしくはわずかに外反する。10世紀前半段階にみられる形態である。

**鉢** 内面黒色処理の119がSK01から出土している。口縁部破片であり、全体形状は不明である。

**甕** 堅穴住居跡が数棟存在する一般的な集落と比べると、水尻遺跡で出土した甕個体数は少ないように思われる。SK01・07では回転ナデの個体が多い(120、121、123、125、131)。また、SK01では甕形のミニチュア土器が出土している(122)。122は内面黒色処理されている。

**羽釜** 126のみで、SK01から出土した。県内の古代遺跡でも羽釜の資料数は多くない。126は小形で器面の摩耗が少なく、口縁部にコゲが付着している。

## 須恵器

**坏・蓋** 個体数は少ない。器高が低く底径の大きい個体が主体である。SB03の82、SA03の88、SD07の102、SK01堆積土出土の117、SK07の130は10世紀前半段階の土師器坏と類似の形態である。SX03では蓋が出土している(133)。

**甕** すべて破片資料である。すべて回転ナデ成形されている。SI01の50、SB01の73～76、78～80、SD04の93～97、SD08の105、106、SK01の124を掲載した。

## (5) 陶器 (第41・42図、写真図版37～39)

**線軸陶器** 81は口縁部破片で、SB01を構成するP139検出面から出土した。10世紀前半の製作で東濃窯産である。

**中世陶器** 96は渥美窯産陶器で12世紀後半の製作である。自然釉がかかる。SD05の堆積上から出土した98は東北産で13～14世紀頃の製作と考えられる。

## (6) 土製品 (第45図、写真図版42)

**土錐** 遺構内ではSI01から151～156、SB03から157、SD04から158が出土している。

## (7) 石製品 (写真図版42)

**碁石** 2点出土した。黒石がSK01と、SB01を構成するP13から1点ずつ出土している。時期は9世紀後半～10世紀前半である。

## (8) その他 (写真図版42)

**土壁** SK01、P14・17・52・180から出土している。SK01はSB01内部空間にある。SB01が土壁をもつ建物で、その崩落に伴い混入した可能性が考えられる。

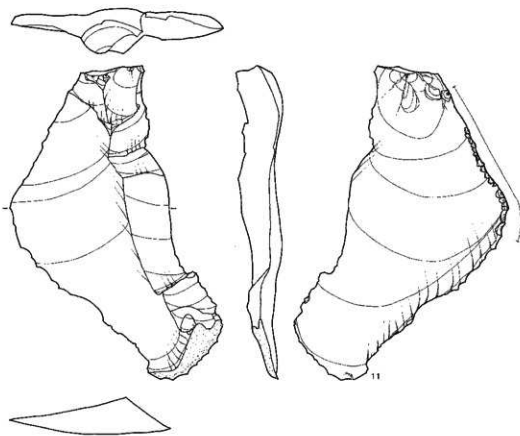
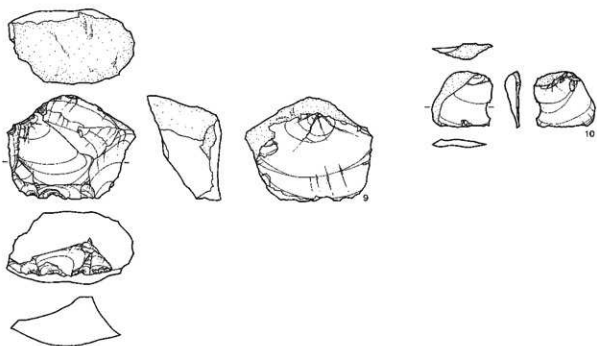
**鉄滓** 163は鍛冶滓で全面が赤褐色を呈する。



※ガジリは白抜き

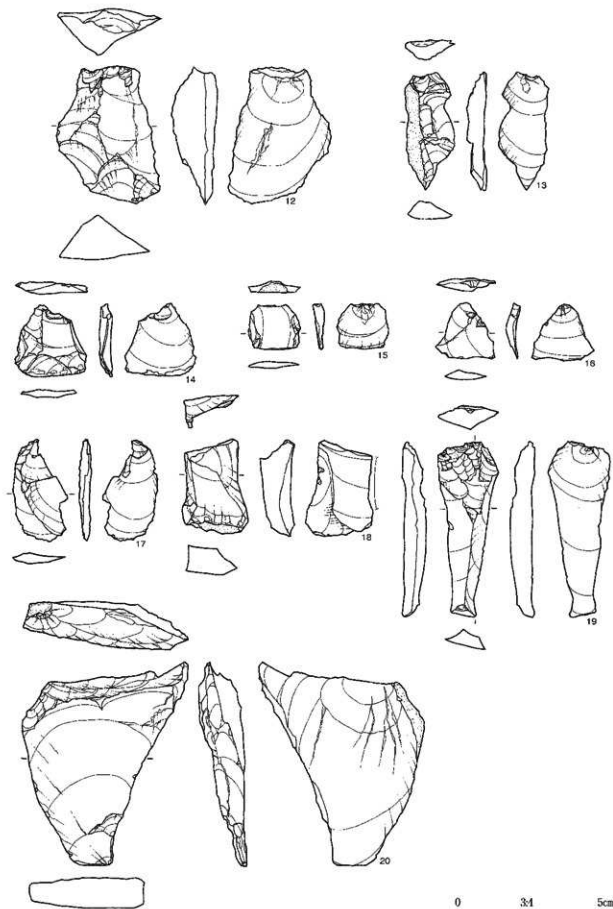
0 3.4 5cm

第32図 出土遺物(1)

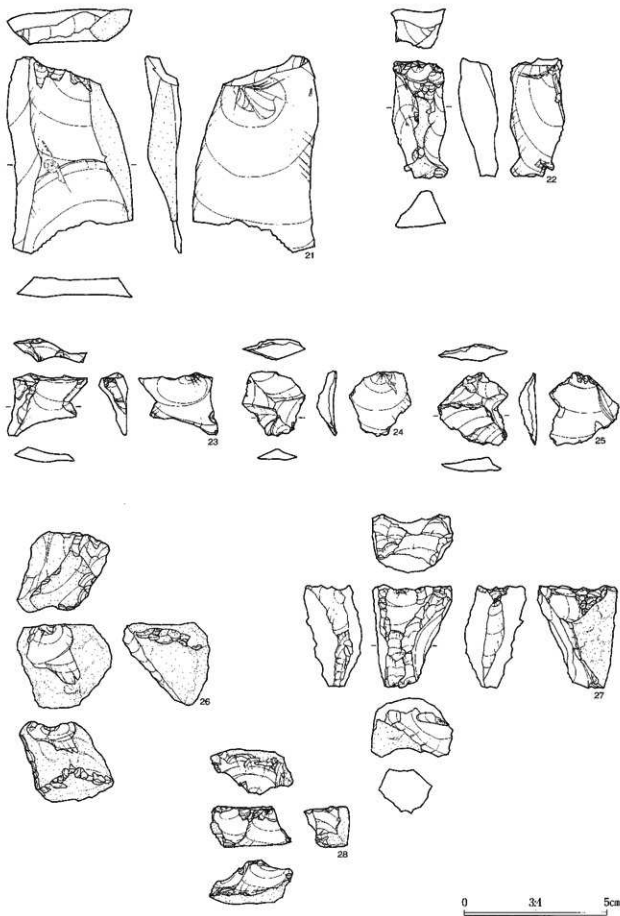


0 34 5cm

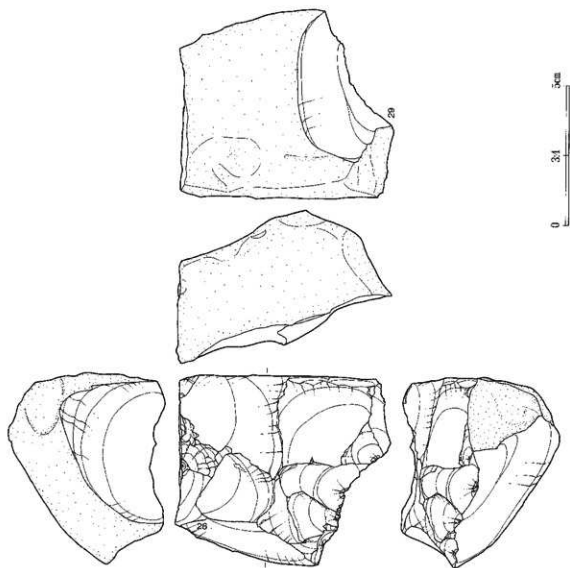
第33圖 出土遺物 (2)



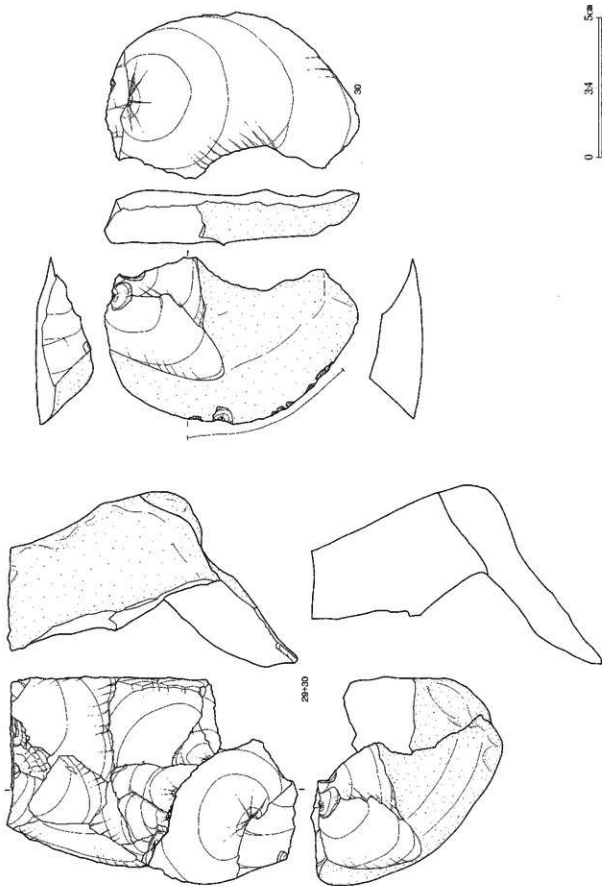
第34図 出土遺物(3)



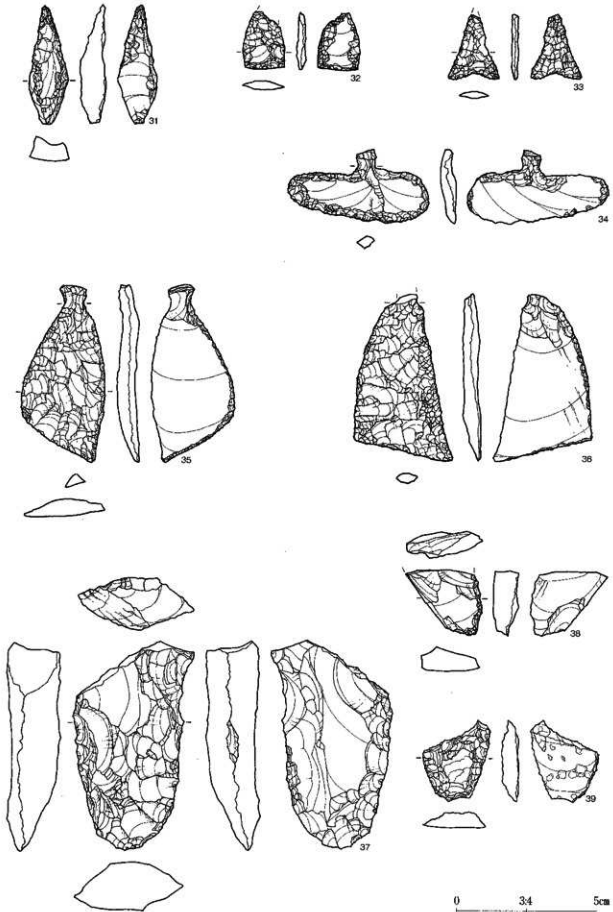
第35図 出土遺物 (4)



第36圖 出土遺物(5)

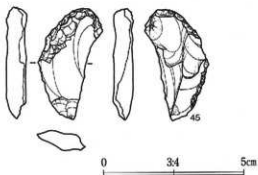
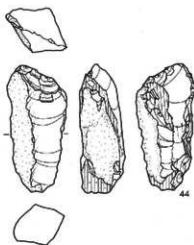
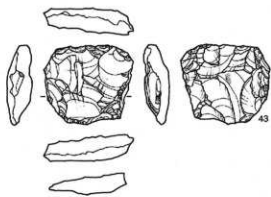
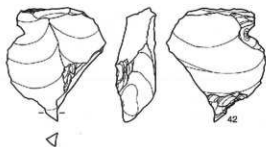
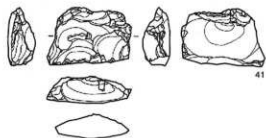
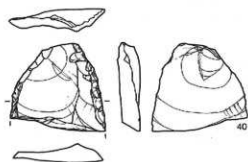


第37図 出土遺物 (6)

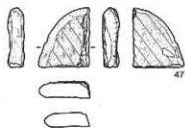
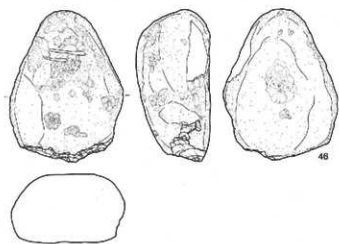


第38回 出土遺物 (7)



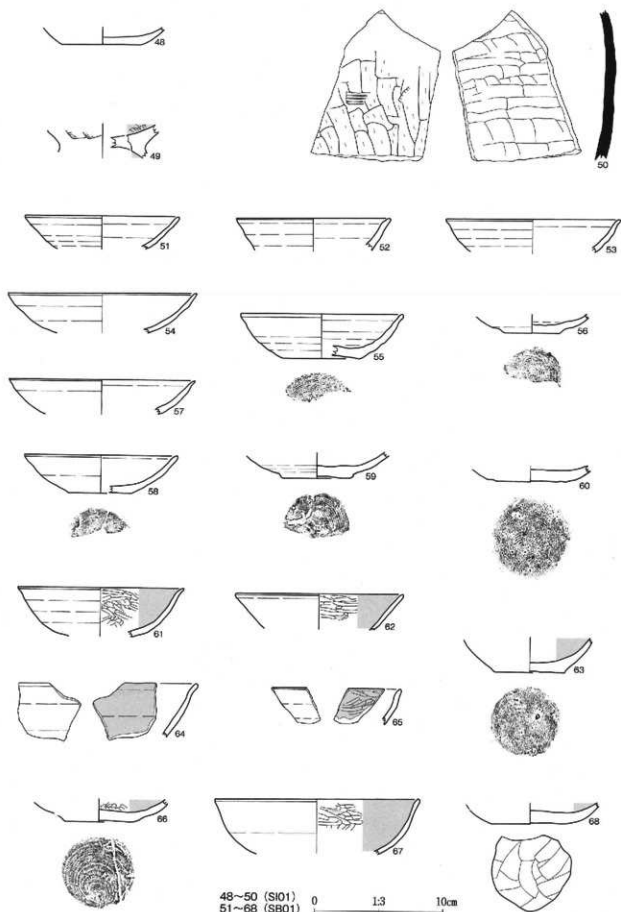


0 3.4 5cm

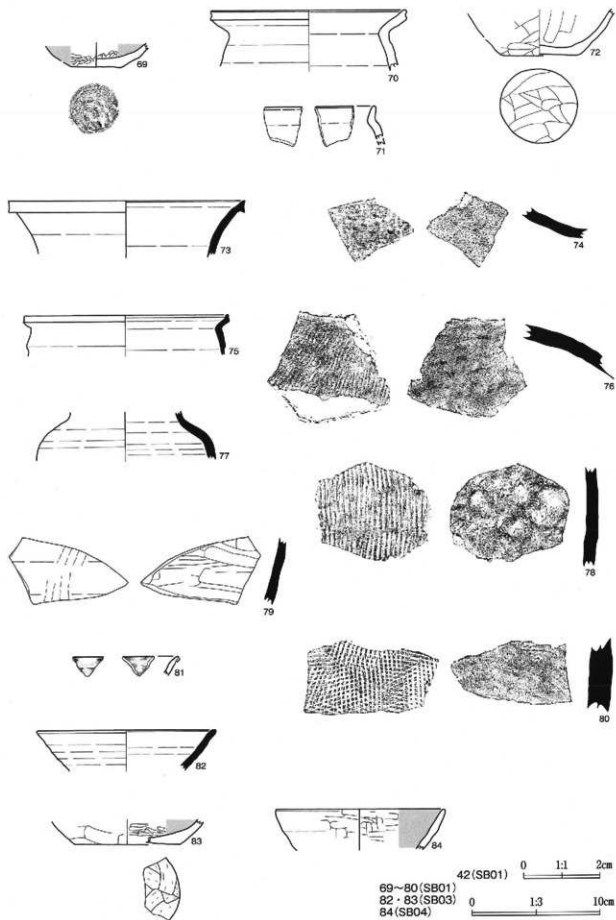


0 1.3 10cm

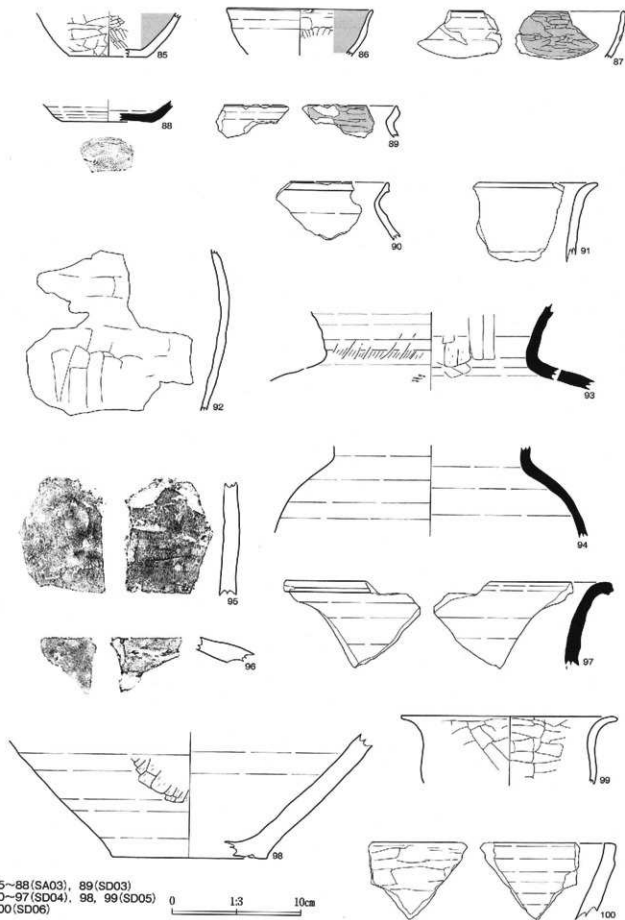
第39図 出土遺物 (B)



第40図 出土遺物 (9)

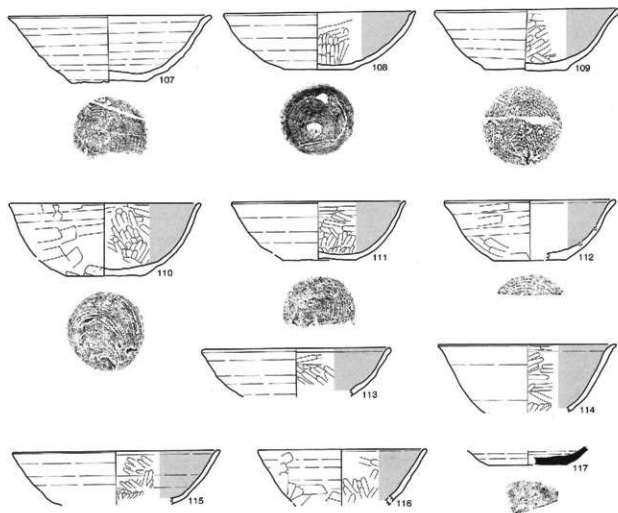
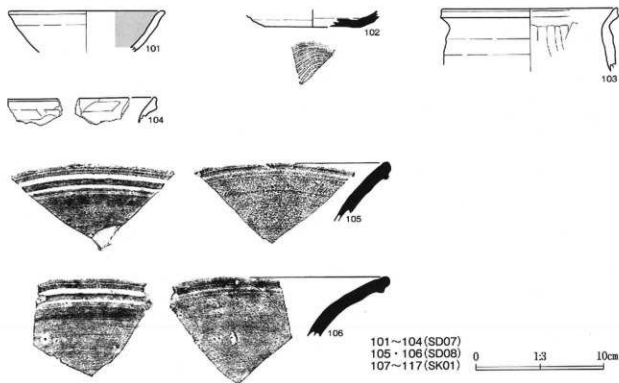


第41図 出土遺物 (10)

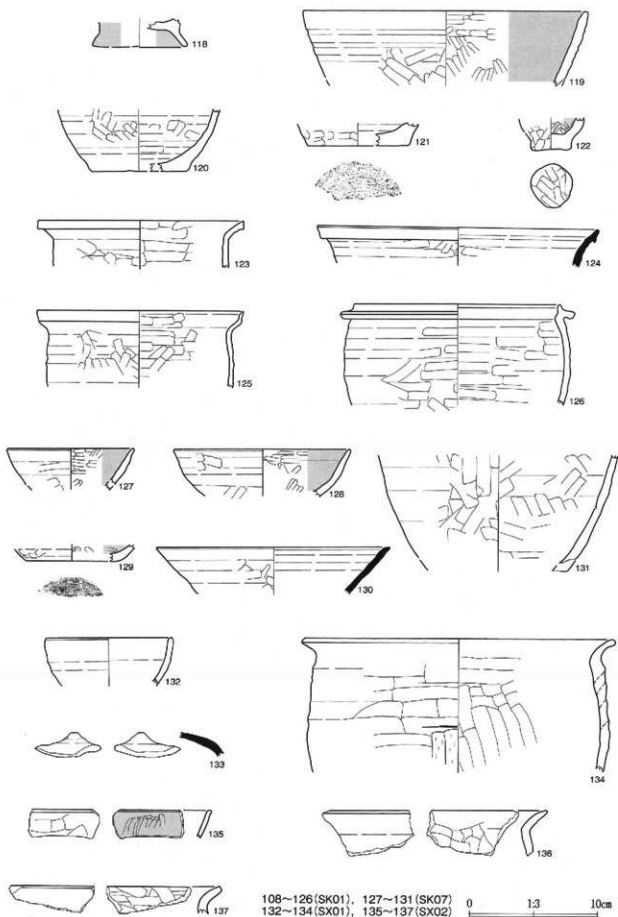


85~88(SA03), 89(SD03)  
90~97(SD04), 98, 99(SD05)  
100(SD06)

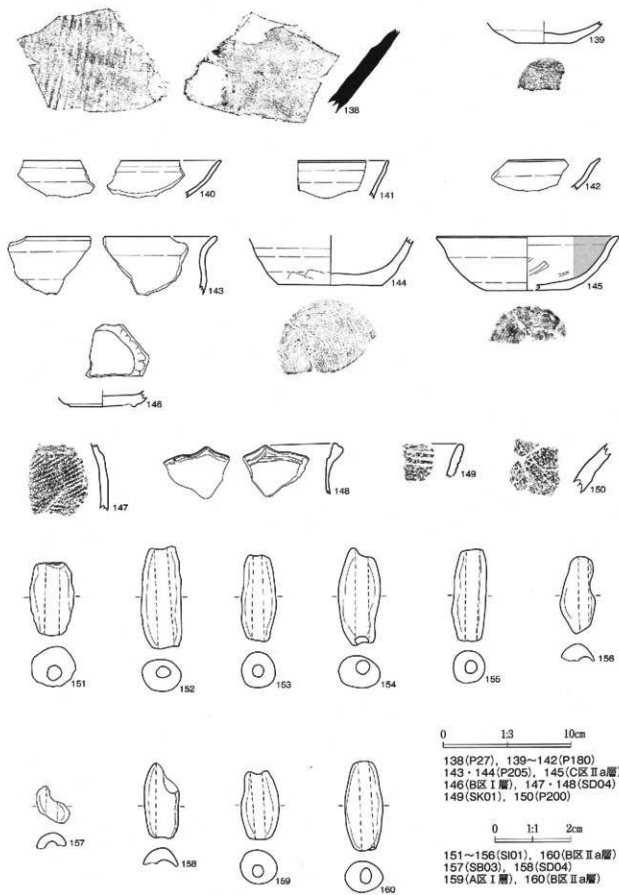
第42図 出土遺物(11)



第43図 出土遺物 (12)



第44図 出土遺物 (13)



0 1:3 10cm

138(P27), 139~142(P180)  
143・144(P205), 145(C区IIa層)  
146(B区I層), 147・148(SD04)  
149(SK01), 150(P200)

0 1:1 2cm

151~156(SI01), 160(B区IIa層)  
157(SB03), 158(SD04)  
159(A区I層), 160(B区IIa層)

第45図 出土遺物 (14)

第14群 石器類調査 (旧石器)

No	台帳%	遺物	部位	X	Y	II	器種	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	石材	顕微鏡観察	表面形状	背面形状	遺存	打痕形状	備考
1	H085	集団4	IIb	-102538.990	267469.67	32.468	台形石筴	2.10	3.50	0.90	4.6	Shh	-	H	A	-	C	
2	H004	集団4	IIb	-102540.016	267466.25	32.470	17形石筴	4.77	4.15	1.70	20.8	Shcl	-	F	A・B・C	-	B	
3	H123	集団4	III上	-102539.914	267472.83	32.442	台形石筴	1.70	2.94	0.90	2.7	Shc	○	H	A	-	D	
4	SN02	埋蔵土					台形石筴	1.90	1.70	0.49	2.1	Shc	○	F	A・B	A	B	
5	SN02	埋蔵土					台形石筴	3.55	2.85	1.06	8.9	Shb1	○	F	A・B	B		
6	H1001	集団4	IIa	-102537.704	267467.75	32.460	ナイフ形石筴	5.95	3.65	1.20	22.9	Shcl	-	-	A・C	-	-	石検から取得小
7	SN01	埋蔵土					ナイフ形石筴	7.33	3.08	1.10	24.2	Shc	○	-	A	C	B	
8	H256	集団3	III上	-102534.444	267463.19	32.596	横形石筴	2.10	1.70	0.90	3.2	Agc	-	-	A・H・C	-	B	
9	H033	集団4	IIb	-102538.632	267463.31	32.476	活器	3.70	4.35	2.60	33.9	Sha	-	O	A・B・C	-	A	
10	H014	集団4	IIb	-102539.540	267467.67	32.520	柄片	1.90	2.13	0.55	1.5	Shc	-	O	H	A	A	
11	H028	集団2	IIb	-102539.954	267447.403	32.288	細線状のふる削片	10.90	6.90	1.39	32.1	1Sha	○	F	A・B	A	B	
12	H008	集団3	IIb	-102538.968	267422.945	32.438	柄片	4.79	3.60	1.59	17.6	Taba	○	F	A・B	A	B	
13	H195a	集団1	IIa	-102527.254	267447.715	32.516	柄片	4.13	1.62	0.74	3.9	Shc	-	O	H	A・B	A	B
14	H117	集団3	IIb	-102537.046	267422.451	32.344	柄片	1.56	1.78	0.40	0.9	Shb	-	O	H	C	A	D
15	H005	集団4	IIb	-102540.046	267469.617	32.480	柄片	1.88	2.04	0.45	0.9	Agc	-	F	A	A	B	
16	H023	集団4	III	-102538.132	267477.9	32.446	柄片	3.55	1.95	0.40	1.7	Shb	-	-	F	A・C	A	E
17	H1030	集団1	IIa	-102539.360	267453.313	32.096	柄片	3.27	2.30	1.20	8.5	Shg2	○	F	A・C	D	-	
18	H282	集団4	IIb	-102538.414	267493.999	32.496	柄片	6.09	2.11	0.80	6.1	Shcl	○	F	A	A	D	
19	H002	集団4	III	-102527.680	267497.073	32.488	石片	7.15	5.75	1.70	46.8	Shn	-	O	F	B	C	
20	H1029	集団4	IIa	-102539.852	267441.125	32.448	柄片	6.90	4.32	1.25	30.1	Shb1	○	O	P	A・D	A	B
21	H1031	集団4	IIb	-102539.738	267467.497	32.518	柄片	4.15	1.90	1.35	9.2	Shg2	○	O	H	A・B	A	D
22	H281	集団4	IIb	-102538.218	267500.093	32.434	柄片	2.26	2.75	1.00	2.8	Agc	-	F	A	A	C	
23	H279	集団4	IIb	-102538.268	267505.15	32.412	柄片	2.30	2.15	0.70	1.9	Shc3	-	-	F	A・B・C	A	D
24	H1299	集団5	III上	-102539.882	267535.587	32.428	柄片	2.85	2.40	0.60	2.6	Shcl	-	-	F	A・B・C	A	D
25	H143	集団1	IIb	-102540.540	267461.131	32.304	柄片	3.40	3.25	3.05	22.7	Sha	-	O	-	-	-	台形石筴原料小
26	H095	集団5	III上	-102539.102	267535.983	32.382	石核	3.62	2.88	1.83	17.5	Sh	-	-	-	-	A	
27	SN01	埋蔵土					台核	1.42	2.85	1.60	6.1	Shb	-	O	-	-	B	
28	H405	集団1	IIb	-102531.124	267497.695	32.468	石核	7.35	6.69	5.45	280.0	Shb1	-	-	-	-	-	両面打痕ありと被合
29	SN01	埋蔵土					石核	8.72	5.98	1.98	84.1	Shb1	-	O	F	A・D	-	両と接合
30	SN01	埋蔵土					柄片	2.91	1.87	0.31	1.3	Shc	-	F	A	D	-	
H015	集団1	IIb	-102529.492	267455.533	32.528	柄片	2.54	1.90	0.53	2.4	Shb1	-	O	F	A	D	F	
H1019	集団1	IIb	-102528.162	267441.193	32.560	柄片	6.03	4.36	1.82	43.2	Shb	-	O	F	A	D	F	
H021	集団1	IIb	-102528.308	267449.061	32.532	石核												A



No	台帳No.	遺構	部位	X	Y	H	器種	長(m)	幅(cm)	厚(cm)	質量(g)	石種	用途	先行部位	備考
	B022	集1	IIb	-102551.156	26745511	32.530	削片	1.18	2.18	0.58	1.6	Shb	-	-	-
	B024	集1	IIb	-102527.406	26747573	32.594	削片	1.42	1.62	0.29	0.6	Sha	-	-	-
	B025	集1	IIb	-102529.086	26746243	32.572	削片	1.96	1.80	0.21	0.8	Shb	-	-	-
	B026	集1	IIb	-102528.102	26746205	32.528	削片	1.60	2.40	1.17	3.8	Shc	-	-	-
	B027	集1	III	-102528.978	26746165	32.528	削片	2.28	2.85	0.59	3.2	Shb1	-	-	-
	B028	集1	III	-102531.796	26748197	32.530	削片	0.84	0.91	0.25	0.1	Shb	-	-	-
	B029	集1	III上	-102528.766	26750097	32.512	削片	2.22	1.58	0.82	2.6	Shb	-	-	-
	B030	集1	III上	-102528.766	26750097	32.512	削片	1.65	1.38	0.30	0.6	Shb	-	-	-
	B031	集1	III上	-102528.766	26750097	32.512	削片	1.04	0.81	0.13	0.1	Shb	-	-	-
	B032	集1	III上	-102528.766	26750097	32.512	削片	0.47	0.38	0.06	0.1	Shc2	-	-	-
	B033	集1	III上	-102528.382	26748249	32.438	削片	0.65	0.42	0.10	0.1	Shb	-	-	-
	B034	集1	III上	-102528.718	26748281	32.502	削片	0.65	0.42	0.10	0.1	Shc	-	-	-
	B035	集1	III	-102529.726	26746215	32.438	削片	0.61	0.84	0.16	0.1	Shc	-	-	-
	B036	集1	III	-102525.132	26746407	32.486	削片	0.53	0.40	0.09	0.1	Shb	-	-	-
	B037	集1	III	-102526.632	26746399	32.480	削片	0.54	0.30	0.01	0.1	Shc	-	-	-
	B038	集1	III	-102525.610	26745275	32.476	打痕	0.73	1.70	0.17	0.2	Sha	-	-	-
	B039	集1	III	-102526.510	26745275	32.476	打痕	2.02	1.31	0.30	0.8	Agc	-	-	-
	B040	集1	III	-102526.510	26745275	32.476	打痕	0.48	0.30	0.01	0.1	Ag	-	-	-
	B041	集1	III	-102526.156	26745611	32.474	削片	0.81	0.43	0.36	0.2	Agb	-	-	-
	B042	集1	III	-102526.546	26745841	32.512	削片	0.58	0.96	0.31	0.1	Shb	-	-	-
	B043	集1	III	-102526.546	26745841	32.512	削片	1.10	0.43	0.12	0.1	Shb	-	-	-
	B044	集1	III	-102526.664	26745667	32.504	削片	0.50	0.56	0.12	0.1	Sha	-	-	-
	B045	集1	III	-102528.782	26745953	32.516	削片	0.17	0.10	0.01	0.1	Sh	-	-	-
	B046	集1	III	-102528.982	26745685	32.502	削片	0.98	1.01	0.19	0.2	Shc	-	-	-
	B047	集1	III	-102527.742	26746217	32.542	削片	0.56	0.38	0.12	0.1	Shb	-	-	-
	B048	集1	III	-102527.540	26746049	32.562	削片	1.35	1.30	0.28	0.3	Shb	-	-	-
	B049	集1	III	-102527.594	26746027	32.560	削片	0.81	0.87	0.11	0.1	Shc	-	-	-
	B050	集1	III	-102527.430	26745885	32.548	削片	0.50	0.49	0.90	0.1	Sh	-	-	-
	B051	集1	III	-102527.766	26745647	32.536	削片	1.33	1.41	0.18	0.4	Shb	-	-	-
	B052	集1	III	-102527.640	26745267	32.528	削片	0.70	1.12	0.13	0.1	Sha	-	-	-
	B053	集1	III	-102527.218	26745185	32.494	削片	2.31	1.91	0.28	0.7	Shc	-	-	-
	B054	集1	III	-102528.636	26745427	32.526	削片	0.17	0.16	0.01	0.1	Shc	-	-	-
	B055	集1	III	-102528.562	26744639	32.966	削片	0.72	0.51	0.11	0.1	Shc	-	-	-
	B056	集1	III	-102528.726	26744396	32.884	削片	1.45	1.25	0.35	0.4	Shb	-	-	-
	B057	集1	III	-102528.718	26744231	32.500	削片	2.43	1.61	0.41	0.9	Shc	-	-	-

№	台帳No.	透視	層位	X	Y	H	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	表面調整	断面	先端形状	背面構成	選択	打面部位	備考		
	B178	集平1	Ⅱa	-102525.954	26744.111	32.462	砕片	0.46	0.28	0.03	0.1	Shc	-	-	-	-	-	-	-		
	B179	集平1	Ⅱa	-102526.046	26744.105	32.500	砕片	0.61	0.54	0.11	0.1	Shc2	-	-	-	-	-	-	-		
	B191	集平1	Ⅱa	-102527.336	26744.411	32.500	砕片	1.47	1.21	0.23	0.3	Shc	○	-	F	A・B	A	C	-		
	B205	集平1	Ⅱa	-102527.938	26744.133	32.486	砕片	1.67	1.12	0.29	0.3	Shc2	-	○	F	A	A	A	-		
	B206	集平1	Ⅱa	-102530.632	26743.987	32.528	砕片	0.74	0.68	0.11	0.1	Shc	-	-	F	A	A	A	R		
	B212	集平1	Ⅱa	-102530.374	26747.509	32.556	砕片	0.86	0.66	0.16	0.1	Shc	-	-	F	C	F	-	-		
	B214	集平1	Ⅱa	-102530.790	26747.167	32.518	砕片	1.76	1.32	0.33	0.7	Shc	-	-	F	A・C	B	B	-		
	B215	集平1	Ⅱa	-102530.524	26747.079	32.540	砕片	1.11	0.53	0.34	0.2	Shc	-	-	O	B	A	A	D		
	B219	集平1	Ⅱa	-102530.301	26746.229	32.534	砕片	0.94	0.73	0.17	0.1	Shc	-	-	-	-	A	F	-		
	B220	集平1	Ⅱa	-102530.469	26746.291	32.532	砕片	0.96	0.42	0.17	0.1	Sh	-	-	H	A	A	F	-		
	B222	集平1	Ⅱa	-102531.054	26716.329	32.502	砕片	1.53	1.27	0.51	0.6	Sh	-	○	F	A・D	R	D	-		
	B223	集平1	Ⅱa	-102529.766	26746.433	32.508	砕片	1.06	0.81	0.22	0.1	Shc	-	-	F	A・C	F	-	-		
	B225	集平1	Ⅱa	-102529.850	26745.137	32.534	砕片	1.31	1.44	0.48	0.5	Shc	-	-	○	F	C	A	A		
	B227	集平1	Ⅱb	-102530.844	26744.789	32.474	砕片	1.11	0.87	0.17	0.1	Shc	-	-	-	-	A	C	A	B	
	B268	集平1	Ⅱa	-102529.382	26713.935	32.458	砕片	2.92	1.87	0.34	2.3	Sh	-	-	○	F	A・D	D	-	-	
	B285	集平1	Ⅱa	-102532.102	26719.323	32.451	砕片	0.91	1.26	0.47	0.3	Shc	-	-	-	-	A	D	-	-	
	B322	集平1	Ⅱb	-102529.196	26714.429	32.478	砕片	0.56	0.26	0.09	0.1	Shb	-	-	-	-	A	D	-	-	
	B323	集平1	Ⅱb	-102529.304	26714.777	32.196	砕片	0.93	0.85	0.53	0.2	Shc	-	-	-	-	C	A	A	C	
	B325	集平1	Ⅱb	-102527.570	26746.087	32.502	砕片	0.38	0.70	0.14	0.1	Shc	○	-	F	A	A	A	A	-	
	B326	集平1	Ⅱb	-102527.701	26745.777	32.518	砕片	1.31	0.69	0.33	0.2	Shb	-	-	-	-	F	A	A	E	
	B327	集平1	Ⅱb	-102527.758	26745.677	32.532	砕片	1.03	0.49	0.11	0.1	Shc	-	-	F	A・C	A	A	R	-	
	B328	集平1	Ⅱb	-102527.234	26745.409	32.500	砕片	0.63	0.50	0.14	0.1	Shc	-	-	-	-	-	F	-	-	
	B329	集平1	Ⅱb	-102526.938	26746.475	32.470	砕片	1.89	0.32	0.19	0.1	Shc	-	-	-	-	A	F	-	-	
	B330	集平1	Ⅱb	-102526.900	26745.657	32.446	砕片	0.49	0.28	0.20	0.1	Shc	-	-	-	-	-	F	-	-	
	B331	集平1	Ⅱb	-102526.758	26716.587	32.432	砕片	1.40	0.18	0.70	0.1	Sh	-	-	-	-	-	-	-	-	
	B346	集平1	Ⅱb	-102526.976	26744.147	32.474	砕片	1.47	1.10	0.40	0.5	Shc	-	-	-	-	-	-	-	-	
	B347a	集平1	Ⅱb	-102526.172	26743.917	32.460	砕片	0.66	0.55	0.80	0.1	Shc	-	-	F	A・B	A	A	C	-	
	B347b	集平1	Ⅱb	-102526.172	26743.917	32.460	砕片	0.50	0.46	0.60	0.1	Shc	-	-	-	-	A	F	-	-	
	B349a	集平1	Ⅱb	-102526.814	26743.845	32.502	砕片	1.21	1.18	0.16	0.2	Shc	-	-	○	H	A・D	A	A	A	
	B349b	集平1	Ⅱb	-102526.814	26743.845	32.502	砕片	1.10	1.05	0.55	0.4	Shb	-	-	-	-	F	A	A	E	
	B350	集平1	Ⅱb	-102526.836	26743.615	32.512	砕片	1.22	0.78	0.21	0.1	Shc	-	-	○	F	D	P	-	-	
	B352	集平1	Ⅱb	-102526.586	26743.025	32.451	砕片	1.64	1.15	0.16	0.2	Shc	-	-	-	-	F	C	E	E	
	B353	集平1	Ⅱb	-102526.874	26743.729	32.510	砕片	1.41	0.74	0.10	0.1	Shb	-	-	-	-	F	A	A	E	-
	B354	集平1	Ⅱb	-102527.046	26743.807	32.486	砕片	1.37	0.98	0.24	0.2	Shb	-	-	○	F	A・C	B	E	-	

No.	台帳No.	遺構	階位	X	Y	H	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	原産地	器面	丸型形状	器面構成	遺存	打痕状況	備考
H1355	集41	IIb	-102527.094	26743.839	32.482	碎片	0.54	0.51	0.11	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	A	B	
H1356	集41	IIb	-102527.218	26743.905	32.482	碎片	0.64	0.51	0.07	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	A	E	
H1357	集41	IIb	-102527.218	26743.763	32.472	碎片	0.80	0.55	0.12	0.2	0.2	Shc	-	-	F	A	C	E	
H1358a	集41	IIb	-102527.196	26743.065	32.502	碎片	1.76	0.79	0.37	0.3	0.3	Shc	-	O	F	A·D	D	-	
H1358b	集41	IIb	-102527.196	26743.065	32.502	碎片	1.26	0.71	0.20	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	A	D	
H1360	集41	IIb	-102527.308	26743.661	32.474	碎片	1.75	2.10	0.48	1.3	0.6	Shb	O	O	F	A·C·D	B	B	
H1361	集41	IIb	-102527.602	26743.867	32.476	碎片	2.11	1.45	0.60	1.0	0.4	Sha	-	O	F	C	D	A	
H1362	集41	IIb	-102527.774	26743.987	32.470	碎片	1.36	1.65	0.23	0.4	0.4	Sha	-	-	F	A	A	B	
H1363	集41	IIb	-102527.968	26743.985	32.464	碎片	1.07	0.75	0.15	0.1	0.1	Shb	-	-	F	A	E	D	
H1365	集41	IIb	-102528.238	26743.835	32.482	碎片	0.58	0.40	0.23	0.1	0.1	Shc	-	-	-	-	F	-	
H1366	集41	IIb	-102528.164	26744.075	32.481	碎片	0.68	1.34	0.35	0.2	0.2	Shc	-	-	F	A	A	E	
H1367	集41	IIb	-102528.156	26744.301	32.474	碎片	0.72	1.30	0.22	0.2	0.2	Shc	-	O	F	D	B	D	
H1368	集41	IIb	-102528.110	26744.469	32.474	碎片	0.61	0.82	0.16	0.1	0.1	Agc	-	-	F	C	A	C	
H1371	集41	III	-102527.156	26743.173	32.468	碎片	1.13	1.06	0.18	0.2	0.2	Shb	-	-	F	A	A	C	
H1372	集41	IIb	-102527.750	26745.321	32.508	碎片	1.23	1.37	0.46	0.6	0.6	Shc	-	O	F	C·D	D	-	
H1373	集41	III上	-102528.016	26745.031	32.446	碎片	0.46	0.37	0.09	0.1	0.1	Shc	-	-	-	-	F	E	
H1374	集41	III上	-102527.546	26744.673	32.458	碎片	0.71	0.37	0.07	0.1	0.1	Agc	-	-	F	A	F	-	
H1375	集41	III上	-102527.664	26744.541	32.465	碎片	1.14	1.50	0.56	0.5	0.5	Agc	-	O	F	C·D	E	-	断面小化
H1376	集41	IIb	-102527.578	26744.323	32.452	碎片	2.02	1.35	0.37	0.9	0.4	Sha	-	-	-	-	A	F	-
H1378	集41	III上	-102527.500	26743.147	32.458	碎片	0.93	0.71	0.24	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	A	B	
H1379	集41	III上	-102527.868	26742.951	32.438	碎片	0.86	0.79	0.25	0.1	0.1	Shc	-	O	-	-	A	F	A
H1380	集41	III上	-102528.234	26743.111	32.450	碎片	0.61	0.36	0.12	0.1	0.1	Shc	-	-	-	-	F	-	
H1382	集41	III	-102528.570	26743.223	32.438	碎片	0.86	0.39	0.24	0.1	0.1	Shc	-	-	-	A·B	A	E	
H1383	集41	III	-102528.070	26742.891	32.436	碎片	1.05	1.72	0.30	0.5	0.5	Shb	-	O	C	F	A	-	
H1384	集41	III上	-102528.238	26743.519	32.448	碎片	0.43	0.67	0.14	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	F	-	
H1385	集41	III上	-102528.386	26743.413	32.448	碎片	0.77	0.52	0.10	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	A	E	
H1386	集41	III上	-102526.546	26743.324	32.438	碎片	0.79	0.43	0.14	0.1	0.1	Shb	-	-	-	A	F	-	
H1387	集41	III上	-102526.506	26743.651	32.452	碎片	1.08	1.14	0.37	0.7	0.7	Shb	-	O	O	A	E	E	
H1400a	集41	IIb	-102530.118	26749.979	32.500	碎片	2.05	1.97	0.49	1.5	0.6	Shb	-	O	H	D	R	-	
H4401	集41	IIb	-102530.234	26750.121	32.486	碎片	1.12	1.31	0.22	0.4	0.4	Shb	-	O	F	A·C·D	A	D	
H1405	集41	IIb	-102531.414	26748.679	32.518	碎片	0.87	0.56	0.12	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	E	-	
H1425	集41	IIb	-102529.398	26751.107	32.476	碎片	0.71	1.00	0.16	0.2	0.2	Shc	-	O	H	A	A	A	
H1426	集41	III	-102530.274	26746.867	32.448	碎片	0.48	1.20	0.20	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	D	-	
H1427	集41	IIb	-102527.180	26746.749	32.450	碎片	0.86	1.24	0.14	0.1	0.1	Shc	-	-	F	A	A	E	

No.	石版No	透視	単位	X	Y	日	数量	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	加工部	表面	先端部	背面	穿孔部	透視	打削状況	備考	
11428	集甲1	■上	■上	-102577.616	26744.353	32.422	碎片	0.43	0.66	0.12	0.1	Sbb	-	-	-	-	A	E	D	-	
11429	集甲1	■上	■上	-102577.598	26743.547	32.404	碎片	0.30	0.23	0.10	0.1	Sbc	-	○	-	-	D	F	A	-	
11430	集甲1	■上	■上	-102577.282	26743.321	32.414	碎片	0.82	0.90	0.24	0.1	Sbc	-	-	F	-	A	A	B	-	
11430b	集甲1	■上	■上	-102577.282	26743.321	32.414	碎片	0.55	0.65	0.13	0.1	Sbc	-	-	-	-	A	E	C	-	
11431	集甲1	■上	■上	-102577.968	26743.727	32.411	碎片	0.41	0.32	0.07	0.1	Sbc	-	-	F	-	A	A	D	-	
11432	集甲1	■上	■上	-102577.962	26744.171	32.421	碎片	0.45	0.41	0.08	0.1	Sbc	-	-	F	-	A	A	E	-	
11433	集甲1	■上	■上	-102526.266	26744.255	32.422	碎片	1.67	1.36	0.27	1.4	Sbr	-	-	F	A・B	C	-	-	-	
11435	集甲1	■上	■上	-102531.812	26748.123	32.472	碎片	0.28	0.67	0.12	0.1	Sbc	-	-	H	-	A	-	-	-	
11445	集甲1	■上	■上	-102526.554	26743.467	32.430	碎片	0.21	0.14	0.01	0.1	Sbc	-	-	-	-	A	-	-	-	
11446	集甲1	■上	■上	-102526.398	26745.107	32.428	碎片	0.50	0.79	0.19	0.1	Sbc	-	-	H	-	A	C	-	-	
11447	集甲1	■上	■上	-102526.758	26742.967	32.416	碎片	0.95	0.40	0.01	0.1	Sbc	-	-	F	-	-	-	-	-	
11448	集甲1	■上	■上	-102527.054	26745.713	32.372	碎片	0.88	0.71	0.30	0.1	Sbb	-	-	F	-	-	E	-	-	
11412	集甲2	■b	■b	-102531.484	26743.025	32.442	碎片	2.21	1.32	0.48	1.1	Sbg2	-	-	F	-	A	E	-	-	
11241	集甲2	■b	■b	-102532.282	26743.421	32.502	碎片	0.79	0.41	0.05	0.1	Sbc3	-	-	-	-	A	P	-	-	
11242	集甲2	■a	■a	-102532.430	26743.413	32.512	碎片	0.75	0.56	0.14	0.1	Sbc3	-	-	F	-	A	E	B	-	
11243	集甲2	■a	■a	-102533.374	26743.485	32.508	碎片	0.95	1.32	0.18	0.2	Sbb1	○	-	-	-	A	E	E	-	
11217	集甲2	■b	■b	-102533.164	26743.417	32.416	碎片	1.19	0.59	0.29	0.2	Sbc	-	-	F	-	A	E	E	-	
11319	集甲2	■b	■b	-102532.312	26743.389	32.472	碎片	0.65	0.53	0.11	0.1	Sbc2	-	-	-	-	A	F	E	-	
11320	集甲2	■b	■b	-102530.984	26742.523	32.430	碎片	1.22	1.48	0.32	0.6	Sbc2	-	○	H	-	A	A	A	-	
11321	集甲2	■b	■b	-102530.812	26742.211	32.410	碎片	1.44	1.20	0.19	0.2	Sbg2	-	-	-	-	A	D	B	-	
11010	集甲3	■b	■b	-102532.710	26740.949	32.532	碎片	2.00	1.54	0.40	0.9	Sbb	-	-	-	-	A・C	E	-	-	
F001a	集甲3	■b	■b	-102533.734	26740.891	32.530	碎片	1.48	1.21	0.32	0.1	Sbc	-	-	-	-	C	D	-	-	
F001b	集甲3	■b	■b	-102533.734	26740.891	32.530	碎片	1.31	1.21	0.13	0.3	Sbc	-	-	-	O	A	A	D	-	
F001c	集甲3	■b	■b	-102533.734	26740.891	32.530	碎片	1.62	0.76	0.50	0.6	Sbc	-	-	-	-	A	F	D	-	
F001d	集甲3	■b	■b	-102533.734	26740.891	32.530	碎片	1.33	0.51	0.48	0.2	Sbc	-	-	○	F	A・D	A	E	-	
F001e	集甲3	■b	■b	-102533.734	26740.891	32.530	碎片	0.82	1.49	0.18	0.3	Sbc	-	-	○	H	D	E	-	-	
F001f	集甲3	■b	■b	-102533.734	26740.891	32.530	碎片	0.93	0.77	0.13	0.1	Sbc2	-	-	-	-	P	A	F	-	
F009	集甲3	■a	■a	-102536.054	26742.963	32.474	碎片	0.83	2.44	0.49	1.3	Sbf	-	-	○	-	C	E	A	-	
F010	集甲3	■a	■a	-102536.132	26742.407	32.461	碎片	1.50	1.45	0.28	0.4	Sbb	-	-	○	F	B	B	-	-	
F010	集甲3	■a	■a	-102536.330	26741.736	32.462	碎片	0.38	0.21	0.04	0.1	Sbr	-	-	-	-	-	F	-	-	-
F0102	集甲3	■a	■a	-102536.164	26741.701	32.458	碎片	1.00	0.88	0.23	0.2	Sbc1	-	-	-	-	F	A	A	D	-
F0103	集甲3	■a	■a	-102536.704	26741.689	32.459	碎片	1.03	0.75	0.17	0.1	Sbc2	-	-	-	-	F	A	B	H	-
F104	集甲3	■a	■a	-102536.532	26741.575	32.452	碎片	0.77	0.34	0.10	0.1	Sbc2	-	-	-	-	A	P	B	-	-
F105	集甲3	■a	■a	-102536.054	26741.547	32.441	碎片	0.64	0.54	0.14	0.1	Sbf	-	-	-	-	A	A	B	-	-

発 掘 地 名	全 体 形 態	遺 物 種 別	X	Y	H	副 機	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 量 (g)	石 材 原 産 地 別	彫 刻 形 状	有 意 情 感	注 記 等	類 号
H106	集+3	III	-102536078	26711053	32.422	砂片	0.88	0.72	0.18	0.2	db	-	A	A	C
H107	集+3	III	-102536168	26739613	32.350	砂片	0.78	0.90	0.09	0.1	Sha	-	A	P	E
H108	集+3	III	-10253750	26740207	32.338	砂片	0.84	0.60	0.15	0.3	Sbb	-	H	A	E
H111	集+3	IV	-102537968	26738375	32.308	砂片	1.13	0.80	0.32	0.3	Sac2	-	F	B	E
H112	集+3	IV	-102538460	26738309	32.322	砂片	0.49	0.77	0.13	0.1	Sbb	-	A	A	F
H1245	集+3	IIa	-102534632	26742559	32.494	砂片	0.74	0.61	0.07	0.1	Sbb	-	C	F	D
H1246	集+3	III上	-102534890	26742613	32.424	砂片	0.62	0.30	0.13	0.1	Sac2	-	B	P	-
H1247	集+3	IIa	-102534774	26742417	32.440	砂片	0.99	0.55	0.12	0.1	Sbb	-	F	A	D
H1248	集+3	IIa	-102534570	26742307	32.458	砂片	0.69	0.57	0.08	0.1	Sag	-	F	A	A
H1249	集+3	IIa	-102534812	26742123	32.414	砂片	0.56	0.27	0.09	0.1	Sbb1	-	F	C	P
H1251	集+3	III上	-102535250	26742009	32.436	砂片	1.01	0.82	0.23	0.1	TSha	-	-	F	-
H1252	集+3	III上	-102534172	26741813	32.494	後部磨滅の欠片	0.76	0.70	0.18	0.1	Sac2	-	-	A	F
H1253	集+3	III上	-102534218	26711633	32.466	砂片	1.27	1.62	0.27	0.7	Sbc	-	-	B	E
H1254a	集+3	IIa	-102534416	26710567	32.440	砂片	1.29	1.98	0.48	0.8	TSha	○	H	A	C
H1254b	集+3	IIa	-102534446	26740567	32.440	砂片	2.04	1.92	0.51	1.3	Sbb	-	P	A	A
H1254c	集+3	IIa	-102534446	26740567	32.440	砂片	1.46	1.57	0.30	0.7	Sbb	-	F	A	A
H1257	集+3	III上	-102534218	26739387	32.404	砂片	1.33	0.83	0.47	0.5	Sbb	○	P	A	A
H1258	集+3	IIb	-102534122	26740675	32.424	砂片	2.18	2.13	0.48	1.3	Sbb	-	P	A	B
H1259	集+3	IIb	-102534922	26740675	32.424	砂片	0.84	0.94	0.13	0.1	Agc	○	H	A	D
H1260	集+3	IIa	-102535172	26740773	32.430	砂片	0.82	0.50	0.21	0.1	Sac2	-	H	A	F
H1261	集+3	III上	-102535382	26740828	32.424	砂片	1.28	0.97	0.20	0.3	Sbb	-	-	A	C
H1262	集+3	III上	-102535312	26740483	32.380	砂片	0.80	0.84	0.16	0.2	Sac2	-	O	H	D
H1263	集+3	III上	-102535060	26740168	32.360	砂片	0.59	0.39	0.09	0.1	Agb	-	-	A	F
H1264	集+3	III上	-102535218	26739393	32.362	砂片	0.77	0.46	0.32	0.1	Sbb	-	-	A	F
H1265	集+3	III上	-102535484	26741229	32.392	砂片	0.94	1.27	0.11	0.1	Sbc	-	O	H	A
H1266	集+3	III上	-102535976	26740357	32.390	砂片	0.63	0.50	0.03	0.1	Sac2	-	-	A	F
H1267	集+3	IIa	-102535118	26711667	32.394	砂片	0.85	0.62	0.38	0.3	Sbb	-	O	-	C
H1268	集+3	IIa	-102534750	26741703	32.456	砂片	0.96	0.91	0.29	0.2	Sbb	-	F	A	A
H1269	集+3	IIa	-102534860	26711666	32.408	砂片	1.49	1.38	0.36	0.4	Sbb	-	O	F	B
H1270	集+3	IIa	-102534704	26711571	32.432	砂片	1.16	1.10	0.12	0.1	Sbb	-	-	F	A
H1271	集+3	IIa	-102534976	26711569	32.428	砂片	0.93	2.27	0.61	0.8	Sbc	-	O	P	C
H1272	集+3	IIa	-102534742	26741421	32.472	砂片	1.27	0.88	0.15	0.1	Sbc	-	-	A	F
H1273	集+3	IIa	-102534914	26741361	32.434	砂片	1.60	1.98	0.69	2.2	Sbb	○	F	C	
H1274	集+3	IIa	-102533938	26711461	32.460	砂片	0.55	0.34	0.03	0.1	Sbb	-	-	-	F

竹影石器資料小

先陶文化

先陶文化

No.	台架No.	高程	测位	X	Y	Z	测深	长(m)	幅(m)	厚(cm)	重量(g)	石衬	原形测位	测面	光面测法	测面构成	测序	打面形状	备注
	B313	集#3	上	-102533.826	26739.917	32.328	砂片	1.45	1.01	0.34	0.4	Agn	-	O	H	A·D	A	C	
	B410	集#3	上	-102533.828	26740.671	32.328	砂片	1.17	0.93	0.28	0.3	Sbc2	-	-	-	A	B	E	
	B412	集#3	上	-102534.874	26741.875	32.351	砂片	0.71	0.49	0.10	0.1	Stc	-	-	-	A	F	D	
	B413	集#3	上	-102536.132	26742.629	32.472	砂片	0.85	1.48	0.27	0.3	Sbb	-	-	-	A	K	B	
	B414	集#3	上	-102536.304	26742.117	32.405	砂片	1.58	0.69	0.22	0.3	Sbb	-	-	-	A	A	E	
	B416	集#3	上	-102536.438	26741.609	32.386	砂片	1.05	0.65	0.17	0.2	Stc	-	-	-	A	F	-	
	B418	集#3	上	-102537.078	26742.340	32.376	砂片	1.39	0.43	0.31	0.3	Sbb	-	O	-	A·D	F	-	
	B420	集#3	上	-102536.564	26739.701	32.386	砂片	1.98	1.94	0.58	1.7	Agn	-	O	F	C	E	B	
	B441	集#3	上	-102534.930	26740.317	32.304	砂片	1.10	0.72	0.25	0.2	Sbc	-	O	F	C	A	E	
	B303	集#4	上	-102537.640	26749.717	32.483	砂片	1.70	1.90	0.49	1.1	Stcl	-	-	-	A	C	B	
	B006	集#4	上	-102541.726	26733.795	32.436	砂片	3.51	0.61	0.49	2.0	Sbc2	-	O	F	A·B·C·D	A	C	
	B007	集#4	上	-102541.640	26733.740	32.434	砂片	2.95	2.36	0.37	1.6	Stc	-	-	-	A	D	-	
	B032	集#4	上	-102539.218	26746.273	32.516	砂片	1.43	1.49	0.13	0.3	Sbc	-	-	-	H	C	A	D
	B077	集#4	上	-102537.078	26733.133	32.474	砂片	2.34	1.59	0.56	1.1	Sbb	-	-	-	F	A·C	B	B
	B079	集#4	上	-102538.688	26732.905	32.474	砂片	1.09	0.60	0.30	0.1	Stf	-	-	-	A	F	-	
	B080	集#4	上	-102539.296	26733.281	32.510	砂片	0.81	1.00	0.14	0.1	Sbb	-	-	-	A	F	-	
	B081	集#4	上	-102539.196	26733.639	32.510	砂片	1.12	1.25	0.27	0.2	Sba	-	-	-	F	A	C	B
	B082	集#4	上	-102539.758	26754.367	32.514	砂片	0.69	0.48	0.07	0.1	Sha	-	-	-	F	A	R	-
	B083	集#4	上	-102539.844	26752.347	32.502	砂片	1.05	1.32	0.08	0.1	Stc	-	-	-	F	A	R	-
	B284	集#4	上	-102540.624	26752.413	32.498	砂片	1.32	1.71	0.27	0.2	Sbc2	-	O	F	A·B·D	A	B	
	B085	集#4	上	-102540.086	26733.857	32.462	砂片	1.60	0.97	0.21	0.3	Sba	-	O	F	D	A	A	
	B086	集#4	上	-102542.110	26754.461	32.394	砂片	0.64	0.10	0.11	0.1	Stg	-	-	-	F	A	E	-
	B087	集#4	上	-102543.118	26753.429	32.340	砂片	0.65	1.36	0.18	0.2	Sbc3	-	-	-	F	A	E	-
	B088	集#4	上	-102542.094	26752.461	32.483	砂片	0.66	0.84	0.15	0.1	Stb	-	-	-	-	A	F	C
	B098	集#4	上	-102538.790	26743.527	32.330	砂片	1.35	2.44	0.20	0.7	Sbb	-	-	-	F	A	E	-
	B113	集#4	上	-102537.914	26744.683	32.430	砂片	1.11	0.99	0.30	0.2	Sbc	-	O	F	A·D	A	A	
	B114	集#4	上	-102537.250	26745.188	32.44	砂片	1.31	0.62	0.18	0.2	Sbc	-	-	-	F	A	A	F
	B115	集#4	上	-102537.172	26746.383	32.432	砂片	4.44	1.42	0.89	4.8	TSba	-	O	F	D	E	B	
	B116	集#4	上	-102537.758	26746.857	32.444	砂片	1.23	1.26	0.11	0.2	Stc	-	-	-	F	A	A	D
	B117	集#4	上	-102537.360	26747.311	32.426	砂片	0.84	0.52	0.13	0.1	Sbc	-	-	-	P	A	A	D
	B118	集#4	上	-102537.602	26747.457	32.432	砂片	1.02	0.89	0.24	0.2	Stc	-	O	-	A·D	F	E	
	B119	集#4	上	-102537.086	26747.267	32.442	砂片	1.45	0.73	0.10	0.1	Stf	-	-	-	A	F	-	
	B122	集#4	上	-102539.180	26747.853	32.470	砂片	1.45	1.44	0.25	0.3	Agc	-	-	-	F	A	A	D
	B123a	集#4	上	-102540.320	26746.403	32.386	砂片	1.51	1.16	0.49	0.7	Sbc3	-	O	F	A·D	A	B	

No.	台帳№	遺物	部位	X	Y	目	数量	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	原形調整	彫刻	透彫	石山崩壊	保存	付面状況	備考	
H124b	集甲4	皿下	-102540.320	26746.405	32.356	破片	1.14	1.64	0.18	0.53	0.5	Shc3	-	○	-	A・D	E	-		
H125	集甲4	皿下	-102540.124	26744.835	32.356	破片	0.91	1.45	0.18	0.53	0.5	Sbb	-	-	H	A	A	B		
H129	集甲4	皿上	-102541.460	26751.275	32.466	破片	0.58	0.91	0.14	0.11	0.1	Shc2	-	-	F	A	A	B		
H130	集甲4	皿上	-102541.148	26751.561	32.430	破片	0.68	0.73	0.18	0.18	0.1	Shc3	-	-	F	A	A	B		
H131	集甲4	皿上	-102541.360	26751.019	32.172	破片	0.93	0.54	0.13	0.11	0.1	Shc2	-	-	F	A	A	F		
H133	集甲4	皿上	-102540.078	26748.947	32.442	破片	0.83	0.80	0.17	0.17	0.1	Sbc	-	-	F	A・C	E	D		
H134	集甲4	皿上	-102536.966	26748.253	32.418	破片	1.04	0.61	0.19	0.1	0.1	Shc2	-	○	II	A・D	E	A		
H135	集甲4	皿上	-102536.610	26748.999	32.462	破片	1.36	1.06	0.22	0.22	0.2	Sbb	-	-	-	A	F	-		
H221	集甲4	皿上	-102535.742	26746.437	32.454	破片	0.82	1.44	0.40	0.3	0.3	Sbc	-	-	F	A	B	C		
H222	集甲4	皿上	-102535.586	26745.827	32.436	破片	1.01	1.10	0.23	0.2	0.2	Shc2	-	○	F	A・D	A	D		
H223	集甲4	皿上	-102535.460	26745.661	32.438	破片	1.02	0.74	0.18	0.1	0.1	Shc2	-	○	F	A	A	-		
H224	集甲4	皿上	-102535.296	26745.661	32.440	破片	0.63	0.43	0.06	0.1	0.1	Shc2	-	-	F	A	B	E		
H225	集甲4	皿上	-102535.188	26745.541	32.430	破片	0.80	0.44	0.14	0.14	0.1	Sbb	-	-	F	A	A	E		
H256	集甲4	皿上	-102534.680	26744.917	32.126	破片	0.64	0.52	0.08	0.1	0.1	Sbb	-	-	F	A	A	D		
H257	集甲4	皿上	-102534.640	26744.473	32.292	破片	1.93	3.13	0.50	0.19	0.1	Shc1	-	-	-	C	-	B		
H269	集甲4	皿上	-102541.651	26733.915	32.426	破片	1.09	1.20	0.19	0.1	0.1	Shc2	-	-	F	A	B	D		
H270	集甲4	皿上	-102539.914	26732.717	32.398	破片	0.72	1.90	0.26	0.4	0.4	Sbc1	-	-	-	B	F	-		
H271	集甲4	皿上	-102539.944	26730.359	32.444	破片	1.52	1.47	0.28	0.4	0.4	Sbb1	-	○	F	A・D	E	-		
H275	集甲4	皿上	-102538.898	26750.517	32.478	破片	1.45	1.12	0.58	1.6	1.6	Agb	-	-	-	C	A	D		
H276	集甲4	皿上	-102538.976	26720.989	32.396	破片	1.41	1.17	0.26	0.2	0.2	Sbb	-	-	O	H	A・C	B	-	
H277	集甲4	皿上	-102538.360	26751.083	32.296	破片	2.16	2.03	1.16	3.4	3.4	Shc2	○	-	O	F	D	A	B	
H286	集甲4	皿上	-102537.102	26750.377	32.296	破片	1.91	2.95	0.73	2.0	2.0	Sbb	-	-	-	F	C	E	-	
H287	集甲4	皿上	-102537.992	26752.811	32.438	破片	1.61	0.60	0.19	0.1	0.1	Sbb	-	-	-	F	A	A	F	
H422	集甲4	皿上	-102536.602	26747.915	32.464	破片	2.11	2.23	0.75	1.2	1.2	Agb	-	-	-	F	A・C	A	C	
H423a	集甲4	皿上	-102535.274	26744.669	32.412	破片	0.98	0.64	0.12	0.1	0.1	Sbc	-	○	F	D	A	E		
H423b	集甲4	皿上	-102533.274	26744.869	32.412	破片	0.48	0.29	0.08	0.1	0.1	Sbb	-	-	-	F	A	A	D	
H424a	集甲4	皿上	-102533.352	26744.979	32.414	破片	0.67	0.57	0.21	0.1	0.1	Sbc	-	-	-	F	B・C	F	-	
H424b	集甲4	皿上	-102533.382	26744.979	32.414	破片	0.65	0.52	0.11	0.1	0.1	Sbb	-	-	-	F	A	A	D	
H736	集甲4	皿上	-102537.368	26748.053	32.438	破片	0.72	0.53	0.07	0.1	0.1	Sbc	-	-	-	F	A	F	-	
H437	集甲4	皿上	-102539.110	26743.869	32.290	破片	0.85	0.87	0.17	0.1	0.1	Shc2	-	-	-	F	A	A	B	
H438	集甲4	皿上	-102537.148	26744.541	32.434	破片	1.37	1.77	0.46	0.6	0.6	Sbb	-	-	-	F	C	B	C	
H439a	集甲4	皿上	-102533.906	26744.857	32.434	破片	1.34	1.01	0.26	0.2	0.2	Shc	-	-	-	-	A	C	E	
H139b	集甲4	皿上	-102535.906	26744.657	32.434	破片	0.75	0.83	0.18	0.1	0.1	Sbc	-	-	-	-	A	E	B	

No.	台帳No.	遺構	方位	X	Y	II	層様	幅(cm)	縦(cm)	重量(g)	石片	原形像	断面	先形図記	断面構成	遺存・打痕形状	備考
	田430c	集甲4	■上	-102535.906	26744.857	32.034	砕片	0.83	0.90	0.1	Shc	-	○	F	C・D	E	-
	田440a	集甲4	■上	-102534.860	26744.861	32.400	砕片	1.42	1.04	0.33	0.1	TSha	-	○	F	D	A
	田440b	集甲4	■上	-102534.860	26744.861	32.400	砕片	1.30	0.49	0.16	0.1	Shc2	-	○	F	D	P
	田001	集甲5	■上	-102529.532	26756.385	32.444	砕片	0.15	0.42	0.11	0.1	cb	-	-	F	C	D
	F006	集甲5	■上	-102528.578	26755.729	32.368	砕片	0.90	0.46	0.13	0.1	Shc2	-	-	-	A	F
	田008	集甲5	■上	-102530.172	26755.057	32.476	砕片	0.64	0.98	0.14	0.1	Shb1	-	-	F	A	A
	田009	集甲5	■上	-102528.656	26754.375	32.454	砕片	0.53	0.46	0.11	0.1	Shc2	-	-	F	A	A
	田030	集甲5	■下	-102530.594	26755.211	32.458	砕片	1.38	1.44	0.66	0.9	Sha	-	-	F	A	A
	田031	集甲5	■上	-102530.336	26754.481	32.412	砕片	0.64	0.60	0.10	0.1	Shd	-	-	F	A	E
	田036	集甲5	■上	-102531.148	26755.037	32.432	砕片	0.65	0.42	0.08	0.1	Shb2	-	-	-	A	F
	田098	集甲5	■上	-102531.148	26755.037	32.432	砕片	0.68	1.02	0.15	0.2	Shc	-	-	F	A	A
	田073	集甲6	■上	-102535.102	26754.229	32.522	砕片	1.50	1.24	0.25	0.4	Shc	-	-	F	C	E
	田075	集甲6	■上	-102536.640	26755.283	32.416	砕片	0.45	0.43	0.06	0.1	Shc	-	-	F	A	A
	田061	集甲6	■上	-102537.976	26760.403	32.338	砕片	0.49	0.35	0.11	0.1	Shc	-	-	F	A	A
	田076	集甲6	■上	-102536.900	26754.899	32.466	砕片	1.24	0.80	0.10	0.2	Shc	-	-	F	A	A
	田291	集甲6	■上	-102536.508	26755.107	32.430	砕片	1.25	1.67	0.73	1.3	Shb	-	-	-	A	P
	田061	集甲6	■上	-102537.976	26760.403	32.338	砕片	1.77	1.89	0.31	0.8	Shb	-	-	F	A	B
	田066	集甲6	■上	-102538.010	26760.209	32.410	砕片	0.59	0.34	0.10	0.1	Shc	-	-	F	A	A
	田068	集甲6	■上	-102540.274	26757.367	32.366	砕片	1.34	1.23	0.39	0.5	Shb1	○	-	F	A	B
	田069	集甲6	■上	-102533.774	26757.423	32.482	砕片	0.62	0.54	0.22	0.1	Shc	-	-	-	A	B
	田067	集甲6	■上	-102532.562	26756.695	32.482	砕片	0.76	1.09	0.10	0.1	Shc1	-	-	P	A	E
	田071	集甲6	■上	-102533.624	26754.423	32.530	砕片	0.69	0.97	0.15	0.1	Shc	○	-	-	A	F
	田089	集甲6	■上	-102544.332	26750.725	32.366	砕片	0.76	0.47	0.11	0.1	Shc3	-	-	F	A	B
	田090	集甲6	■上	-102545.718	26749.143	32.324	砕片	0.75	0.51	0.21	0.1	Shc2	-	-	-	A	E
	田091a	集甲6	■上	-102546.868	26748.245	32.330	砕片	0.67	0.23	0.05	0.1	Shb	-	-	-	A	F
	田091b	集甲6	■上	-102546.868	26748.245	32.330	砕片	0.80	0.23	0.05	0.1	Shb	-	-	-	A	F
	田092	集甲6	■上	-102544.344	26746.693	32.386	砕片	1.57	1.88	0.68	0.7	Shb1	-	-	F	A	B
	田093	集甲6	■上	-102545.016	26745.067	32.322	砕片	0.43	0.47	0.23	0.1	Shc2	-	-	-	P	-
	田094	集甲6	■上	-102544.796	26744.306	32.294	砕片	0.58	0.59	0.11	0.1	Shb	-	-	F	A	A
	田095a	集甲6	■上	-102543.704	26743.853	32.300	砕片	1.96	0.85	0.21	0.4	Shb	-	○	-	A	D
	田095b	集甲6	■上	-102543.704	26743.853	32.300	砕片	0.78	1.56	0.29	0.4	Shc2	-	-	-	A	F
	田096	集甲6	■上	-102543.906	26743.773	32.360	砕片	0.32	0.05	0.01	0.1	Shc	-	-	F	A	A
	田097	集甲6	■上	-102540.874	26741.025	32.324	砕片	1.46	1.09	0.79	1.1	Shb	-	-	-	A	C
	田140	集甲6	■上	-102530.374	26746.233	32.440	砕片	0.34	0.51	0.05	0.1	Shb	-	-	F	A	F



No.	寸法	層位	部位	X	Y	H	設置	長(m)	幅(m)	厚(cm)	重(g)	石材	組配要	層間	洗滌状況	常備構成	保存	打取部位	備考
II229	1103	Ⅱ上	砕片	-102531.648	26747.145	32.688	砕片	1.21	0.82	0.18	0.2	Shg	-	-	F	A	A	B	-
	II412	Ⅱ上	砕片	-102530.672	26750.241	32.682	砕片	0.67	0.55	0.05	0.1	Sbc	-	-	-	A	F	-	-
	II444	Ⅱ上	砕片	-102512.008	26745.035	32.604	砕片	1.68	1.25	0.28	0.6	Sbb1	-	-	-	A	F	D	-
		Ⅱ上	砕片	-102538.016	26758.139	32.412	砕片	0.78	0.40	0.12	0.1	Sbc	-	-	F	A	A	E	-

第15表 確認表

No.	層位	基礎	X	Y	H	長(m)	幅(m)	重(g)	石材	組配要	層間	洗滌状況	常備構成	保存	打取部位	備考
II198	Ⅱa	1号礎群	-102527.570	26744.559	32.518	8.36	6.93	4.21	290.7	Sh	-	-	A	A	-	
II200	Ⅱa	1号礎群	-102527.672	26744.547	32.506	5.41	4.31	3.67	105.8	Ch	-	-	E	B	-	
II269	Ⅱb	1号礎群	-102528.110	26744.623	32.484	6.16	5.87	4.96	177.6	Tuff	-	-	E	C	-	
II107	Ⅱb	1号礎群	-102527.554	26743.835	32.536	9.09	4.83	3.05	111.1	Ch	-	-	F	C	-	
II018	Ⅱb	1号礎群	-102527.188	26743.617	32.522	7.51	4.88	3.09	101.7	Ch	-	-	F	C	-	
II020	Ⅱb	1号礎群	-102527.078	26744.985	32.490	6.31	5.91	3.81	270.2	Ch	-	-	F	C	-	
II166	Ⅱa	1号礎群	-102527.252	26745.043	32.496	1.67	1.99	0.87	2.3	Sh	-	-	F	F	-	
II167	Ⅱa	1号礎群	-102527.132	26745.001	32.458	4.10	3.65	3.49	47.6	Am	-	-	F	F	-	
II171a	Ⅱa	1号礎群	-102526.954	26744.783	32.504	7.00	4.92	3.36	96.0	Tuff	-	-	F	C	-	
II171b	Ⅱa	1号礎群	-102526.954	26744.783	32.501	2.86	2.83	0.56	3.0	Tuff	-	-	F	-	-	
II172	Ⅱa	1号礎群	-102526.734	26744.749	32.482	3.57	2.26	0.72	7.1	Tuff	-	-	F	-	-	
II175	Ⅱa	1号礎群	-102526.602	26744.675	32.506	1.46	1.21	0.63	0.9	Tuff	-	-	F	C	-	
II176a	Ⅱa	1号礎群	-102526.726	26744.395	32.481	2.90	2.10	1.19	4.0	Tuff	-	-	F	F	-	
II182	Ⅱa	1号礎群	-102527.062	26744.391	32.516	1.94	1.32	1.12	2.4	Sh	-	-	F	C	-	
II184	Ⅱa	1号礎群	-102527.218	26744.133	32.516	2.21	1.44	0.62	1.2	Sh	-	-	F	-	-	
II185	Ⅱa	1号礎群	-102527.258	26744.313	32.508	3.65	3.29	1.10	11.9	Ch	-	-	F	-	-	
II188	Ⅱa	1号礎群	-102527.180	26744.571	32.505	5.01	4.17	4.05	93.9	Ch	-	-	F	C	-	
II189	Ⅱa	1号礎群	-102527.180	26744.681	32.512	3.36	1.43	1.27	7.1	Ch	-	-	F	C	-	
II192	Ⅱa	1号礎群	-102527.258	26744.323	32.496	2.31	1.65	0.78	2.1	Ch	-	-	F	C	-	
II194	Ⅱa	1号礎群	-102527.446	26744.511	32.504	7.65	6.46	4.42	177.0	Ho	-	-	F	-	-	
II195b	Ⅱa	1号礎群	-102527.234	26744.715	32.516	3.11	2.06	1.83	11.9	Ch	-	-	F	C	-	
II199	Ⅱa	1号礎群	-102527.688	26744.643	32.526	5.00	3.7	1.56	3.7	Ch	-	-	F	C	-	
II201	Ⅱa	1号礎群	-102527.718	26744.715	32.518	3.05	2.51	1.12	10.9	Ch	-	-	F	C	-	
II202	Ⅱa	1号礎群	-102527.766	26744.637	32.488	6.66	4.13	3.22	88.1	Am	-	-	F	C	-	
II322	Ⅱb	1号礎群	-102527.140	26744.899	32.465	3.24	2.42	1.28	9.0	Ch	-	-	F	-	-	
II354	Ⅱb	1号礎群	-102527.290	26744.731	32.486	2.59	2.97	1.57	8.6	Tuff	-	-	F	-	-	

No.	位置	遺構	X	Y	日	長(m)	幅(cm)	厚(m)	盛土(g)	石材	遺存	赤化
H235	II b	1号溝群	-102527.454	26744.715	32.494	3.29	2.36	1.71	107	Ch	F	C
H236	II b	1号溝群	-102527.468	26744.879	32.484	1.73	1.29	1.09	1.9	Sh	F	C
H238	II b	1号溝群	-102527.718	26744.819	32.668	6.74	4.12	2.81	66.3	Tuff	F	C
H239	II b	1号溝群	-102527.750	26744.787	32.470	3.63	3.41	1.63	13.5	Ch	F	C
H240	II b	1号溝群	-102527.938	26744.607	32.682	3.71	2.50	1.13	10.0	Tuff	F	C
H241	II b	1号溝群	-102527.882	26744.573	32.488	3.29	2.35	0.61	3.4	Tuff	F	C
H242	II b	1号溝群	-102527.790	26744.425	32.462	1.99	1.90	0.38	1.4	Tuff	F	C
H243	II b	1号溝群	-102527.964	26744.377	32.668	6.00	3.10	4.33	127.1	Ch	F	C
H244	II b	1号溝群	-102527.446	26744.277	32.456	2.46	1.35	0.62	1.4	Tuff	F	C
H245	II b	1号溝群	-102527.374	26744.161	32.462	2.31	1.39	0.82	2.1	Tuff	F	C
H253	II b	1号溝群	-102526.951	26743.603	32.508	2.46	2.02	1.15	5.2	Tuff	F	C
H267	II 1	1号溝群	-102527.826	26743.777	32.478	2.14	1.03	0.88	1.7	Ch	F	C
H268	II 1	1号溝群	-102526.492	26753.753	32.414	1.08	0.75	0.36	0.6	Sh	A	-
H269	II 1	1号溝群	-102537.250	26738.507	32.490	1.27	1.09	0.60	0.1	Sh	A	-
H270	II 1	1号溝群	-102543.968	26719.999	32.494	0.95	0.66	0.33	0.2	Sh	A	-
H243	II b	1号溝群	-102524.460	26745.019	32.428	0.91	0.67	0.33	0.3	Sh	A	-
H280	II a	1号溝群	-102526.201	26741.129	32.488	0.45	0.36	0.27	0.1	Sh	A	-
H286	II a	1号溝群	-102527.782	26747.821	32.540	2.99	1.85	1.12	8.7	Qu	A	-
H211	II b	1号溝群	-102530.102	26747.385	32.566	1.13	1.76	0.88	0.8	Sh	A	-
H218	II a	1号溝群	-102530.196	26746.491	32.532	0.60	0.43	0.21	0.1	Sh	A	-
H240	II b	1号溝群	-102532.172	26743.329	32.594	0.86	0.66	0.21	0.2	SS	A	-
H288	II b	1号溝群	-102536.040	26753.159	32.464	0.68	0.45	0.31	0.1	Sh	A	-
H296	II 1	1号溝群	-102528.664	26735.221	31.332	1.10	0.79	0.59	0.4	Sh	A	-
H297	II 1	1号溝群	-102529.124	26754.529	32.380	0.74	0.50	0.33	0.2	Sh	A	-
H302	II 1	1号溝群	-102530.164	26750.859	32.434	1.40	1.23	0.36	0.9	Qu	A	-
H313	II a	1号溝群	-102533.796	26740.235	32.360	1.39	1.18	0.37	0.7	Sh	A	-
H216	II 1	1号溝群	-102533.290	26743.727	32.426	1.04	1.01	0.48	0.6	Qu	A	-
H218	II b	1号溝群	-102532.516	26743.485	32.300	0.85	0.47	0.46	0.3	Qu	A	-
H258	II b	1号溝群	-102527.330	26743.865	32.472	1.74	0.41	0.28	0.1	Sh	A	-
H261	II b	1号溝群	-102530.836	26750.677	32.476	1.90	0.79	0.59	0.1	Tuff	A	-
H283	II a	1号溝群	-102527.156	26744.267	32.508	1.63	1.17	0.82	0.8	SS	B	-
H216	II b	1号溝群	-102529.656	26745.385	32.491	10.66	8.46	6.03	446.6	An	F	B
H255	II	1号溝群	-102528.624	26759.729	32.322	1.26	1.17	0.70	0.9	SS	F	E
H272	II 1	1号溝群	-102534.460	26754.667	32.332	1.16	0.91	0.39	0.3	Sh	F	F

No.	遺物名	部位	遺構	X	Y	H	長(m)	幅(cm)	厚(m)	重量(g)	石材	出所	形状	時期	備考
H132	Ⅱ上			26750.011	32.430	3.91	2.91	1.93	18.1	Tuff		出所	F		赤化
H145	Ⅱb			26741.711	32.460	0.46	0.27	0.26	0.1	Sh			F		
H138	Ⅱa			26740.369	32.536	0.85	0.59	0.56	0.4	Qu			F		
H181	Ⅱa			26744.215	32.528	1.38	0.92	0.28	0.4	Sh			F		
H103	Ⅱa			26744.079	32.506	1.12	0.91	0.23	0.2	Sh			F		
H109	Ⅱa			26747.167	32.546	0.76	0.28	0.28	0.1	Sh			F		
H216	Ⅱa			26746.935	32.572	0.34	0.23	0.17	0.1	Sh			F		
H128	Ⅱ上			26746.273	32.472	0.53	0.30	0.26	0.1	Sh			F		
H220	Ⅱ上			26743.890	32.514	2.06	1.92	0.66	1.9	An			F		C
H123	Ⅱb			26747.969	32.514	2.06	1.92	0.66	1.9	An			F		C
H127	Ⅱa			26743.761	32.468	3.28	3.67	1.23	9.4	An			F		
H173	Ⅱb			26750.005	32.434	1.87	1.49	0.89	0.89	2.1	Sh		F		C
H137	Ⅱb			26744.763	32.594	1.65	0.87	0.41	0.5	Sh			F		
H148	Ⅱb			26742.299	32.432	1.74	0.53	0.32	0.3	Sh			F		C
H170	Ⅱb			26744.701	32.462	1.89	1.18	0.40	0.6	Sh			F		B
H177	Ⅱb			26744.041	32.480	1.01	0.48	0.20	0.1	Sh			F		
H181	Ⅱ上			26743.219	32.444	0.25	0.25	0.01	0.1	Qu			F		
H188	Ⅱ上			26745.075	32.442	0.74	0.63	0.52	0.3	Qu			F		
H100b	Ⅱ上			26749.079	32.500	2.24	1.26	0.70	1.9	Tuff			F		C
H103c	Ⅱ			26755.023	32.398	0.42	0.30	0.16	0.1	Sh			F		

第16表 石器・石製品・鏡・鏡觀察表(縄文時代以降)

No.	遺物名	部位	器種	長(m)	幅(m)	厚(m)	重量(g)	石材	備考
31	SD04	皿上	石鏡	4.11	1.34	0.83	4.0	Sh	先帝角石?
32	F024	皿上	石鏡	2.00	1.41	0.21	1.0	Sh	先帝再加工、半環式
33	SD03	皿上	石鏡	2.20	1.72	0.25	0.5	Sh	先帝欠損、凸環式
34	SD03	皿上	石鏡	2.52	4.00	0.55	4.8	Sh	欠損部欠損、凸環式
35	SD04	皿上	石鏡	6.18	2.90	0.77	10.4	Sh	欠損部欠損、凸環式
36	F069	皿上	石鏡	5.90	3.40	0.86	10.3	Sh	欠損部欠損、凸環式
37	SD04	皿上	石鏡	7.29	4.09	1.82	69.9	Sh	欠損部欠損、凸環式
38	F166	皿上	石鏡	2.24	2.55	0.88	4.1	Sh	上部欠損
39	SA01	皿上	石鏡	2.75	2.18	0.60		Sh	上部欠損
40	SK03	皿上	石鏡	3.15	3.30	0.69	6.8	Sh	下部欠損

第17表 縄文石器観察表

No.	出土地点・層位	器種	出土	形状	時期	備考
147	SD04層位Ⅱ土	石類	砂粒少量	LRコ	晩期	
148	SD04層位Ⅱ土下部	石類	砂粒少量	口部砂粒	晩期	
149	SD01Ⅱ土	石類	砂粒少量	平行片	晩期	
150	F200Ⅱ土	石類	砂粒少量	片状燧石	晩期	

No.	遺構	部位	高さ	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	備考
41	P002	礎石	遺構	2.05	2.82	0.59	6.6	Sh	子母文状
42	P075	礎石	行橋	4.03	3.45	1.41	18.7	Sh	基部幅0.54m
43	P101	礎石	横形古器	2.75	3.11	0.95	7.1	Sh	
44	SD04	礎石	横形古器	4.45	2.15	1.50	13.1	Sh	
45	SD04	礎石	横形古器	3.77	2.42	0.78	5.0	Sh	
46	P290	礎石	礎石	11.75	8.88	8.53	768.3	An	赤化丸、スス付着
47	P129	礎石	礎石	4.60	3.94	1.32	27.7	An	SD01構成方角石
48	SD01	礎石	礎石	2.29	1.62	0.73	4.1	Sh	黒石(空黄褐色)
49	P113	礎石	礎石	1.64	1.48	0.92	3.2	Sh	黒石(空黄褐色)
49	P129	柱礎	礎石	3.89	2.86	1.37	24.1		黄褐色(空黄褐色)

第18表 土器器・須器観察表

測定単位( )、数字は( )

No.	出土地点・層位	種類	用途	残存部位	残存率	色調	主な外観特徴(目一新)	主な内面特徴(目一新)	底部	口縁	底径	高さ	備考
48	SD01 1層	土器器	杯	底部・底面	10%	黄褐色	遺構	黒色処理	磨耗	—	(6.0)	(1.3)	
49	SD01 1層	土器器	高台付杯	高台	20%	淡黄褐色	遺構	ミガキ・黒色処理	—	—	(2.7)	—	
50	SD01 1層	須器器	杯	口縁	10%以下	灰口	ハケ・タズリ	ナデ	—	—	—	—	
51	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	30%	黒	黒化ナデ	黒化ナデ	—	(12.0)	—	(2.6)	
52	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	10%	にぶい	黒化ナデ	黒化ナデ	—	(12.0)	—	(2.5)	
53	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	10%	黄褐色	黒化ナデ	黒化ナデ	—	(13.4)	—	(2.6)	
54	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	10%	灰口	遺構	遺構	—	(14.6)	—	(3.1)	外面にス?
55	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・底面	10%	黒	黒化ナデ	黒化ナデ	凹縁劣切	(12.8)	(6.0)	3.5	
56	P130上(SF01)	土器器	杯	体部・底面	30%	にぶい	黒化ナデ	黒化ナデ	凹縁劣切	—	(4.0)	(1.6)	
57	P16礎石(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	10%	黄褐色	黒化ナデ	黒化ナデ	—	(14.4)	—	(2.7)	
58	P16礎石(SF01)	土器器	杯	口縁・底面	60%	淡黄	黒化ナデ	黒化ナデ	凹縁劣切	(12.0)	(5.0)	3	
59	P55礎石(SF01)	土器器	杯	体部・底面	30%	淡黄褐色	黒化ナデ	黒化ナデ	凹縁劣切	—	(5.5)	(2.0)	
60	P45礎石(SF01)	土器器	杯?	底面	10%	黒	遺構	磨耗(黒色処理?)	凹縁劣切	—	5.4	(1.25)	
61	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	20%	灰白	遺構	ミガキ・黄色処理	—	(12.9)	—	(2.8)	口縁部外面ス
62	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	10%	灰口	黒化ナデ	ミガキ・黒色処理	—	(12.1)	—	(2.8)	
63	P130上(SF01)	土器器	杯	口縁・底面	50%	淡黄褐色	遺構	黒色処理	凹縁劣切	—	5.4	(2.6)	
64	P16礎石(SF01)	土器器	杯	口縁・体部	10%以下	黄	遺構	黒化ナデ・黄色処理	—	—	—	—	内外面や遺長
65	P16礎石(SF01)	土器器	杯	口縁・底面	10%以下	にぶい	遺構	ミガキ・黒色処理	—	—	—	—	
66	P16礎石(SF01)	土器器	杯	体部・底面	30%	にぶい	遺構	ミガキ・黒色処理	凹縁劣切	—	5.3	(1.5)	底部に凹履

No	出土地点・層位	種類	容積	残存部位	残存率	色調	土文外周溝底(凹一衝)	土文内周溝底(凹一衝)	底面	口径	高さ	備考		
67	P168層上(SB01)	土師器 環	口縁-体部	20%	橙	同灰ナナ	ミガキ・黒色処理	ミガキ・黒色処理	—	(16.0)	—	口縁部外面にスス		
68	P130層上(SB01)	土師器 外	体部	30%	橙	厚板	黒色処理	黒色処理	ナナ	6.0	(1.7)	底部に凹溝		
69	P148層上(SB01・03)	土師器 環	口縁-体部	20%	にぶい黄褐色	同灰ナナ	ミガキ・黒色処理	ミガキ・黒色処理	同灰赤切	—	3.7	(1.9)	—	
70	P12層上(SB01)	土師器 環	体部	10%以下	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	(15.0)	—	—	土文の跡が浅い	
71	P13層上(SB01)	土師器 環	口縁-体部	10%以下	にぶい橙	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	ナナ	—	—	—	—	
72	P54層上(SB01)	土師器 環	体部-底部	20%	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	ナナ	—	6.0	(3.65)	—	
73	P4層上(SB01)	須恵器 甕	口縁	10%以下	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(18.4)	—	(4.6)	外面に自然釉	
74	P8層上(SB01)	須恵器 甕	口縁-体部	10%以下	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(15.8)	—	(3.2)	—	外面に人工灰
75	P55層上(SB01)	須恵器 甕	口縁-体部	10%	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
76	P13層上(SB01)	須恵器 甕	口縁	10%以下	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
77	P79層上(SB01)	須恵器 甕	口縁	10%	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	(3.9)	—	
78	P58層上(SB01)	須恵器 甕	体部	10%以下	黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
79	P148層上(SB01・03)	須恵器 甕	体部	10%以下	灰白	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
80	P13層上(SB01)	須恵器 甕	体部	10%以下	灰白	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
82	P77層上(SB03)	須恵器 甕	口縁-体部	20%	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(14.0)	—	(3.25)	口縁部外面に産出焼き肌	
83	P10層上(SB03)	土師器 環	口縁-体部	10%以下	灰白	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	(8.2)	(2.0)	—	
84	S12層上(SB04)	土師器 外	口縁-体部	10%	にぶい黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(13.0)	—	(3.7)	口縁部外面にスス	
85	P20層上(SA03)	土師器 環	体部-底部	10%	にぶい黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
86	P52層上(SA03)	土師器 環	口縁-体部	10%	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	6.0	(3.3)	底部に黄斑	
87	P23層上(SA03)	土師器 環	口縁-体部	10%	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(11.4)	—	(3.0)	—	
88	P52層上(SA03)	須恵器 甕	体部-底部	10%	灰白	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
89	S06層上	土師器 甕	口縁-体部	10%以下	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	(7.0)	(1.7)	—	土文の跡が浅い
90	S104東周層上(上部)	土師器 甕	口縁-体部	10%以下	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	
91	S104東周層上(上部)	土師器 甕	口縁	10%以下	黄褐色	厚板	厚板	厚板	厚板	—	—	—	口縁部外面にスス	
92	S104東周層上(上部)	土師器 甕	体部	20%	淡黄褐色	厚板	厚板	厚板	厚板	—	—	—	—	
93	S104東周層上(上部)	須恵器 甕	口縁-体部	10%以下	青灰	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	(6.1)	—	外面に自然釉
94	S104東周層上(上部)	須恵器 甕	口縁-体部	10%以下	灰白	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	(7.1)	—	外面に自然釉
95	S104東周層上(上部)	須恵器 甕	体部	10%以下	黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	—	—	外面に自然釉
97	S104東周層上(上部)	須恵器 甕	口縁	10%以下	黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(16.8)	—	(5.35)	外部外面にコケ	
100	S107層上	土師器 甕	口縁-体部	10%	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	—	—	(3.2)	—	内外面を黄斑
102	S107層上	須恵器 甕	口縁-体部	10%	灰白	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(12.1)	—	(3.2)	—	—
103	S107層上	土師器 甕	口縁-体部	10%	淡黄褐色	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	同灰ナナ	(13.8)	—	(7.0)	(1.45)	—

No	出土地点・層位	種類	形態	残存率	色調	主な外周調整(旧→新)	主な内周調整(旧→新)	取組(m)		備考		
								口径	高さ			
104	SK07底面	土師器 甕	口縁部	10%以下	浅黄緑	黒転ナブ	ナブ	—	—	—		
105	SK08底上	須恵器 甕	口縁部	10%以下	青灰	黒転ナブ	黒転ナブ	—	—	底の7割、胴体小		
106	SK08底上	須恵器 甕	口縁部	10%以下	青灰	黒転ナブ	黒転ナブ	—	—	底の8割、胴体小		
107	SK01	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	156	58	53		
108	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	145	53	46		
109	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	90%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	142	63	52	二次焼跡	
110	SK01腹上上部	土師器 甕	口縁部	60%	浅黄緑	黒転ナブ・ナブ・ケズリ	黒転ナブ	143	59	57	二次焼跡；底部焼痕	
111	SK01腹上上部	土師器 甕	口縁部	90%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	143	56	46	底部に黒痕	
112	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	30%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	132	59	47	内外周や唇縁	
113	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	20%	灰	黒転ナブ	黒転ナブ	145	—	—	口縁部外周にスス	
114	SK01	土師器 甕	口縁部	20%	にぶい黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	138	—	—	口縁部にスス	
115	SK01	土師器 甕	口縁部	20%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	160	—	—	口縁部にスス、底部に黒痕	
116	SK01	土師器 甕	口縁部	20%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	130	—	—	二次焼跡、外周にスス	
117	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	20%	灰	黒転ナブ	黒転ナブ	60	12	—	—	
118	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	20%	にぶい黄	黒転ナブ	黒転ナブ	—	72	19	—	
119	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	218	—	—	(5.85)内外周や唇縁、口縁部にスス	
120	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	20%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	—	74	17	—	底部にスス
121	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	ナブ	黒転ナブ	—	32	23	—	—
122	SK01	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	158	—	—	—	
123	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	青灰	黒転ナブ	黒転ナブ	—	23	—	—	
124	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	159	—	—	—	
125	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	189	—	—	—	
126	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	30%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	159	—	—	—	
127	SK02 2層	土師器 甕	口縁部	10%	青灰	黒転ナブ	黒転ナブ	99	—	—	—	
128	SK07	土師器 甕	口縁部	20%	にぶい黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	130	—	—	—	
129	SK07	土師器 甕	口縁部	20%	にぶい黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	—	70	11	—	—
130	SK07	土師器 甕	口縁部	10%	灰白	黒転ナブ	黒転ナブ	181	—	—	—	
131	SK07	土師器 甕	口縁部	20%	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	—	—	—	—	
132	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	青灰	黒転ナブ	黒転ナブ	100	—	—	—	
133	SK01腹上	土師器 甕	口縁部	10%	青灰	黒転ナブ	黒転ナブ	—	—	—	—	
134	SK01・2層上	土師器 甕	口縁部	20%	灰白	黒転ナブ	黒転ナブ	244	—	—	—	
135	SK02腹上	土師器 甕	口縁部	10%	浅黄緑	ナブ	黒転ナブ	—	—	—	—	
136	SK02腹上	土師器 甕	口縁部	10%以下	浅黄緑	黒転ナブ	黒転ナブ	—	—	—	—	

No	出土地点・層位	器種	器種	残存部位	色調	主な外面調整(旧-新)		主な内面調整(旧-新)		設置(m)		備考
						口縁部	底面	口縁	底面	口径	高さ	
137	SX02出土	土師器 甕	口縁部	10%以下	灰白	同土ナテ	ナテ	---	---	---	---	---
138	P27出土	土師器 甕	体部	10%以下	灰白	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
139	P130出土	土師器 甕	体部-底縁	10%	黄	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
140	P180出土	土師器 甕	口縁部	10%	にぶい黄褐色	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
141	P180出土	土師器 甕	口縁部	10%	黄褐色	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
142	P180出土	土師器 甕	口縁部	10%	黄	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
143	P203出土	土師器 甕	口縁部	10%以下	にぶい黄褐色	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
144	P203出土	土師器 甕	体部-底部	10%	にぶい黄	同土ナテ・ナテ	同土ナテ	---	---	---	---	---
145	IIa層I層	土師器 甕	口縁部-底部	40%	黄褐色	同土ナテ	同土ナテ・ミガキ、黒色灰層	同土ナテ	同土ナテ	---	---	---

第19表 陶磁器観察表

補記欄は( )、残存率は( )

No	出土地点・層位	器種	器種	器種	形状	胎土	法書(m)		製作地	製作年代	備考
							口径	高さ			
81	P130出土層(SB01)	緑釉陶器 甕	口縁部	灰青褐色	---	---	---	---	---	---	---
96	SD04東側出土下層	陶器 甕	体部	灰白	---	---	---	---	---	---	10C前半
98	SD06出土	陶器 鉢	体部-底部	黄	(12.0)	(9.8)	---	---	---	---	12C後半
100	SD06南側出土	陶器 鉢?	口縁部	明赤褐色	---	---	---	---	---	---	中世
146	IIa層I層	陶器 甕	底部	灰黄	---	(5.0)	(1.2)	---	---	---	大塚古墳 近世

第20表 土製品観察表

No	出土地点・層位	器種	包裏	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(g)	備考
151	SB01層	土師	黄粉	3.85	2.3	2.15	14.7	---
152	SB01層	土師	黄粉	4.53	1.89	1.95	12.3	---
153	SB01層	土師	黄粉	5.29	2.12	1.79	16.2	---
154	SB01層	土師	黄粉	5.13	2.2	1.7	14.6	---
155	SB01層	土師	黄	4.8	1.79	1.21	12.1	---
156	SB01北西1層	土師	黄粉	3.98	1.82	1.23	5.8	---
157	IIa層P203出土	土師	黄粉	(1.85)	(1.74)	(0.9)	(1.6)	---
158	SD04 東側出土層	土師	明赤褐色	(4.0)	(1.8)	(1.0)	(5.0)	---
159	IIa層I層 瓦	土師	黄粉	3.6	2.01	1.7	10.1	---
160	IIa層II層	土師	にぶい黄褐色	4.75	2.0	1.65	11.0	---

## IV 四反田Ⅰ・Ⅱ遺跡

### 1 概 要

四反田Ⅰ・Ⅱ遺跡はJR東北本線陸中折居駅の南東2.1～2.2kmに位置し、北上川西岸に形成された低位段丘の微高地上に立地する。標高は31～32mとほぼ平坦で、調査前の現況は水田および宅地である。四反田Ⅰ遺跡の西方約200mには四反田Ⅱ遺跡が位置している。さらに四反田Ⅱ遺跡の西方約230mには水尻遺跡が、四反田Ⅰ遺跡の東方170mには古城方八丁遺跡があり、これら4遺跡はおおよそ半径300mの範囲内に点在する。四反田Ⅰ・Ⅱ遺跡周辺は圃場整備や宅地造成などの影響を受けており、基本層序はおおむね次のようになる(共通)。Ⅰa層:10YR4/2灰黄褐色シルト(表土)15～20cm、Ⅰb層:10YR5/6黄褐色シルトとにぶい黄褐色シルトの混合土(盛土)0～50cm、Ⅰc層:10YR5/1褐灰色シルト(水田床土)、Ⅱ層:10YR4/3にぶい黄褐色シルト(旧耕作土)0～20cm、Ⅲ層:10YR5/6黄褐色シルト(遺構検出面)層厚不明

四反田Ⅰ遺跡から検出された遺構は、平安時代の竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、土坑14基、時期不明(一部は平安時代に属する可能性有)の溝跡6条、柱穴36個、近世以降の性格不明土坑1基、烟跡1箇所である。遺物は土師器を主体として、須恵器、土製品(土錘1)、炭化種子などが合わせて大コンテナ(40×30×30cm)で4箱分出土している。

四反田Ⅱ遺跡から検出された遺構は近世の土坑1基、時期不明の土坑2基、溝跡5条、柱穴5個である。遺物としては土師器、須恵器、陶磁器が各数点、木製品として下駄2点・加工痕のある木片3点が出土した。

### 2 調査・整理の方法

四反田Ⅰ・Ⅱ遺跡の調査区は、北西隅(X=-102560, Y=26960)を基点として1辺40mの大グリッドによって区割りし、さらにこれを1辺4mの小グリッドに分割している。大グリッドの名称は、南北方向が北からⅠ・Ⅱ、東西方向が西からA・B・C…とし、両者を組み合わせてⅠA、ⅡBなどと表示した(第68・69図参照)。両調査区はⅠA～ⅡHグリッドの範囲に収まる。その他の調査・整理方法については基本的に水尻・古城方八丁遺跡と同一の方法に拠っている。

### 3 検出遺構

#### 四反田Ⅰ遺跡

##### (1) 竪穴住居

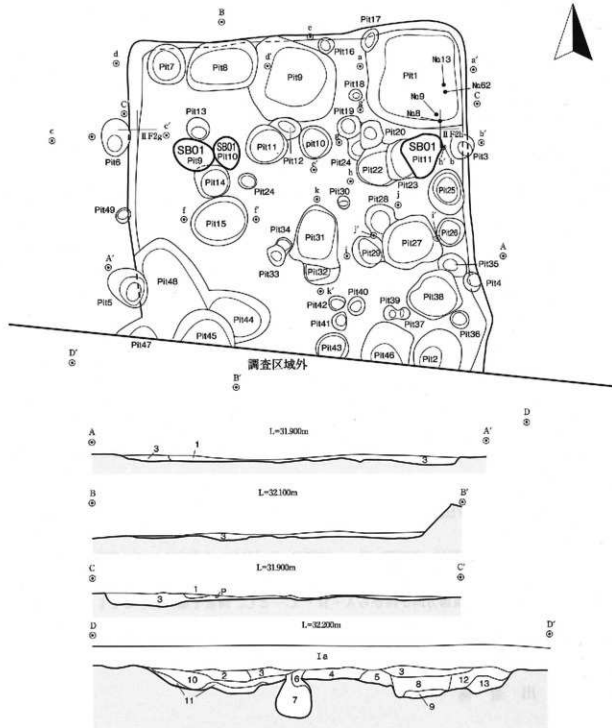
S101竪穴住居(第46・47図、写真図版45～49)

〈位置・調査過程〉西側調査区、ⅡF2gグリッドほかに位置する。検出層位はⅢ層の黄褐色シルト層上面で、焼土・炭化物を含む褐色シルトの範囲として確認された。

〈重複関係〉SB01と重複、これにより切られる。

〈規模・平面形〉南端が調査区域外にかかるため全容は不明である。残存辺長は東-西4.5mで、平

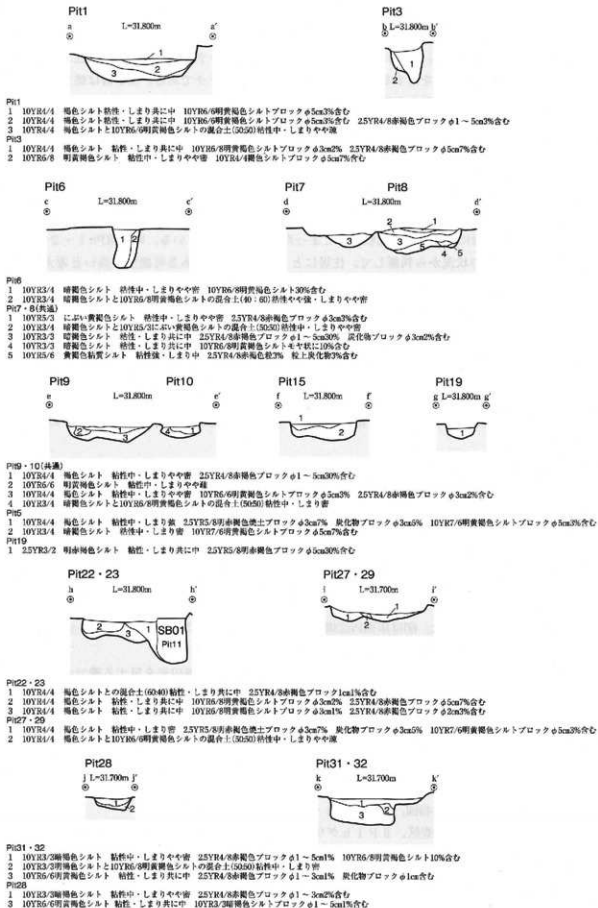




- 1a 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり共に中 炭化物ブロックφ1~3cm 1% (赤土)  
 1 10YR4/4 褐色シルト 粘性・しまり共に中 25YR5/6明赤褐色土ブロックφ1cm1% 炭化物ブロックφ2cm2%含む  
 2 10YR4/6 褐色シルト 粘性中・しまりやや密 25YR5/8明赤褐色土ブロックφ3cm20% 炭化物ブロックφ2cm1%含む  
 3 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや密・しまり密 10YR5/8黄褐色シルトブロックφ2~3cm20% 堆土ブロックφ1cm2%含む  
 4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中・しまりやや密 25YR5/6明赤褐色土ブロックφ1cm2% 炭化物ブロックφ1cm2%含む  
 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中・しまりやや密 φ45褐色シルトブロックφ2~3cm20% 25YR5/6明赤褐色土ブロックφ1cm2% 炭化物ブロックφ3cm2%含む  
 6 10YR3/1 黄褐色シルト 粘性中・しまりやや密 10YR5/8黄褐色シルトブロックφ3cm20%含む (Pa43埋土)  
 7 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや密・しまり中 25YR4/8赤褐色ブロックφ1~3cm70% 炭化物ブロックφ1cm1% 10YR5/8明赤褐色ブロックφ1cm3%含む (Pa43埋土)  
 8 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや密・しまり中 25YR4/8赤褐色ブロックφ1~3cm60% 炭化物ブロックφ1cm1% 10YR5/8明赤褐色ブロックφ1cm3%含む (Pa45埋土)  
 9 10YR4/4 褐色シルト 粘性中・しまりやや密 25YR5/6明赤褐色土ブロックφ3cm5% (Pa48埋土)  
 10 10YR2/2 黄褐色シルト 粘性中・しまりやや密 25YR4/8赤褐色ブロックφ1~3cm1% 炭化物ブロックφ1cm1%含む (Pi2・46埋土)  
 11 10YR3/2 黄褐色シルト 粘性中・しまりやや密 10YR5/8黄褐色シルトブロックφ2~3cm10% (Pi2・46埋土)  
 12 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性・しまり共に中 炭化物ブロックφ1cm1%含む (Pi47・48埋土)  
 13 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり共に中 炭化物ブロックφ1cm1%含む (Pi47・48埋土)

0 1.50 2m

第46図 S101 (1)



第47図 S101(2)

面形は隅丸方形である。調査した3辺のいずれからもカマドが検出されていない為、主軸方向は不明である。未調査の南辺にあったとした場合、主軸方向はS-5°-Eとなる。

〈埋土〉5層に分層される。全体に焼土ブロック、炭化物ブロックを含む褐色・暗褐色シルト主体で構成され、人為堆積の様相を呈する。第1層は文化課試掘トレンチである。第2層は焼土ブロックを多量に含む。第4・5層は貼り床構築土と考えられる。

〈壁・床面〉地面を方形に掘り窪めたのち、焼土・炭化物ブロックを含む褐色・暗褐色シルトで埋め戻し、床面としている。壁溝は認められず、検出面から底面までの深さは残存値で最大16cmを測る。

〈柱穴・ピット〉床面からは貼り床に相当する第4・5層を掘り抜いて、床面ピットが計48基構築されている。うち、Pit1は北東隅に位置する方形の上坑で、黄褐色シルトブロックを含む褐色シルト主体の埋土で構成され、底面付近からまとまった遺物が出土している。Pit2は南東隅に位置する円形の土坑で、同様に埋土中から比較的多くまとまった遺物が出土している。両上坑Pit1・2は、位置や出土遺物、埋土の状況から判断して、住居にともなう貯蔵穴である可能性が高いと考えられる。Pit3～6は、径27～58cm、深さ50～89cm程度のピットである。規模・位置関係から、同ピットは壁外柱穴である可能性が高いと考えられる。このほかの床面ピットは、径15～135cm程度の小門～楕円形プランを呈し、埋土は、焼土ブロック・炭化物ブロックを比較的多く含む褐色・暗褐色シルト主体で構成され、人為堆積の様相を呈する。これらは竪穴住居の床面全域に構築されており、貯蔵穴・柱穴とは様相を異にする。遺物としては埋土中から土器片・土製品が少量出土している。なお、これらピット埋土を対象に土壌水洗選別を実施している。その結果、炭化種子が少量出土した。そのほか微細資料は未検出である。これらピットの性格としては、土壌改良のための床面構築（貼り床）の可能性などが想定される。

遺物（第70～72図、写真図版63～65）

〈土師器〉50点を掲載した。5はQ3埋下～床から出土した土師器の甕で、6号溝出土破片と接合した。21は床面Pit2埋土中から出土した須恵器の長頸瓶で、SK01出土破片と接合している。31は床面Pit19埋土中から出土した土師器小形甕で、3号溝出土破片と接合した。39は床面Pit27埋土から出土した土師器甕片で、柱穴状小土坑Pit9出土破片と接合している。

〈須恵器〉6点を掲載した。6はQ3埋下～床から出土した須恵器の甕壺類片で、6号溝出土の破片と接合している。

〈土製品〉5点を掲載した。60は床面Pit23埋土から出土した上錘である。その他の4点は床面および床面Pit埋土から出土した焼成粘土塊である。

〈石器・礫〉2点を掲載した。62は床面Pit1埋土から出土した長楕円形を呈する礫である。63は埋土中より出土した石鏃である。後者は本遺構には伴わず、偶発的に混入したものと判断している。

〈炭化種子〉炭化種子同定の結果、イネ、オオムギ、ブドウ、クマノミズキなどが出土している。時期 出土遺物から、概ね9世紀前半代と推測される。

## （2）掘立柱建物

SB01掘立柱建物（第48・49図、写真図版51・52）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II F1 hグリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上面で、褐色・暗褐色の円～楕円形プランとして確認した。北半部が調査区域外へかかるため、柱穴配置の全容は不明である。

〈重複関係〉S I 01と重複し、これを切る。

〈平面形式〉正確な規模は不明であるが、梁間が2間以上、桁行が5間の建物跡であると推定される。調査範囲における規模は梁間458cm(15.2尺)、桁行1285cm(42.4尺)、面積は56.687㎡(約17坪)である。使用した柱穴は15個である。

〈柱間寸法〉桁行の柱間寸法は257cm(8.5尺)を基準とし、梁間の柱間寸法は229cm(7.6尺)を基準としている。

〈付属施設〉全体の構造は不明であるが、検出範囲からは身舎5×2間以上の建物、廂が付属すると仮定した場合は、東西辺3間の構造を持つ建物ということが言える。また、3間×3間の総柱建物となる可能性もある。

遺物(第72図、写真図版65)

〈土師器〉7点を掲載した。71はPit14から出土した土師器坏で、体部に墨書を持つ。

〈須恵器〉1点を掲載した。67はPit6埋土から出土した大甍片である。

時期 Pit1・5・6・11・12~14の埋土中から平安時代の遺物が出土している。しかし、本遺構の周辺に該当期の遺構が近接することなどから、柱穴掘削時に周辺の遺物が混入した可能性も排除できない。この為、時期推定の根拠となる化学的分析も必要と考え、本遺構を構成するPit7の底面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施している。その結果、暦年較正年代で808AD-984AD(93.2%)の数値が得られている。これと出土遺物の時期を考慮すると、本遺構の時期は、古くは9世紀代まで遡る可能性がある。

### (3) 土 坑

SK01土坑(第50図、写真図版53・54)

〈位置・検出状況〉西側調査区、IF2hグリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上位で、炭化物粒を含むにぶい黄褐色の不整形プランとして確認した。

〈重複関係〉SK08・09・14と重複し、これらを切る。

〈規模・形状〉平面形は柄杓形を呈し、円形の土坑部と、長方形の張り出し部からなる。全体規模は開口部径2.9m×2.5mを測る。土坑部規模は径2.5m、深さ1.13mを測り、西側壁面から階段状のステップが2段、長さ1.17mにわたって延びている。形状から、土坑底面までの昇降施設(階段)と推測される。

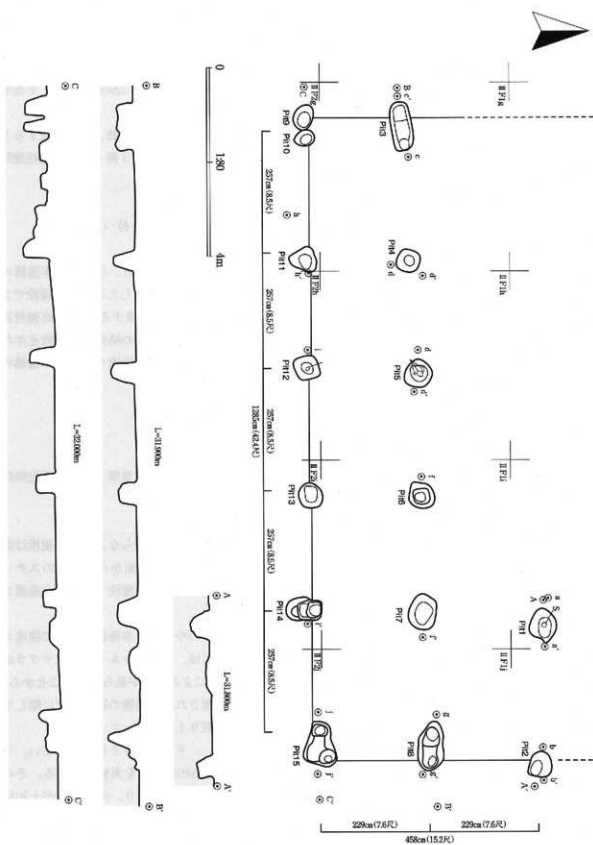
〈埋土〉6層からなり上位はにぶい黄褐色粘質シルト、下位は粘性のやや強い黒褐色シルトで構成され、自然堆積の様相を呈する。本遺構の埋土上位にあたる第2層には、黒褐色シルトと白色テフラが均一に混じった堆積土がレンズ状に堆積している。同テフラは粒度による違いが見られないことから、降下による1次堆積ではなく、水成2次堆積の可能性が高いと判断される。遺物の取り上げに際しては本層を基準とし、これより上位・層中・下位・底面の4地点で取り上げを行っている。

〈科学的分析〉調査時の不手際でテフラサンプルを廃棄してしまい、テフラ分析を行っていない。一方、白色テフラ層中から検出した炭化粒の放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施している。その結果、暦年較正年代で683AD-873AD(95.4%)の数値が得られた。これにより、同テフラが十和田a降下火山灰の可能性が高いことが判明した。

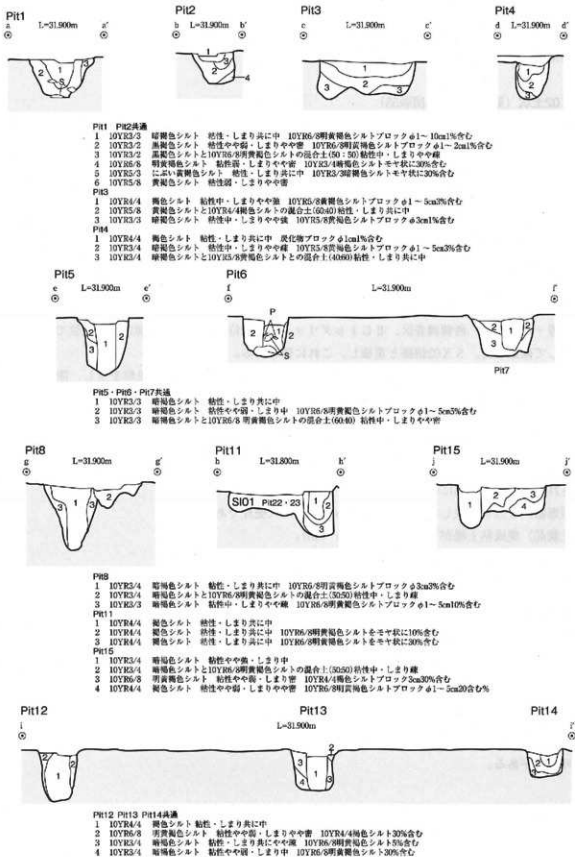
遺物(第73図、写真図版65~67)

〈土師器〉7点を掲載した。78は白色テフラ層から出土した土師器坏で、内外面黒色処理されている。体部は外面回転ナデ調整後、下端部ヘラケズリ再調整される。底部は全面ヘラケズリされる。

〈須恵器〉9点を掲載した。83は白色テフラより下位の層から出土した須恵器坏で、S B01Pit12埋



第48回 SB01 (1)



0 1:40 2m

第49図 SBO1 (2)

土出土資料と接合している。

時期 白色テフラ層抽出炭化物の放射性炭素年代測定結果と、出土遺物の時期を考慮すると、本遺構の時期は、概ね9世紀代と判断される。

#### S K02土坑（第51図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 1 b グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、黒褐色の楕円形プランとして確認した。S D02と重複し、これにより切られる。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.9m×1.2mの楕円形を呈する。長径は西端が切られているため推定値である。深さは最深部で42.8cmを測る。

〈埋土〉3層からなり、黒褐色シルト主体で構成される。第3層に黄褐色シルトをモヤ状に含む。

〈出土遺物・時期〉出土遺物がないため積極的な根拠はないが、埋土の状況から判断して平安時代の可能性がある。

#### S K03土坑（第51図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 1 b グリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上位で、円形プランとして確認した。S X02烟跡と重複し、これに切られる。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.6m×1.4mの円形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さは最深部で28.8cmを測る。

〈埋土〉3層からなり暗褐色シルト主体で構成される。

#### 遺物（第74図、写真図版67）

〈土師器〉6点を掲載した。91は埋土から出土した坏で、底部回転ヘラ切り後、縁辺ヘラケズリ再調整されるもので、底部にヘラ書きを持つ。

〈須恵器〉1点を掲載した。97は埋土から出土した大甕片である。

〈土製品〉焼成粘土塊が1点出土している（98）。

時期 出土遺物から、本遺構の時期は9世紀前半代と判断される。

#### S K04土坑（第53図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II F 1 h グリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上位で、楕円形のプランとして確認した。S B01Pit4と重複し、これを切る。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.9 m×0.8mの楕円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で10cmを測る。

〈埋土〉褐色シルト主体の単層である。

〈出土遺物・時期〉出土遺物がない為、積極的な根拠はないが、埋土の状況等から判断して平安時代の可能性がある。

#### S K05土坑（第51図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉西側調査区、I G 1 0 c グリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上位である。S D03精査終了後、円形のプランとして確認した。本遺構が古いと思われる。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.34m×1.1mの円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で14cmを測る。

〈埋土〉SD03精査中に同溝埋土と誤認して掘削してしまい、記録を欠く。  
 〈出土遺物・時期〉出土遺物がない為、積極的な根拠はないが、位置関係などから判断して平安時代の可能性がある。

#### SK06土坑（第52図、写真図版56）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 2 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、黒褐色の円形プランとして確認した。

〈規模・形状〉平面形は開口部径0.96m×0.8mの円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で31.4cmを測る。

〈埋土〉2層からなり、黒褐色シルト主体で構成される。下層に炭化物ブロックや焼土粒を含む。また、1層と2層の間から炭化材が出土しており、放射性炭素年代測定を実施している。2層から土師器の坏がまとめて出土している。

〈科学的分析〉埋土中位から検出した炭化粒の放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施した。その結果、暦年較正年代で777AD-905AD（67.6%）、912AD-970AD（27.8%）の数値が得られた。

遺物（第74・75図、写真図版67・68）

〈土師器〉15点を掲載した。内訳は坏15点、甕1点である。殆どが内外面共回転ナデ調整、底部回転糸切されるものである。内面ミガキ調整されるものは108の1点のみである。

〈礫・石器〉1点を掲載した。115は被熱礫片である。

〈炭化種子〉炭化種子同定の結果、イネ、オオムギ、ヒエ、エゴマなどが出土している。

時期 炭化材の放射性炭素年代測定結果と、出土遺物の時期を考慮すると、本遺構の時期は、9世紀後半代～10世紀代と判断される。

#### SK07土坑（第52図、写真図版56）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 2 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、黒褐色の円形プランとして確認した。

〈規模・形状〉平面形は開口部径0.84m×0.78mの円形を呈する。断面形は浅い逆台形状を呈し、深さは最深部で11.2cmを測る。

〈埋土〉黄褐色シルトブロックを含む黒褐色シルトの単層である。

遺物（第75図、写真図版68）

〈土師器〉6点を掲載した。内訳は坏5点、高台付坏1点である。坏は外面回転ナデ調整後、下端に回転ケズリによる再調整を持ち、内面ミガキ+黒色処理、底部回転糸切されるもの（116）と、内外面共に回転ナデ調整されるもの（117）の両者が出土している。

〈炭化種子〉炭化種子同定の結果、イネ、オオムギなどが出土している。

時期 出土遺物から、本遺構の時期は、9世紀後半代～10世紀初頭と判断される。

#### SK08土坑（第50図、写真図版53）

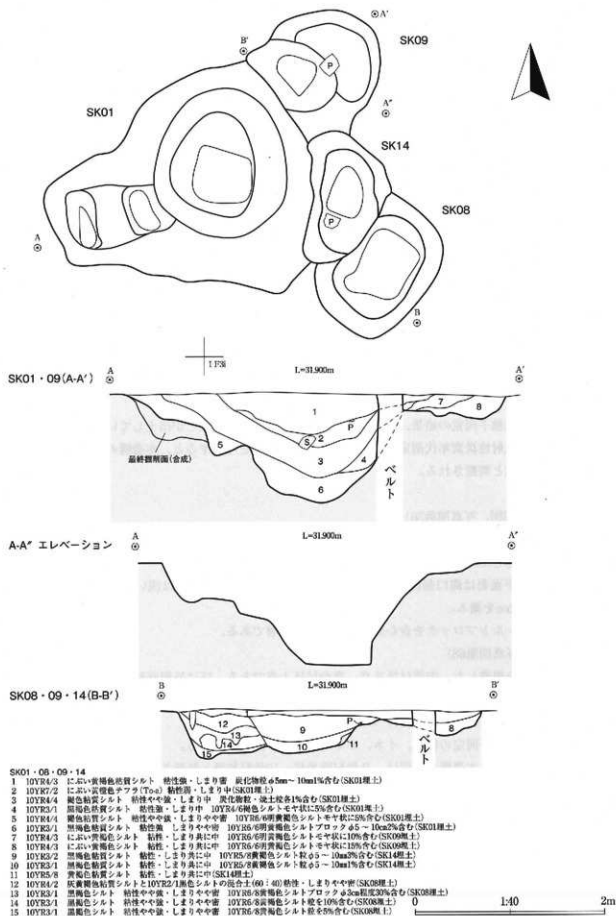
〈位置・検出状況〉西側調査区、II F 2 i グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、褐色プランとして確認した。SK14と重複しこれに切られる。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.57m×1.18mの楕円形を呈す。深さは最深部で51.6cmを測る。

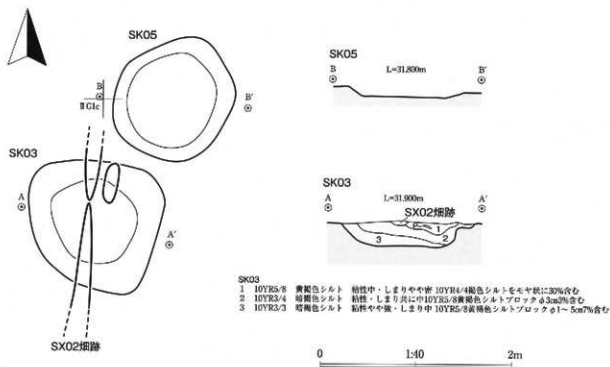
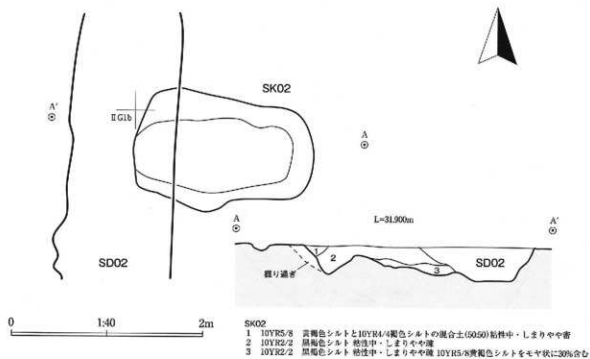
〈埋土〉4層からなり粘性のやや強い黒褐色シルトと黄褐色シルトの混合土主体で構成される。埋土



3 検出遺構

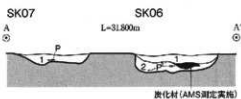
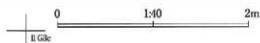
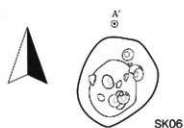
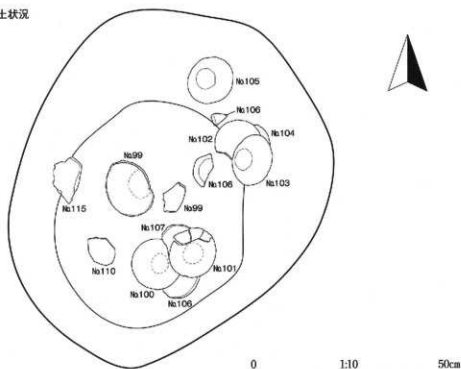


第50図 SK01・08・09・14



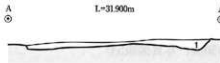
3 検出遺構

SK06遺物出土状況



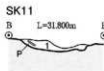
- SK06
- |   |         |        |           |  |
|---|---------|--------|-----------|--|
| 1 | 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 粘粒・しまり共に中 | 10YR6の明黄褐色シルトブロックφ3cm1%粘土混φ5mm2%φ炭化岩ブロックφ3cm3%含む |
| 2 | 10YR2/3 | 黒褐色シルト | 粘粒・しまり共に中 |  |
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色シルト | 粘粒・しまり共に中 | 10YR5/4に多い黄褐色シルトモヤ状に20%φ焼土ブロックφ1~3cm2%含む         |

第52図 S K06・07



SK04

1 10YR4/4 褐色シルト～粘性中・しまりやや密～10YR5/8褐色シルトブロックφ1～5cm5%含む

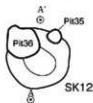
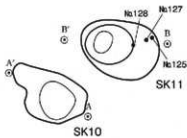
SK10  
L=31.800mSK11  
L=31.800m

SK10

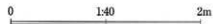
1 10YR3/4 暗褐色シルトと10YR5/2明黄褐色シルトの混合土(60:40)粘性やや強・しまりやや密

SK11

1 10YR3/2 暗褐色シルト～粘性やや強・しまり中 10YR7/6明黄褐色シルトブロックφ3～10cm20% 炭化物粒・焼土粒φ1cm1%程度含む



SK12

1 10YR3/2 暗褐色シルト～粘性中・しまりやや強 10YR5/6黄褐色シルトブロックφ3cm1%含む  
2 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性やや強・しまり中

第53図 SK04・10～12

の状況から人為堆積と判断される。

遺物（写真図版68）

〈土師器〉1点を掲載した。122は埋土から出土した坏である。

〈出土遺物・時期〉出土遺物・重複関係などから、9世紀代の遺構と推測される。

#### SK09土坑（第50図、写真図版53）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II F 2 i グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、褐色プランとして確認した。SK01・14と重複している。SK01に切られ、SK14との新旧は不明である。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.46m×1.39mの楕円形を呈する。長径は残存値である。断面は皿形を呈すると思われる。深さは最深部で39.4cmを測る。

〈埋土〉2層からなり、上位は粘性のやや強いにぶい黄褐色シルト、下位は黒褐色シルトで構成され、明黄褐～褐色シルトブロックをモヤ状に含んでいる。埋土の状況から人為堆積と判断している。

遺物（第75図、写真図版68）

〈土師器〉1点を掲載した。123は埋土下位から出土した録である。

〈出土遺物・時期〉出土遺物・重複関係などから、9世紀代の遺構と推測される。

#### SK10土坑（第53図、写真図版54）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 1 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、暗褐色の円形プランとして確認された。

〈規模・形状〉平面形は開口部径0.86m×0.53mの楕円形を呈し、深さは最深部で14.4cmを測る。

〈埋土〉単層で、暗褐色土を主体とした明黄褐色土との混合土からなる。

〈出土遺物・時期〉出土遺物がない為、積極的な根拠はないが、埋土の状況から判断して平安時代の可能性がある。

#### SK11土坑（第53図、写真図版56）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 1 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、黒褐色円形プランとして確認された。

〈規模・形状〉平面形は開口部径0.85m×0.61mの楕円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で34.8cmを測る。

〈埋土〉黄褐色シルトを含む黒褐色シルトの単層である。埋土中に炭化粒、焼土粒を少量含む。

遺物（第75・76図、写真図版68）

〈土師器〉6点を掲載した。内訳は坏3点、小形甕2点、甕1点である。125は外面回転ナデ調整・内面ミガキ調整され、底部縁辺ヘラケズリ再調整される。内外面回転ナデ調整のものもみられる(126)。

〈須恵器〉1点を掲載した。130は底面から出土した甕壺類片である。

〈時期〉出土遺物から9世紀前半代と推測される。

#### SK12土坑（第53図、写真図版56）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 2 b グリッドに位置する。検出面はⅢ層上位で、黒褐色の円形プランとして確認した。Pit35・pit36と重複し、これらに切られる。

〈規模・形状〉平面形は開口部径0.7m×0.61mの円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは最深部

で20.6cmを測る。

〈埋土〉2層からなる。埋土上位は黒褐色シルト、埋土下位は黄褐色シルト主体で構成される。

遺物

〈炭化種子〉炭化種子同定の結果、イネ、オオムギ、コムギなどが出土している。

時期 時期決定できるような共存遺物がない為、積極的な根拠はないが、埋土の状況から判断して平安時代と推測される。

#### SK13土坑（第54図、写真図版55）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 3 b グリッドに位置する。検出面はIII層上面である。SD03、SX01性格不明土坑、SX02細跡と重複し、後2者によって切られる。SD03との新旧は不明である。1号性格不明土坑の精査中に楕円形の窪みとして確認したものである。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.38m×(0.45)mの楕円形基調を呈し、深さは最深部で14.2cmを測る。断面形は皿状を呈する。

〈埋土〉SX01性格不明土坑の精査中に、同遺構埋土と誤認して掘削したため、埋土の記録を欠く。

〈出土遺物・時期〉出土遺物がない為、積極的な根拠はないが、重複・規模・位置関係等から判断して平安時代の可能性がある。

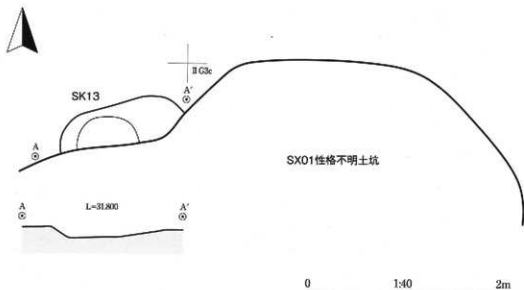
#### SK14土坑（第50図、写真図版54）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II F 2 i グリッドに位置する。検出面はIII層上位で、褐色プランとして確認した。SK01・SK08・SK09と重複し、SK01に切られ、SK08を切っている。SK09との新旧は不明である。

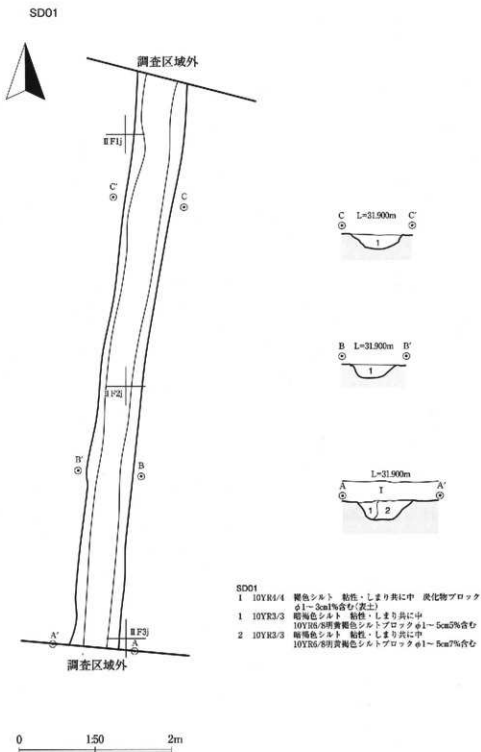
〈規模・形状〉平面形は開口部径1.42m×0.86mの不整楕円形を呈する。深さは最深部で50.6cmを測る。

〈埋土〉3層からなり、黄褐色シルト粒を含む黒褐色粘質シルト主体で構成される。埋土の状況から人為堆積と判断している。

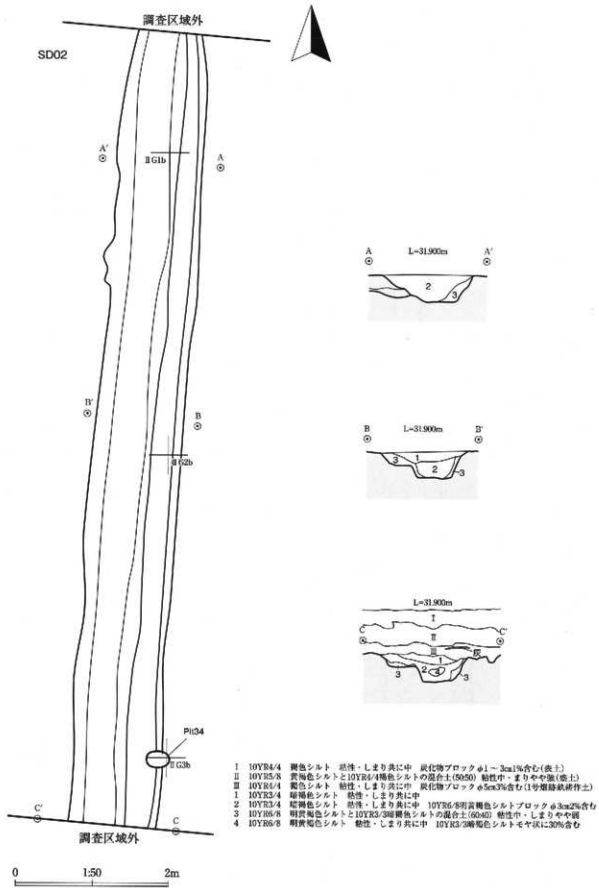
遺物（第76図、写真図版69）



第54図 SK13

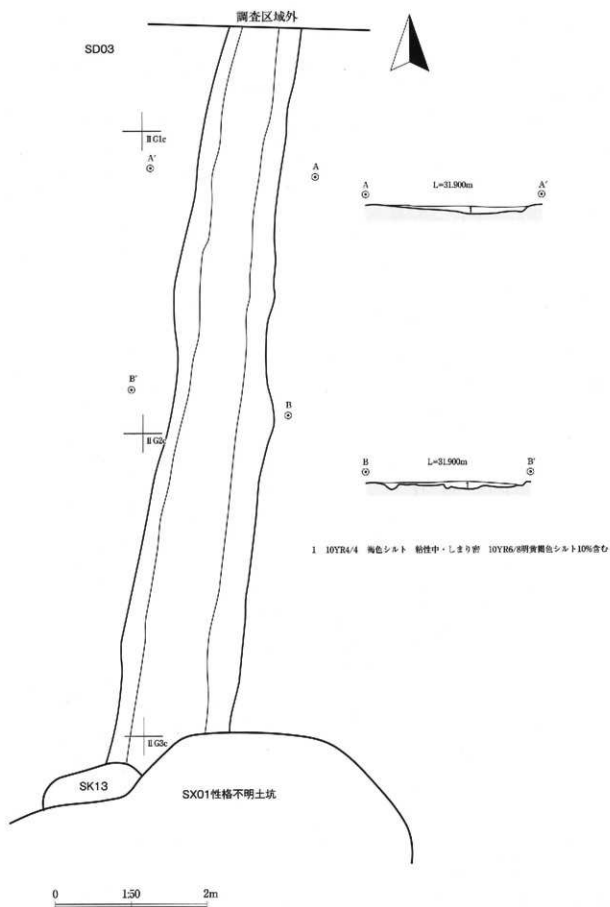


第55図 SD01

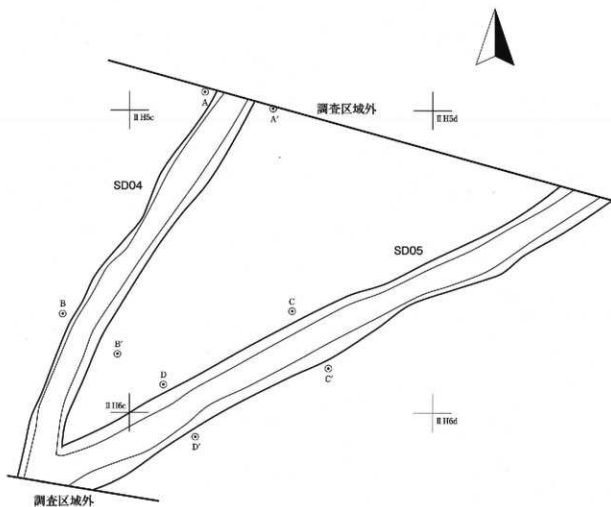


第56図 SD02





第57図 SD03

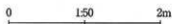


## SD04・05(共通)

a 10YR4/3 に近い黄褐色粘質シルト 粘性やや強・しまりやや密(表土)

b 10YR5/6 黄褐色シルト 粘性中・しまり密(水田床土)

I 10YR4/1 黒灰色粘質シルト 粘性強・しまり密



第58図 SD04・05

〈須恵器〉1点を掲載した。131は埋土下位から出土した甕壺類片で、S I 01出土破片と接合している。

〈炭化種子〉炭化種子同定の結果、オニグルミ、イネ、オオムギなどが出土している。

時期 出土遺物・重複関係などから、9世紀代の遺構と推測される。

#### (4) 溝

##### SD01溝 (第55図、写真図版57)

〈位置・検出状況〉西側調査区、II F 1 j グリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上面で、褐色の帯状プランとして確認した。北端部・南端部は調査区外にかかる。

〈規模・形状〉調査区内における長さは約9m、幅67cm～80cmを測り、南北方向に直線状に延びる。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で29cmを測る。

〈埋土〉褐色シルト主体で構成され、自然堆積を呈する。

〈出土遺物・時期〉遺物が出土していないため、時期など詳細は不明である。

##### SD02溝 (第56図、写真図版57)

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 1 a グリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上面で、暗褐色の帯状プランとして確認した。北端部・南端部は調査区外にかかる。SK02と重複し、これを切る。

〈規模・形状〉調査区内における長さは約10m、幅1.1～1.25mを測り、南北方向に直線状に延びる。断面形は皿状～逆台形状を呈し、西側に幅50cm前後の段を持つ。深さは最深部で37.6cmを測る。

〈埋土〉4層に細分され、明黄褐色シルトブロックを含む暗褐色シルト主体で構成される。

遺物 (第76図、写真図版69)

〈土師器〉4点を掲載した。内訳は坏1点、小形甕1点、甕2点である。

〈須恵器〉2点を掲載した。136は埋土上位から出土した甕壺類片である。137は大甕片である。

時期 出土遺物からは古く見て9世紀代まで遡る可能性がある。

##### SD03溝 (第57図、写真図版58)

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 1 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で、褐色の帯状プランとして確認した。北端部・南端部は調査区外にかかる。SK05～07・10・13・SX01性格不明土坑と重複している。SX01性格不明土坑に切られるほかは、これらより新しい。但し、SK13との新旧は不明である。

〈規模・形状〉調査区内における長さは約9.7m、幅0.96～1.6mを測り、南北方向に直線状に延びる。横断面形は皿状を呈し、深さは最深部で13.2cmを測る。

〈埋土〉褐色シルト主体の単層である。

遺物 (第76図、写真図版69)

〈土師器〉2点を掲載した。内訳は坏1点、甕1点である。

〈須恵器〉1点を掲載した。140は坏片である。

時期 出土遺物からは古く見て9世紀代まで遡る可能性がある。

##### SD04溝 (第58図、写真図版58・59)

〈位置・検出状況〉東側調査区、II H 5 c グリッドほかに位置する。褐灰色のV字状プランとして確認した。検出面は水田床土直下のⅢ層上面である。北端部は調査区外に延び、南端はSD05と合流し

て更に南西方向に延びる。両者の新旧はほぼ同時期と考えられる。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは、約5.6m、幅0.38～0.51mを測り、北東-南西方向に直線的に延びる。断面形は皿状を呈し、深さは最深部に13cmを測る。

〈埋土〉褐灰色粘質シルトの単層である。

〈出土遺物・時期〉遺物が出土しておらず、時期など詳細は不明である。

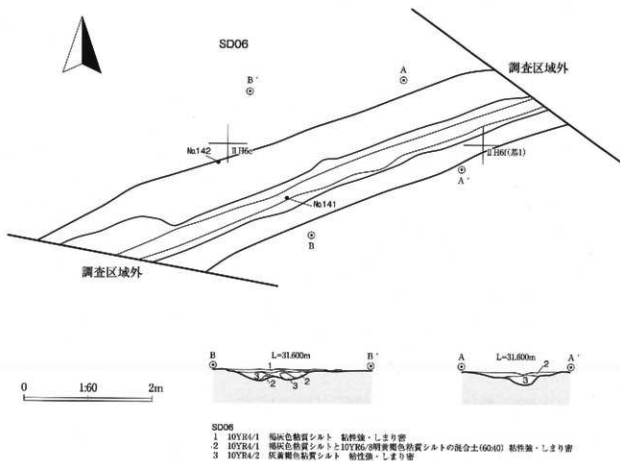
#### S D05溝 (第58図、写真図版59)

〈位置・検出状況〉東側調査区、ⅡH5dグリッドほかに位置する。褐灰色のV字状プランとして確認した。検出面はⅢ層上面である。北端部は調査区外に延び、南端はS D04と合流して更に南西方向に延びる。両者の新旧はほぼ同時期と考えられる。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは約8m、幅0.39～0.7mを測り、北東-南西方向に直線的に延びる。断面形は皿状を呈し、深さは最深部に18.2cmを測る。

〈埋土〉褐灰色粘質シルトの単層である。

〈出土遺物・時期〉遺物が出土しておらず、時期など詳細は不明である。



第59図 S D06

## SD06溝 (第59図、写真図版59)

〈位置・検出状況〉東側調査区、ⅡH6eグリッドに位置する。褐灰色の帯状プランとして確認した。検出面はⅢ層上面である。北東側・南西側は調査区域外に延びる。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは、約7m、幅1.2~1.7mである。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で19cmを測る。

〈埋土〉3層に細分され、褐灰~灰黄褐色の粘質シルトを主体として構成される。

遺物 (第76図、写真図版69)

〈須恵器〉2点を掲載した。内訳は坏1点、大甕1点である。

時期 出土遺物からは古く見て9世紀代まで遡る可能性がある。

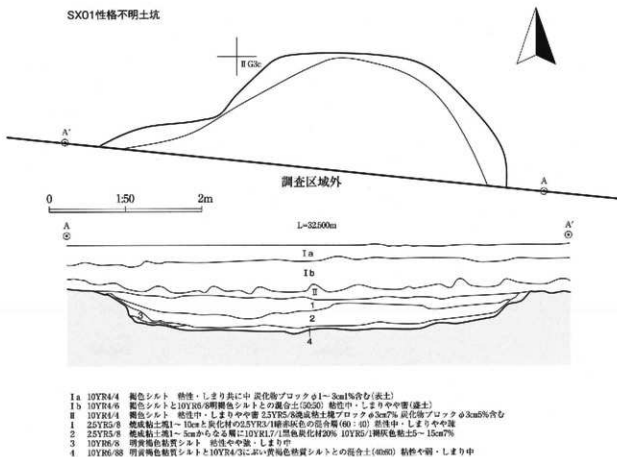
## (5) その他

## SX01性格不明土坑 (第60図、写真図版60)

〈位置・検出状況〉西側調査区、ⅡG3cグリッドに位置する。炭化材小片と焼成粘土塊を多量に含む黒褐色の不整形プランとして確認した。南半部は調査区外にかかる。検出面はⅢ層上面である。SX02畑跡と重複し、これにより切られる。また、SK13・SD03と重複し、これらを切る。

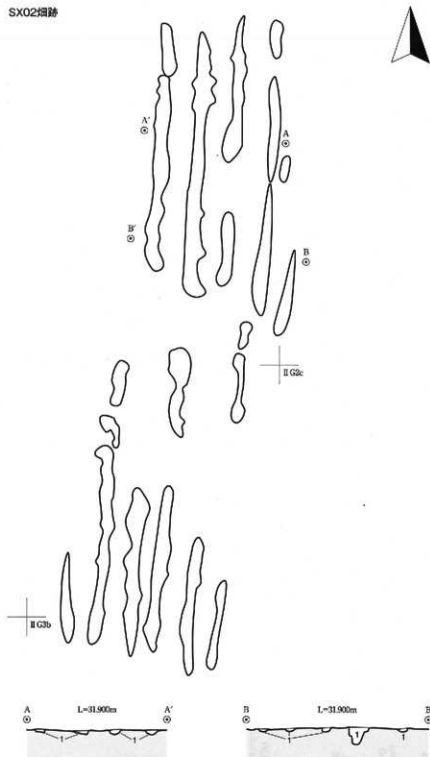
〈規模・形状〉調査区域内における形状は、開口部径1.5×5.3mの不整形円形である。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で52cmを測る。

〈埋土〉4層に細分される。1層、2層は焼成粘土塊、炭化材が多量に含まれる。



第60図 SX01性格不明土坑

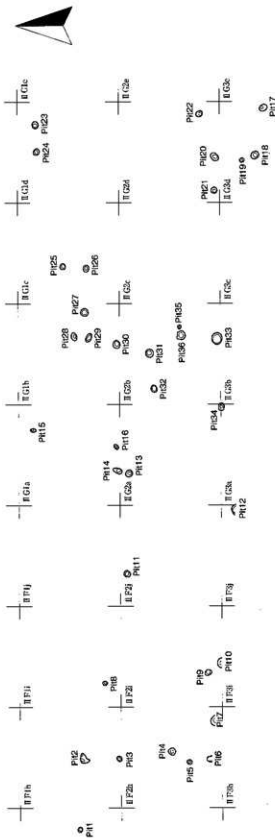
SX02 遺跡



1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり劣に中 10YR5/4に濃い黄褐色シルトブロックφ2～3cm全体に20%含む(成層基層上)

0 1.60 2m

第61図 SX02遺跡

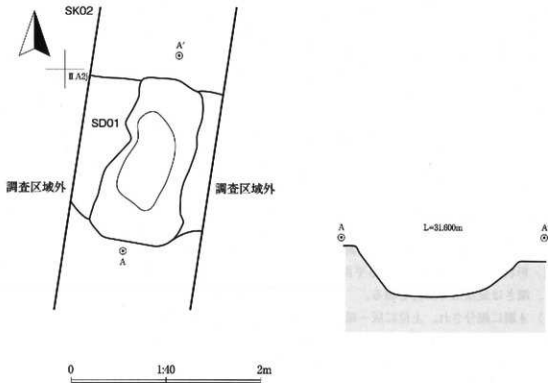
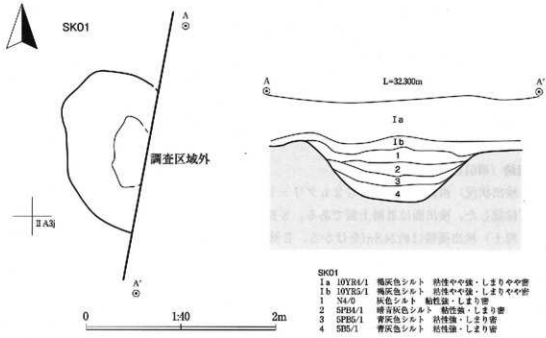


第62図 柱穴

西反田Ⅰ遺跡柱穴計測表

No.	長径 (cm)	短径 (cm)	幅 (cm)	底面幅 (cm)	底面幅高 (m)	底面幅高 (m)
1	21	15	42	31.25	19	31.45
2	42	27	58	31.13	20	31.47
3	22	19	52	31.21	21	31.50
4	29	36	49	31.26	22	31.60
5	21	18	42	31.32	23	31.56
6	(25)	25	14	31.61	24	31.56
7	(41)	(33)	33	31.45	25	31.49
8	19	17	37	31.34	26	31.53
9	27	21	28	31.46	27	31.47
10	38	(31)	39	31.38	28	31.50
11	27	24	22	31.53	29	31.35
12	43	(33)	34	31.41	30	31.57
13	29	26	27	31.44	31	31.53
14	37	20	33	31.36	32	31.23
15	23	14	20	31.45	33	31.56
16	22	15	16	31.55	34	31.22
17	33	25	67	31.09	35	31.56
18	34	28	50	31.26	36	31.41

※ ( )は推定値



第63図 SK01・02



遺物（写真図版70）

〈陶磁器〉1点が出土した。143は埋土下位から出土した碗片である。

〈土製品〉埋土中から多量の焼成粘土塊が出土している。内、一部を掲載した。

〈炭化材〉埋土中から多量の炭化材が出土している。一部は完全に炭化しておらず、生焼けの状態である。材質は樹種同定の結果、アカマツ・ホウノキであることが判明した。

時期 出土遺物から、近世末～近代にかけての遺構と考えられる。

SX02畑跡（第61図、写真図版60）

〈位置・検出状況〉西側調査区、II G 2 b グリッドほかに位置する。褐色シルトの連続する筋状プランとして確認した。検出面はⅢ層上面である。SK03・SK12と重複し、これらを切る。

〈面積・埋土〉検出面積は約24.8㎡をはかる。II層暗褐色層を畑耕作上とする畝間に堆積した褐色シルトが筋状に列をなすもので、畝の長軸方向は南北である。畝幅は約50cmである。

時期 断面観察により、SX01性格不明土坑上に畝耕作土が延びることが確認された。このことから、近代以降の畑跡と断定している。

柱穴（第62図）

〈位置・検出状況〉調査区全域から36基の柱穴を検出している。規模は径16～47、深さ14～67cmの範囲に収まるもので、建物を構成するような配置は特に見出せない。埋土は暗褐色～黒褐色シルト主体で構成される。埋土から遺物は出土していない。個々のPit計測値については別表に掲載している。

時期 遺物が出土していないため、時期など詳細は不明である。埋土の状況から、多くは近世・近代に属するものとみられるが、古代のものも一部混在する可能性がある。

四反田Ⅱ遺跡

(1) 土 坑

SK01土坑（第63図、写真図版61）

〈位置・検出状況〉調査区南側、II A 2 j グリッドに位置する。灰色の半円状プランとして確認した。SD03と重複しこれを切る。東半部は調査区外にかかる。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉調査区域内における平面形は開口部径1.6m×0.9mの半円状を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは最深部で50cmを測る。

〈埋土〉4層に細分され、上位に灰～暗灰色粘質シルト、中位～下位に青灰色の粘質シルトが堆積する。いずれも粘性・しまりが強く、水分を多く含んで還元色を呈する。

遺物（第77図、写真図版67）

〈陶磁器〉2点を掲載した。内訳は皿1点、火鉢1点である。

〈木製品〉5点を掲載した。内訳は下駄2点、加工痕ある木片3点である。

〈須恵器〉甕壺類が1点出土している。

時期 出土遺物から、近世の遺構と考えられる。

## S K02土坑 (第63図、写真図版61)

〈位置・検出状況〉調査区南側、II A 2 j グリッドに位置する。S D01と重複するが新旧関係は不明である。湧水が著しく、ポンプを稼働しながら調査を行っている。検出面はⅢ層である。

〈規模・形状〉平面形は開口部径1.8m×1.1mの楕円形を呈する。Ⅲ層上面からの深さは最深部で62cmを測る。

〈埋土〉S D01埋土と誤認して掘削してしまったため、埋土の記録を欠く。

〈出土遺物・時期〉遺物は出土しておらず、詳細は不明である。遺構の重複関係などから、近世の遺構であると考えられる。

## S K03土坑 (第64図、写真図版61)

〈位置・検出状況〉調査区南側、II A 1 j グリッドに位置する。褐灰色の溝状プランとして確認した。西半部は調査区外にかかる。Pit 3と重複しこれに切られる。検出面はⅡ層上面である。

〈規模・形状〉調査区内における平面形は開口部径1.1m×0.62mの半楕円形を呈する。短軸の断面形はU字形で、深さは最深部で34.4cmを測る。

〈埋土〉2層に細分され、粘性・しまりの強い灰色粘質シルトで構成される。

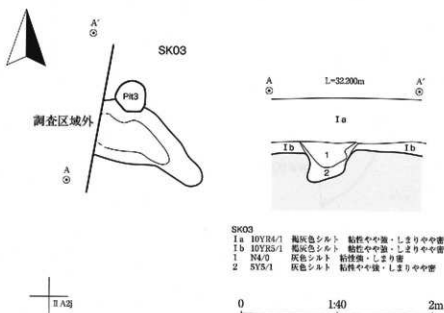
〈出土遺物・時期〉検出層位から判断すれば、近現代の可能性はある。

## (2) 溝

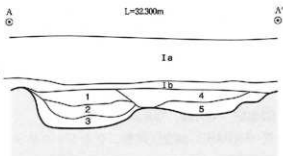
## S D01溝 (第65図、写真図版62)

〈位置・検出状況〉調査区南側、II A 2 j グリッドはかに位置する。検出面はⅢ層上面で、東西方向に延びる灰色の帯状プランとして確認した。東側・西側は調査区外へかかる。S K02・S D02と重複し、S D02に切られる。S K02との新旧は不明である。

〈規模・形状〉調査区内における長さは、約1.4m、溝幅1.24m、深さは最深部で23cmを測る。断面形は皿状を呈する。

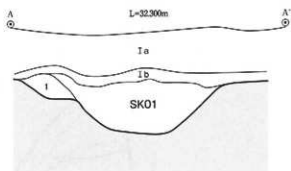
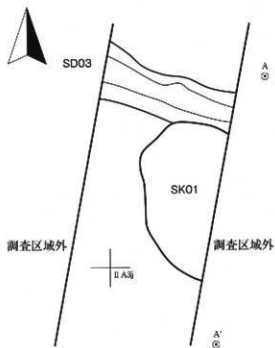
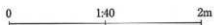


第64図 S K03



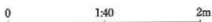
SD01・02共通

- Ia 10YR4/1 褐色シルト 粘性や中強・しまりやや密(表土)
- Ib 10YR5/1 褐色シルト 粘性や中強・しまりやや密
- 1 N4/0 灰色シルト 粘性强・しまり密(SD01)
- 2 5PB4/1 暗青灰色シルト 粘性强・しまり密
- 3 5PB3/1 暗青灰色シルト 粘性强・しまり密 炭化物粒5%含む(SD01)
- 4 N5/0 灰色シルト 粘・しまり中(SD02)
- 5 5PB3/1 暗青灰色シルト 粘性・しまり中 炭化物粒10%含む(SD02)

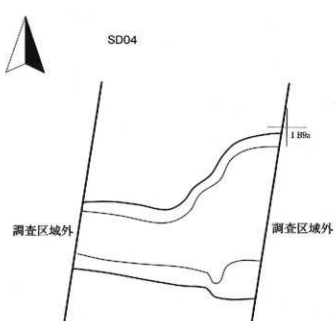


SD03

- Ia 10YR4/1 褐色シルト 粘性や中強・しまりやや密(表土)
- Ib 10YR5/1 褐色シルト 粘性や中強・しまりやや密
- 1 5PB4/1 暗青灰色シルト 粘性强・しまり密

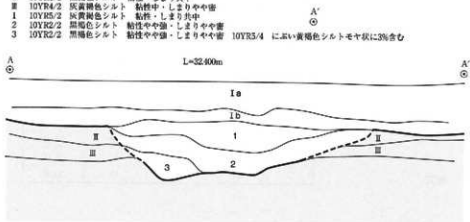


第65図 SD01~03



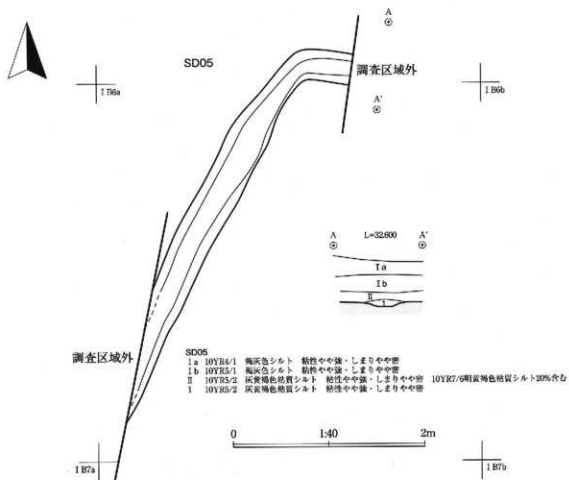
## SD04

- Ia 10YR4/1 褐色シルト 粘性中や強・しまりやや密(表土)  
 Ib 10YR5/1 褐色シルト 粘性・しまりやや密  
 II 10YR3/1 黒褐色シルト 粘性・しまり中  
 III 10YR4/2 灰黄褐色シルト 粘性中・しまりやや密  
 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト 粘性・しまり中  
 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中や強・しまりやや密  
 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中や強・しまりやや密 10YR5/4 におい黄褐色シルトモヤ状に3%含む



0 1:30 1m

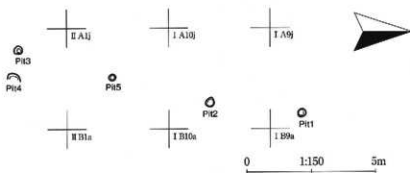
第66図 SD04



四反田Ⅱ遺跡柱穴計測表

№	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	底面標高 (m)
1	34	30	18	31.51
2	38	33	12	31.55
3	34	32	48	31.01
4	53	23	11	31.47
5	28	25	13	31.39

柱穴



第67図 SD05、柱穴

〈埋土〉3層に細分され、灰～暗青灰色の粘質シルト主体で構成される。第3層に炭化物粒を含む。  
 〈出土遺物・時期〉遺物は出土しておらず、詳細は不明である。埋土の状況などから判断して、近世の遺構であると考えられる。

#### SD02溝 (第65図、写真図版62)

〈位置・検出状況〉調査区南側、II A 1 j グリッドほかに位置する。検出面はⅢ層上面で、東端部・西端部は調査区外へかかる。SD01と重複しこれを切る。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは、約1.4m、溝幅1.62m、深さは最深部で19cmを測る。断面形は皿状を呈する。

〈埋土〉2層に細分され、灰～暗青灰色の粘質シルト主体で構成される。第5層に炭化物粒を含む。  
 〈出土遺物・時期〉遺物は出土しておらず、詳細は不明である。埋土の状況などから判断して、近世の遺構であると考えられる。

#### SD03溝 (第65図、写真図版62)

〈位置・検出状況〉調査区南側、II A 2 j グリッドほかに位置する。東端部・西端部は調査区外へかかる。検出面はⅢ層上面である。SK01と重複し、これに切られる。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは、約1.4m、溝幅0.6m～0.8m、深さは最深部で14cmを測る。断面形は皿状を呈する。

〈埋土〉暗青灰色シルトの単層である。  
 〈出土遺物・時期〉遺物が出土していないため、詳細は不明である。埋土の状況などから判断して、近世の遺構であると考えられる。

#### SD04溝 (第66図、写真図版62)

〈位置・検出状況〉調査区中央、I A 9 j グリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で、灰黄褐色の帯状プランとして確認した。東端部・西端部は調査区外にかかる。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは、約1.5m、溝幅は1.3m、深さ11cm、断面形は皿状を呈する。平面形は東西に直線状に延びる。西半部は削平のため溝幅を減じている。

〈埋土〉3層に細分され、上位は灰黄褐色、下位は黒褐色シルト主体で構成される。第3層に黄褐色シルト粒を少量含む。  
 〈出土遺物・時期〉出土遺物がないため、詳細は不明である。

#### SD05溝 (第67図、写真図版62)

〈位置・検出状況〉調査区北側、II A 1 j グリッドに位置する。黄褐色の帯状プランとして確認した。東端部・西端部は調査区外にかかる。検出面はⅢ層上面である。

〈規模・形状〉調査区域内における長さは約3.8m、溝幅25cm～45cm、深さ8cmを測り、皿状を呈する。平面形は南西～北東方向に延び、その後東側へ屈曲する。

〈埋土〉灰黄褐色粘質シルトの単層である。  
 〈出土遺物・時期〉遺物が出土していないため、詳細は不明である。

## 柱穴 (第67図、写真図版62)

(位置・検出状況) 調査区全域から5個の小柱穴を検出している。検出面はⅢ層上面である。規模は径28～53cm、深さ11～48cmの範囲に収まるもので、建物を構成するような配置は特に見出せない。埋土は暗褐色～黒褐色土主体で構成される。埋土から遺物は出土していない。

時期 遺物が出土していないため、時期など詳細は不明である。埋土の状況から、近世・近代に属するものとみられるが、現代のものも一部混在する可能性がある。

SI01 Pit計測表

No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
pit1	187	153	37	31.31
pit2	71	68	15	31.45
pit3	34	28	89	31.09
pit4	27	23	82	31.10
pit5	58	46	50	31.15
pit6	50	38	55	31.08
pit7	55	53	20	31.40
pit8	100	75	27	31.36
pit9	141	117	26	31.38
pit10	45	43	16	31.45
pit11	56	46	24	31.40
pit12	43	27	17	31.41
pit13	33	29	26	31.34
pit14	49	47	38	31.25
pit15	77	64	20	31.43
pit16	22	21	6	31.57
pit17	31	25	20	31.51
pit18	17	14	30	31.30
pit19	(34)	29	21	31.43
pit20	(39)	33	25	31.39
pit21	(34)	(28)	51	31.13
pit22	(59)	55	15	31.48
pit23	50	49	47	31.17
pit24	24	21	10	31.53
pit25	60	47	21	31.43

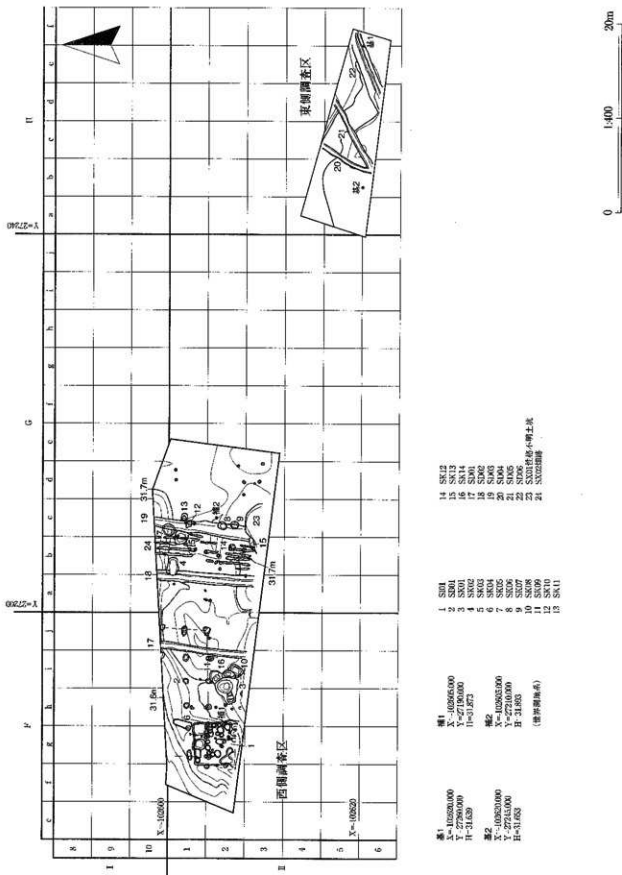
No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
pit26	40	37	9	31.55
pit27	75	65	18	31.47
pit28	40	37	18	31.46
pit29	40	38	24	31.40
pit30	18	16	31	31.29
pit31	79	64	33	31.29
pit32	42	26	14	31.48
pit33	26	16	32	31.31
pit34	18	15	7	31.56
pit35	41	19	31	31.35
pit36	25	19	36	31.25
pit37	(12)	12	10	31.49
pit38	71	46	10	31.50
pit39	15	13	10	31.48
pit40	25	22	13	31.53
pit41	25	19	32	31.35
pit42	22	19	14	31.52
pit43	46	42	58	31.10
pit44	90	65	19	31.47
pit45	82	43	18	31.36
pit46	(77)	71	24	31.43
pit47	(93)	(76)	28	31.41
pit48	159	91	12	31.48
pit49	21	6	8	31.56

※( )は推定値

SB01 Pit計測表

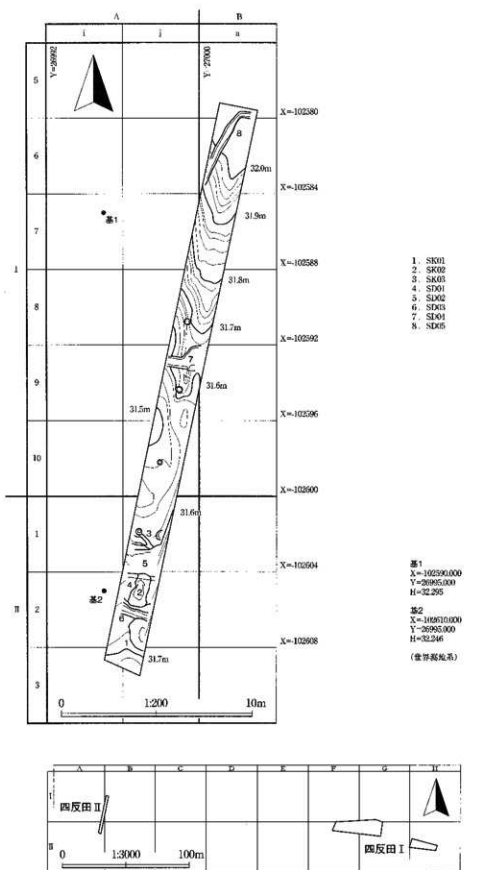
No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
pit1	73	58	55	31.14
pit2	37	53	38	31.36
pit3	104	44	39	31.23
pit4	34	51	49	31.19
pit5	61	59	64	31.06
pit6	33	54	40	31.30
pit7	76	59	45	31.29
pit8	105	55	61	31.18

No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)
pit9	55	40	50	31.12
pit10	44	34	56	31.08
pit11	62	51	57	31.07
pit12	62	47	58	31.15
pit13	35	45	44	31.30
pit14	78	51	52	31.24
pit15	100	67	55	31.22



第68図 四反田 I 遺跡遺構配置図





第69図 四反田 II 遺跡遺構配置図

## 4 出土遺物

## 四反田 I 遺跡

今回の調査による出土遺物の内訳は、土師器、須恵器、土製品、石器、陶磁器、その他である。総量は大コンテナ（40×30×30cm）でおよそ4箱分である。以下、種類ごとに概観する。

## 1 土師器・須恵器（第70～76図、写真図版63～72）

本道跡の土師器・須恵器は殆どが遺構内から出土している。総量は大コンテナでおよそ3箱分である。131点を掲載、96点を図示した。これらは器種・製作技法などの特徴から概ね9～10世紀代の特徴を持つものである。以下、器種毎に特徴を述べる。

## 【土師器】

坏 54点が出土しており、42点を図示した。製作に際してすべてにロクロが使用されている。以下、製作技法、器形、器面調整の特徴が確認できるものを次のようにまとめた。なお、残存状態が不良のもの、器面摩耗のため調整不明のものは除外している。

- ①底部全面がヘラケズリ調整され、切り離し技法は不明。体部回転ナデ後、下端にヘラケズリ調整を持つ。内面はミガキ調整後、黒色処理される：78
- ②底部全面が回転ヘラケズリ調整され、切り離し技法は不明。体部回転ナデ後、下端に回転ヘラケズリ調整を持つ。内面はミガキ調整後、黒色処理される：8・72・91・24？
- ③底部回転系切される。体部は回転ナデ後、下端が回転ヘラケズリ調整される。内面はミガキ調整後、黒色処理される：92・125・138
- ④底部回転系切されるもので、外面回転ナデ調整され、内面はミガキ調整後、黒色処理される：30・94・99・116
- ⑤底部回転系切されるもので、内外面共に回転ナデ調整のみのもの：66・100～107・109～111・119・121

器形については、A：底部から内湾して立ち上がる「碗形」を呈するもので、器高4cm以上のもの、B：底部からやや直線的に立ち上がり「浅い碗形」を呈するもので、器高4cm以下のもの、C：底部から直線的に外傾して立ち上がり「皿形」を指向するもの、に3大別できる（但し、Cの器形は破片のみで、全体の器形が判明するものは皆無）。

本道跡においては、Aの碗形を呈するものには①～⑤のすべての製作技法が当てはまり、Bの浅い碗形で器高4cm以下のもの、及びCの皿形を指向するものはすべて⑤の製作技法で製作されるという傾向が看取できる。これらは調整技法・器形の特徴から、器形Aが概ね9世紀代、器形Bが概ね9世紀後半～10世紀代、器形Cは10世紀前半代の特徴を備えていると捉えられる。

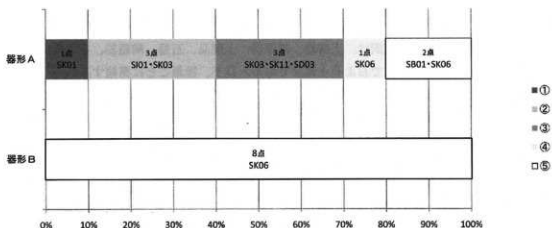
高台付坏 2点出土しており、すべて図示した。120は脚部と見られる。147は西端調査区東寄り、I層から出土した。外面回転ナデ、内面ミガキ・黒色処理される。

小形甕 10点出土しており、9点を図示した。すべて製作に際し、ロクロが使用されている。器形の判明するものは25・127の2点のみで、いずれも内外面共同回転ナデ調整される。底部は回転系切されるものが多い。

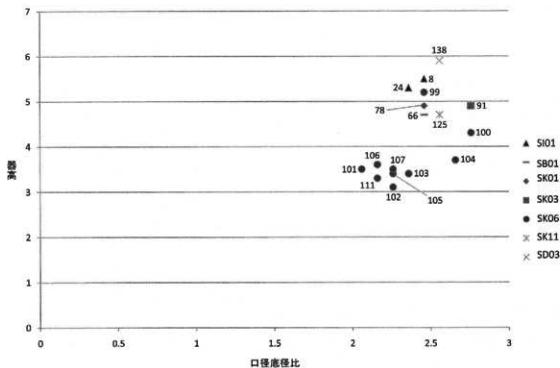
鉢 1点のみ出土している。123は製作に際しロクロが使用されており、外面回転ナデ後に体部下半ナデ、内面はミガキ調整・黒色処理される。外面下半部には炭化物が付着している。

甕 40点が出土しており、25点を図示した。製作に際し、ロクロを使用するもの（2・51・73）と、使用されないもの（4・5・12～14・19・22・28・31～33・39・44・45・47・49・52・53・68・114・

別表A 坏の器形と調整技法



別表B 坏の口径底径比：器高



129・139)の両者が存在する。全体の器形の判明するものは皆無である。前者は小片のため詳細は不明であるが、2は口縁部が「く」字状に屈曲して立ち上がり、端部が上方に引き出されるような形状を呈する。51は輪積み後のタタキ調整を経て胴下半部ケズリ調整されている。73の口縁部形状は頸部から外反しながら立ち上がり、口縁端部に上下にひきだされる。ロクロを使用しない甕の器面調整には、外面ケズリ・ナデ・ハケメ調整、内面ハケメ・ナデ調整等が用いられる。

#### 〔須恵器〕

坏 5点のみ出土しており、2点図示した。56はS I 01 Pit46埋土から出土した口縁部片である。83・86はS K 01から出土した底～体部にかけての破片である。

長頸瓶 1点のみ出土しており、図示した。21はS I 01Pit 2埋土から出土した口縁～肩部片である。  
 甕壺類 全体の器形、口縁部形状が不明のため、須恵器の坏と長頸瓶、大甕以外のものを甕壺類と一括している。9点出土しており、7点を図示した。

大甕 8点出土しており、7点を図示した。

## 2 土製品 (第72図、写真図版65)

7点を掲載、1点を図示した。60はS I 01Pit 23埋土から出土した土鍾である。57～59、61はS I 01床面Pit埋土から出土した焼成粘土塊である。径1.5～7cm、厚さ1.5～4cmほどで、胎土に植物繊維を含んでいる。焼成は良好で、明るい橙色を呈する。

## 3 石器 (写真図版65・67・70・72)

石器は7点が出土しており、すべて写真掲載した。内訳は石鎌1点、磨石1点、敲石1点、削器1点、削搔器1点である。そのほか、被熱礫がS K 01To-a下埋土下位とS K 06埋土下位から、楕円礫がS I 01床面Pit 1埋土下位からそれぞれ出土している (写真図版46・54)。

## 4 陶磁器 (写真図版70)

陶磁器は1点のみ出土している。143はS X 01性格不明土坑埋土下位から出土した鉢片である。

## 5 その他 (写真図版70)

その他遺物としてはS X 01性格不明土坑埋土から多量の炭化材が出土している。このうち、残存状態の良い炭化材2点の樹種同定を行っている。その結果、ホウノキとアカマツであることが判明した。また、S I 01、S K 06・07・12・14埋土から炭化種子が出土している (分析鑑定項参照)。

## 四反田Ⅱ遺跡

今回の調査による出土遺物の内訳は、陶磁器、木製品、土師器・須恵器、石器である。いずれも量は少なく、総量は大コンテナ (40×30×30cm) でおおよそ1箱分である。以下、種類ごとに概観する。

### 1 陶磁器 (写真図版72)

陶磁器は遺構外から5点出土し、全て写真掲載している。器種は皿3点、火鉢1点、播鉢1点である。すべて細片で、器形の判明するものはない。出土層位はI層である。これらはおおむね近世の特徴を持つ。

### 2 木製品・加工痕ある木片 (第77図、写真図版71)

木製品・加工痕ある木片はS K 01埋土から5点出土し、全て掲載している。3・4は下駄で、材質はクリである。3は子供用、4は成人用と思われる。5～7は加工痕のある木片で、クリ材である。これらはすべて同一遺構内から出土しており、その特徴などから近世のものと推測される。

### 3 土師器・須恵器 (写真図版72)

土師器・須恵器は遺構外から3点出土し、全て写真掲載している。いずれも細片であるが、これらは器種、製作技法などの特徴からおおむね9世紀代の特徴を持つ。

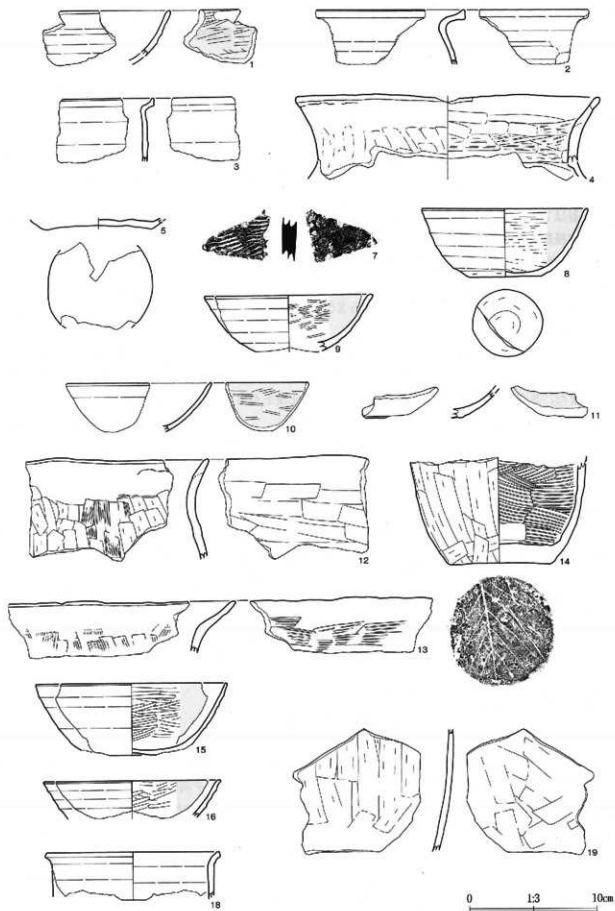
土師器甕：調査区南側から1点出土している。11は内外面共同転ナデ調整されている。

須恵器坏：4号溝埋土中から1点出土している。内外面共同転ナデ調整されている。

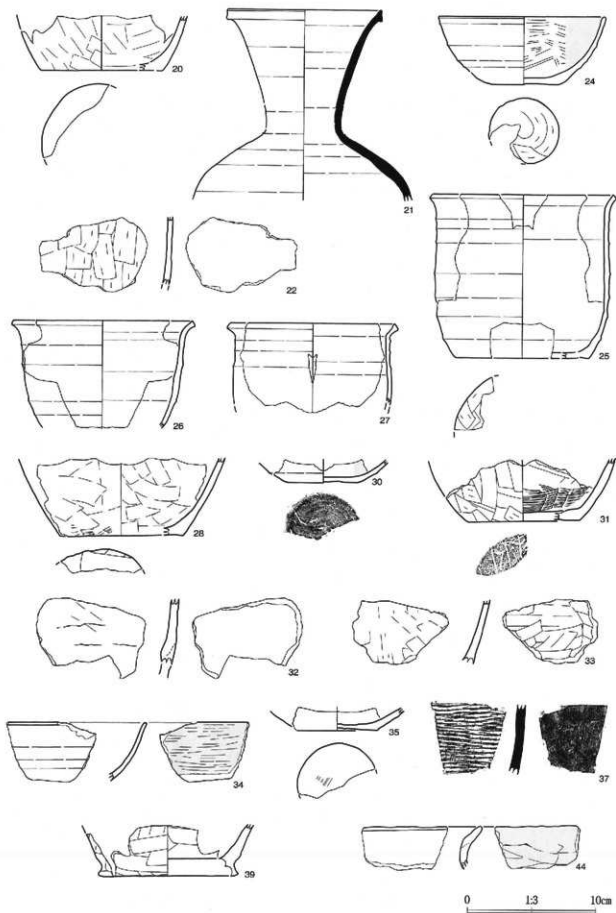
須恵器甕壺類：S K 01埋土中から1点出土している。外面は回転ナデ後にケズリ調整、内面はナデ調整されている。

### 4 石器 (写真図版72)

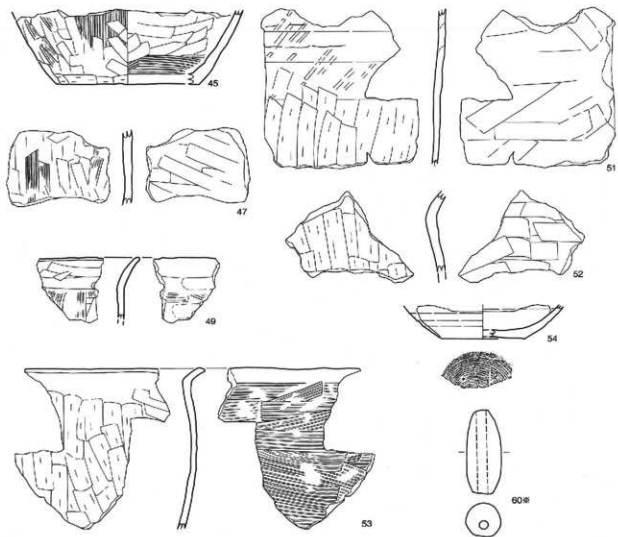
石器は調査区南側遺構外から2点出土しており、全て写真掲載した。12は砥石でひん岩を素材とする。13は頁岩製のフレイクである。



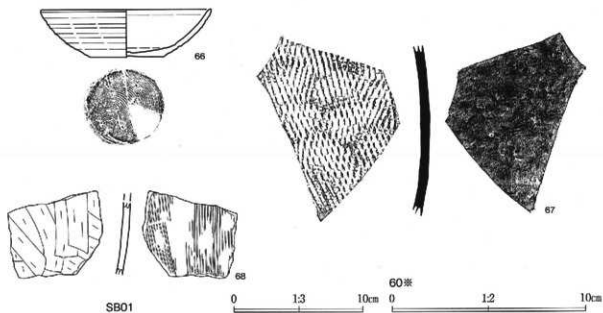
第70図 S101出土遺物(1)(四反田I遺跡)



第71圖 S101出土遺物(2)(四反田I遺跡)



S101

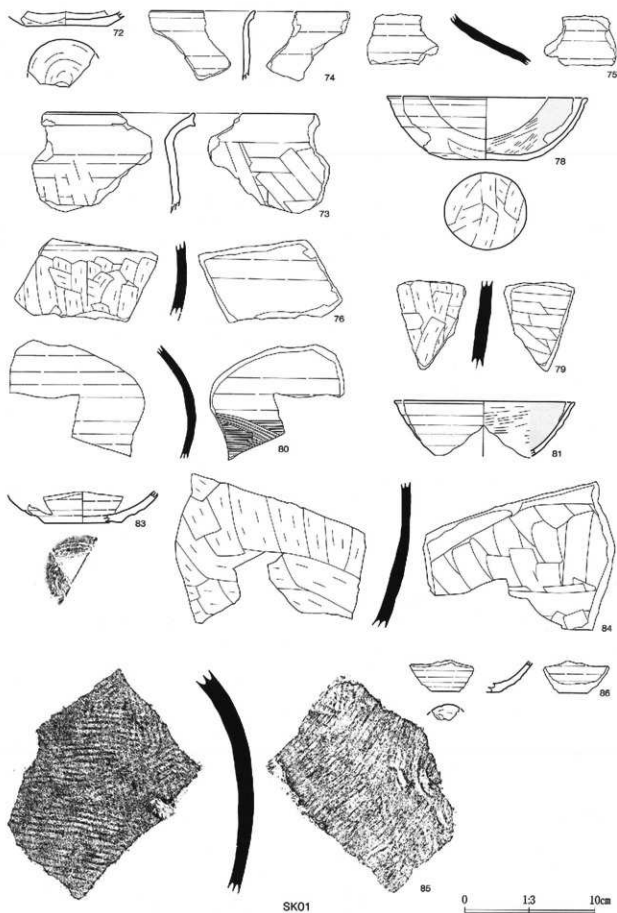


SB01

60mm

0 1.3 10cm 0 1.2 10cm

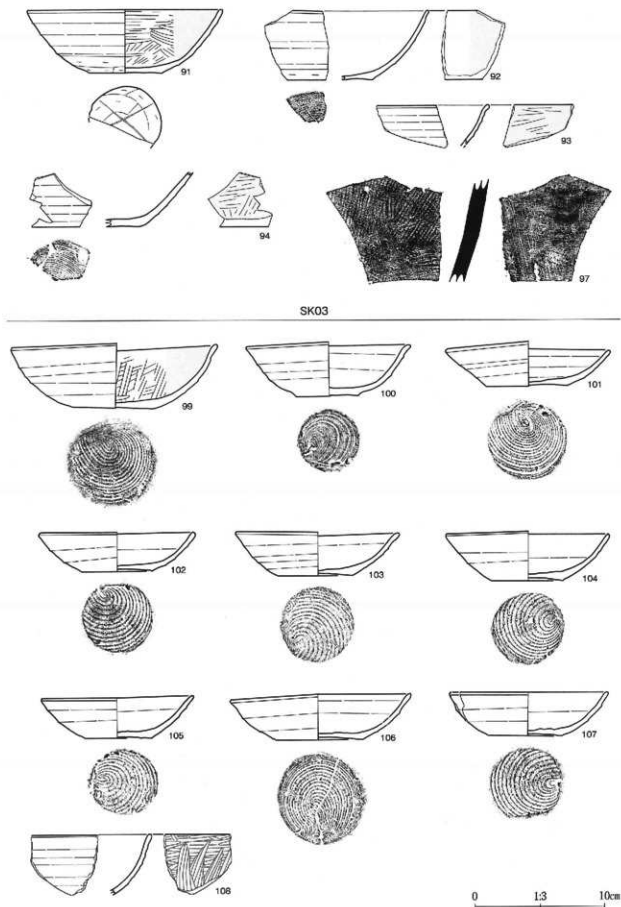
第72圖 S101(3)、SB01出土遺物(四反田I遺跡)



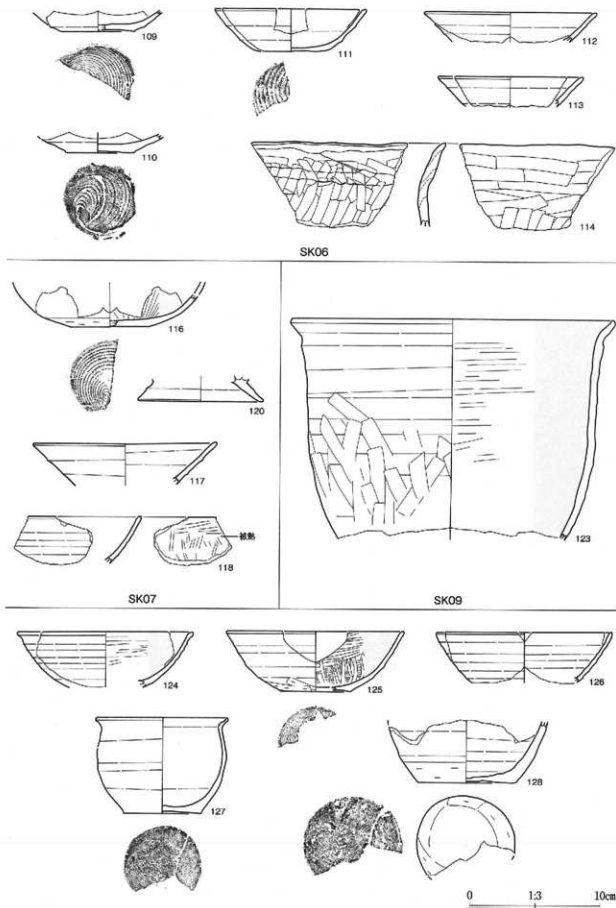
第73図 SK01出土遺物(四反田I遺跡)



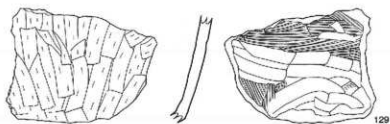
4 出土遺物



第74図 SK03・06(1) 出土遺物 (四反田I遺跡)

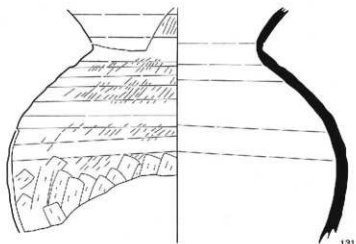


第75図 SK06 (2)・07・09・11 (1) 出土遺物 (四反田 I 遺跡)



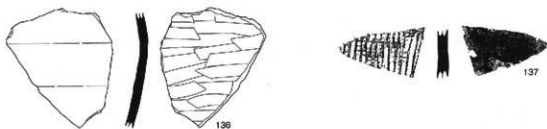
SK11

129



SK14

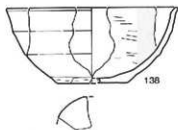
131



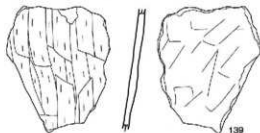
SD02

136

137



138



139

SD03



SD06

142

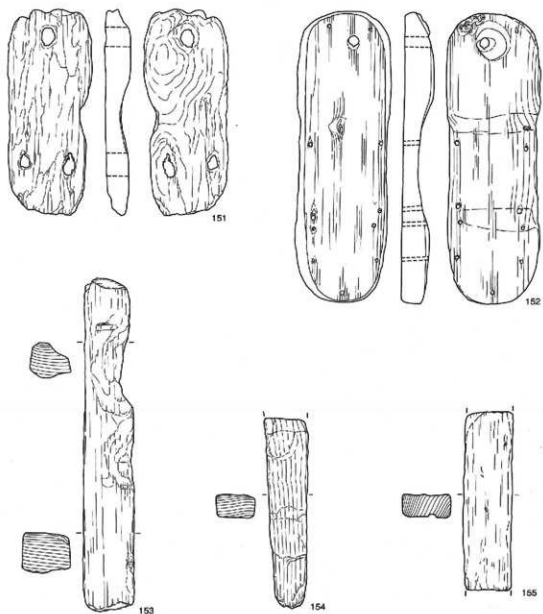


147

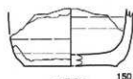
遺構外

0 1:3 10cm

第76図 SK11(2)・14、SD02・03・06、遺構外出土遺物(四反田I遺跡)



SK01



SD03

0 1.3 10cm

第77図 SK01、SD03出土遺物（四反田II遺跡）

第21表 土師器・須恵器観察表 (四反田1遺跡)

No.	所在地	種類	形状	保存部位	保存率	色感	土色外観(断面・口一帯)	底面	製作技法	器高 (cm)	備考
1	S501 Q10層下-1米	土師器 小形壺	口一帯 10% 土師器 口縁部 10%	10% 残存	黒い黄褐色	黒い土	土師器	土師器	口一帯	-	内面黒色染
2	S501 Q10層下-1米	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い土	土師器	土師器	-	-	-
3	S501 Q9層	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
4	S501 北米原層土下1.5米	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
5	S501 Q10層下-1米	土師器 壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	0.63	-
6	S501 Q10層下-1米	須恵器 須恵器	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	0.82	S1006印土質料と整合 S1006印土質料と整合
7	S501 Q9層	須恵器 須恵器	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
8	S501 p01 P3	土師器 小形壺	口一帯 70%	70%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	A	5.6	内面黒色染
9	S501 p01 P2	土師器 小形壺	口一帯 20%	20%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	A	-	内面黒色染
10	S501 p01 P1上	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
11	S501 p01 P1中	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
12	S501 p01 P1下	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
13	S501 p01 P3	土師器 壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
14	S501 p01 P1上	土師器 壺	口縁部 30%	30%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	7.9	0.32
15	S501 p02 P1上	土師器 小形壺	口一帯 50%	50%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	A	13.2	13.7
16	S501 p02 P1中	土師器 小形壺	口一帯 30%	30%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	14.0	3.0
17	S501 p02 P1下	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
18	S501 p02 P1上	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
19	S501 p02 P1中	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	13.9	3.7
20	S501 p02 P1下	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	0.93
21	S501 p02 P1上	須恵器 須恵器	口縁部 30%	30%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	1.20	14.7
22	S501 p02 P1中	須恵器 須恵器	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	14.7
23	S501 p02 P1下	須恵器 須恵器	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	14.7
24	S501 p02 P1上	土師器 小形壺	口一帯 30%	30%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	A	13.1	5.6
25	S501 p02 P1中	土師器 小形壺	口一帯 30%	30%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	①	14.1	10.2
26	S501 p02 P1下	土師器 小形壺	口一帯 20%	20%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
27	S501 p02 P1上	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
28	S501 p02 P1中	土師器 小形壺	口一帯 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	-
29	S501 p02 P1下	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
30	S501 p01 P1上	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染
31	S501 p01 P1中	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	0.82	13.9
32	S501 p02 P1上	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	0.82
33	S501 p02 P1中	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	14.0
34	S501 p02 P1下	土師器 小形壺	口縁部 10%	10%	残存	黒い黄褐色	土師器	土師器	-	-	内面黒色染

No	出土地点	形状	用途	保存状況	色調	主な外部装飾(目一帯)	主な内部装飾(目一帯)	底形	口径	高さ (cm)	備考
36	S01 p0252土	土器鉢 坪	体一底	20%	成装飾	黒灰ナマ	黒灰ナマ	不明	-	-	-
37	S01 p0253土	土器鉢 高	体底	10%	成装飾	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
38	S01 p0254土	土器鉢 大壺	体底	10%	成装飾	平打文タタキ	黒文タタキ	不明	-	-	-
39	S01 p0272土	土器鉢 深	体底	10%	成	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
40	S01 p0290土	土器鉢 浅	体一底	10%	成	タタキ	タタキ	不明	-	-	(11.6) (40) 内面土粒付と保存
41	S01 p0313土	土器鉢 深	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
42	S01 p0329土	土器鉢 浅	体底	10%	成	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
43	S01 p0338土	土器鉢 深	体底	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
44	S01 p0413土	土器鉢 深	口縁部	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
45	S01 p0437土	土器鉢 深	体一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
46	S01 p0438土	土器鉢 深	体底	10%	成装飾	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
47	S01 p0439土	土器鉢 浅	体底	10%	成	タタキ→黒灰	タタキ→黒灰	不明	-	-	(11.0) (55) 内面黒色装飾
48	S01 p0440土	土器鉢 深	体一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
49	S01 p0529土	土器鉢 小皿	口一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
50	S01 p0618土	土器鉢 深	口一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
51	S01 p0619 F	土器鉢 深	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
52	S01 p0619 F	土器鉢 深	体底	10%	成	タタキ→黒灰	タタキ→黒灰	不明	-	-	-
53	S01 p0619土	土器鉢 深	口一底	10%	成	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
54	S01 p0619土	土器鉢 坪	口一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
55	S01 p0619土	土器鉢 深	体一底	20%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
56	S01 p0619土	土器鉢 坪	体一底	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
57	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
58	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
59	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
60	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
61	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
62	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
63	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
64	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
65	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
66	S01 p0619土	土器鉢 坪	口縁部	10%	成装飾	タタキ	タタキ	不明	-	-	-
67	S01 p0619土	土器鉢 大壺	体底	60%	成装飾	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
68	S01 p0619土	土器鉢 大壺	体底	10%	成装飾	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
69	S01 p0619土	土器鉢 深	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
70	S01 p0619土	土器鉢 坪	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
71	S01 p0619土	土器鉢 坪	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
72	S01 Top土	土器鉢 坪	体一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
73	S01 Top土	土器鉢 深	口一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
74	S01 Top土	土器鉢 小壺	口一底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
75	S01 Top土	土器鉢 深	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-
76	S01 Top土	土器鉢 深	体底	10%	成	黒灰不明	黒灰不明	不明	-	-	-







第22表 土製品観察表 (四反田 I 遺跡)

No.	出土地点	種類	色澤	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	備考
57	S301 西上地区	埴成灰土塊	赤	6.1	5.8	2.9	97.5	
58	S301 西上地区	埴成灰土塊	赤	6.3	4.7	4.1	105.2	
59	S301 西上地区	埴成灰土塊	赤	3.9	3.1	2.7	21.9	
60	S301 西上地区	埴成灰土塊	赤	4.4	1.8	0.6	13.3	形跡
61	S301 西上地区	埴成灰土塊	赤	7.2	4.3	3.7	91.2	
62	S301 西上地区	埴成灰土塊	赤	3.7	3.1	2.0	17.3	
144	SX001 西上地区	埴成灰土塊	赤	6.3	5.5	2.3	146.1	形状小

第23表 石器・石製品観察表 (四反田 I 遺跡)

No.	出土地点	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
62	S301 西上地区	白砂岩	16.0	3.1	2.0	257.4	頁岩	埴成山脈
63	S301 西上地区	小石	4.4	1.3	0.3	1.5	頁岩	埴成山脈
68	S301 西上地区	砂岩	15.6	11.5	4.5	133.5	頁岩	北上山脈
69	SX001 西上地区	砂岩	6.0	6.2	3.7	140.3	頁岩	埴成山脈
89	SX001 西上地区	砂岩	4.3	4.2	0.9	47.4	頁岩	埴成山脈
115	SX001 西上地区	砂岩	12.4	7.5	0.9	56.6	頁岩	北上山脈
140	西上地区	砂岩	3.9	3.0	0.7	9.1	頁岩	北上山脈

第24表 陶磁器観察表 (四反田 I 遺跡)

No.	出土地点	器種	形状	容量	口径	高さ	重量	備考
143	SX001 西上地区	鉢	不明	不明	不明	不明	不明	電化検定済

第25表 木製品観察表 (四反田 I 遺跡)

No.	出土地点	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量
145	西上地区	炭化材	10.5	9.3	6.4	7.6g
146	西上地区	炭化材	6.5	3.1	2.7	5.9g

第26表 陶磁器観察表 (四反田 II 遺跡)

No.	出土地点	器種	形状	容量	口径	高さ	重量	備考
149	西上地区	皿	10%以下	不明	不明	不明	不明	
150	西上地区	皿	30%	不明	不明	不明	不明	
155	西上地区	皿	10%以下	不明	不明	不明	不明	
162	西上地区	皿	10%以下	不明	不明	不明	不明	
163	西上地区	皿	10%以下	不明	不明	不明	不明	

第28表 土師器・須恵器観察表 (四反田 II 遺跡)

No.	出土地点	器種	形状	容量	口径	高さ	重量	備考
156	西上地区	須恵器	不明	不明	不明	不明	不明	
157	西上地区	須恵器	不明	不明	不明	不明	不明	
159	西上地区	須恵器	不明	不明	不明	不明	不明	

第29表 石器観察表 (四反田 II 遺跡)

No.	出土地点	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
160	西上地区	頁岩	5.09	3.37	2.66	38.1	頁岩	埴成山脈
161	西上地区	頁岩	4.38	3.42	1.40	22.3	頁岩	埴成山脈

第27表 木製品観察表 (四反田 II 遺跡)

No.	出土地点	部材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量	備考
151	西上地区	木片	13.7	6.5	1.7	29.1	
152	西上地区	木片	22.6	7.2	2.2	29.1	
153	西上地区	木片	26.2	10	3.7	29.1	
154	西上地区	木片	14.3	3.1	1.8	29.1	
155	西上地区	木片	14.5	2.8	1.8	29.1	

## V 古城方八丁遺跡

### 1 概 要

古城方八丁遺跡は、岩手県奥州市前沢区古城字宿ノ前153ほかに所在する。JR東北本線陸中折居駅から南東へ約2.2kmの位置にあり、北上川西岸の微高地上に立地している。遺跡周辺の標高は31～33mであり、調査前は畑地・水田として利用されていた。

遺跡名の「古城」は、明治8年に小山村と中畑村が合併した際に「古城村」として新たに名付けられた村名に由来する。また、古代の開発集落をさす「方八丁」という言葉が使用されており、過去に前沢町教育委員会が実施した分布調査でも土師器片などが採集されている（前沢町教委1998）。このことから、以前から古代集落の存在が想定されていた遺跡であるといえるが、これまで発掘調査は実施されておらず、本格的な発掘調査は今回が初めてとなる。

### 2 調査・整理の方法

#### (1) 野外調査の方法

##### 1 グリッドの設定（第78図）

今回の調査では、遺跡範囲の北西端から調査区全体をカバーできるようにグリッドの設定を行った。具体的には、 $X = -102,480,000$ 、 $Y = 27,400,000$ の座標（世界測地系の平面直角座標系第X系）を基点として一辺40×40mの正方形グリッド（大グリッド）を設定、さらに各辺を10等分して4×4mの小グリッドを設定した。グリッドの呼称は、北西隅を基点として大グリッドは北から南へⅠ～Ⅵ、西から東へA～F、小グリッドは北から南へ1～10、西から東へa～jとし、小グリッドは「IA5b」などと呼称している。なお、今回は調査区が4箇所に分かれていることと各調査区が幅狭であったことから、現地には実測に適した位置に任意で基準点9点を打設し、それらをもとに実測用ソフト「遺構くん」を使用して図面上でグリッドを設定した。基準点の座標は以下の通りである。

T-1	X = -102,526.127	Y = 27,438.734	H = 31.947
T-2	X = -102,571.202	Y = 27,472.268	H = 31.998
T-3	X = -102,590.907	Y = 27,423.927	H = 31.926
T-4	X = -102,604.555	Y = 27,459.779	H = 31.539
A-1	X = -102,509.011	Y = 27,440.590	H = 31.835
A-2	X = -102,563.420	Y = 27,461.803	H = 31.807
A-3	X = -102,574.086	Y = 27,429.600	H = 32.015
A-4	X = -102,598.456	Y = 27,442.136	H = 31.970
A-5	X = -102,610.243	Y = 27,479.873	H = 31.726

##### 2 精査の方法及び遺構の記録

調査に先立って調査区内の雑物撤去を行い、続いて遺構の有無を確認するために数箇所にはトレンチを設定して人力で試掘を行った。試掘の結果、広範囲でI層（表七・盛土）が厚く堆積していることが確認されたことから、調査の迅速化と人力掘削量の軽減を図るため、調査員監督の下、重機（パッ

クロー)によって遺構検出面付近までI層を掘削し、その後人力で遺構検出を行った。

検出した遺構には釘やスプレーを使ってマーキングし、一部の遺構については検出状況の写真撮影を行った。野外調査時の遺構名には主にSD・SKなどの略号を使用しており、欠番・配置などを考慮して室内整理の段階で第30表のように遺構名を変更している。

遺構の掘り下げは、規模に応じて4分法と2分法を使い分け、堀・溝については数箇所にベルトを設定して上層観察を行いながら進めた。なお、プランや新旧関係が不明な場合は適宜サブレンチを設定して層位確認を行っている。

遺構の記録については、完掘、土層断面、遺物出土など状況に応じて写真撮影と実測図の作成を行っている。実測図は、実測用ソフト「遺構くん」(株Cubic社製)を用いて数値データを収集し、それをもとにパソコン上で図化している。

遺構の写真撮影には、記録保存用として6×7cm判カメラ(モノクロ)、普及普及及び報告書作成用としてデジタルカメラ(キャノン社製一眼レフタイプ、1280万画素)を使用した。

## (2) 室内整理の方法

### 1 遺構

遺構図面は、実測用ソフト「遺構くん」(株Cubic社製)で収集した数値データをもとにデジタルデータ化している。本報告における遺構図版作成の具体的な作業工程は以下の通りである。

①平面図は全体図から近隣に位置するグリッド及び方位とともにコピーし、「遺構くん」新規ファイルに貼り付ける。断面図は数値データファイルから関連する数値データをコピーし、平面図と同じ「遺構くん」ファイルに貼り付ける。

②合成用基準線(断面図作成ライン)が水平になるように平面図をグリッド・方位とともに回転し、断面図と合成して修正図を作成する。

③修正図が完成した後、テキストデータとして入力した上層註記を同一ファイル上に貼り付け、さらに当センターの版面(縦24.0×横16.0cm)に収まるように「遺構くん」ファイル上でレイアウトを行う。また、あわせて平面図を合成前の角度に戻し、全体図に貼り付けて遺構配置図も作成する。

以上の工程を経て作成した図面は全てグラフィックソフトAdobe Illustrator CS2を用いて網掛けなどの処理と配置の調整を行って全体の統一を図り、EPS及びAI形式で保存したファイルとして印刷業者に納入した。

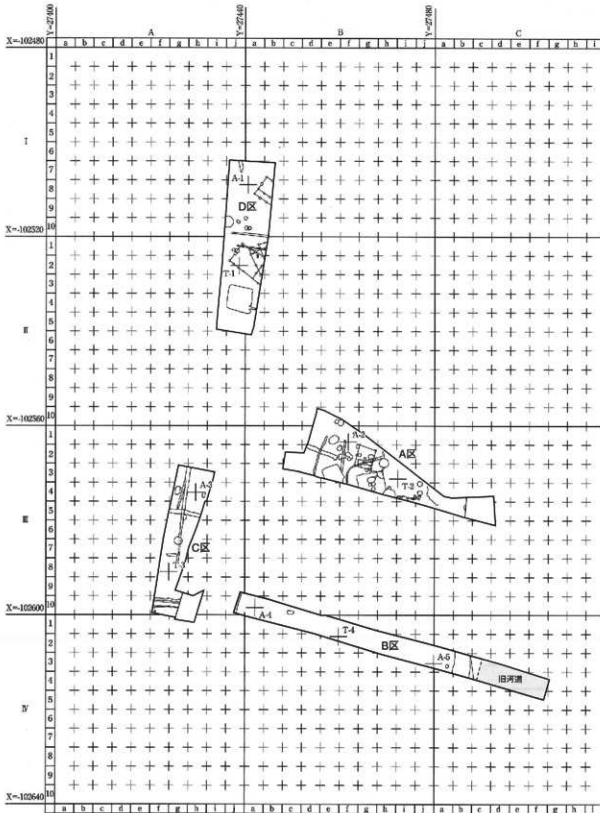
### 2 遺物

遺物の処理は、洗浄から開始した。土器・陶磁器類は水洗・乾燥後に土師器・須恵器・陶磁器に選別し、日付順に袋番号を付けながら破片数と重量を計測した。その後、土器は遺跡名と袋番号を註記し、接合・復元作業を行った。土器については遺構内出土のものを中心に選別し、登録・実測を行った。陶磁器については点数が少なかつたため全点を登録し、実測を行った。

石器・石製品については計量後、器形・用途が判別できるものを中心に選別して登録・実測を行った。鉄製品はX線透過写真撮影を行って遺存状況を確認しながら錆落としと実測を行い、一部の資料については破損防止のために保存処理作業を委託している。

木製品については全点を登録し、実測を行った。

上記の作業の後、実測を行ったものについてはトレースを行い、版下を組んで遺物図版を作成した。



0 1:800 40m

第78図 グリッド配置図

第30表 遺構名変更一覧

陥し穴状遺構		
新遺構名	←	旧遺構名
SK101	←	SK03
SK102	←	SK27

壁状土層		
新遺構名	←	旧遺構名
SI01	←	SI01
SI02	←	SI02
SI03	←	SI03

井 戸		
新遺構名	←	旧遺構名
SI01	←	SI01
SI02	←	SI02
SI03	←	SI03

孤立柱建物		
新遺構名	←	旧遺構名
SB01	←	SB01
SB02	←	SB02
SB03	←	SB03
SB04	←	SB04
SB05	←	SB05

陶器埋設遺構		
新遺構名	←	旧遺構名
SZ01	←	SX01

焼 土		
新遺構名	←	旧遺構名
SP01	←	SP01
SP02	←	SP03

性格不明遺構		
新遺構名	←	旧遺構名
SX01	←	SX02

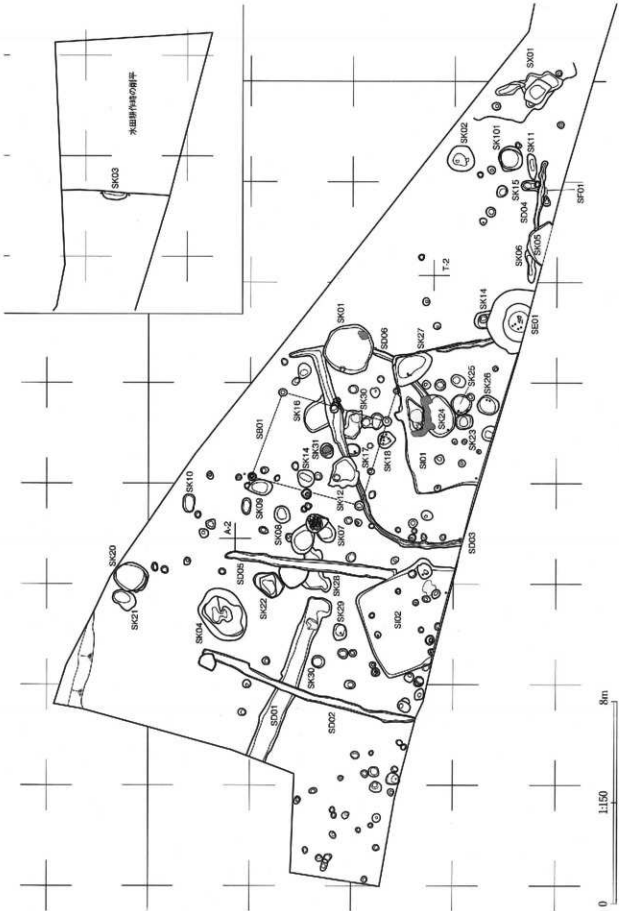
土 坑		
新遺構名	←	旧遺構名
SK01	←	SK01
SK02	←	SK02
SK03	←	SK04
SK04	←	SK05
SK05	←	SK17
SK06	←	SK06
SK07	←	SK07
SK08	←	SK08
SK09	←	SK10
SK10	←	SK11
SK11	←	SK12
SK12	←	SK13
SK13	←	SK14
SK14	←	SK15
SK15	←	SK16
SK16	←	SK18
SK17	←	SK28
SK18	←	SK29
SK19	←	SK30
SK20	←	SK33
SK21	←	SK35
SK22	←	SK34
SK23	←	SK31
SK24	←	SK32
SK25	←	SK37
SK26	←	SK38
SK27	←	SK39
SK28	←	SK40
SK29	←	P01
SK30	←	P02
SK31	←	P23
SK32	←	SK42
SK33	←	SI02
SK34	←	SK09
SK35	←	SK19

土 坑		
新遺構名	←	旧遺構名
SK36	←	SK26
SK37	←	SK20
SK38	←	SK21
SK39	←	SK22
SK40	←	SK24
SK41	←	SK25
SK42	←	SK03
SK43	←	SK23

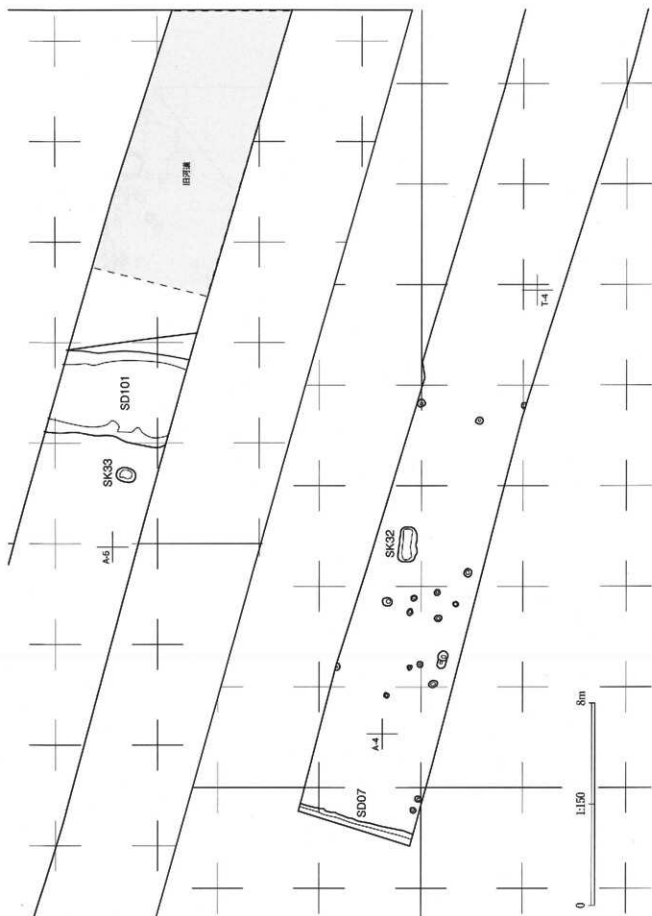
堀		
新遺構名	←	旧遺構名
SD101	←	SD101
SD102	←	SD102

溝		
新遺構名	←	旧遺構名
SD01	←	SD01
SD02	←	SD02
SD03	←	SD04
SD04	←	SD05
SD05	←	SD11
SD06	←	SD12
SD07	←	SD103
SD08	←	SD06
SD09	←	SD09
SD10	←	SD10
SD11	←	SD03
SD12	←	SD07
SD13	←	SD08

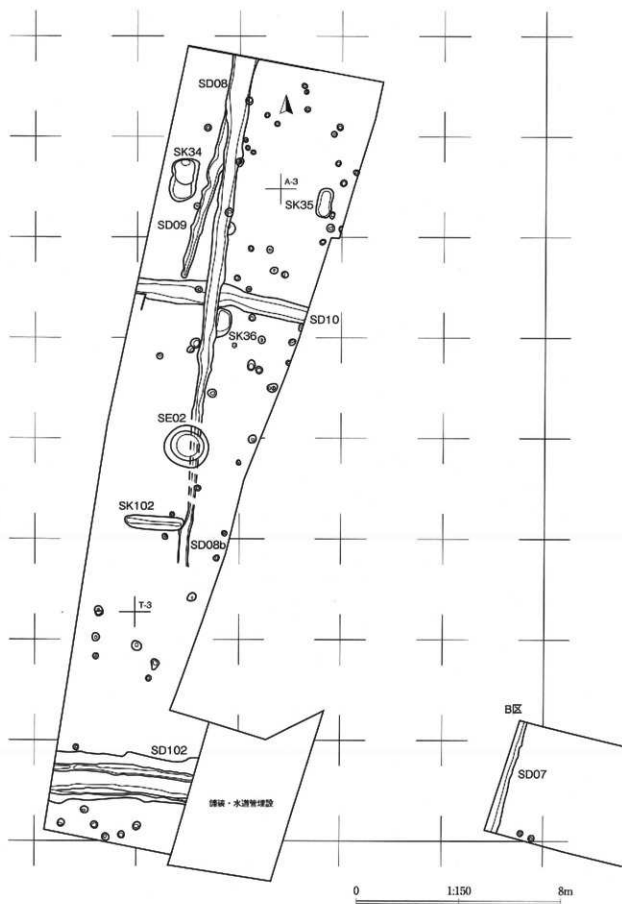
※柱穴は第32～38表を参照



第79図 A区遺構配置図

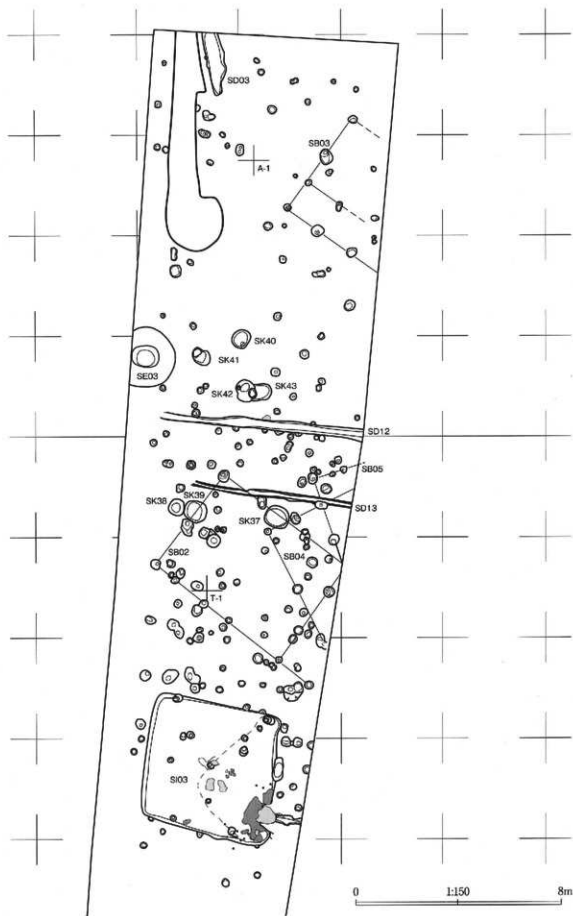


第80図 B区遺構配置図



第81図 C区遺構配置図





第82図 D区遺構配置図

### 3 検出遺構

#### (1) 調査区の概要

今回の調査区は道路・水田を挟んで4つに分かれていたため、北東側から時計回りにA・B・C・D区と呼称して調査を行った(第78~82図)。各調査区とも調査前は水田及び休耕田であり、耕作及び圃場整備によって削平されていたことから、ほとんどの地点でI層直下がIII層となる状況であった。そのため、基本層序についてはII層の堆積が確認されたC区北東隅(ⅢA3gグリッド)で作成し、その層序を各調査区に援用した。基本層序は以下の通りである。

- I a層 10YR4/2 灰黄褐色土(現表土) 層厚30cm前後  
 I b層 10YR7/8黄褐色ブロック(Ⅲa層)と10YR3/2黒褐色土の混合土(盛土①) 層厚0~20cm  
 I c層 10YR3/2 黒褐色土(盛土②) 粘性やや強・しまりやや密 混和物少ない 層厚15~30cm  
 II層 10YR3/2 黒褐色土(旧表土または盛土③) 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック  
 (φ5~30mm) 30%含む 層厚0~15cm  
 III a層 10YR7/8 黄褐色粘土(地山①) 粘性強・しまり密 遺構検出面 層厚不明  
 III b層 10YR6/8~7/8 黄褐色砂質土(地山②) 粘性やや強・しまり密 層厚不明  
 IV層 門礫層 層厚不明 ※B区東側の旧河道付近でのみ確認  
 ※III層以下はIII a・III bの互層堆積

検出した遺構は、陥し穴状遺構2基、竪穴住居3棟、土坑13基、井戸3基、渠2条、溝13条、陶器埋設遺構1基、掘立柱建物5棟、柱穴399個、焼土2基、性格不明遺構1基である。各調査区で遺構は検出されているが、密度には差がある。

#### (2) 陥し穴状遺構

A・C区で各1基検出した。

##### SK101陥し穴状遺構(第83図、写真図版76)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB4jグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。

〈形状・規模〉平面形は円形で、上面規模は1.02×0.96mである。断面形は箱形で、上端付近の壁面は崩落によって若干外方に広がる。深さは0.8mである。底面は若干の凹凸はあるがほぼ平坦であり、副穴は認められない。

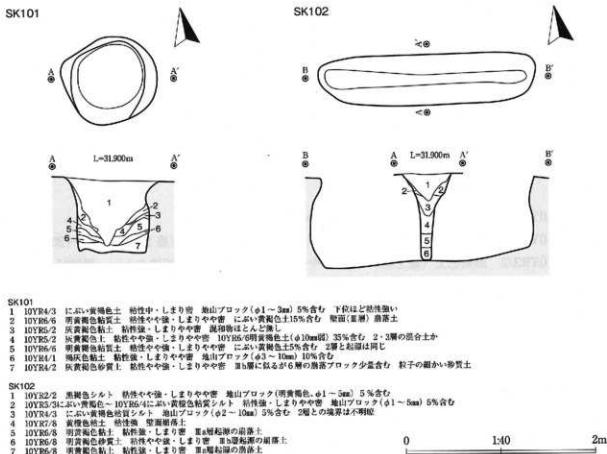
〈埋土〉黄褐色系の粘質土が主体で、7層に細分した。自然堆積と考えられ、1層は周辺からの流れ込み、2層以下は壁面崩落土と流土の互層堆積である。

〈出土遺物〉1層下位から縄文土器が24g出土しており、1点掲載した(第112図88、以下第〇図省略)。(性格・年代) 出土遺物から縄文時代に属する陥し穴と考えられる。

##### SK102陥し穴状遺構(第83図、写真図版76)

〈位置・検出状況〉C区ⅢA7gグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の長楕円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。

〈形状・規模〉平面形は楕形で、上面規模は2.27×0.51mである。底面の平面形も楕形であるが、西



第83図 SK101・102

側が若干膨らんでいる。底面の規模は2.12×0.09～0.2mである。上端付近が崩落しているため横断面形はY字形になっている。縦断面形は袋状で、両壁面ともにオーバーハングしている。底面は、東から西に向かって若干傾斜している。深さは、最も深い西壁付近で0.95mである。

〈埋土〉黄褐色系の粘質土が主体で6層に細分した。周辺からの流れ込みと考えられる1層を除いて基本的に壁面の崩落土と考えられる。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉出土遺物は無いが、形態から縄文時代に属する陥し穴と考えられる。

### (3) 竪穴住居

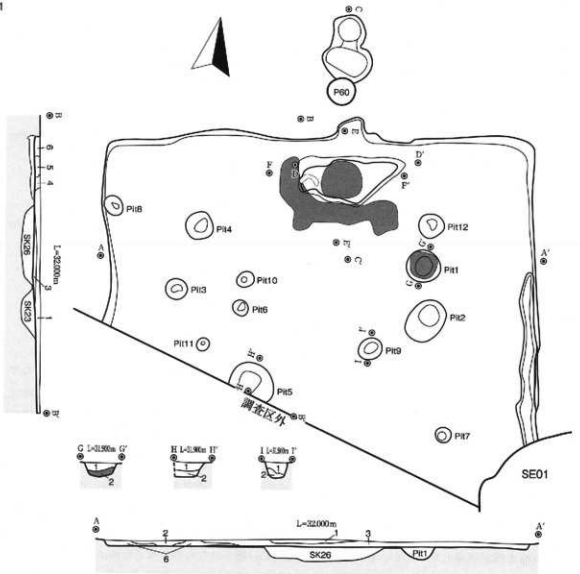
A区で2棟、D区で1棟検出した。

#### S101竪穴住居(第84・85図、写真図版77・78)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB3g～ⅢB4hグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で、黒褐色の方形プランとして検出した。SK24～27、SE01、SD06、SB01(P60)と重複関係にあり、SK24～27とSD06を壊して構築されているが、SE01に東壁、SB01に煙道の一部を壊されている。

〈形状・規模〉南側が調査区外へ延びているため全形は不明であるが、検出状況から方形プランと考えられる。調査区内での検出規模は東西5.5m×南北4.81mである。削平が著しいため深さは12cm程度しか残存しておらず、壁面の立ち上がりも判然としなない。床面はⅢ層及びSK23～27の埋土上面を平坦に整えて造られている。床面はⅢ層より色調が暗く変色しており、さらに焼土や炭化物の粒、土器

SI01



埋土(A-A'・B-B')

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性中・しまりやや密 炭化物5%、焼土粒10%( $\phi 1 \sim 2\text{mm}$ )含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック( $\phi 2 \sim 15\text{mm}$ )15%含む
- 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性中・しまりやや密 地山ブロック( $\phi 3 \sim 15\text{mm}$ )30%、焼土粒15%、炭化物10%(各 $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ )含む  
1層と同一区画だが乱雑物が多いため全体に色調は明るい

- 4 5YR4/4 におい黄褐色土 粘性やや弱・しまりやや密 焼跡による赤皮層 焼土粒( $\phi 5 \sim 15\text{mm}$ )20%、炭化物微量含む
- 5 10YR6/6 明黄褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密 焼あるいは焼跡の崩落土(目録参照)
- 6 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック( $\phi 3 \sim 20\text{mm}$ )30%含む 遺物付近ほど地山ブロックは小さい

- 1 10YR4/3 におい黄褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )15%、焼土( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )5%、炭化物3%
- 2 5YR5/6 明赤褐色焼土( $\phi 5 \sim 30\text{mm}$ )と10YR5/4ににおい黄褐色粘土の混成土 上面に炭化物( $\phi 30\text{mm}$ 以上)集中

- 1 75YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )10%、焼土3%、炭化物2%含む
- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )5%、焼土・炭化物各2%含む

- 1 75YR3/3 におい褐色粘土 粘性強・しまりやや密 焼土( $\phi 2 \sim 15\text{mm}$ )、炭化物( $\phi 1 \sim 5\text{mm}$ )5%含む
- 1 75YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼土ブロック( $\phi 20\text{mm}$ )5%、地山ブロック( $\phi 20\text{mm}$ )2%含む

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック( $\phi 2 \sim 10\text{mm}$ )15%含む
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック( $\phi 2 \sim 20\text{mm}$ )30%含む
- 2 10YR5/3 におい黄褐色粘土 粘性やや強・しまり密  $\phi 2 \sim 3\text{mm}$ の粒12%含む

- 1 10YR4/3 におい黄褐色土 粘性やや強・しまり密 やや砂質 炭化物( $\phi 1 \sim 3\text{mm}$ )3%含む

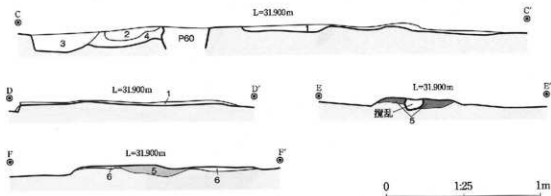
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまり共に中 床面より層より弱く、色調暗い

No.	Pit1	Pit2	Pit3	Pit4	Pit5	Pit6	Pit7	Pit8	Pit9	Pit10	Pit11	Pit12
上面残積	45×42	59×44	28×27	37×37	31×40	21×19	20×20	27×22	31×27	23×19	17×16	33×32
深さ	17	15	20	20	21	17	19	14	36	16	10	38
表面積	31.65	31.69	31.59	31.61	31.64	31.64	31.74	31.66	31.50	31.36	31.70	31.46

単位は上面積・深さ14cm、底面積高12cm

第84図 SI01 (1)

## S101カマド断面



## カマド(C-C'・D-D'・E-E'・F-F')

- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼土(φ2~5mm)20%、炭化物(φ1~3mm)10%、崩落部周辺に暗褐色山ブロッカ30%含む
- 2 7.5YR4/3 褐色土 粘性やや強・しまりやや密 山ブロッカ(φ2~5mm)15%、炭化物(φ2~10mm)各15%含む 1層より根子深く層まり強い
- 3 7.5YR4/3 褐色土 粘性やや強・しまり密 焼土(φ2~15mm)5%、炭化物(φ2~5mm)10%含む 北壁側に堆積して崩落した層減少量含む
- 4 7.5YR6/6 暗褐色土 粘性强・しまりやや密 褐色土30%、焼土(φ2~5mm)5%含む 褐色粘土はブロッカ状
- 5 2.5YR5/8 明赤褐色~6/8褐色土 粘性中・しまり密 泥粘性焼土だが色調不均質
- 6 10YR7/8 黄褐色焼土と10YR3/2 黄褐色の混合土 しまり密 焼粘土

第85図 S101(2)

の細片が認められたことから貼床を敷設している可能性も考えられたが、裁ち割りの結果、カマド周辺を除いて貼床は敷設されていないことが判明した。また、床面に見えていた焼土や土器細片は、本住居構築以前に存在した土坑(SK23~27)の埋土中にあったものが散らばったり、住居使用時にカマドから流出したものであることも判明した。

〈埋土〉暗褐色土が主体で、6層に細分した。堆積状況を見ると、袖あるいは壁面の崩落土と考えられる5層を除くと北東から南西に向かって流れ込んだ状況が確認できることから、ほとんどの層が流れ込みによる自然堆積と考えられる。

〈カマド〉燃焼部と煙出し付近が残るのみである。カマドは床面よりも若干高く盛り上げられており、中央部に燃焼部本体が残存していたが、住居廃絶時に意図的に壊されたものと考えられ、遺存状況は悪い。燃焼部本体は0.51×0.49mの円形で、被熱深度は7cmである。煙出しの上面規模は直径0.4m、深さは12cmである。煙道は煙出しに接続する部分のみ残存しているが、根の浸食の影響で煙出しより幅が広がっている。

〈付属施設〉柱穴を12個検出した。位置関係をみると、Pit4・7・12が本住居の主柱穴になると考えられる。また、Pit1のように焼土が堆積した柱穴(小型の土坑か)も確認できる。Pit1は底面が若干赤色に変化していることから、遺構内で燃焼行為を行っていた可能性がある。

東壁際の中央から南側で周溝を検出した。深さは3~5cmと浅い。

〈出土遺物〉土器類は、土師器が2,456g、須恵器が100g、縄文土器が約10g出土しており、土師器坏1点・鉢1点・甕5点、須恵器大甕1点、縄文土器1点を掲載した(1~8・86)。この他、SK08出土破片と接合した須恵器甕(9)、SK26出土破片と接合した土師器甕(10)、SK26・27出土破片と接合した土師器甕(11)、SK17・27出土破片と接合した土師器甕(12)も掲載した。本住居構築以前に掘削されていた土坑であるSK26・27出土の破片と接合関係にある10~12は、本来はこれらの土坑に伴うものと考えられるが破片の大きさを考慮して本遺構の欄に掲載した。また、南西側埋土中から石鏃(123)が1点出土している。この他、カマド周辺を中心に土壌サンプルを採取して洗浄したところ、焼土塊(焼粘土塊)が約860g検出された。

〈性格・年代〉出土した土器から、平安時代(9世紀後半)に構築・使用されたと考えられる。カマ

下を有する竪穴住居であるが、残存状況から廃絶時に意図的にカマドを壊していった可能性がある。

#### S I 02 竪穴住居（第86図、写真図版79）

〈位置・検出状況〉A区ⅢB3eグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の方形プランとして検出した。S D05、P 9・44・101・102と重複関係にあり、S D05、P 9・44・102を壊して構築されているが、P 101に床面の一部を壊されている。

〈形状・規模〉南側が調査区外へ延びているため全形は不明であるが、検出状況から方形プランと考えられる。ただし、東壁やや南側は土坑があるため若干外側に張り出す形状である。この張り出し部分を含めた調査区内での検出規模は、東西4.16m×南北3.9mである。S I 01同様削平の非常に浅く、検出面からの深さは13～15cmである。床面はⅢ層を平坦に整えて構築されており、貼床は敷設されていないが、部分的に使用により黒褐色土が混入して変色している部分（6層）がある。

〈埋土〉暗褐色土が主体で5層に細分した。南東から北西方向へ向かって堆積しており、地山ブロックは含んでいるが色調・土質とも比較的均質であることから自然堆積と考えられる。

〈付属施設〉カマド及び煙道は検出されていないが、床面南東側で焼土を1基検出している。現地性の焼土で、規模は0.39×0.31mの円形である。被熱の影響で焼土付近の床面も若干赤色化している。

柱穴は8個検出した。Pit 8を除いて床面南側に集中しており、検出されたものを見る限りでは規則的な配置は認められない。この他、東壁際で0.6×0.51mの円形の土坑（S K01）を1基検出した。断面形は逆三角形で、底面直上からほぼ完形の土師器環が出土している。埋土は住居内堆積土とほぼ同一であるが、底面付近には焼土ブロックと土器細片が堆積していた。

〈出土遺物〉埋土及び住居内土坑・柱穴から出土している。土器類は土師器が1,631g、須恵器が18.9g出土しており、このうち土師器環7点（13～16・18～20）、土師器壺4点（21～24）、須恵器環1点（17）を掲載した。埋土中からは礫も数点出土しており、このうち使用痕の認められた磨石と礫石を各1点掲載した（112・113）。この他、S K01内を中心に焼土塊約280gが出土している。

〈性格・年代〉カマドは検出されていないが、他の住居跡とのプランの類似性から本遺構も平安時代に構築・使用された竪穴住居と考えられる。

#### S I 03 竪穴住居（第87・88図、写真図版80・81）

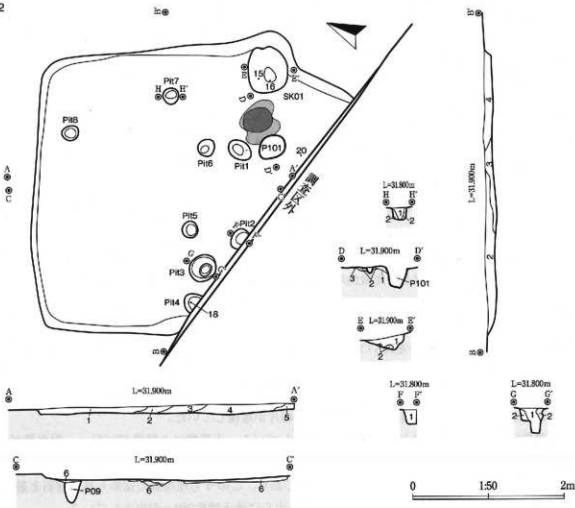
〈位置・検出状況〉D区ⅡA3j～ⅡA4aグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、にぶい黄褐色～黒褐色の方形プランとして検出した。P 567・568・580・583・586と重複関係にあり、これらを壊す形で構築されている。

〈形状・規模〉平面形は方形を基調とするが、北西コーナー以外は直角ではないことから平行四辺形に近い形状となっている。上面規模は、東西5.21m×南北5.12mである。他の住居同様、削平の浅く、検出面からの深さは18～20cmである。壁面は丸みを持って立ち上がる。床面は、西側から中央付近はⅢ層を平坦に整えて構築されており、床面の硬化は強くない。しかし、東壁から中央部付近にかけては床面の硬化と変色が認められたことからこの部分については精査終了後に載ち割りを行った。その結果、この部分には貼床が敷設されていることがわかった。しかし、カマド周辺を除いて非常に薄く、ほとんどが5cm弱であった。また、カマド周辺及び床面中央には焼土や炭化物の分布範囲も複数認められた。

〈埋土〉にぶい黄褐色の粘質土が主体で4層に細分した。各層とも混和物の少ない均質な色調であり、北西から南東に向かって堆積している状況が確認できることから自然堆積と考えられる。

3 検出遺構

S102



埋土(A-A'・B-B'・C-C')

- 1 75YR2/2 黒褐色土 粘性中・しまり密 地山ブロック(φ2~20m) 25%、炭化物(φ1~3mm) 3%含む ブロック状に散れる
- 2 75YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまり密 炭化物(φ1~4mm) 10%含む
- 3 75YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ2~20m) 40%含む 1層と同一層厚
- 4 75YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ3~10m) 10%、焼土(φ1~2mm) 5%、炭化物(φ1~5mm) 3%含む
- 5 75YR3/3 暗褐色土 粘性强・しまりやや密 地山ブロック(φ2~20m) 15%、焼土15%含む 1~4層に比べて若干色調が薄い
- 6 10YR7/8 黄褐色粘土 Ⅱa層を築造した床面で、使用により黒褐色土を塊状に含む

焼土(D-D')

- 1 75YR4/1 褐色シラト 粘性やや強・しまりやや密 2層付近に焼土殻(φ2~5mm) 30%含む
- 2 25YR5/6 赤褐色粘土 粘成中・しまりやや密 黒褐色焼土
- 3 75YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまりやや密 1層より粘性强い

SK01(E-E')

- 1 75YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ10~30m) 10%、炭化物(φ1~5mm) 5%含む
- 2 焼土ブロック層(φ30mm以上)で土器の破片含む

P101

- 1 10YR2/1 黒褐色土 粘性中・しまりやや密 焼土・炭化物(φ1~2mm) 各3%、地山ブロック3%含む

P102(F-F')

- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 炭化物(φ5~10mm) 5%、焼土(φ1~2mm) 3%、地山ブロック(φ1~3mm) 10%含む

P103(G-G')

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ5~30m) 30%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロック少量含む

P104・5

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ1~5mm) 30%含む

P107(H-H')

- 1 10YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック30%含む

2 10YR7/8 黄褐色粘土 灰込のか

P108

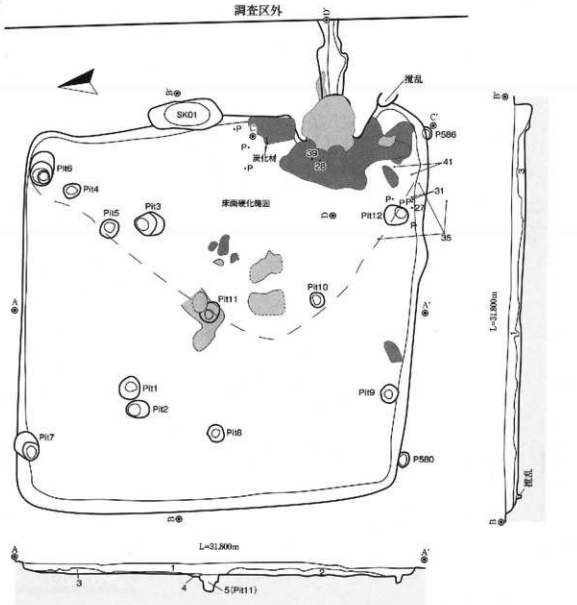
- 1 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまり共に中 地山ブロック(φ2~5mm) 15%含む

No	P101	P102	P103	P104	P105	P106	P107	P108
上面規模	32×23	28×18	37×32	27×18	21×20	23×21	21×20	22×19
埋さ	12	21	34	12	11	18	17	11
底面積高	31.64	31.49	31.39	31.61	31.6	31.99	31.61	31.64

※単位は上面規模・埋さ1cm、底面積高はm

第86図 S102

S103



掘土(A-A'・B-B')

- 1 10YR3/3 土灰・黄褐色粘土質シルト 粘液中・しまり密 粘土粒微量混入
- 2 10YR5/2 暗褐色粘土質シルト 粘液中や強・しまり密 焼土粒10%混入・炭化物微量混入
- 3 10YR6/6 明褐色粘土 粘液中・しまり密
- 4 7.5YR4/4 褐色粘土 粘液中や弱・しまり密
- 5 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘液中や強・しまりやや密 炭化物(径5mm以下)3%・焼土粒微量混入(P111)
- P11 - 3・4
  - 1 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘液中・しまり密 炭化物微量・地山ブロック10%混入
- P12
  - 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘液中や強・しまりやや密 地山ブロック10%混入
- P15
  - 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘液中や強・しまりやや密
- P16
  - 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘液中・しまりやや密
- P17
  - 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘液中・しまりやや密 地山ブロック20%混入
- P18・10
  - 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘液中や弱・しまりやや密 地山ブロック30%混入
- P19
  - 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘液中や弱・しまりやや密 地山ブロック10%混入

0 1:50 2m

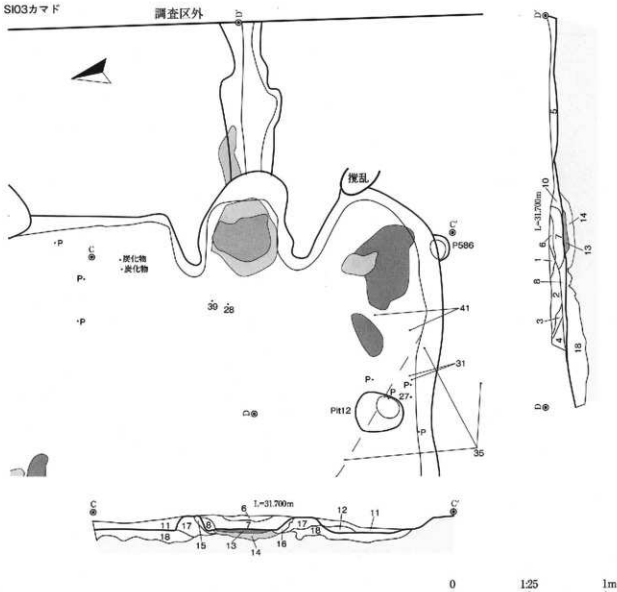
No.	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P110	P111	P112
上面縦横	30×27	29×22	38×31	22×17	34×22	45×31	39×31	33×20	24×22	30×19	27×22	31×25
厚さ	41	42	35	18	10	39	27	13	25	8	34	35
底面縦横	31.17	31.17	31.2	31.42	31.66	31.23	31.5	31.48	31.31	31.46	31.34	31.16

※単位は上面縦横・厚さ12cm、底面縦横14cm

第87図 S103 (1)



S103カマド



カマド(C-C'・D-D')

- 1 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや強・しまり中 焼土ブロック5%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性・しまり共に中 焼土粒・炭化物・地山粒各微量含む
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト 焼土ブロック50%、炭化物20%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色粘質シルト 粘性やや強・しまり密 焼土ブロック20%含む
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性中・しまりやや密 焼土ブロック(φ10mm)10%、地山焼土ブロック10%含む
- 6 5YR4/3 灰褐色土 粘性・しまり共に中 焼土粒(φ2~5mm)10%、炭化物・地山ブロック各5%含む
- 7 5YR4/3 におい赤褐色土 粘性やや強・しまり中 焼土(φ2~5mm)35%、炭化物15%含む 6層と地層は同じが色調がより赤く締まりも強い
- 8 2.5YR5/8 褐色土 粘性やや強・しまり密 灰質または細粒の塊状部分の焼土
- 9 10YR5/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼土・地山ブロック(φ2~10mm)各10%含む 風土3層に相当
- 10 5YR4/3 におい赤褐色土 粘性・しまり共に中 2層に類似するが全体的に締まりが弱く強い
- 11 10YR5/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 上面に炭化物が薄い層(1~2cm)を形成、焼土・地山ブロック(φ2~10mm)各10%含む
- 12 10YR5/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ2~10mm)25%含む
- 13 5YR5/4 淡褐色焼土 粘性弱・しまり赤安に密 焼土本体 灰質により非常に締り、礫化してブロック状になっている。14層とは同様に灰色
- 14 2.5YR5/8 褐色土 粘性強・しまり密 3層の灰色層 密焼土本体の直下にあたり非常に締り、礫化してブロック状になっている。灰質による灰色層
- 15 5YR3/1 暗赤灰色土 粘性強・しまり密 堆積焼土の崩壊土 灰質により灰色化しており、5YR5/6明赤褐色土ブロック20%含む
- 16 5YR6/9 褐色土 粘性強・しまり密 硬質焼土(15層)が焼土により灰色化した層
- 17 10YR5/4-6におい赤〜7灰褐色土 粘性強・しまり密 3層を使用した焼土層 1 φ2~10mmの焼土3%、炭化物1%含む
- 18 10YR2/2黒褐色と7灰黄褐色の混合土 しまり密、粘性強 カマド付近に敷設された粘土で、上面は非常に硬く締まる φ2~10mmの焼土10%、炭化物5%含む

〈カマド〉南東コーナー付近で検出している。燃焼部焼土の範囲は円形で、規模は0.38×0.28mである。非常に良く焼けており、硬く締まっている。また、焼土周辺0.51×0.41mの範囲も被熱により赤色に変化しており、焼土同様非常に硬く締まっている。被熱深度は燃焼部本体が3cm、被熱部分も含めると7cmである。袖部はⅢ層起源の粘土を用いて構築されており、土器や礫などの芯材は確認されていない。煙道は遺存状況が悪く、深さ5cm程度が残るのみである。

〈付属施設〉床面から柱穴12個を検出した。住居内の柱穴のみで考えるとPit 2・5・9・12が主柱穴になる可能性がある。ただし、住居外の柱穴も含めると、Pit 6・7・11と本遺構に切られていると判断したP 580・586が主柱穴となるものと考えられる。

また、東壁中央では楕円形プランの土坑が検出されている。壁面より外側に張り出すことから別遺構の可能性も考えられたが、断面観察により埋土が住居内のものと同一であることが判明したことから本遺構に伴う土坑と判断した。カマドの近傍に位置していることから、貯蔵穴の可能性もある。

〈出土遺物〉埋土及びカマド周辺の床面直上から出土している。土器類は、土師器が2,330g、須恵器が397.1g出土しており、このうち土師器坏3点(25・26・28)、土師器鉢2点(29・30)、土師器甕7点(31~37)、須恵器坏1点(27)、須恵器大甕3点(38~40)、須恵器壺1点(41)を掲載した。その他、SK 29出土破片と接合した土師器甕(42)がある。また、カマド周辺を中心に土壌サンプルを採取して洗浄したところ、焼上塊(焼粘土塊)が約700g検出された。

〈性格・年代〉出土土器から、平安時代前半(9世紀前半)に構築・使用された堅穴住居と考えられる。カマドは壁面の外側に張り出すように構築されているが、これは今回検出したS 101を含め周辺の遺跡でも類例の少ない構造である。また、本住居は屋外の柱穴を使用して天井を架構していた可能性もあり、構造については第Ⅴ章で検討を加えている。

#### (4) 土 坑

43基検出した(第89~93図)。各調査区で検出されているが、特にA区中央から西側にかけて密集する。位置・形状は第31表の通りであり、以下では代表的なものについて記載する。

##### SK 04土坑(第89図、写真図版82)

長軸が2m以上あり、平面規模は後述する井戸跡とほぼ同じである。堆積土を見ると人為的に埋め戻された状況が確認できることから、井戸を掘削途中で破棄したものと考えられる。

##### SK 15土坑(第90図、写真図版85)

平面形が長楕円形プランの小型の上坑である。底面南壁付近に直径0.3mの焼土が検出されている。現地の焼土であり、焼土の中央には燃料材と考えられる炭化物が残存していたことから内部で何らかの焼成を行っていたと考えられる。ただし、遺構内からは土器の小破片が少量出土したのみであり具体的な用途については不明である。

##### SK 17・18・23・29~31土坑(第90・91・92図、写真図版86・87・89・90)

平面形が円形で、直径は0.5~0.8mと小型のものである。当初柱穴の可能性も考えたが、断面形がボウル状になることと柱の痕跡が確認できなかったことから小型の上坑とした。ほとんどが地山ブロックや焼土粒を多量に含んだ土で人為的に埋められたと考えられ、土器の小破片や炭化物、礫が多量に出土したものもある。また、SK 27のように底面が部分的に焼けて変色しているものもあり、遺構内で何らかの焼成が行われていた可能性がある。

また、SK 31からは石帯が1点出土している(108)。一部欠損しており、人為堆積と考えられる埋土中から土器片や焼土塊・炭化物とともに出土している。今回出土したものは丸軋であり、自然化学

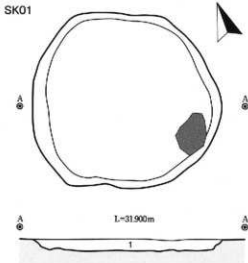
## 3 検出遺構

分析の結果翡翠製と考えられる(第VI章第5節参照)。

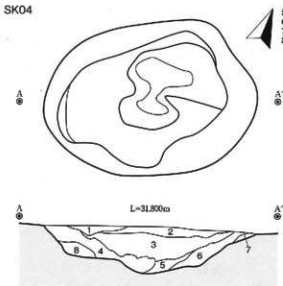
これらの人為堆積が確認された土坑は、SK23とSK31から出土した炭化物の放射性炭素年代測定の結果(第VI章第1節)、SK23と9世紀後半に構築されたと考えられるS I01との重複関係、SK17川土土器(67・68)の年代観といった諸条件から、古代に掘削・埋め戻されたものと考えられる。ただし、年代測定の結果から7世紀中葉の可能性もあるSK23、土器の年代観から10世紀前～中葉と考えられるSK17など、埋没時期には時間差があると考えられる。

第31表 土坑計測表

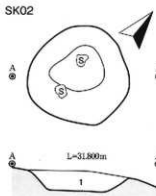
遺構名	区	グリッド	面積 (cm)			年代	備考
			断面形	寸法	深さ		
SK01	A	#B2b	圓形	196×181	12	不明	SD08・06を切る 縄文土器(87)
SK02	A	#B3b	逆台形	104×104	22	古代	単独
SK03	A	#C3b	逆台形	99×(31)	18	不明	単独
SK04	A	#B1e	不整形	222×165	30	不明	井戸の掘削途中で破壊したものか?
SK05	A	#B4f	楕形	175×79	16	古代	SK06を切り、SD04に切られる
SK06	A	#B4f	楕円形	135×36	17	古代	SK05に切られる
SK07	A	#B2f	楕形	69×(64)	16	古代	SZ01に切られる
SK08	A	#B2f	逆台形	(100)×90	29	古代	(SZ01に切られる 縄文土器(89))
SK09	A	#B2f	不整形	93×62	15	不明	P58を切る
SK10	A	#B1f	逆台形	71×46	9	不明	単独
SK11	A	#B4	楕円形	102×33	19	古代	単独
SK12	A	#B2g	不整形	133×121	11	不明	SD03を切る
SK13	A	#B2g	小楕形	73×68	21	古代	横土坑入り 土師器(45-48)
SK14	A	#B4b	不整形	65×(53)	22	縄文?	SE01に切られる
SK15	A	#B4f	逆台形	(67)×38	11	古代	両面に磨蝕跡 土師器(90-92)
SK16	A	#B2g	楕形	60×50	21	古代	SD03に切られる 横溝器(49)
SK17	A	#B2g	楕形	161×110	8	古代	横土坑入り 土師器(50-52)
SK18	A	#B3g	逆台形	69×63	18	古代	摩多蓋 右器(114・115)
SK19	A	#B2g	不整形	110×68	12	古代	SD03、SD08に切られる
SK20	A	#B10f	楕形	120×116	27	古代?	SK21を切る 横溝器(56)
SK21	A	#B10e	逆台形	96×67	13	縄文?	I層直下
SK22	A	#B2c	不整形	121×95	27	不明	耳跡 縄文土器(90)
SK23	A	#B4g	逆台形	68×57	19	古代	横土坑入り、S01直下 1350±30yrBP 土師器(57・58)
SK24	A	#B4g	楕形	79×75	13	古代	S01直下 土師器(59・60)
SK25	A	#B3b	逆台形	171×114	22	古代	S01直下 土師器(61)、横溝器(62)
SK26	A	#B3g	逆台形	168×122	17	古代	S01直下 土師器(63・64)、右器(116)
SK27	A	#B4g	逆台形	77×77	11	古代	横土坑入り、S01直下 土師器(65・66)
SK28	A	#B2f	不整形	175×99	11	古代?	SK07、SD05に切られる
SK29	A	#B2e	楕形	65×35	32	古代	横土坑入り 土師器(67-69)
SK30	A	#B2c	楕形?	51×48	21	古代	横土坑入り
SK31	A	#B2g	楕形?	61×51	21	古代	横土坑入り 1190±30yrBP 右器(108)
SK32	B	#B10c	逆台形	140×65	22	不明	単独 土師器(70)
SK33	B	#C3a	半円形	75×35	17	古代	横土坑入り 土師器(71・72)
SK34	C	#A4g	楕円形	175×102	64	古代?	土師器(73・74)
SK35	C	#A4h	楕円形	118×35	17	不明	単独
SK36	C	#A5g	逆台形	115×64	16	古代	SD08に切られる
SK37	D	#B1a	楕形	92×84	17	不明	SD02に切られる
SK38	D	#A1j	半円形?	66×61	14	不明	単独
SK39	D	#A1j	逆台形?	89×85	13	不明	SP02に切られる
SK40	D	#B10a	逆台形	77×67	11	不明	単独
SK41	D	#B10a	逆台形	77×53	10	不明	単独
SK42	D	#A10	逆台形	88×69	28	不明	SK43、P156・157を切る
SK43	D	#A10	逆台形	(83)×62	16	古代?	SK42に切られる 土師器(73)



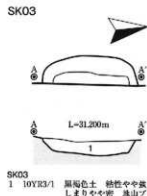
SK01  
1 10YR3/3 暗褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密  
埋座ブロック(φ2~10mm)20%を下部に多く含む



SK04  
1 10YR3/2 黒褐色土・10YR5/4に多い黄褐色土・25Y7/6明黄褐色土の複合土  
明黄褐色土(φ5~40mm)30%含む  
2 25Y7/8 黄色粘土 3層と総厚は同じが炭化物はほとんどなし  
6 10YR5/4に多い黄褐色土と25Y7/8黄褐色土の複合土 黄色粘土はφ5~40mm  
7 10YR6/4 に多い黄褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密 埋座粘土の底土  
黄色粘土 粘性强・しまり密 10YR3/2黒褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土を各15%含む 埋座厚黄粘土

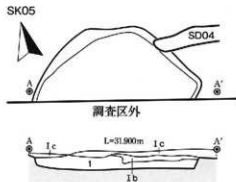


SK02  
1 10YR6/3 に多い黄褐色土 粘性やや強・しまり密 炭化物・粘土粒(φ1~3mm)各5%含む



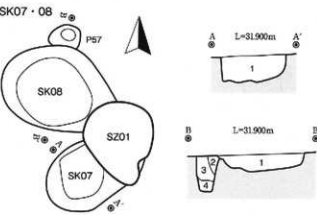
SK03  
1 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 埋山ブロック(φ5~40mm)40%、炭化物?(φ1~2mm)3%含む

SK04  
1 10YR3/2 黒褐色土 粘性强・しまりやや密 埋山ブロック(φ1~3mm)10%含む  
2 25Y7/6 明黄褐色粘土 粘性强・しまり密 10YR5/3に多い黄褐色土40%含む  
3 25Y7/8 黄色粘土 粘性强・しまり非常に密 埋座厚黄粘土 に多い黄褐色土15%含む  
4 10YR3/2黒褐色土・10YR5/4に多い黄褐色土・25Y7/6明黄褐色土の複合土  
明黄褐色土(φ5~40mm)30%含む  
5 25Y7/8 黄色粘土 3層と総厚は同じが炭化物はほとんどなし  
6 10YR5/4に多い黄褐色土と25Y7/8黄褐色土の複合土 黄色粘土はφ5~40mm  
7 10YR6/4 に多い黄褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密 埋座粘土の底土  
黄色粘土 粘性强・しまり密 10YR3/2黒褐色土と10YR5/4に多い黄褐色土を各15%含む 埋座厚黄粘土



SK05  
1 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密  
埋山ブロック(φ2~20mm)20%含む

SK06  
1 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密  
埋山ブロック(φ1~5mm)5%含む  
2 10YR4/3 に多い黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密  
埋山ブロック(φ1~10mm)30%含む

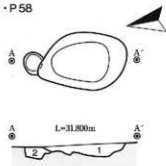


SK07  
1 10YR3/3 暗褐色土 粘性强・しまりやや密 埋山ブロック(φ5~20mm)15%含む  
SK08・P57  
1 10YR3/1 黒褐色土 粘性强・しまり密 埋山ブロック(φ5~20mm)10%、粘土・炭化物(φ1~3mm)各2%含む  
2 10YR7/8 黄褐色粘土 粘性强 粘土はφ10~30mmのブロックで、黒褐色土30%含む  
3 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 埋山ブロック(φ2~10mm)5%含む  
4 10YR6/4 に多い黄褐色粘質土 埋山厚黄粘土  
※1層φSK08、2~4層φ97埋土

0 1:40 1m

3. 検出遺構

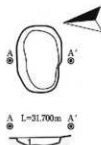
SK09・P58



SK09・P58

- 1 75YR3/4 暗褐色土 粘性やや強・しまり中 地山ブロック(φ2~5mm) 10%、焼土(φ2~10mm) 25%、炭化物(φ2~10mm) 15%含む  
 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ2~15mm) 15%、炭化物(φ2~5mm) 3%含む  
 ※1層がSK09、2層がP58焼土

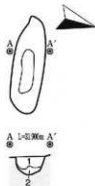
SK10



SK10

- 1 10YR3/2 灰褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ2~30mm) 30%含む

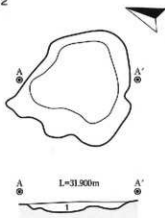
SK11



SK11

- 1 10YR3/2 灰褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック(φ2~5mm) 20%、焼土(φ2~5mm) 3%含む  
 2 10YR5/4 灰褐色土 粘性中・しまりやや密 地山ブロック(φ2~5mm) 30%含む  
 ※1層がSK09、2層がP58焼土

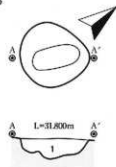
SK12



SK12

- 1 75YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ5~20mm) 15%、焼土・炭化物(φ1~5mm) 各2%含む

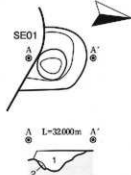
SK13



SK13

- 1 75YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック(φ2~10mm) 30%、焼土・炭化物(φ1~5mm) 各5%含む  
 大形の焼土ブロック(φ20~30mm)が底面付近に集中

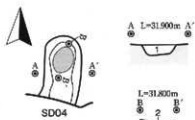
SK14



SK14

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性中・しまり密 炭化物(φ2~5mm) 2%含む  
 2 10YR7/6 赤黄褐色粘土 粘性强・しまり密 硬質腐植土

SK15



SK15

- 1 75YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック(φ2~10mm)30%、焼土・炭化物(φ1~5mm)各3%含む  
 2 25YR5/6~6/8 明赤褐色ブロック状焼土 粘性中・しまりやや密 ブロックはφ10~50mm 部分的に灰褐色に灰色 上面非常に硬く締まる

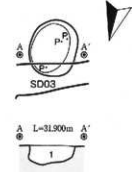
SK16

- 1 10YR7/8 黄褐色粘土 粘性强 硬質腐植土で10YR3/2型褐色土30%含む  
 2 10YR3/2 灰褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ1~5mm)15%含む  
 3 10YR7/8灰褐色粘土と10YR3/2型褐色土の混合土 粘性やや強・しまり中 ブロック状に散れる

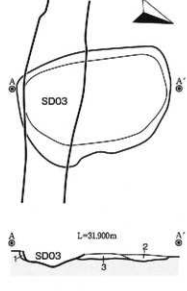
SK17

- 1 75YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまり中 焼土(φ2~10mm)20%、炭化物(φ1~5mm)3%、上に地山ブロック(φ30mm前後)10%含む

SK17

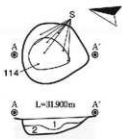


SK16

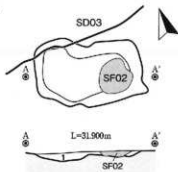


0 1:40 1m

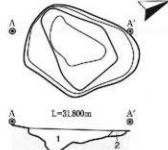
SK18



SK19



SK22



SK18

- 1 7.5YR4/2 灰褐色土 粘性やや強・しまり中 礎土(φ2-10mm)20%、炭化物(φ1-5mm)3%、焼山ブロック(φ30mm前後)10%含む

SK19

- 1 10YR3/2 暗褐色と10YR7/8 黄褐色の混合土 粘性やや強・しまりやや密 SF02付近は暗赤褐色に着色 礎土・炭化物(φ2-10mm)を微量含む

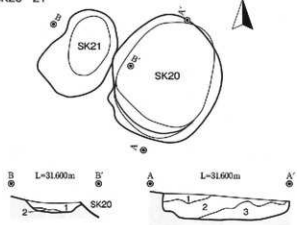
SK22

- 1 10YR2/1 暗褐色シルト しまりやや密・粘性やや強 焼山ブロック(φ1-5mm)5%、遺物・炭化物微量含む

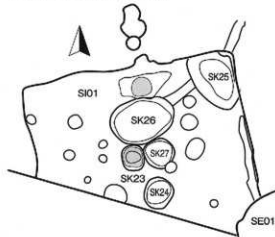
2

- 2 焼山土と暗褐色シルトの混合土

SK20・21



SK23~27配置図(S=1/100)



SK20

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼山ブロック(φ30mm以上)30%含む

2

- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼山ブロック(φ5-15mm)10%含む

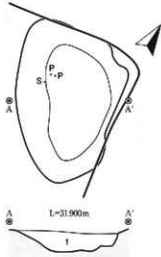
3

- 3 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼山ブロック(φ30mm以上)30%含む

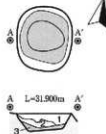
SK21

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性やや強・しまりやや密 焼山ブロック(φ5-30mm)15%、炭化物(φ1-3mm)3%含む

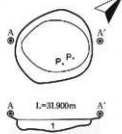
SK25



SK23



SK24



SK23

- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 しまりやや密・粘性やや強 焼山ブロック(φ5-20mm)20%、礎土(φ2-10mm)10%、炭化物(φ1-3mm)3%含む

2

- 2 10YR7/8 黄褐色土 しまり密・粘性やや強 礎土(φ1-3mm)3%含む

3

- 3 2.5YR5/8 赤褐色焼土ブロック しまり密 10YR7/8 黄褐色粘土30%、炭化物(φ2-10mm)5%含む

SK24

- 1 7.5YR3/3 暗褐色土 しまりやや密・粘性やや強 焼山ブロック(φ5-20mm)20%、礎土(φ2-10mm)20%、炭化物(φ1-3mm)3%含む

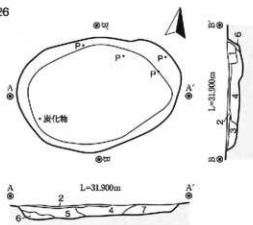
SK25

- 1 10YR4/3 灰い黄褐色土 粘性やや強・しまりやや密 焼山ブロック30%、礎土(φ2-5mm)5%含む SIO1体面やその他の土状より色調明るい

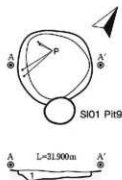
0 1:40 1m

3 検出遺構

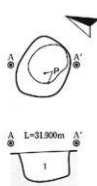
SK26



SK27



SK29



SK26

- 1 25YR5/8 明赤褐色粘土の二次堆積層 粘性やや強・しまりやや密 赤灰色土混入 炭化物(φ1~3cm)2%、上面にφ1mm程度の灰ノ痕跡混入含む
- 2 5YR5/3 におい赤褐色土 粘性やや強・しまり密 焼土・炭化物(φ3~10mm)・堆山ブロック各10%含む 上面破く跡まる
- 3 10YR5/3 におい黄褐色土 粘性やや強・しまり密 堆山ブロック(φ5~30mm)30%含む
- 4 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまり密 堆山ブロック(φ2~15mm)20%含む
- 5 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性やや強・しまり密 堆山ブロック(φ5~30mm)を40%含むため色調におい黄褐色に近い
- 6 10YR6/8 黄褐色粘土 堆山前遺土
- 7 10YR3/2黒褐色と10YR5/3におい黄褐色の混入土 堆山ブロック(φ2~10mm)15%、焼土粒(φ1~2mm)2%含む

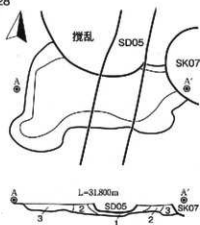
SK27

- 1 75YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 堆山ブロック(φ5~20mm)20%、焼土(φ2~10mm)10%、炭化物(φ1~3mm)3%含む

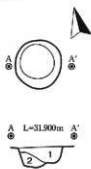
SK29

- 1 10YR3/1 黒褐色土 粘性やや強・しまり密 焼土・炭化物(φ2~5mm)各10%含む

SK28



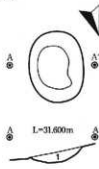
SK30



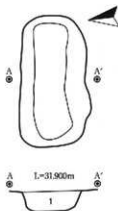
SK31



SK33



SK32



SK28

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまり中 堆山ブロック(φ5~30mm)15%含む
- 2 75YR7/8 黄褐色粘土 粘性強 畠a河階堆積土 10YR3/2黒褐色土20%含む
- 3 10YR4/3 におい黄褐色土 粘性やや強・しまり中 堆山ブロック(φ5~10mm)15%含む

SK30

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性中・しまり密 堆山ブロック(φ5~10mm)15%、焼土(φ2~5mm)5%、炭化物(φ5~15mm)10%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性強・しまりやや密 堆山ブロック(φ2~10mm)25%含む

SK31

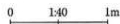
- 1 75YR3/2 暗褐色土 粘性強・しまりやや密 堆山ブロックと焼土、焼土塊を多量に含む
- 2 10YR1.2/1 褐色土 粘性・しまり共に φ5~10mmの小豆が堆積する炭化物層 焼土粒(φ5~10mm)5%含む
- 3 10YR7/8 黄褐色粘土 しまりやや密 畠a河階部で炭化物10%含む

SK32

- 1 10YR3/1黒褐色~3/2暗褐色土 粘性強・しまりやや密 堆山ブロック(φ2~5mm)10%含む

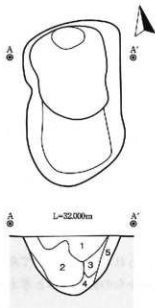
SK33

- 1 10YR7/6明黄褐色土(畠a層)・5YR5/2黄褐色土・25YR6/8褐色粘土ブロック(φ5~20mm)の混入土 粘性弱・しまり疎 全体的に砂質で粒まわり悪い



第92図 SK26~33

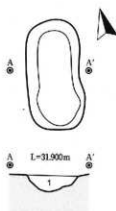
SK34



SK34

- 1 10YR3/4 暗褐色粘土質土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土小ブロック3%含む
- 2 10YR5/6 黄褐色粘土 粘性強・しまり密
- 3 10YR5/6 黄褐色粘土 粘性強・しまり密 暗褐色粘土30%含む
- 4 10YR4/4 暗褐色粘土質土 粘性強・しまり密 1層が水成を受けた土層
- 5 黒い層状面の面漆土

SK35



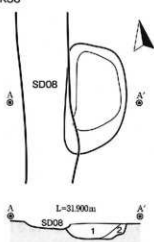
SK35

- 1 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土ブロック7%含む

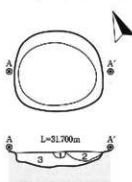
SK36

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまりやや密 炭化物(φ1~3mm) 10%、焼土(φ1~10mm) 15%含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性やや強・しまり密 堆山ブロック(φ2~10mm) 15%含むSD08焼土より色調が明るい

SK36



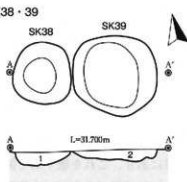
SK37



SK37

- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性強・しまり密 炭化物・焼土粒微量混入
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性強・しまり密
- 3 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性強・しまり密 堆山ブロック80%混入

SK38・39

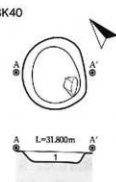


SK38・39

- 1 10YR4/3 濃い黄褐色粘土 粘性強・しまり密 堆山ブロック10%混入
- 2 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強・しまり密 炭化物・焼土粒微量混入

※1層がSK38、2層がSK39焼土

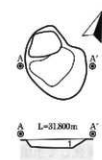
SK40



SK40

- 1 10YR4/3 濃い黄褐色粘土質シルト 粘性中・しまりやや密

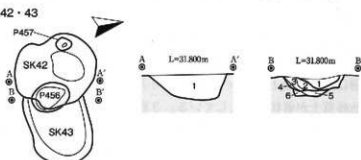
SK41



SK41

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中・しまりやや密

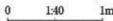
SK42・43



SK42・43

- 1 10YR4/4~3/4 黄~暗褐色粘土 粘性やや強・しまり密 黄褐色粘土小ブロック(径2~10mm)2%含む
- 2 10YR4/3 濃い黄褐色シルト 粘性中・しまり密 堆山ブロック30%混入
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性中・しまりやや密
- 4 10YR4/4 黄褐色粘土質シルト 粘性中・しまりやや密
- 5 10YR2/3 黄褐色シルト 粘性やや強・しまりやや密
- 6 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性中・しまりやや密

※1層がSK42、2~4層がSK43、5・6層がP456焼土





## (5) 井 戸

A・C・D区で各1基検出した。

## SE01井戸 (第94図、写真図版94)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB4hグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の半円形プランとして検出した。S I 01、S K 14と重複関係にあり、これらを壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉南側が調査区外に延びるため全形は不明であるが、調査区内で検出された部分のみを限り開口部は円形になるものと考えられる。開口部規模は2.85×(1.46)mである。開口部から底部まで円形を基調とするが、下位にいくほど規模は小さくなり、底面は0.82×(0.71)mとなる。壁面は、底部から約0.7mまではほぼ直立するが、それより上位は崩落の影響もあって外方に開きながら立ち上がる。検出面からの深さは1.66mである。

〈埋土〉調査中も湧水が著しいことから、常に滞水状態にあったと考えられる。全体として非常に粘性の強い粘土堆積である。壁面付近には壁面の崩落土、中央部には周辺からの流れ込みと考えられる黒褐色土が堆積していることから、自然堆積と考えられる。

〈出土遺物〉土器類は、埋土上～中位から土師器が145.5g出土しており、このうち坏1点(74)を掲載した。その他、埋土中位から碗形滓(104)、底面付近から木製品(131～134)が出土している。なお、黒褐色土中には礫が多量に含まれていたが、いずれも使用痕が確認できない自然礫であった。これらの礫の由来については木造構の石組の可能性も考えられるが、既に原位置を留めていないことから明らかにはできなかった。

〈性格・年代〉出土遺物・重複関係から古代以降に掘削・埋没したのと考えられる。石組や木枠が検出されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。

## SE02井戸 (第94図、写真図版94)

〈位置・検出状況〉C区ⅢA7gグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐～暗褐色の円形プランとして検出した。S D 08と重複関係にあり、これを壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉平面形は、開口部はほぼ円形であるが、中位から下方は方形基調となる。開口部規模は1.7×1.66m、底面規模は一辺約0.9mである。壁面は、底面と捉えた面から中位までは直線的に立ち上がるが、開口部付近は崩落の為外反気味となる。検出面からの深さは約1.5mであるが、湧水が著しいことから肉眼で観察できなかった。土質などからこの深さを底面と考えているが、これよりやや低くなる可能性もある。

〈埋土〉上位に粘土質シルト系、中位～下位に泥質粘土系の土層が堆積しており、11層に細分した。全体的には人為堆積層を基調に、5・8層など壁面の崩壊土と判断される土層が混じる様相である。1層は暗褐色粘土質シルトで土師器小片や須恵器片及び炭化物を含む。2層は暗褐色粘土質シルトで、褐色砂質土が屑状に混入している。3層はⅢ層(地山)に由来する黄褐色粘土層、4層は黒色泥質粘土層、5層は2層に類似するが黄褐色粘土の混入が多い土層である。6層は黒色粘土で非常に脆い特徴が香取される。おそらくは、木材(何らかの部材など)若しくは枝などが腐食して土壌化した土層と考えられる。7・8層は、1・2層の土質と比較して、より泥質である。9層は黒色泥質土、10層はⅢ層起源の黄褐色粘土層、11層は暗オリーブ灰色粘土質泥土で下方ほど砂質土の含有率が高い。

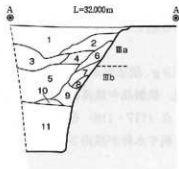
〈出土遺物〉大半が1層からの出土である。土器類は、土師器16.3g、須恵器37.6gが出土しており、須恵器大甕を1点掲載した(75)。その他、渥美窯産陶器甕(95)が出土している。

SE01

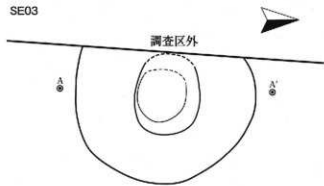


SE01

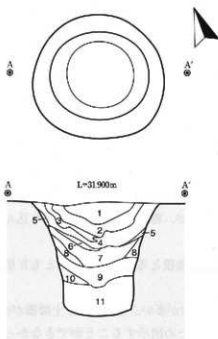
- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性中・しまり密 焼土粒(φ2~5mm)3%、炭化物(φ5~20mm)10%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック(φ2~10mm)形状に20%含む
- 3 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまり中 1・2層に比べて砂質 炭化物(φ5~20mm)5%、焼土粒3%含む 全体的に粒子粗(5層)の境界に適合
- 4 10YR3/2 黒褐色粘土 粘性強・しまりやや密 炭化物(φ1~2mm)2%含む 5層と6層は同色
- 5 10YR2/2 ~3/2 黒褐色砂質土 粘性・しまり共に中 粒子粗い砂質土 炭化物5%・焼土粒3%(φ1~2mm)、地山ブロック(φ2~20mm)20%、円礫(φ30mm)数個を含む 3層に類似するが炭化物が多い粘性・しまり共に強い
- 6 10YR4/2 灰黄色粘土 粘性強・しまり密 炭化物(φ1~2mm)2%、地山ブロック(φ20mm)数個30%、円礫数個含む やや砂質
- 7 10YR7/8 灰褐色粘土 粘性非常に強・しまり密 柱・層の崩落土で非常に硬く締まる
- 8 10YR5/3 灰黄色粘土 粘性強・しまり密 粒子の非常に細かい目土層の前層土
- 9 10YR5/6 明黄色粘土 粘性強・しまりやや密 10YR1/1黒色ブロック(φ5~20mm、有機質の純食料?)10%、10YR3/2黒褐色土30%含む
- 10 5GY5/1 オリーブ灰色粘土 粘性非常に強・しまり密 柱状の深い縦長の柱土
- 11 5BG6/1 青灰色粘土 粘性非常に強・しまり密 10層よりさらに粘性強い



SE03



SE02



SE03

- 1 10YR3/3 暗褐色粘土質シルト 粘性やや強・しまり密
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質粘土 粘性強・しまり密
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質粘土 粘性強・しまり中 黄褐色ブロック20%含む

SE02

- 1 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性中・しまり密 炭化物2%、黄褐色粘土ブロック7%、砂質土3%含む
- 2 10YR3/4 暗褐色粘土質シルト 粘性中・しまりやや密 褐色砂質土20%含む
- 3 10YR6/8 明黄色粘土 粘性やや強・しまり密 暗褐色粘土20%含む
- 4 10YR2/3 黒褐色粘質粘土 粘性強・しまりやや密 炭化物1%、黄褐色粘土ブロック3%、砂質土3%含む
- 5 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土ブロック30%含む
- 6 10YR2/1 黒色粘土 粘性やや強・しまり密 本質が土化した土層か
- 7 10YR3/4 暗褐色粘質粘土 粘性強・しまり密
- 8 10YR3/4 暗褐色粘質粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土10%含む
- 9 2.5Y2/1 黒色硬質土 粘性強・しまり中 7.5GY6/1緑灰色泥土ブロック10%含む
- 10 10YR6/8 明黄色粘土 粘性強・しまり密
- 11 2.5GY3/1 黄オリーブ灰色粘土 粘性強・しまり中



第94図 SE01~03

〈性格・年代〉埋土上位から瀬美窯産陶器破片が出土していることから中世以降に埋没した井戸と考えられる。石組や木枠が検出されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。

#### SE03井戸（第94図、写真図版94）

〈位置・検出状況〉D区IA10jグリッドに位置する。Ⅲ層上面で灰褐色の半円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。

〈規模・形状〉西側が調査区外に延びるため全形は不明であるが、調査区内で検出された部分をみる限り開口部は円形になるものと考えられる。開口部規模は2.37×(1.73)mである。開口部から底部まで円形を基調とするが、下位にいくほど規模は小さくなり、底面は0.64×(0.62)mとなる。壁面は、底部から約0.4mまではほぼ直立するが、それより上位は崩落の影響もあって外方に開きながら立ち上がる。検出面からの深さは1.67mである。

〈埋土〉3層に細分した。1層は暗褐色粘土質シルト、2・3層はオリーブ黒色泥質粘土である。2層と3層は土質・土色とも類似性が高いものの、3層の方が黄褐色粘土ブロックの混入が顕著なことから分層した。

〈出土遺物〉1層を中心に出土している。土器類は、土師器が186.9g、須恵器が121.2g出土しており、土師器甕1点(76)と須恵器大甕1点(77)を掲載した。その他、鉄製品や鉄滓、礫石器も出土しており、鉄製品3点(100~102)、鉄滓2点(105・106)、礫石器2点(117・118)を掲載した。

〈性格・年代〉古代以降に掘削・埋没したのと考えられる。石組や木枠が検出されなかったことから、素掘りの井戸と考えられる。

### (6) 堀

B・C区で各1条検出した。

#### SD101堀（第95図、写真図版95）

〈位置・検出状況〉B区IVC2~4bグリッドに位置する。検出面はⅢa~Ⅳ層で、当初は東側にある旧河道と一連のものとして認識していたが、周辺を精査した結果、旧河道とは異なる人為的な遺構であることが判明した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。

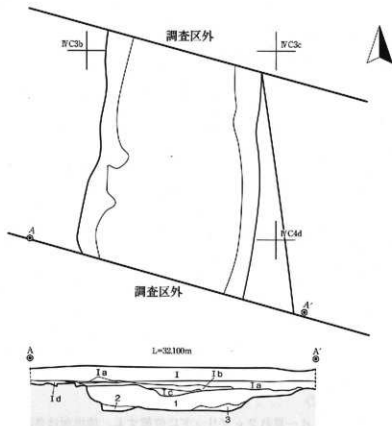
〈形状・規模〉ほぼ南北方向に走る堀であり、調査区内での検出規模は、長さ5.88m、幅3.3~4.56mである。断面形は逆台形で、深さは0.5~0.6mである。壁面は東西非対称であり、西壁は丸みをもって立ち上がるのに対して東壁は直線的に立ち上がる。また、東壁は中位付近で角度を変え、傾斜が非常に緩やかになる。底面は平坦に整えようとする意識は何えるが、礫層であるⅣ層を掘り込んでいることから凹凸が著しい。

〈埋土〉黒褐色土で構成され、3層に細分した。基本的に自然堆積と考えられ、各層ともⅣ層由来の円礫を含んでいる。

〈出土遺物〉各層から出土しているが、量的には1層出土のものが多い。土器類は、土師器が461.4g、須恵器が11.3g出土しているが、いずれも細片で摩耗しているため図示することができなかった。礫も出土しているが、いずれもⅣ層由来の自然礫であり使用痕が認められるものは無かった。

〈性格・年代〉出土遺物から古代以降に掘削・埋没したのと考えられる。後述するSD102との関連が予想され、規模及び周辺遺跡の状況から近世の環濠屋敷に伴う堀の可能性がある。

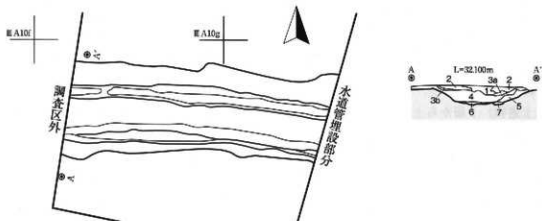
SD101



SD101

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性・しまり共に中 腐植起源の円礫(φ20~70mm)10%、炭化物(φ2~5mm)3%、小礫(φ5mm以下)・砂粒あわせて10%、油山ブロック(φ5~10mm)5%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強 円礫5%、砂粒10%含む 1層より粘性強い
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性中・しまりやや弱 円礫25%含む 互層積層上で1層より色調が深い
- ※1層は礫の大小などで層分できる可能性があるが、基本的には洪水による自然堆積であり一度に成れ込んだ可能性が高いため一括

SD102



SD102

- 1 10YR5/6 黄褐色粘土 粘性強・しまり非常に密 暗褐色粘土を灰状に7%含む
- 2 10YR4/4 褐色粘土 粘性強・しまり密
- 3a 10YR4/4 褐色粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土ブロック(φ5~8mm)5%含む
- 3b 10YR4/4 褐色粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土ブロック(φ5~8mm)3%含む
- 4 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 筋状に酸化鉄の濃帯を10%含む
- 5 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 オリーブ黒色炭質粘土7%含む
- 6 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土ブロック(φ1~3mm)5%含む
- 7 10YR3/4 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 黄褐色粘土ブロック(φ1~3mm)3%含む

第95図 SD101・102

## SD102堀 (第95図、写真図版96)

〈位置・検出状況〉C区ⅢA10f～gグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、褐色～暗褐色の長方形のプランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。

〈形状・規模〉ほぼ東西方向に走る堀で、調査区内での検出規模は、長さ5.5m、幅1.9～2.48mである。東側は近年の水道管理設工によって既に壊されている。南西隅の壁面も削平によって端部は不明瞭であった。断面形は箱形で、検出面からの深さは0.4～0.5mである。壁面は直線的に外方に開き、南壁はSD101西壁と同じく途中で角度を変え、傾斜が非常に緩やかになる。底面は中央から南側は比較的平坦に整えられているが、北壁付近には幅0.4m、深さ5cm前後の小溝が掘削されている。

〈埋土〉褐色～暗褐色の粘土で構成されており、7層に細分した。混和物の混入が少ないことから自然堆積と考えられる。

〈出土遺物〉埋土中～下位から土師器62g、陶磁器1点、その他剥片が数点出土しており、水沼窯産の可能性のある陶器1点(96)と剥片2点(128・129)を掲載した。

〈性格・年代〉出土遺物から中世以降に埋没したものと考えられる。SD101との関連が予想され、これと一連のものとなれば近世の環漆屋敷に伴う堀の可能性はある。

## (7) 溝

13条検出した。内訳は、A区6条、B区1条、C区3条、D区3条である。

## SD01溝 (第96図、写真図版97)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB1d～ⅢB2eグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の溝状プランとして検出した。SD02、P50・68と重複関係にあり、P50・68を壊す形で掘削されているが、SD02に中央部を壊されている。

〈形状・規模〉西側が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、北西～南東方向に走る直線的な溝で、東端は若干L字状に屈曲する。調査区内で検出した規模は、長さ6.86m、幅0.7～0.8mである。走行方向は、N-68°-Wである。断面形は箱形で、底部付近はほぼ垂直に立ち上がるが、上面付近は崩落の為のハの字状に開く。底面は、若干根の浸食はあるがほぼ平坦に整えられている。

〈埋土〉大部分が黒褐色土の堆積で占められており、黄褐色粘土の混合層(3層)は断面図作成ライン付近のみ確認される。大型の地山ブロックが多く、壁面崩落上と考えられる3層を除いて人為堆積の可能性はある。また、東端付近には直径0.5m前後の二次堆積焼土の堆積が1箇所認められた。

〈出土遺物〉1層から土師器1742gと縄文土器1点が出土しており、このうち土師器甕1点(78)と縄文土器深鉢1点(91)を掲載した。

〈性格・年代〉出土遺物から古代以降に埋没したものと考えられる。底面に水が流れたことを示す痕跡が認められなかったこと、東端が明確な屈曲をもって止められていることから、導水施設ではなく何らかの区画の為の施設であったと考えられる。

## SD02溝 (第96図、写真図版97)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB1c～ⅢB3dグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の溝状プランとして検出した。SD01、P10・42・48・50と重複関係にあり、これらを壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉南側が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、南北方向に走る溝である。調査区内で検出した規模は、長さ8.80m、幅0.3～0.42mである。走行方向は、N-4～6°-Eで、SD01との交差点付近で若干方向が変化している。断面形は逆台形を基調とするが、北端付近は撓乱と

地形の傾斜の影響で壁面が消失している部分が多い。深さは6cm前後である。底面はほぼ平坦に整えられている。

〈埋土〉黒褐色土の単層である。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉重複関係からSD01より新しい溝と判断できるが、出土遺物が無いため詳細な年代は不明である。また、性格についても不明である。

#### SD03溝 (第96図、写真図版97)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB2h～4fグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、暗褐色の溝状プランとして検出した。SK01・12・16・17・30、SB01 (P37・72)、P56・69・96・97と重複関係にあり、SK01・12、SB01、P56・69に一部を壊されている。

〈形状・規模〉南端が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、走行方向が様々に変化している溝である。南端付近はほぼ南北方向であるが、緩やかに弧を描いて東側に曲がり、SB01との重複部分付近から直線的に北東方向に走る。また、北東側SK01との重複部分付近で北西方向にほぼ直角に角度を変え、端部は地形の傾斜に負けて消失している。調査区内で検出した規模は、長さ12.03m、幅0.18～0.63mである。断面形は逆台形を基調としているが、幅の狭い南側は皿形となる。深さは5～14cmである。

〈埋土〉2層に細分した。地山ブロックや焼土を含んでおり、全体として色調が不均質であることから人為堆積の可能性がある。

〈出土遺物〉SK16との重複部分(断面Bライン周辺)から土師器が110.1g、須恵器が732g出土している。本遺溝の埋土中から出土したものは全て図示できない細片であり、SK16埋土中から出土したのとして須恵器大甕1点(49)を掲載した。

〈性格・年代〉出土遺物・重複関係から古代～近世の間に掘削・埋没した溝と考えられる。ただし、遺存状況が良くないため性格については不明である。

#### SD04溝 (第96図、写真図版98)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB4h・jグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の溝状プランとして検出した。SK05・15、SF01、P88・90と重複関係にあり、これらを壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉ほぼ東西方向に走る短小な溝である。上面規模は2.79m、幅は0.19～0.27mである。走行方向は、N-82°-Wである。断面形は箱形ないし逆台形で、底面は若干凹凸がある。

〈埋土〉黒褐色土の単層で、SF01の付近のみ焼土粒を若干含む。

〈出土遺物〉土師器が51.1g出土しているが、細片の為図示できなかった。

〈性格・年代〉出土遺物から古代以降に掘削・埋没したのと考えられる。ただし、溝としては短小であることから性格については不明である。

#### SD05溝 (第96図、写真図版98)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB1～3fグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の溝状プランとして検出した。SI02、SK28と重複関係にあり、SK28を壊す形で掘削されているが、南端をSI02に壊されている。

〈形状・規模〉ほぼ南北方向に走る直線的な溝で、上面規模は、長さ6.69m、幅0.36～0.44mである。

走行方向は、N-6°-Eである。断面形は皿形で、深さは6~10cmである。底面は根の浸食も多いが、おおむね平坦に整えられている。

〈埋土〉黒褐色土の単層で、SD01の1層と混入物などに類似性がある。

〈出土遺物〉断面Aラインの付近から土師器が28.7g、須恵器が23.6g出土しており、このうち須恵器大甕1点(79)を掲載した。

〈性格・年代〉出土遺物及び重複関係から、古代でもS I 02より古い時期(9世紀後半以前)に掘削された溝と考えられる。直線的であることと埋土の類似性から、SD01と同様区画の為に掘削された溝の可能性はある。

#### SD06溝(第97図、写真図版98)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB3g・hグリッドに位置する。検出面はⅢ層及びS I 01床面である。当初はS I 01の内と外で別の溝と考えていたが、走行方向から一連のものであると判断した。S I 01、S K 01・24・27と重複関係にあり、これら全てに大部分を壊されている。

〈形状・規模〉大部分を他の遺構に壊されているため全形は不明であるが、北東-南西方向に長軸をとる溝である。残存する規模は、長さ約1.7m、幅約0.25mである。断面形は箱形ないし逆台形で、深さは6~10cmである。

〈埋土〉黒褐色土主体で、断面Bライン付近はS I 01構築の影響の為に外側のものより若干色調が明るく、上面の締まりも強くなる。

〈出土遺物〉断面Bライン付近から土師器が26.8g出土しており、このうち土師器鉢1点(80)を掲載した。

〈性格・年代〉出土遺物・重複関係から、古代でもS I 01やS K 24・27より古い時期(9世紀後半以前)に掘削された溝と考えられる。ただし、遺存状況が悪いため性格については不明である。

#### SD07溝(第97図、写真図版98)

〈位置・検出状況〉B区ⅢB9~10dグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、調査区西壁際で溝状のプランとして検出した。他遺構との重複関係は無く、単独で存在する。

〈形状・規模〉東壁以外は調査区外となっているため全形は不明であるが、ほぼ南北方向に直線的に走る溝である。調査区内で検出された規模は、長さ4.6m、幅0.5mである。断面形は逆台形と考えられ、深さは0.4mである。底面はほぼ平坦に整えられており、壁面は外方に開きながら立ち上がる。走行方向は、N-17°-Eである。

〈埋土〉黒褐色土が主体で2層に細分した。流入方向を考慮すると自然堆積と考えられる。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉出土遺物・重複関係ともに無いため年代は不明である。また、性格についても不明である。

#### SD08溝(第97図、写真図版99)

〈位置・検出状況〉C区ⅢA3h~ⅢA8gグリッド位置する。検出面はⅢ層で、暗褐色の溝状プランとして検出した。S K 36、S E 02、S D 09・10、P 301・304・344・363と重複関係にあり、S E 02とS D 10以外の遺構を壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉北側が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、南北方向に走る直線的な溝

である。SE02周辺は削平によって消失しているが、南端は若干残存しており（SD08b）、走行方向が同じであることから一連のものとして捉えている。規模はSD08aが長さ11.5m、幅0.26～0.71m、SD08bが長さ1.66m、幅0.29mで、削平部分を含めると全長は16.33mとなる。断面形は箱形を基調としており、最も深い北端付近で15cmである。底面はほぼ平坦に整えられている。走行方向は、N-6°-Eである。

〈埋土〉暗褐色粘土による単層である。単層で判断が難しいが、堅い土質であることから人為堆積の可能性はある。

〈遺物〉土器類は、弥生土器が6.1g、須恵器が38.9g出土しており、このうち弥生土器1点（92）と須恵器大甕1点（81）を掲載した。その他、石器剥片が少量出土している。

〈性格・年代〉削平されている部分ではあるが、中世以降に埋没したSE02に壊されていることと須恵器が出土していることから古代に属する溝と考えられる。直線的な溝であることから、区画の為の施設であった可能性はある。

#### SD09溝（第97図、写真図版99）

〈位置・検出状況〉C区ⅢA3～5gグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、SD08から分岐する溝状プランとして検出した。SD08と重複関係にあり、北側の大部分をSD08に壊されている。

〈形状・規模〉ほぼ南北方向に走る直線的な溝で、北側はSD08に壊されている。残存する上面規模は、長さ6.31m、幅0.32～0.56mである。断面形は逆台形で、深さは8cm前後である。底面はSD08と比べて凹凸が目立つ。

〈埋土〉暗褐色粘土質土の単層で、SD08より混和物が多い。

〈出土遺物〉出土していない。

〈時期〉重複関係からSD08より古く、古代あるいはそれ以前に掘削された溝と考えられる。ただし、性格については不明である。

#### SD10溝（第97図、写真図版100）

〈位置・検出状況〉C区ⅢA5g・hグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、東西に走る溝状プランとして検出した。SD08、P302と重複関係にあり、これらを壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉東西両端が調査区外へと延びるため全形は不明であるが、ほぼ東西方向に走る直線的な溝である。調査区内で検出された規模は、長さ6.72m、幅0.65～1.0mである。断面形は皿形で、深さは8～10cmである。

〈埋土〉暗褐色粘土の単層である。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉重複関係からSD08より新しい溝（古代以降）と判断できるが、出土遺物が無いため詳細な年代は不明である。また、性格についても不明である。

#### SD11溝（第98図、写真図版100）

〈位置・検出状況〉D区ⅠA7jグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の溝状プランとして認識した。P405～408と重複関係にあり、これらを壊して掘削されている。

〈形状・規模〉北側が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、調査区内で検出した上面規模は長さ2.47m、幅0.7m前後である。断面形は逆台形を基調とするが、根の浸食などによる凹凸が著



しい。北側ほど深く、最深部の深さは0.28mである。主軸方位は、 $N-12^{\circ}-W$ である。

〈埋土〉主体は黒褐色粘土質土で、西側に壁面崩落土と考えられる暗褐色～黄褐色の粘土が堆積している。混人物がほとんど無いことから自然堆積と考えられる。

〈遺物〉1層中から土師器が12.5g出土しているが、細片の為図示できなかった。

〈性格・年代〉土師器が出土していることから古代に掘削された溝の可能性はあるが、詳細な年代・性格については不明である。

#### SD12溝（第98図、写真図版100）

〈位置・検出状況〉D区ⅠA10j～ⅠB10bグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、暗褐色の溝状プランとして検出した。P472・474・475・477・484・485・487と重複関係にあり、P485以外を壊す形で掘削されている。

〈形状・規模〉東側が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、ほぼ東西方向に直線的に走る溝であり、西端は自然に消滅する。調査区内で検出された規模は、長さ7.9m、幅0.26～0.45mである。断面形は皿形で、深さは3～8cmである。走行方向は、 $N-84^{\circ}-W$ である。

〈埋土〉暗褐色粘土質土の単層である。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉出土遺物が無いことから、年代は不明である。ただし、調査区東壁を観察する限り、昭和30～40年以前の旧耕作土層（Ⅰ層）より下位の層から掘り込まれているように捉えられることから、年代の下限は昭和初期になると考えられる。なお、後述するSD13も走行方向・埋土がほぼ同じであることから、同時期に同一の目的で掘削されたものと考えられる。

#### SD13溝（第98図、写真図版100）

〈位置・検出状況〉D区ⅡA1j～ⅡB1bグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、暗褐色の溝状プランとして検出した。SB02・04・05、P497と重複関係にあり、SB04・05の柱穴に上面を壊されている。

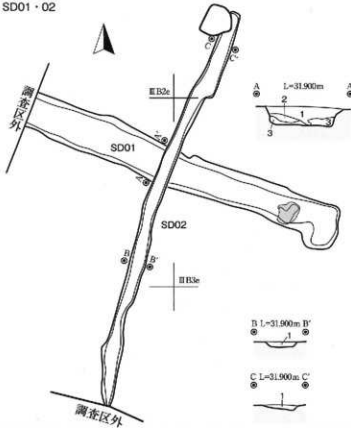
〈形状・規模〉東側が調査区外へと延びているため全形は不明であるが、ほぼ東西方向に直線的に走る溝であり、西端は自然に消滅する。調査区内で検出された規模は、長さ6.2m、幅0.15～0.29mである。断面形は皿形で、深さは3～5cmである。走行方向は、 $N-81^{\circ}-W$ である。

〈埋土〉暗褐色粘土質土の単層である。

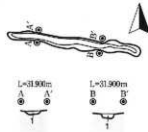
〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉出土遺物が無いことから、年代は不明である。ただし、SD12と同様昭和30～40年以前の旧耕作土層（Ⅰ層）より下位の層から掘り込まれているように捉えられること、昭和以前と考えられる掘立柱建物の柱穴に切られていることから、近世～近代のいずれかの時期に掘削された溝であると考えておきたい。

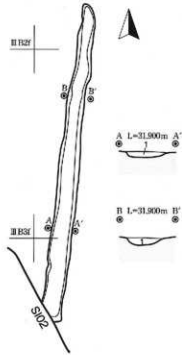
SD01・02



SD04



SD05



SD01 (A-A')

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまり密 地山ブロック(φ1~5mm)15%下位に多く含む 炭化物(φ1~2mm)2%含む
  - 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ1~5mm)35%含む
  - 3 10Y2/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(φ1~5mm)35%含む
- SD02 (B-B'・C-C')
- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性中・しまり密 地山ブロック(φ5~30mm)30%含む 上層は硬く締まる

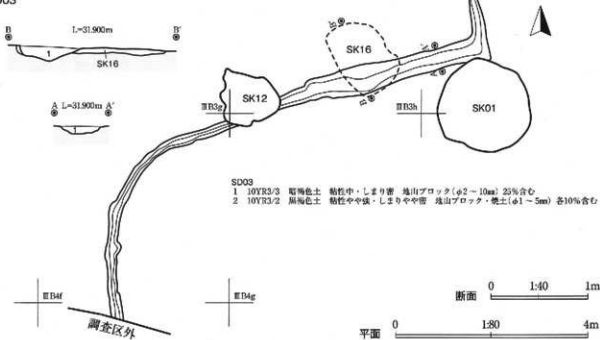
SD04

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性・しまり共に中 炭化物(φ1~2mm)3%含む SF70付着のみ塵土較少量含む

SD05

- 1 7.5YR2/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック(明褐色、φ2~30mm)30%含む

SD03



SD03

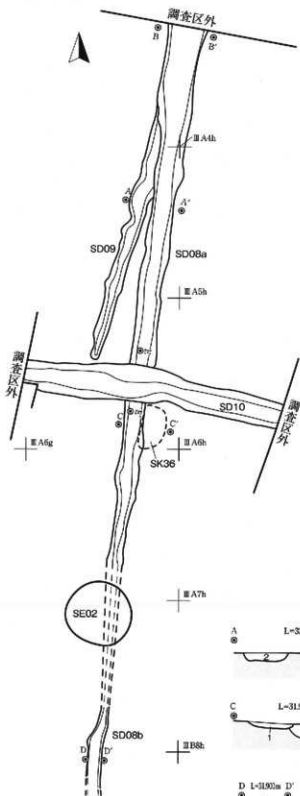
- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性中・しまり密 地山ブロック(φ2~10mm)25%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 地山ブロック・焼土(φ1~5mm)各10%含む

断面 0 1:40 1m

平面 0 1:80 4m

第96図 S D01~05

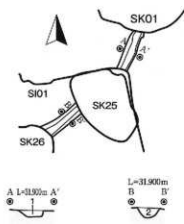
SD08・09・10



SD08・09・10

- 1 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性状・しまり密
  - 2 10YR3/4 暗褐色粘土質土 粘性状・しまりやや密
  - 3 10YR3/4 暗褐色粘土質土 粘性状・しまり密 所々に浅黄褐色粘土3%含む
- ※ 1層がSD08、2層がSD09、3層がSD10層土

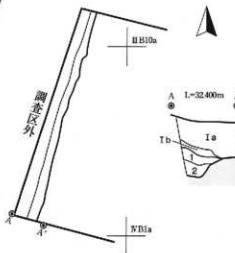
SD06



SD06

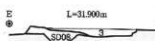
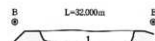
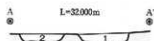
- 1 10YR3/1 黒褐色土 しまりやや密・粘性状やや強 堆山ブロック(φ2~5mm)10%、礫土(φ2~5mm)2%含む
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり密・粘性状やや強 堆山ブロック30%、礫土・炭化物(φ1~5mm)各3%含む

SD07



SD07

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性状やや強・しまり中 炭化物(φ1~5mm)2%含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 粘性状やや強・しまり中 堆山ブロック(φ2~10mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%含む



断面 0 1:40 1m

SD06・07平面 0 1:80 4m

SD08-10平面 0 1:100 5m

第97図 SD06~10

SD11



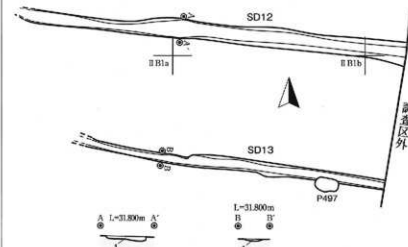
SD11

- 1 10YR2/3 黒褐色粘土質シルト 粘性強・しまり密 明黄褐色粘土ブロック(φ2~10mm) 2%含む  
 2 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性強・しまり密 壁の崩壊土か  
 3 10YR5/6 黄褐色粘土 粘性強・しまり密 暗褐色土20%含む

SD12・13

- 1 10YR3/4 暗褐色粘土質土 粘性やや強・しまり密 黄褐色粘土小ブロック(φ2~10mm) 2%含む

SD12・13



断面 0 1:40 1m

平面 0 1:80 2m

第98図 SD11~13

## (8) 陶器埋設遺構

### S Z01陶器埋設遺構 (第99図、写真図版101)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB2 fグリッドに位置する。Ⅲ層上面で礫を多量に含む円形プランとして検出した。陶器の出土状況から土坑状の掘り方を掘って内部に陶器を埋設した遺構であったと考えられる為、今回は土坑とは区別して陶器埋設遺構として登録した。ただし、上面が大幅に削平されていることと盗掘にあった可能性があることから本来の形状は保っていないと考えられる。SK07・08と重複関係にあり、これらを壊す形で構築されている。

〈形状・規模・堆積状況〉掘り方の平面形は南側が張り出す不整な円形で、上面規模は0.88×0.73mである。断面形は逆台形状で、検出面からの深さは0.35mである。壁際から陶器大甕の破片が張り付くように出土しており、その状況から掘り方は大甕の大きさに合わせたものであったと考えられる。ただし、陶器破片は部分的にしか残存しておらず、特に南〜西壁側では全く検出されていない。前述の通り南側が張り出すように掘り上げられており、その位置から西側にかけて陶器が出土していないことから、この付近から掘削され盗掘にあったものと考えられる。

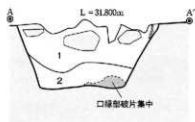
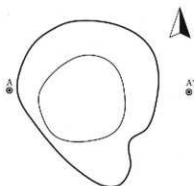
遺構内堆積土は2層あり、上位の暗褐色土(1層)には礫が多量に含まれているが、下位の明黄褐色〜黄褐色粘土(2層)には全く礫は含まれず、底面直上から口縁部の破片が集中して出土している。なお、両層とも陶器破片と礫の位置関係から盗掘の後に堆積したものと考えられる。本遺構の周辺の地山には礫は含まれないことから、1層中の礫は自然の流れ込みではなく他の地点から持ち込まれたものと考えられる。おそらく掘り方を被覆する為に使用されていたものが盗掘の際に陶器が壊れることによって落ち込んだものと考えられる。

〈出土遺物〉埋設されていた陶器は渥美窯産の大甕(94)で、口縁部と体部の破片が総量で約5.4kg(総破片数35点)出土した。全て同一個体の破片であるが、盗掘の際に大部分が持ち出されたと考えられ接合することができない。また、遺構内に堆積していた礫は50点あり、これらについては全点使用痕

の有無を確認しており、このうち砥石(110)、使用痕が認められた石器3点(119・121・122)、自然礫ではあるが黒色の付着物が認められたもの(120)を掲載した。なお、本遺構の性格を考慮するとこれらの石器は他の施設で使用されていたものが本遺構構築の際に転用材として持ち込まれたものと考えられる。その他、土師器の小破片が1.3g出土している。

〈性格・年代〉埋設された渥美窯産陶器が12世紀第二四半期に製作されたものであることから、これ以降に構築されたものと考えられる。陶器を埋設し礫を使用するという点から経塚遺構の一部と考えられるが、本遺構の性格及び構築・埋没のプロセスについては第Ⅶ章で検討を加えることとする。

SZ01

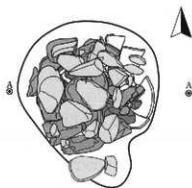


SZ01

- 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性・しまり共に中 堆山ブロック(φ1~3mm)3%含む  
礫と陶器片を多量に含んでいるため全体として柔らかく崩れやすい  
2 10YR7/6 明黄褐色~7/8 灰褐色粘土 粘性强 堆山起源 非常に粘性が強く  
見た目は堆山に類似するが、10YR3/3暗褐色土ブロックを少量含む

0 1:20 1m

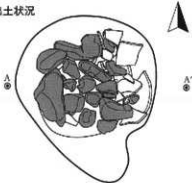
検出状況



上面礫除去状態



2層上面礫出土状況



陶器片出土状況



第99図 S Z01

## (9) 掘立柱建物

A区で1棟、D区で4棟検出した。柱穴の形状・規模は第32～38表の通りであり、ここでは重複関係などについて記載する。なお、尺度については1尺=約30.3cmとする。

**S B01掘立柱建物** (第100図、写真図版102)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB2f～3gグリッドに位置する。直接的な重複関係にある遺構は、S I 01、S D03、S K16・18であり、全ての遺構の一部を壊す形で柱穴が掘削されている。

〈形状・規模〉柱穴の配置から2間×1間以上の建物であったと考えられるが、南東隅に直線状に並ぶ柱穴(P94)があることから、北東隅にも柱穴が存在していた可能性がある。桁行は1間が2.27m(7.5尺)、梁行は1間が3.53m(11.6尺)となる。柱の痕跡はP80・83で確認することができた。主軸方位は、N-15°-Eである。

〈出土遺物〉P29から土師器が15.7g出土しているが、細片の為図示できなかった。

〈性格・年代〉他遺構との重複関係から近世以降に構築されたものと考えられる。

**S B02掘立柱建物** (第101図、写真図版103)

〈位置・検出状況〉D区ⅡB1～3aグリッドに位置する。東側の一部が調査区外へと延びているものと考えられる。直接的な重複関係にある遺構は、S K37・39、S D13、S B04、P501・503・513・526・555である。このうち、P501・503は本遺構より新しく、S K37・39、S D13、P513は本遺構より古い。ただし、S B04、P526・555については不明である。

〈形状・規模〉柱筋の通りは悪く、間隔が各列で異なる。桁行は、南西側が1間0.96～2.5m(3.2～8.3尺)、北東側が1間1.92～2.15m(6.3～7.1尺)である。梁行は、北西側が1間2.0～2.4m(6.6～8尺)、南東側が1間1.4～1.88m(4.6～6.2尺)である。柱の痕跡は、P502・514・528で確認することができた。主軸方位は、N-52°-Wである。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉出土遺物は無いが、一部の柱穴が近世～近代以前の掘削と考えられるS D13を壊していることから近代以降に属すると考えられる。

**S B03掘立柱建物** (第100図、写真図版104)

〈位置・検出状況〉D区ⅠB7～9dグリッドに位置する。東側の大部分が調査区外へと延びているが、調査区内で他遺構との直接的な重複関係は無い。

〈形状・規模〉柱穴の配置から3間×4間以上の建物であったと考えられるが、調査区壁面付近の柱穴は削平の為消失している。桁行は1間が1.5m(5尺)、梁行は1間が3m(10尺)である。柱の痕跡はP434・435で確認することができた。主軸方位は、N-54°-Wである。

〈出土遺物〉出土していない。

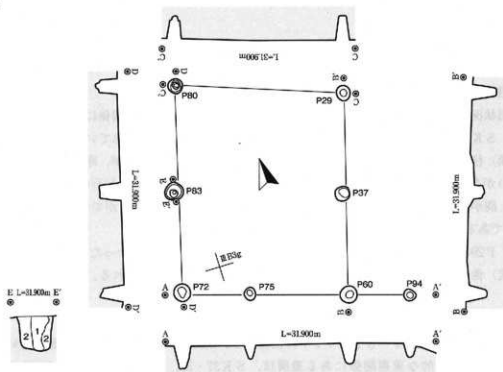
〈性格・年代〉出土遺物・重複関係ともに無いため年代は不明である。

**S B04・05掘立柱建物** (第102図、写真図版105)

〈位置・検出状況〉D区ⅡB1～4aグリッドに位置する。主軸方位を違えて構築されているが、柱穴を共有しているため、両者の新旧関係は不明である。したがってここでは両者合わせて記述する。両者とも東側の大部分が調査区外へと延びている。直接的な重複関係にある遺構は、S B02、S D

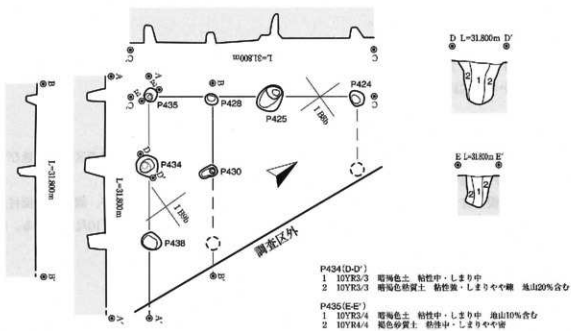
3 検出遺構

SB01



- P83 (E-E')  
 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性やや強・しまりやや密 池山ブロック(φ5~30mm)20%含む  
 2 10YR7/8黄褐色粘土と10YR3/2黒褐色土の混合土 柱基式の上

SB03



- P434 (D-D')  
 1 10YR3/3 暗褐色土 粘性中・しまり中  
 2 10YR3/3 暗褐色粘質土 粘性強・しまりやや密 池山20%含む

- P435 (E-E')  
 1 10YR3/4 暗褐色土 粘性中・しまり中 池山10%含む  
 2 10YR4/4 褐色砂質土 粘性中・しまりやや密

SB01断面E・SB03断面D・E 0 1:40 1m 0 1:80 4m

第100図 SB01・03

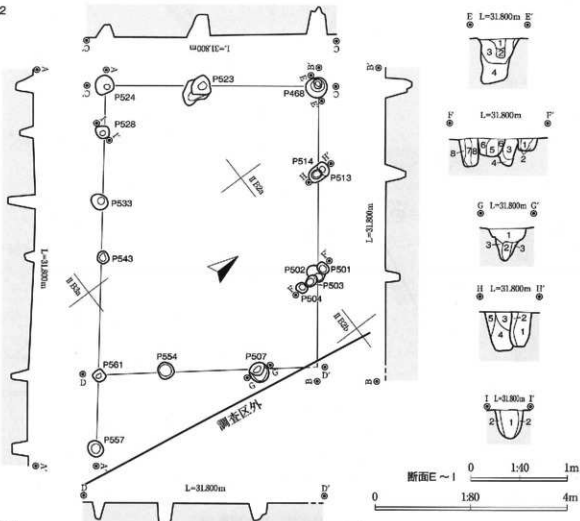
13、SK37であり、全ての遺構の一部を壊す形で柱穴が掘削されている。

〈形状・規模〉SB04が3間×3間以上、SB05が2間×3間以上の建物であったと考えられる。SB04は桁行が1間2.52m(8.3尺)、梁行が1.25m(4.1尺)である。SB05は桁行が1間1.26m(4.2尺)、梁行が1.22m(4尺)である。SB04・05とも柱痕跡が確認できた柱穴は無い。主軸方位は、SB04がN-26°-W、SB05がN-19°-Wである。

〈出土遺物〉P498から環状の鉄製品が1点出土している(103)。

〈性格・年代〉近代以降と考えられるSB02、SD13を壊す形で構築されていることから、近～現代に属すると考えられる。

SB02



## P468(E-E')

- 1 10YR4/3 濃い黄褐色粘土 粘性強・しまり密 地山ブロック10%・棕色粘土3%含む
- 2 10YR2/2 黒褐色土 粘性やや強・しまり弱
- 3 10YR6/6 明黄褐色土 粘性やや強・しまり密
- 4 10YR4/4 暗褐色土 粘性強・しまり密

## P501～504(F-F')

- 1 10YR4/6 褐色粘土
- 2 10YR4/6褐色粘土(白層)に10YR3/3暗褐色粘質土30%混入
- 3 10YR3/3 暗褐色粘質土 粘性やや強・しまり密 炭化物微量含む
- 4 10YR5/6 黄褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密
- 5 10YR4/3 暗褐色粘質土 粘性中・しまり密 地山ブロック20%含む
- 6 10YR6/6 黄褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密 地山50%含む
- 7 10YR4/3 濃い黄褐色粘土 粘性中・しまりやや密 地山10%・炭化物微量含む
- 8 10YR5/6 黄褐色粘質土 粘性やや強・しまりやや密

※1・2層がP501、3・4層がP502、5・6層がP503、7・8層がP504粘土

## P507(G-G')

- 1 10YR7/6 明黄褐色粘土 粘性強・しまり密 地山30%含む
- 2 10YR4/3 濃い黄褐色粘質土 粘性強・しまりやや密
- 3 10YR6/6 明黄褐色土 粘性強・しまり密 地山10%含む

## P513・514(H-H')

- 1 10YR4/4 暗褐色粘土 粘性中・しまり密 地山ブロック20%・炭化物微量含む
- 2 3層再埋積土 褐色粘質土(1層)含む
- 3 10YR4/4 褐色粘質土 粘性中・しまり密
- 4 10YR4/4 褐色粘質土 粘性中・しまり密 地山30%含む

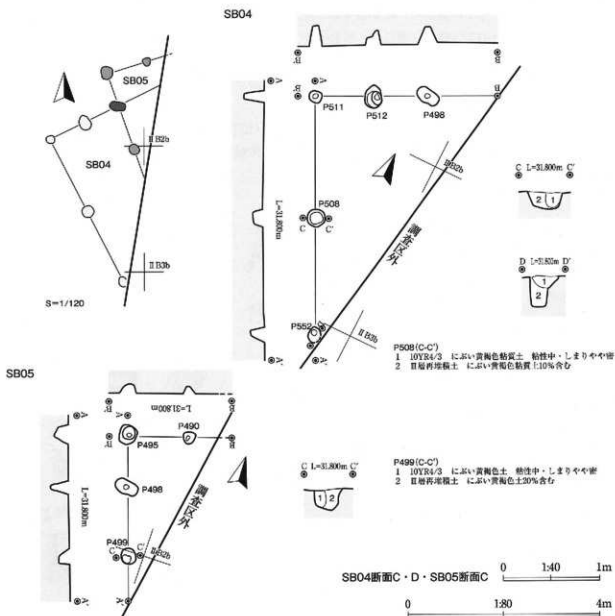
## ※1・2層がP513、3・4層がP514粘土

## P528(I-I')

- 1 10YR3/3 暗褐色粘質土 粘性やや強・しまり密 炭化物微量含む
- 2 10YR4/3 濃い黄褐色粘質土 粘性中・しまり密

第101図 SB02





## (10) 柱 穴

規模・形状は第32～38表の通りであり、以下では調査区ごとに概要を述べることにする。

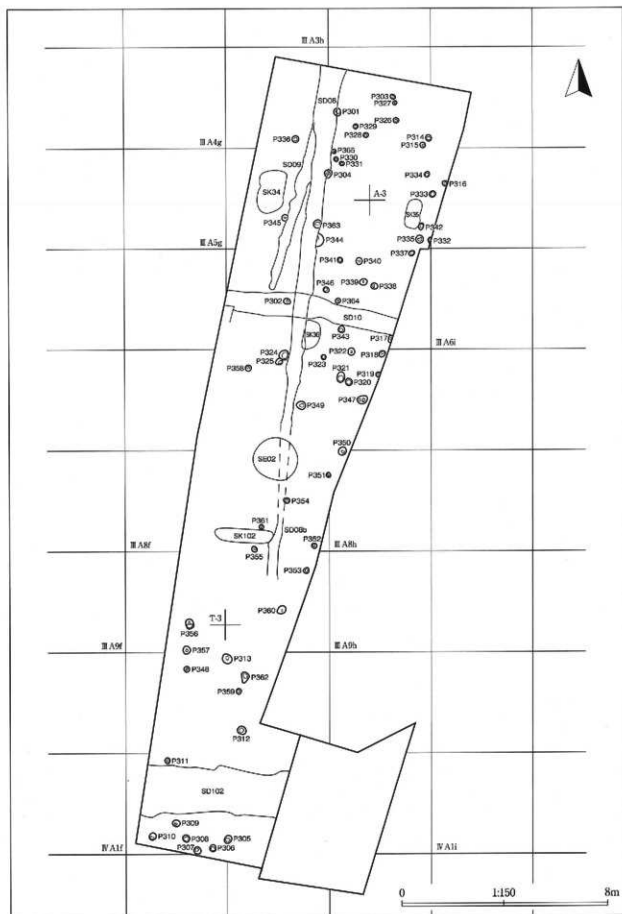
## A区 P01～100・601～609・701～715 (第103図、写真図版106)

調査区の中央から西側にかけて集中する傾向にある。P9・44・57・90・93・95・102～106は重複関係から古代以前、P29・37・60・72・75・80・83・94は掘立柱建物(SB01)を構成していることから近世以降と考えられるが、全体として出土遺物が乏しく年代が不明なものが多い。遺物は17個で出土しており、このうちP3出土の土師器杯(82)とP74出土の石器(126)、P78出土の縄文土器(93)を掲載した。

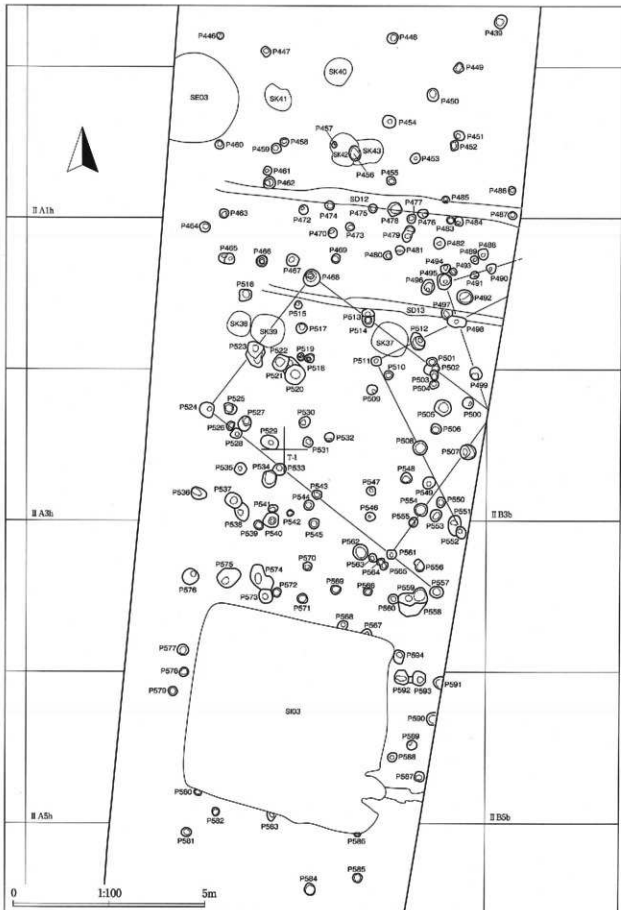
## B区 P201～218 (第103図、写真図版106)

調査区の西側のみ分布する。削平の影響が著しいため全体的に小型で浅いものが多い。検出されたものを見る限りでは建物を構成するものは確認できず、重複関係も無いことから年代がわかるもの





第104図 柱穴 (C区)



第105図 柱穴 (D区①)

は皆無である。遺物はP201で土師器坏(83)が出土したのみである。

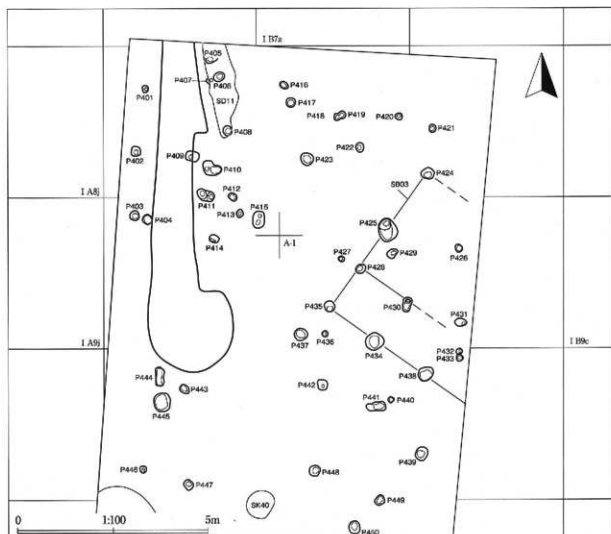
#### C区P301~365(第104図、写真図版106・107)

調査区全域で検出されているが、北側に集中する傾向にある。B区同様削平が著しいため小型で浅いものが多い。重複関係からP301・304・344・363が古代以前に属すると考えられるが、全体として出土遺物が乏しく年代が不明なものが多い。遺物はP310で土師器片8.3g、P345で石器剥片(130)が1点出土しているのみである。

#### D区P401~594(第105・106図、写真図版107)

調査区全域で検出されているが、とくに中央から南側にかけて密集するように分布する。柱穴同士で重複関係にあるものも多い。古代の遺構であるS I 03やS K 42・43に切られるP456・457・567・568・580・583・586は古代以前、掘立柱建物(S B 02~05)を構成するP424・425・428・430・434・435・438・468・490・495・498・499・502・507・508・511・512・514・523・524・533・543・552・554・557・561は近世~現代と考えられる。また、底面付近から寛永通宝(107)が出土したP592も近世に属すると考えられる。

遺物は18個で出土しており、このうちP498出土の環状鉄製品(103)とP592出土の寛永通宝(107)、P517出土の石製品(111)を掲載した。



第106図 柱穴(D区②)

## (11) 焼 土

A区で2基検出した。

## SF01焼土 (第107図、写真図版93)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB4 i グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、赤褐色の不整形プランとして検出した。SD04と重複関係にあり、北側約半分を壊されている。

〈形状・規模〉平面形は不整形で、規模は36×23cm、被熱深度は6cmである。

〈埋土〉堅穴住居内の焼土と比較すると色調はやや暗いが、現地性である。明赤褐色の焼土で、燃焼部の中心と考えられる上面中央部分は橙色に変化している。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉重複関係からSD04より古い遺構といえるが、詳細な年代は不明である。

## SF02焼土 (第107図、写真図版93)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB3 g グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、SK19埋土中に赤褐色の円形プランとして検出された。当初はSK19と一連のものと考えていたが、SK19とともに埋土を半葺したところ本遺構の被熱範囲がSK19の底面より下まで達していたことから別遺構と判断した。したがって本遺構はSK19埋没後に形成されたものと考えられる。

〈形状・規模〉平面形は円形で、規模は37×35cm、被熱深度は7cmである。

〈埋土〉現地性の焼土で、色調は赤褐色、上面はやや硬化してブロック状となる。粒子の細かいSK19埋土上に形成されていることと、熱の影響によってシルト質の粒子となっている。

〈出土遺物〉出土していない。

〈性格・年代〉古代と考えられるSK19埋没後に形成されていることから、古代あるいはそれ以降に属すると考えられる。

## (12) 性格不明遺構

A区で1基検出した。

## SX01性格不明遺構 (第107図、写真図版107)

〈位置・検出状況〉A区ⅢB4 j グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の不整形プランとして検出した。P24・26と重複関係にあり、これらを壊す形で掘削されている。長軸が4m以上のプランとして検出されたことと、本遺構検出以前にみつかったS102の埋土と本遺構の埋土が類似していたことから、堅穴住居である可能性も考慮して4分法で掘り下げを開始した。

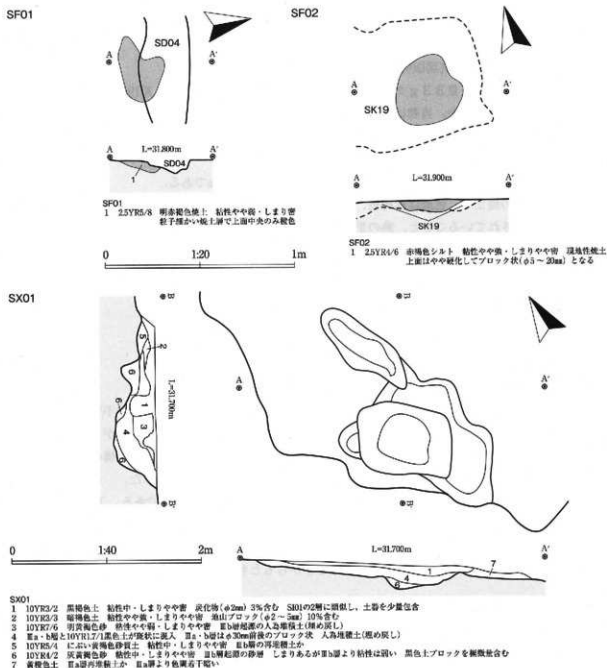
〈形状・規模〉土坑が複数重なったような形状で、平面形・断面形とも不整形である。1層は4.37×1.36mの範囲に分布しているが、全体に堆積は薄い。本遺構の主体と考えられる部分は長軸1.1~1.7mの土坑が切りあって掘削されたような状況であるが、断面観察によるとそれぞれの土坑で土質が大きく変わることは無く、むしろほぼ同じ埋土であることからもともと不整形に掘り込まれたものと考えられる。

〈埋土〉6層に細分した。大型の地山ブロックを含む層が多く、特に4・5層は人為堆積の様相であることから、後世に埋め戻しが行われたと考えられる。

〈出土遺物〉土師器が146g出土しているが、細片の為図示できなかった。

〈性格・年代〉土師器が出土していることから古代の可能性もあるが、詳細な年代は不明である。土

取り穴の可能性はあるが、性格の根拠となる情報は得られなかった。ただし、埋土の堆積状況を見ると人為堆積層が多いことから、開口していた不整形プランを整地のために埋め立てたものであることはいえる。



第107図 S F01・02、S X01

第32表 柱穴計測表(1)

A区		No		上面径	深さ	高さ	色調・材質	粘性	しまり	混和物など	備考 (土層番号)	1/100
		(cm)	(cm)	(cm)	(m)	(m)						
1	49×38	48	31.35	10YR3/2黒褐色	やや強	強	10YR7/6黄褐色粘土	やや強	強	地山ブロック(φ5-30mm)25%		604
2	41×35	24	31.61	10YR3/2黒褐色	強	強	10YR3/2黒褐色粘土	強	強	10YR7/6黄褐色粘土 黒褐色土20%	1.5部群	602
3	38×28	14	31.66	10YR3/2黒褐色	やや強	強	10YR3/2黒褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)10%		4
4	28×26	17	31.64	10YR3/3暗褐色	やや強	強	10YR3/2黒褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)15%、焼土・炭化物(φ1-2mm)各2%	土層群B(2)	3
5	32×30	28.18	31.53	10YR3/2黒褐色	強	強	10YR3/2黒褐色	強	強	地山ブロック(φ2-20mm)30%		5
6	25×23	16	31.66	10YR3/2黒褐色	強	強	10YR3/2黒褐色	強	強	地山ブロック(φ2-20mm)30%		6
7	37×35	31	31.54	10YR3/2黒褐色	強	強	10YR3/2黒褐色	強	強	10YR7/8黄褐色粘土(断面赤褐色)との混合土		7
8	49×34	12	31.76	10YR3/2黒褐色	やや強	強	10YR3/2黒褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)30%		8
9	41×32	36	31.56	10YR3/2暗褐色	強	強	10YR3/2暗褐色	強	強	地山ブロック(φ2-20mm)30%		9
10	30×22	15	31.67	10YR3/2黒褐色	やや強	強	10YR3/2黒褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)10%		10
11	25×21	11	31.73	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)30%		11
12	23×22	14	31.67	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)15%		12
13	26×22	25	31.36	10YR3/2暗褐色	強	強	10YR3/2暗褐色	強	強	地山ブロック(φ2-10mm)25%		13
14	28×23	11	31.69	10YR3/2黒褐色粘質土	やや強	強	10YR3/2黒褐色粘質土	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)50%		14
15	46×43	26	31.34	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ1-2mm)3%		15
16	43×41	27	31.54	10YR3/2暗褐色	強	強	10YR3/2暗褐色	強	強	地山ブロック(φ3-30mm)40%		16
17	24×46	25	31.56	10YR3/2暗褐色	強	強	10YR3/2暗褐色	強	強	地山ブロック(φ5-30mm)40%		17
18	18×15	14	31.69	10YR3/2暗褐色	強	強	10YR3/2暗褐色	強	強	10YR7/8黄褐色粘土		18
19	29×26	11	31.71	10YR3/3暗褐色	やや強	強	10YR3/3暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)5%		19
20	38×33	11	31.61	10YR3/3暗褐色	やや強	強	10YR3/3暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)15%、焼土・炭化物(φ1-2mm)各3%		20
21	38×33	9	31.50	10YR4/3暗褐色	中	強	10YR4/3暗褐色	中	強	地山ブロック(φ2-5mm)10%		21
22	10×39	9	31.52	10YR4/3暗褐色	中	強	10YR4/3暗褐色	中	強	地山ブロック(φ2-5mm)10%、土層に焼土・炭化物(φ1-2mm)各2%		22
23	31×24	41	31.43	10YR3/3暗褐色	強	強	10YR3/3暗褐色	強	強	10YR7/8黄褐色土との混合土		601
24	24×22	39	31.41	10YR3/2黒褐色粘土	強	強	10YR3/2黒褐色粘土	強	強	混合土の影響による地山の着色層		
25	26×24	10	31.36	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック10%		24
26	21×20	47	31.41	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	地山ブロック(φ2-5mm)3%、II土層群5%		25
27	39×27	42	31.36	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)20%		26
28	37×35	41	31.34	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	地山ブロック(φ2-5mm)3%、II土層群5%		28
29	32×28	31	31.43	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	土層に焼土・炭化物(φ1-2mm)各2%	S801を構成	29
30	22×21	16	31.62	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	地山ブロック(φ2-10mm)3%		30
31	37×33	30	31.61	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)10%		31
32	23×22	14	31.69	10YR3/2暗褐色	中	強	10YR3/2暗褐色	中	強	地山ブロック30% ブロック状に散れる		32
33	30×26	49	31.34	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック30%		33
34	27×23	21	31.63	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ1-2mm)5%		34
35	51×49	11	31.63	10YR3/3暗褐色	やや強	強	10YR3/3暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)30%、焼土(φ1-3mm)5%、炭化物(φ1-2mm)2%		35
36	32×26	45	31.39	10YR4/2黄褐色	やや強	強	10YR4/2黄褐色	やや強	強	地山ブロック(φ1-5mm)5%		36
37	32×31	27	31.47	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)10%、焼土・炭化物(φ1-2mm)各2%	S801を構成	37
38	23×30	17	31.57	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)5%		38
39	27×25	17	31.67	10YR4/3暗褐色	中	強	10YR4/3暗褐色	中	強	地山ブロック(φ2-20mm)20%		39
40	27×23	13	31.54	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)3%		40
41	30×17	9	31.68	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ1-2mm)3%		41
42	29×27	43	31.34	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	10YR3/2暗褐色粘土	強	強	地山ブロック(φ2-10mm)15%		42
43	32×29	10	31.71	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)5%	土層群	43
44	31×25	18	31.67	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ5-30mm)40%		44
45	37×25	9	31.58	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR4/3暗褐色土との混合土		45
46	30×27	8	31.62	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ5-30mm)30%		46
47	30×30	22	31.49	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-3mm)10%		47
48	28×26	24	31.49	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-20mm)30%	L部群	48
49	29×26	25	31.50	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ3-10mm)10%		49
50	28×25	24	31.35	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ5-20mm)30%	1.5部群	50
51	31×27	21	31.69	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	に黄褐色土(土山)30%、炭化物(φ1-2mm)2%		51
52	20×20	11	31.79	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	に黄褐色土(土山)30%、炭化物(φ1-2mm)2%		52
53	34×34	48	31.80	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	に黄褐色土(土山)10%		53
54	27×21	18	31.72	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	に黄褐色土(土山)30%、炭化物(φ1-2mm)2%		54
55	25×23	17	31.75	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)5%		55
56	23×16	17	31.74	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-5mm)5%		56
57	33×29	38	31.33	10YR7/8黄褐色粘土	強	強	10YR7/8黄褐色粘土	強	強	10YR3/2暗褐色土30% 粘土φ10-30mmのブロック状		57
58	23×19	12	31.56	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-15mm)15%、炭化物粘質土		58
59	53×54	12	31.56	7.5YR4/2黄褐色	やや強	強	7.5YR4/2黄褐色	やや強	強	地山ブロック(φ2-10mm)30%、焼土・炭化物(φ1-5mm)5%	土層群	59
60	35×35	40	31.47	7.5YR4/2黄褐色	やや強	強	7.5YR4/2黄褐色	やや強	強	褐色地山ブロック20%、焼土(φ2-5mm)5%、炭化物(φ1-2mm)2%	S801を構成	60
61	36×23	19	31.62	10YR3/2暗褐色	やや強	強	10YR3/2暗褐色	やや強	強	地山ブロック(φ3-30mm)30%		61
				10YR7/8黄褐色	強	強	10YR7/8黄褐色	強	強	10YR3/2黄褐色土30%、黄褐色土は断面赤褐色		



第33表 柱穴計測表(2)

No	上部径 (cm)	高さ (cm)	底層 (m)	地層・土質	粘性	しまり	混相物など	備考 (土器など)	取柄
62	30×24	20	31.28	10YR3-1黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ2-20mm)20%		62
63	27×22	31	31.33	10YR3-1黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ2-20mm)20%		63
64	30×25	31	31.3	10YR3-1黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-10mm)30%		64
65	23×21	12	31.53	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-10mm)30%		65
66	30×25	33	31.36	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-20mm)20%、炭化物(φ1-2mm)2%		66
67	28×26	9	31.63	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-20mm)20%、炭化物(φ1-2mm)2%		67
68	22×20	18	31.58	詳記なし				土師器	68
70	30×26	24	31.59	7.5YR3-2黄褐色 5YR5-6棕色	中	やや弱 中	堆山ブロック(φ2-10mm)25% 焼土(φ1-3mm)15%		70
71	30×28	26	31.56	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-3mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%、炭化物(φ1-2mm)2%		71
72	37×34	47	31.34	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱		SD01を構成	72
73	33×25	23	31.61	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-3mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%		73
74	32×29	49	31.26	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-10mm)25%	石器(130)、土師器	74
75	27×23	27	31.56	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-3mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%	SD01を構成	75
76	24×22	14	31.7	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-3mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%		76
77	27×27	17	31.49	記号なし					77
78	40×36	12	31.72	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-3mm)10%、焼土(φ1-2mm)2%、炭化物(φ1-2mm)2%、粘土土砂(90)		78
79	21×18	12	31.77	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-5mm)10%、炭化物2%		79
80	31×30	47	31.22	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-3mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%	SD01を構成	80
81	33×23	18	31.35	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	10YR7.8黄褐色粘土(黄a)粘粒40%		81
82	45×37	53	31.32	10YR4-3/2黄褐色	中	やや弱	層状ブロック(φ10mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%		82
83	39×39	44	31.31	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-30mm)30%	SD01を構成	83
84	25×18	11	31.57	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	10YR3-2黒褐色土30%、柱の底詰め		84
85	40×37	31	31.68	10YR3-2黒褐色	やや強	弱	焼土(φ1-2mm)30%、炭化物(φ1-2mm)2%	土師器	85
86	27×23	19	31.58	10YR3-2/2黄褐色	中	弱	堆山ブロックを40%含む層状で崩れる	土師器	86
87	46×38	17	31.61	10YR4-3/2黄褐色	やや強	やや弱	10YR7.8黄褐色粘土との混合	土師器	87
88	30×25	2	31.71	7.5YR3-2/2黄褐色シルト	やや強	やや弱	焼土(φ5-40mm)30%、炭化物(φ1-5mm)5%		88
89	24×20	33	31.40	10YR3-1黒褐色	中	弱	堆山ブロック(φ1-5mm)5%	土師器	89
90	23×23	31	31.46	10YR3-1黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-15mm)10%		90
91	28×26	18	31.57	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-20mm)15%		91
92	23×17	21	31.54	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-20mm)15%		92
93	11×10	11	31.72	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-10mm)3%		93
94	25×23	25	31.39	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-20mm)25%	SD01を構成?	94
95	13×31	17	31.40	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-10mm)10%、焼土(φ1-5mm)3%		95
96	27×21	17	31.63	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ2-10mm)10%		96
97	27×12	10	31.61	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-30mm)40%		97
98	33×23	16	31.36	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	10YR7.8黄褐色粘土との混合		98
99	28×26	9	31.45	10YR3-2黒褐色	中	中	堆山ブロック(φ2-6mm)5%		99
100	29×26	16	31.47	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	10YR7.8黄褐色粘土との混合		100
101	39×29	45	31.33	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ1-5mm)5%、焼土・炭化物(φ1-5mm)各2%		101
102	32×32	17	31.61	7.5YR3-2黄褐色 7.5YR3-3/2黄褐色	やや強 やや弱	やや弱 やや弱	焼土(φ2-10mm)5%、炭化物3% 焼土(φ2-10mm)25%	土師器	102
103	25×22	26	31.45	10YR3-2黒褐色			堆山ブロック30%		103
104	22×22	13	31.66	10YR3-2黒褐色			堆山ブロック5%		104
105	24×23	31	31.41	10YR3-2黒褐色			堆山ブロック13%		105
106	25×25	35	31.39	10YR3-2黒褐色			堆山ブロック15%		106
107	25×21	12	31.53	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土(φ1)25%		107
108	25×23	8	31.64	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土ブロック25%		108
109	18×17	16	31.67	10YR3-3/2黄褐色	やや強	やや弱	黄褐色粘土ブロック(φ2-10mm)30%		109
110	34×31	39	31.26	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	10YR7.8黄褐色粘土(φ10-50mm)との混合		110
111	43×27	26	31.42	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土ブロック25%		111
112	20×17	12	31.60	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土(φ1)25%		112
113	28×24	16	31.57	10YR3-2黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ2-10mm)5%	土師器	113
114	22×20	20	31.54	10YR3-2黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ5-20mm)5%、炭化物2%		114
115	23×20	15	31.59	10YR3-2黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ10-20mm)5%、炭化物2%		115
116	29×21	19	31.33	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土ブロック25%		116
117	27×26	22	31.45	10YR3-3/2黄褐色			10YR7.8黄褐色粘土との混合		117
118	25×19	11	31.59	10YR3-2黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ10-20mm)5%、炭化物2%		118
119	32×23	32	31.28	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土ブロック25%		119
120	30×20	40	31.31	10YR3-2黒褐色	やや強	中	黄褐色粘土(φ1)25%	土師器	120
121	33×22	22	31.35	10YR3-2黒褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ2-10mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%		121
122	26×23	31	31.41	10YR3-2黒褐色	やや強	やや弱	堆山ブロック(φ5-30mm)30%	SD02(9)	122

第34表 柱穴計測表(3)

B区								
No.	上面径尺 (cm)	深さ (cm)	柱頭径尺 (cm)	色調・材質	形状	しまり	備考 (出土層等)	旧No.
201	22×22	17	31.61	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-20mm)15%	301
202	28×18	14	31.72	土記なし			土師器(中)	502
203	23×20	14	31.72	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	263
204	25×21	22	31.61	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	504
205	22×18	11	31.73	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	905
206	24×23	12	31.73	10YR3-1黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-20mm)15%	266
207	35×27	16	31.71	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	607
208	71×37	30	31.57	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	508
209	26×21	9	31.77	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-10mm)15%	509
210	38×33	23	31.62	10YR3-1黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-10mm)15%	510
211	22×20	8	31.79	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	511
212	23×21	16	31.69	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-10mm)15%	512
213	21×19	6	31.81	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-10mm)15%	513
214	32×31	46	31.42	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	514
215	25×17	22	31.53	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-10mm)20%、焼土・炭化物(φ2-5mm)各2%	515
216	30×27	48	31.4	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)30%	516
217	30×30	36	31.45	10YR3-2黒褐色			10YR7-2黄褐色粘土60%	517
218	27×23	13	31.73	土記なし				518
C区								
No.	上面径尺 (cm)	深さ (cm)	柱頭径尺 (cm)	色調・材質	形状	しまり	備考 (出土層等)	旧No.
301	29×26	37	31.54	10YR3-2黒褐色	やや強	密	瓦片層層上	301
302	27×22	13	31.65	10YK5-6黄褐色	中	中	地山ブロック(φ5-50mm)40%、砂子やや多い	366
303	21×16	13	31.73	土記なし				368
304	32×28	36	31.50	土記なし				304
305	36×32	20	31.53	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ2-20mm)20%	305
306	27×24	13	31.71	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-30mm)30%	306
307	27×27	45	31.4	10YR2-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-5mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%	307
308	28×27	14	31.73	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ2-20mm)30%	308
309	29×25	32	31.56	10YR3-3暗褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-10mm)10%	309
310	28×26	20	31.67	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-3mm)10%、炭化物(φ1-2mm)2%	310
311	23×19	16	31.75	10YR3-1黒褐色	やや強	中	地山ブロック(φ1-3mm)2%、炭化物(φ1-3mm)2%	311
312	31×32	18	31.76	10YR3-3暗褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-10mm)10%	312
313	40×34	24	31.56	10YR3-3暗褐色	やや強	密	地山ブロック(φ50mm)40%、炭化物(φ1-3mm)3%	313
314	21×21	16	31.67	10YR3-2黒褐色			明黄褐色-黄褐色ブロック(φ5-10mm)40%含む	314
315	30×30	17	31.62	10YR3-2黒褐色			明黄褐色-黄褐色ブロック(φ5-10mm)40%含む	315
316	21×19	14	31.70	10YR3-2黒褐色			明黄褐色-黄褐色ブロック(φ5-10mm)40%含む	316
317	28×12	34	31.33	10YK5-2黄褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-20mm)30%	317
318	27×22	20	31.66	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-10mm)15%	318
319	18×15	7	31.77	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-10mm)10%、焼土(φ1-2mm)1%、炭化物2%	319
320	28×25	10	31.72	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-10mm)10%、焼土(φ1-2mm)1%、炭化物2%	320
321	41×27	65	31.37	10YR3-3暗褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-10mm)10%	321
				10YR3-3暗褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-20mm)30%	
322	28×25	18	31.64	10YR3-2黒褐色	強	やや中	地山ブロック(φ1-5mm)5%	322
				10YR7-6黄褐色	強	やや中	ブロック状、10YR3-2黒褐色土20%	
323	19×17	9	31.72	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-3mm)20%、炭化物3%	323
324	37×35	9	31.75	10YR3-2黒褐色	やや強	中	10YK7-8黄褐色砂質土との混合土	324
325	26×21	9	31.76	10YK3-2黄褐色	やや中	中	10YR7-8黄褐色砂質土との混合土	325
326	20×19	14	31.70	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-10mm)15%	326
327	16×15	12	31.74	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-3mm)2%	327
328	18×18	9	31.76	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-5mm)2%	328
329	19×17	14	31.72	10YR3-2黒褐色	中	中	やや砂質 瓦片層(φ1-3mm、やや黄色)2%	329
330	17×16	11	31.71	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-5mm)2%	330
331	17×16	9	31.50	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ2-5mm)2%	331
332	26×10	14	31.72	土記なし				332
333	23×22	28	31.51	10YR3-2黒褐色			明黄褐色-黄褐色ブロック(φ5-10mm)40%	333
334	22×18	11	31.69	10YR3-2黒褐色			明黄褐色-黄褐色ブロック(φ5-10mm)40%	334
335	31×29	16	31.67	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ1-10mm)20%、炭化物(φ2-5mm)2%	335
336	24×24	18	31.64	10YK3-2黄褐色	中	中	やや砂質 瓦片層(φ1-3mm、やや黄色)2%	336
337	23×18	10	31.75	10YR3-2黒褐色			上面に炭化物・焼土(φ1-5mm)各2%、下に砂質粘土層50%	337
338	26×23	17	31.69	10YR3-2黒褐色	やや強	密	地山ブロック(φ5-20mm)30%	338
339	30×34	23	31.64	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)40%	339
340	25×23	26	31.64	10YR3-2黒褐色	やや強	やや中	地山ブロック(φ5-30mm)40%	340

## 3 検出遺構

第35表 柱穴計測表(4)

No	上部規模 (cm)	深さ (cm)	検出時期 (m)	色調・土質	粘性	しまり	混和物など	備考 (出土遺物など)	照尺
341	20×18	11	31.80	10YR3/2暗褐色 10YR7/8黄褐色粘土	やや強 やや強	中 中	堆山ブロック(φ2-10cm)15% 硬面崩落土		341
342	27×17	24	31.61	10YR3/2暗褐色			明黄褐色-黄褐色ブロック(φ3-10cm)40%		342
343	26×24	24	31.6	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	堆山ブロック(φ5-20cm)20%、焼土(φ1cm)1%		343
344	31×26	18	31.71	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	堆山ブロック(φ5-20cm)20%、焼土(φ1cm)1%		344
345	21×24	28	31.49	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	本褐色-棕色堆山土(φ2-5cm)15%、炭化物(φ1-2cm)2%	石鏝(130)	345
346	22×20	9	31.78	10YR3/2暗褐色		中	堆山ブロック(φ1-3cm)3%		346
347	40×32	26	31.54	10YR3/2暗褐色 10YR7/8黄褐色	強 強	やや強 やや強	堆山ブロック(φ1-3cm)3% ブロック状、10YR3/2暗褐色土20%		347
348	21×21	10	31.69	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	炭化物(φ10cm)2%		348
349	34×31	15	31.63	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	炭化物(φ10cm)2%		349
350	33×28	22	31.23	10YR3/1紫褐色	やや強	やや強			350
351	19×18	11	31.63	10YR3/1紫褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ1-3cm)3%		351
352	30×18	11	31.05	10YR3/2暗褐色		やや強	10YR7/8黄褐色砂質土との混合土		352
353	23×20	15	31.58	10YR3/1紫褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ1-3cm)3%		353
354	25×19	7	31.70	10YR3/1紫褐色	やや強	中	堆山ブロック(φ1-3cm)3%		354
355	22×19	11	31.06	記載なし					355
356	38×30	24	31.18	10YR3/3暗褐色 10YR3/3暗褐色	やや強 やや強	やや強 やや強	堆山ブロック(φ2-10cm)10% 堆山ブロック(φ2-20cm)30%		356
357	30×27	23	31.44	10YR3/3暗褐色	やや強	密	堆山ブロック(φ50cm)40%、炭化物(φ1-3cm)3%		357
358	23×22	13	31.61	記載なし					358
359	31×19	13	31.29	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	堆山ブロック(φ2-20cm)30%		359
360	36×28	14	31.56	記載なし					360
361	17×16	8	31.70	10Y3/4暗褐色シルト	中	密	堆山ブロック5%、炭化物(φ1-2cm)2%		361
362	40×30	24	31.67	10YR3/2暗褐色			黄褐色粘土(φ5-30cm)10%、炭化物・焼土(φ1-2cm)4%		362
363	32×30	27	31.62	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	堆山ブロック(φ2-5cm)2%		363
364	30×18	10	31.73	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	堆山ブロック(φ2-10cm)15%		364
365	17×15	13	31.64	10YR3/2暗褐色	やや強	やや強	硬面崩落土 堆山ブロック(φ2-6cm)2%		365

## D区

No	上部規模 (cm)	深さ (cm)	検出時期 (m)	色調・土質	粘性	しまり	混和物など	備考 (出土遺物など)	照尺
401	18×5	14	31.45	10YR3/2暗褐色	中	中	堆山10%		257
402	27×27	30	31.34	10YR3/3暗褐色	やや強	やや強	堆山砂質土20%		256
403	24×23	37	31.27	10YR3/3暗褐色	やや強	やや強	堆山砂質土20%		254
404	27×25	34	31.31	10YR3/3暗褐色	中	中	堆山ブロック20%		255
405	32×12	12	31.34	10YR3/3暗褐色	中	密	堆山ブロック30%		102
406	29×23	9	31.31	10YR3/3暗褐色	中	密	堆山ブロック30%		102
407	14×7	25	31.37	10YR2/3紫褐色	中	中			103
408	35×22	31	31.28	10YR3/3暗褐色	やや強	密	堆山ブロック50%		104
409	35×26	36	31.28	10YR3/3暗褐色粘質土 10YR3/4(2)黄褐色粘質土	強 やや強	やや強 やや強			232
410	47×37	31	31.32	10YR3/3暗褐色	中	中			287
411	17×27	27	31.25	10YR3/4(2)暗褐色粘質土	やや強	中			233
412	23×17	8	31.56	10YR3/3暗褐色砂質土	中	やや強			271
413	22×18	11	31.54	10YR3/3暗褐色砂質土	中	やや強			272
414	25×20	35	31.32	10YR3/4暗褐色粘質土	やや強	中	堆山砂質土50%		236
415	43×30	34	31.20	10YR3/3暗褐色粘質土	強	やや強	堆山ブロック30%		234
416	23×17	10	31.53	10YR3/3暗褐色	中	中			230
417	25×25	13	31.50	10YR3/3暗褐色砂質土	やや強	中			229
418	18×15	22	31.39	10YR3/3暗褐色	中	やや強			270
419	19×16	21	31.38	10YR3/3暗褐色	中	やや強			239
420	18×17	9	31.18	10YR3/3暗褐色	中	やや強			258
421	20×17	10	31.47	10YR3/3暗褐色	中	中			225
422	31×20	8	31.52	10YR2/3紫褐色	やや強	中	堆山砂質土20%		267
423	34×32	38	31.27	10YR3/3暗褐色	中	中			228
424	35×28	23	31.34	10YR3/3暗褐色	やや強	中	堆山ブロック10%	SB03を構成	210
425	61×48	58	31.04	10YR3/4暗褐色	中	中	炭化物微量	SB03を構成	209
426	21×17	13	31.52	10YR3/3暗褐色	中	中			221
427	15×11	19	31.48	10YR3/3暗褐色	中	やや強			264
428	28×22	30	31.45	10YR3/3暗褐色	中	中			227
429	30×22	31	31.31	10YR3/3暗褐色	中	中			226
430	38×23	38	31.25	10YR3/3暗褐色粘質土	強	やや強	堆山ブロック20%	SB03を構成	208
431	30×20	22	31.49	10YR3/4暗褐色	中	中			223
432	17×14	18	31.52	10YR3/3暗褐色粘質土	中	やや強		1.5釐目	264
433	18×17	14	31.57	10YR3/3暗褐色粘質土	中	やや強			263
434	47×47	45	31.19	10YR3/3暗褐色 10YR3/3暗褐色粘質土	中 強	中 やや強	堆山ブロック20%	SB03を構成	206

第36表 柱穴計測表(5)

No.	土層奥行き (cm)	深さ (cm)	柱穴の高 (cm)	色調・土質	粘性	しまり	混雑物など	備考 (出土品など)	IBNo.
435	28×26	38	31.29	10YR3/3暗褐色 10YR4/4褐色砂質土	中	中	地山ブロック10%		203
436	16×16	9	31.6	10YR3/3暗褐色	中	やや密			263
437	24×32	18	31.53	10YR3/3暗褐色	中	中			218
438	41×37	38	31.3	10YR3/3暗褐色	やや強	中	地山ブロック10%		207
439	36×33	22	31.46	10YR3/3暗褐色 10YR3/3暗褐色粘質土	中	密	10YR4/4褐色土・10YR7/6明黄褐色粘土 地山ブロック	土師器	211
440	16×15	22	31.40	10YR3/3暗褐色粘質土	中	やや強			262
441	26×24	18	31.40	10YR3/3暗褐色粘質土	強	やや強	炭化物微量		205
442	30×27	37	31.30	10YR3/3暗褐色粘質土 10YR3/3暗褐色粘質土	強	やや強	炭化物微量		202
443	28×20	12	31.60	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密			258
444	30×23	13	31.38	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密			259
445	31×44	10	31.62	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密			260
446	18×17	16	31.38	10YR3/3暗褐色砂質土	中	やや強			203
447	27×25	13	31.61	10YR4/3暗褐色	中	弱	地山ブロック30%		236
448	27×27	36	31.36	10YR3/3暗褐色粘質土 10YR3/3暗褐色粘質土	強	やや強	炭化物微量 地山ブロック30%		201
449	27×25	12	31.34	10YR3/3暗褐色	中	密	10YR4/4褐色土・10YR7/6明黄褐色粘土		216
450	34×28	41	31.27	10YR3/3暗褐色 10YR3/3暗褐色粘質土	中	密	10YR4/4褐色土・10YR7/6明黄褐色粘土 地山ブロック30%		204
451	29×23	43	31.23	10YR3/3暗褐色	弱	密	地山砂質土30%		215
452	27×20	13	31.33	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック10%		214
453	29×24	25	31.45	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	やや密			121
454	34×31	58	31.16	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック10%		200
455	26×22	28	31.4	10YR3/3暗褐色	中	やや強			212
456	40×29	11	31.47	10YR2/2黒褐色 10YR4/4褐色砂質土	やや強	やや密			146
457	15×13	14	31.40	10YR2/2黒褐色砂質土	弱	やや密			213
458	21×21	9	31.65	10YR4/4褐色砂質土	中	密			117
459	26×25	24	31.49	10YR3/3暗褐色	中	やや密			116
460	23×23	16	31.57	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック40%		119
461	23×23	11	31.60	10YR3/3暗褐色	中	やや密			115
462	33×30	59	31.21	10YR4/4褐色粘質土 10YR3/3暗褐色粘質土	中	密	地山砂質土30%		114
463	24×24	19	31.50	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック10%		237
464	26×26	95	31.21	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック10%		238
465	42×29	21	31.47	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山砂質土30%		126
466	30×28	23	31.44	10YR3/3暗褐色粘質土 10YR6/6黄褐色粘土	やや強	密	炭化物微量		109
467	34×32	52	31.13	10YR2/2黒褐色 10YR3/3暗褐色砂質土	中	やや密			277
468	54×42	58	31.10	10YR4/3黄褐色粘土 10YR2/2黒褐色 10YR6/6黄褐色 10YR4/4褐色粘土	強	密	地山ブロック10%、棕色粘土	SR2を構成	110
469	24×21	41	31.27	10YR4/3黄褐色粘質土 10YR5/6黄褐色粘土	中	中	地山ブロック30%、炭化物微量		159
470	25×23	37	31.31	10YR3/3暗褐色	やや強	やや密	地山ブロック30%		160
471								登路灰函	113
472	24×22	30	31.31	10YR2/2黒褐色砂質土	弱	やや密			222
473	22×22	25	31.44	10YR3/3暗褐色	やや強	やや密	地山ブロック30%		161
474	24×23	23	31.43	10YR3/3暗褐色	中	密			132
475	23×21	37	31.29	10YR3/3暗褐色	中	密			194
476	25×22	40	31.28	10YR3/3暗褐色	中	密			130
477	25×22	12	31.54	10YR3/3暗褐色	中	密	地山ブロック50%		191
478	38×37	12	31.53	10YR3/3暗褐色	中	密	地山ブロック50%		192
479	45×29	14	31.52	10YR3/3暗褐色 10YR3/3暗褐色粘質土	中	密	地山ブロック30%		193
480	22×22	21	31.47	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密			137
481	24×23	14	31.53	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		166
482	30×28	20	31.36	10YR3/3暗褐色粘質土 褐色土	中	密	地山ブロック3% 地山再堆積土		128
483	18×18	7	31.57	10YR4/3黄褐色	やや強	やや密	地山ブロック30%		188
484	25×22	16	31.48	10YR3/3暗褐色	中	密			187
485	19×17	13	31.31	10YR4/3黄褐色	やや強	やや密			190
486	21×19	18	31.43	10YR4/3黄褐色	やや強	やや密	地山砂3%		187
487	23×20	17	31.41	10YR4/3黄褐色	やや強	やや密			196
488	28×25	43	31.21	10YR3/3暗褐色	やや強	強	地山ブロック40%、炭化物微量		144

第37表 柱穴計測表(6)

No	上段幅取 (cm)	幅寸 (cm)	底面積 ( $\text{cm}^2$ )	色調・土質	粘性	しまり	説明等々	備考 (土器・遺物等々)	IDNo
489	22×18	14	31.5	10YR3/2暗褐色	やや強	密	地山ブロック50%		171
490	25×25	25	31.4	10YR4/3にぶい黄褐色	やや強	やや密	地山ブロック70%	SB03を構成	186
491	24×19	20	31.43	10YR3/3暗褐色	やや強	密			170
492	42×37	37	31.34	10YR3/3暗褐色	やや強	密	粘土ブロック40%		145
493	19×17	14	31.5	10YR3/3暗褐色	やや強	密	粘土ブロック30%		168
494	27×22	19	31.43	10YR3/3暗褐色	やや強	密	粘土ブロック30%		167
495	41×37	29	31.34	10YR3/2暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量	SD05を構成	143
496	42×31	33	31.32	10YR4/3にぶい黄褐色	弱	中	地山約40%		132
497	29×27	20	31.32	10YR3/2暗褐色粘質土	やや強	やや密	炭化物微量		199
498	28×28	28	31.25	10YR4/3にぶい黄褐色	中	密	地山約50%	SB04・65を構成 土層部	105
499	35×29	24	31.41	10YR4/3にぶい黄褐色	中	やや密	地山再堆積土	SD05を構成	130
500	30×29	14	31.5	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック30%		143
501	26×21	16	31.47	10YR1/6褐色粘土	強	密	10YR3/3暗褐色粘質土20%		138
502	40×27	29	31.31	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量	SB02を構成	129
503	28×19	19	31.44	10YR3/4暗褐色粘質土	中	密	地山ブロック20%		140
504	24×22	30	31.33	10YR4/3にぶい黄褐色	中	やや密	地山ブロック10% 炭化物微量		141
505	42×42	35	31.29	10YR1/4褐色粘質土	中	密	地山ブロック20% 炭化物微量		121
506	28×28	14	31.49	10YR3/2暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック70%		142
507	41×40	36	31.29	10YR4/3にぶい黄褐色粘土	強	やや密	地山ブロック10%	SB02を構成	106
508	36×36	21	31.42	10YR4/3にぶい黄褐色	中	やや密	地山の浮草層上	SB01を構成	133
509	23×22	11	31.58	10YR3/2暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		213
510	25×23	25	31.42	10YR4/3にぶい黄褐色	中	やや密			127
511	27×26	45	31.22	10YR4/4褐色粘質土	中	密	地山ブロック50%	SB04を構成	120
512	48×34	28	31.35	10YR3/2暗褐色粘質土	強	密	地山ブロック40%	SB04を構成	131
513	31×21	34	31.32	10YR1/4褐色粘質土	中	密	地山ブロック20% 炭化物微量		122
514	31×30	43	31.22	10YR4/4褐色粘質土	中	密	地山再堆積土	SB02を構成	123
515	20×19	16	31.5	10YR3/2暗褐色	やや弱	密	地山ブロック20% 炭化物微量		158
516	36×33	36	31.28	10YR3/3暗褐色	やや強	やや密	地山ブロック50%		261
517	38×22	11	31.52	10YR4/4褐色粘質土	中	密	地山ブロック30% 褐色粘土ブロック微量		118
518	24×23	29	31.39	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック50%	土層部	242
519	20×17	23	31.46	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック30%	土層部	241
520	53×49	60	31.11	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック80%		183
521	42×37	37	31.33	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック80%		183-2
522	46×38	50	31.21	10YR3/3暗褐色	中	やや密	地山ブロック60%		182
523	71×50	49	31.24	10YR2/2黒褐色	やや弱	やや密	地山約10% 炭化物微量	SD02を構成	185
524	42×38	37	31.27	7.5YR3/3暗褐色	中	密	地山ブロック40%	SB02を構成	181
525	35×30	20	31.54	7.5YR3/3暗褐色	中	密	炭化物微量		180
526	26×20	11	31.64	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	炭化物微量		179
527	40×33	41	31.34	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	炭化物微量		177
528	30×27	28	31.46	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量	SB02を構成	178
529	47×35	64	31.13	10YR3/3暗褐色	やや強	やや密	地山ブロック10%		280
530	32×25	26	31.46	10YR3/4暗褐色粘質土	中	密	地山ブロック10%		157
531	27×26	29	31.46	10YR3/3暗褐色粘質土	中	密	地山ブロック10%		156
532	25×23	22	31.53	10YR3/3暗褐色	中	やや密			241
533	33×30	58	31.22	10YR3/3暗褐色	やや強	やや密	地山ブロック10%	SB02を構成 土層部・風面部	279
534	45×35	47	31.31	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量	土層部	175
535	31×31	28	31.68	10YR4/3にぶい黄褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量		176

第38表 柱穴計測表(7)

No	土層階級 (m)	深さ (cm)	位置番号 (m)	色調・土質	粘性	しまり	説明物など	備考 (土層階級など)	旧%
536	42×30	35	31.52	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	褐色粘土ブロック痕跡		274
537	44×35	48	31.3	10YR2/3暗褐色粘質土 10YR4/2に多い黄褐色粘質土	やや強 強	密 密	炭化物微量		184
538	45×36	19	31.54	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		275
539	36×22	18	31.6	10YR2/3暗褐色粘質土	中	密	地山ブロック10%		219
540	42×40	71	31.06	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量		174
541	25×30	8	31.69	10YR4/3暗褐色	中	密	地山ブロック10%		220
542	17×16	8	31.7	10YR2/3暗褐色	中	密	地山ブロック10%		221
543	26×23	20	31.56	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%	SB02を構成	105
544	25×24	27	31.5	10YR4/2に多い黄褐色 10YR4/3に多い黄褐色	中 中	密 密	地山ブロック50%		154
545	25×24	19	31.57	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密			153
546	25×22	25	31.5	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密			163
547	35×22	10	31.65	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密			152
548	26×28	33	31.31	10YR2/3暗褐色粘質土	強	密		1脚部	129
549	34×30	31	31.27	凝結なし					135
530	25×22	23	31.36	10YR2/3暗褐色	中	やや密	炭化物微量		245
531	32×32	27	31.39	10YR4/2に多い黄褐色粘質土	やや強	密			107
532	33×25	30	31.38	10YR6/4黄褐色粘質土 10YR4/2に多い黄褐色粘質土	強 強	やや密	地山ブロック7%、炭化物微量	SD04を構成	106
533	32×27	32	31.32	10YR4/2暗褐色	中	密	地山ブロック20%		125
534	34×34	42	31.22	10YR2/3暗褐色粘質土 10YR2/3暗褐色粘質土	やや強 やや強	密 密	地山ブロック20%、炭化物微量	SB02を構成	172
535	25×22	23	31.4	10YR4/2に多い黄褐色粘質土	やや強	密			173
536	33×23	24	31.41	10YR2/3暗褐色 10YR2/3暗褐色	中 中	密 密	地山ブロック20% 地山ブロック20%		283
537	34×30	37	31.3	10YR2/3暗褐色	中	密	地山・炭化物・焼土粒各微量	SB02を構成	282
538	43×36	41	31.26	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック20%、炭化物・焼土粒各微量		283
539	41×32	14	31.25	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック20%、炭化物・焼土粒各微量	1脚部	284
540	28×25	13	31.55	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック20%、炭化物・焼土粒各微量		293
541	26×26	36	31.30	10YR4/2に多い黄褐色	中	密	地山ブロック10%	SB02を構成 1脚部	135
542	41×38	7	31.68	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量		148
543	24×19	10	31.63	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量		149
544	21×15	11	31.59	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量		130
545	23×16	13	31.25	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	炭化物微量		151
546	22×21	12	31.60	10YR4/2に多い黄褐色	中	やや密			147
547	28×14	12	31.56	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		251
548	30×23	30	31.40	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山10%		250
549	27×24	14	31.59	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山10%、炭化物微量	土層部	246
570	22×22	22	31.53	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック14%		134
571	27×25	14	31.68	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山10%、炭化物微量		214
572	25×22	17	31.57	10YR2/3暗褐色	やや強	やや密	炭化物微量	土層部	278
573	40×35	68	31.07	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山10%、炭化物微量		248
574	78×43	71	31.03	10YR2/3暗褐色	中	やや密	地山10%	土層部	249
575	62×50	35	31.20	10YR3/4暗褐色 10YR3/4暗褐色	中 中	やや密 やや密	地山10%、炭化物微量 地山50%	1脚部、須器部	217
576	41×41	41	31.32	10YR2/3暗褐色粘質土 10YR2/3暗褐色粘質土	やや強 やや強	密 密	地山ブロック20% 地山ブロック10%		235
577	29×27	30	31.34	10YR2/3暗褐色粘質土 10YR2/3暗褐色粘質土	やや強 やや強	やや密 やや密	地山ブロック10% 地山ブロック50%	土層部	254
578	21×23	8	31.65	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック10%		292
579	24×23	19	31.54	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック10%		253
580	19×13	9	31.61	10YR2/3暗褐色	中	密	地山10%		291
581	26×23	16	31.35	10YR2/3暗褐色	中	密	炭化物微量		292
582	21×19	12	31.58	10YR2/3暗褐色	やや強	密	地山・炭化物各微量		285
583	22×21	37	31.30	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密			276
584	32×27	15	31.33	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック10%		240
585	34×23	16	31.34	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック10%		249
586	11×7	11	31.33	10YR2/3暗褐色	やや強	密	地山・炭化物各微量		286
587	27×27	15	31.31	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		289
588	36×23	22	31.41	10YR2/3暗褐色粘質土 地山再定層	中	密	地山ブロック10%、炭化物微量 10YR3/4暗褐色土10%		290
589	35×25	16	31.49	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		285
590	34×25	32	31.37	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%、炭化物微量		112
591	33×23	28	31.41	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	密	地山ブロック10%		162
592	37×36	48	31.19	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック30%、炭化物微量	東水通室(107)	111
593	39×37	44	31.22	10YR2/3暗褐色粘質土	やや強	やや密	地山ブロック30%、炭化物微量		163
594	37×29	35	31.31	10YR4/2に多い黄褐色	中	やや密	地山ブロック10%、炭化物微量		164

## 4 出土遺物

今回の調査では、土器・陶磁器・金属製品・石器・石製品・木製品・焼土塊（焼粘土塊）が出土した（第108～118図、写真図版108～114）。以下では種別ごとに説明を加える。

## (1) 土器

出土遺物の主体となるものであり、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器が出土している。

最も出土量が多いのは土師器で、総重量1279kg出土した。器種には坏・甕・鉢がある。坏については第Ⅷ章で分類と年代観の提示を行うため、ここでは概略を述べるのみとする。

坏（1・13～16・18～20・25・26・28・45～47・50・51・67～71・73・74・82・83・85）

全てロクロ使用の製品で、内面に黒色処理を施すものと非黒色処理のものがある。内面に黒色処理を施すものは、体部下半及び底部外面に回転ヘラケズリを施すものがある（15・18・26・73）。内面非黒色処理のものは基本的に内外面とも回転ナデ調整のみ施され、底部には回転糸切痕が残る。ただし、67・68については体部下半あるいは底部に調整が施されている。

甕（3～7・10～12・21～24・31～37・42・44・48・52～55・57～61・63～66・72・76・78・84）

成形にロクロを用いるものと用いないものがあり、後者の方が量的には多い。全形がわかるものは31のみであるが、口縁部形態をみると、ロクロ使用のものは口縁部がいずれも受け口状となっている。ロクロを用いないものは口縁部が外反する単純口縁のみであるが、ほとんど外反しないもの（3）や外方に開き端部がわずかに直立するもの（34・35）など複数の形態が認められる。

鉢（2・29・30・80）

全てロクロ使用の製品であるが、全形がわかるものは無い。坏を大きくした形態で、内面に黒色処理が施される。

須恵器は106kg出土しており、器種は坏・壺・大甕がある（8・9・17・27・38～41・43・49・56・62・75・77・79・81）。しかし、いずれも破片状態で出土しており、全形が復元できるものは無い。大甕は色調が赤褐色のものが多い。

縄文土器と弥生土器は両者合わせて10数片（100g程度）しか出土しておらず、全形がわかるものは皆無である。縄文土器としては晩期に属する87、中期に属する93、弥生土器としては中期後半に属する92が年代のわかる資料であるが、それ以外は不掲載のものも含めて地文のみの破片である。

## (2) 陶磁器

4点（4個体）出土しており、全点掲載した。94は渥美窯産陶器大甕で、S Z01に埋設されていたものである。口縁部には灰釉が刷毛塗りされている。体部は内外面ともに叩き日がランダムに施されており、さらに縦横に刷毛調整も施される。製作技法や口縁部の造作から12世紀第二四半期頃の製作と考えられる。

95も渥美窯産陶器甕の破片であり、外面には自然釉が厚く降灰している。96は東北地方産（水沼産か）と考えられる陶器甕の破片である。内外面ともにナデ調整が認められる。

97は肥前産陶器器具手碗である。ロクロ成形で、内外面に灰釉が施される。

## (3) 金属製品

製品・鉄滓含めて10点掲載した。

98・99・102は刀子で、98は刃部、99・102は茎部の破片である。100は雁又式の鉄鏃で、胴部は台形筒である。101は方形の釘である。103は用途不明の環状鉄製品である。鉄滓はS E01・03から総量で907.8g出土している(104~106)。椀形滓と鍛冶滓があり、いずれも磁着しない。このうち、S E01出土の椀形滓(104)については自然科学分析を実施している(第VI章第6節)。

この他、破砕しているため拓本・写真撮影が困難なことから表掲載とした寛永通宝(107)がある。

#### (4) 石器・石製品

石器には剥片石器と礫石器がある。

剥片石器には鏃・匙・剥片があり、8点を掲載した(123~126・128~130)。123・124は石鏃で、平面形は長三角形である。基部形態は、123は凹基式、124は平基式である。125は縦長剥片を素材とした石匙、126は横長剥片を素材とした石匙の未製品である。この他、若干加工痕のある剥片を写真で掲載した(128~130)。

礫石器には磨石・敲石・台石がある。最も多いのは磨石であるが、全体として使用痕が微弱なものが多い。敲石は1点のみ出土しており、先端部に使用痕が認められる(113)。台石も1点のみであり、一面に使用痕が認められた(122)。この他、使用痕は無いが黒色の付着物が認められるものも登録・計測し、1点を図示した(120)。

石製品には石帯・砥石・円盤状の製品がある。

108は石帯の丸軋である。下半約1/3を欠損しているが、垂孔及び潜孔は残存している。自然科学分析の結果、材質は翡翠と考えられる。

109~111は砥石である。大きさは大小あり、小型のものは頁岩、大型のものは凝灰岩である。いずれも全面に使用痕が認められる。

#### (5) 木製品

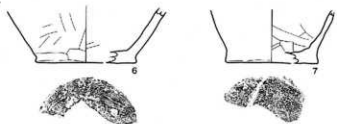
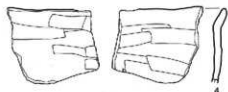
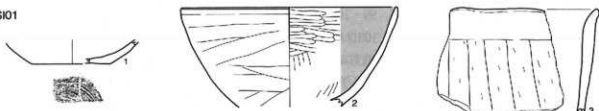
S E01の底面付近から4点出土している(131~134)。131・133・134は杭である。131・133は両端を欠損しているが、先端部付近に加工痕が認められる。134は、131・133より太い杭である。先端部に若干加工痕が認められるが、全体的に腐食が激しく遺存状態は悪い。132は横断面形が凹形になる木製品である。榫縁部に加工痕が認められることから木製品であることはわかるが、腐食が著しく全体形及び用途は不明である。

#### (6) 焼土塊(焼粘土塊)

褐~赤褐色の塊で、何かの焼成時に生成されたものと考えられるが、非常に脆く不整形な形状であり用途・成因については明確にできなかった。しかし、各種の遺構埋土中に含まれており特徴的であったことから、肉眼で確認できた遺構については埋土をサンプリングして洗浄抽出を行った。遺構ごとにサンプル採取量は異なるが、総量で約3,830gを抽出した。出土量が多いのは竪穴住居で、3棟で約1,840g検出された。この他、土坑13基(約1,810g)、溝1条、堀1条、井戸2基、柱穴4個などからも検出している。



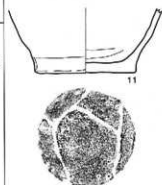
SI01



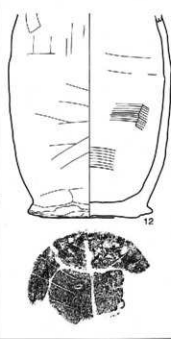
SI01・SK08



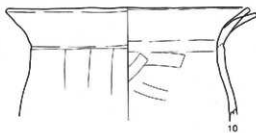
SI01・SK26・27



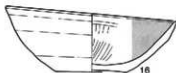
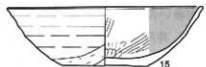
SI01・SK17・27



SI01・SK26

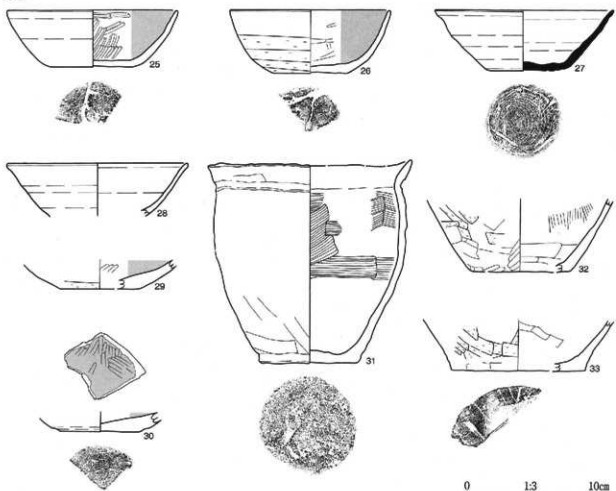
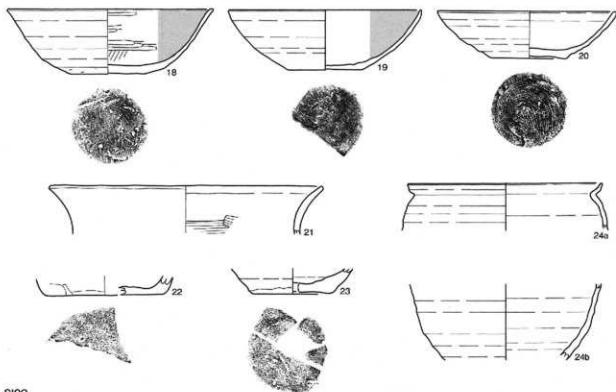


SI02



0 1.3 10cm

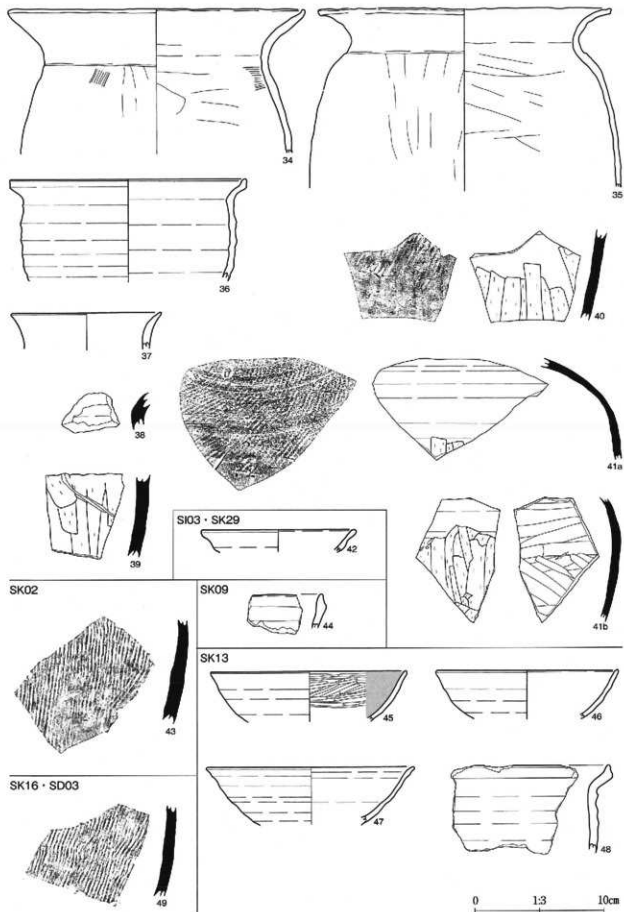
第108図 土器(1)



0 1.3 10cm

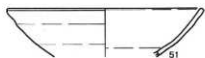
第109圖 土器 (2)

4 出土遺物



第110圖 土器 (3)

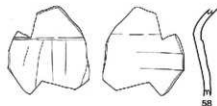
SK15



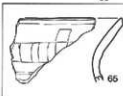
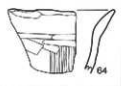
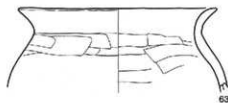
SK20



SK23



SK26



SK27



SK17



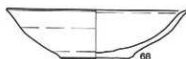
SK24



SK25



SK29

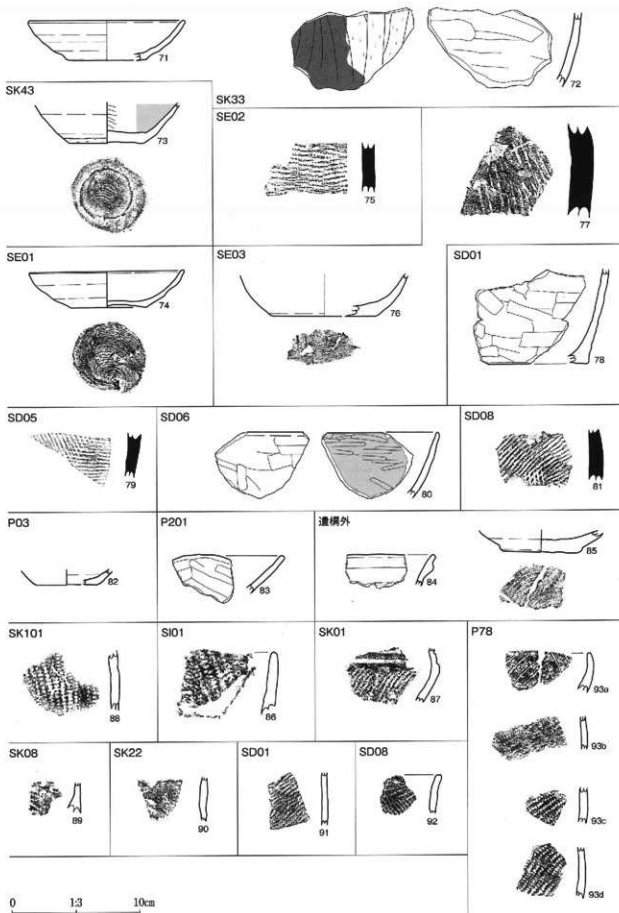


SK32

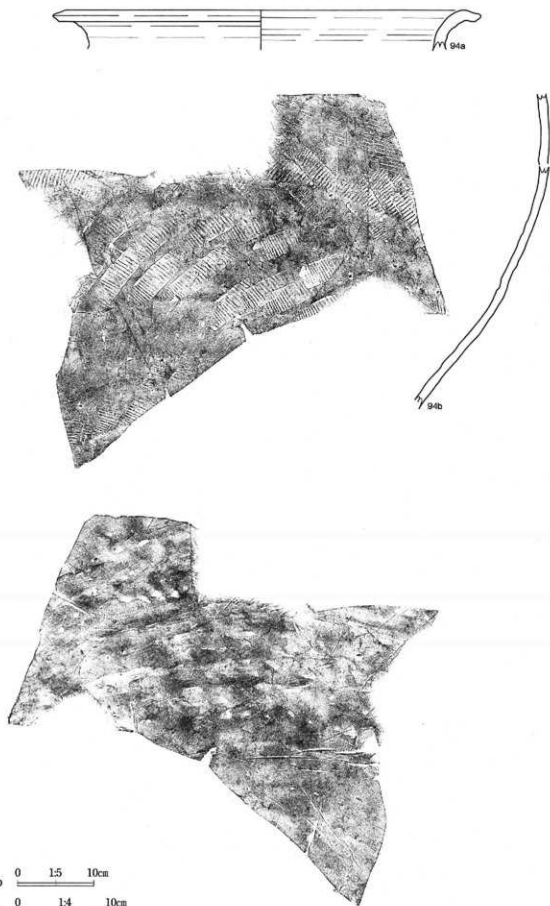


0 1.3 10cm

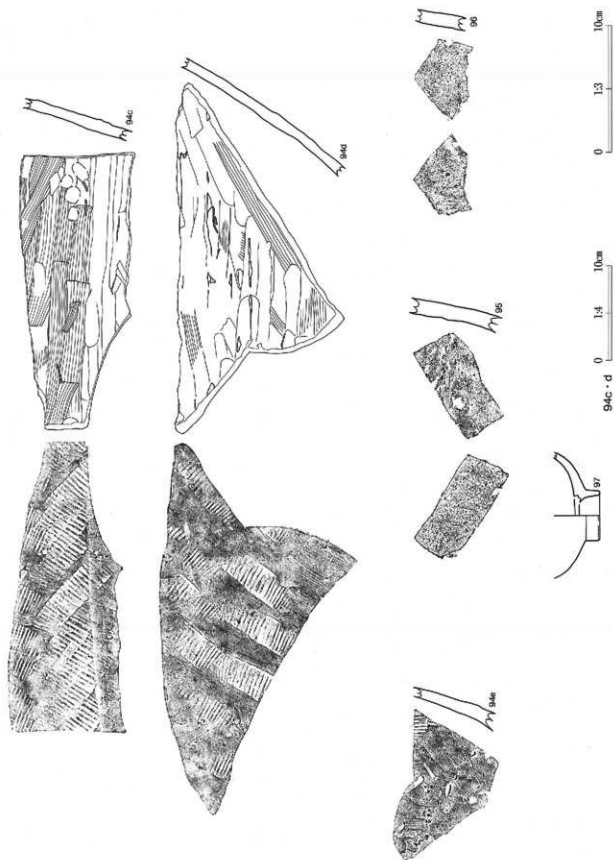
第111図 土器(4)



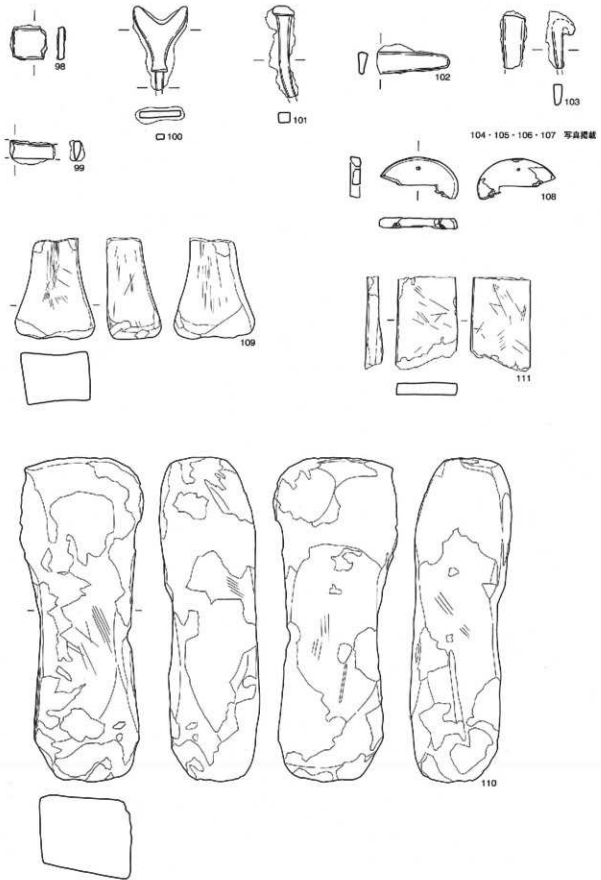
第112図 土器 (5)



第113圖 陶磁器(1)

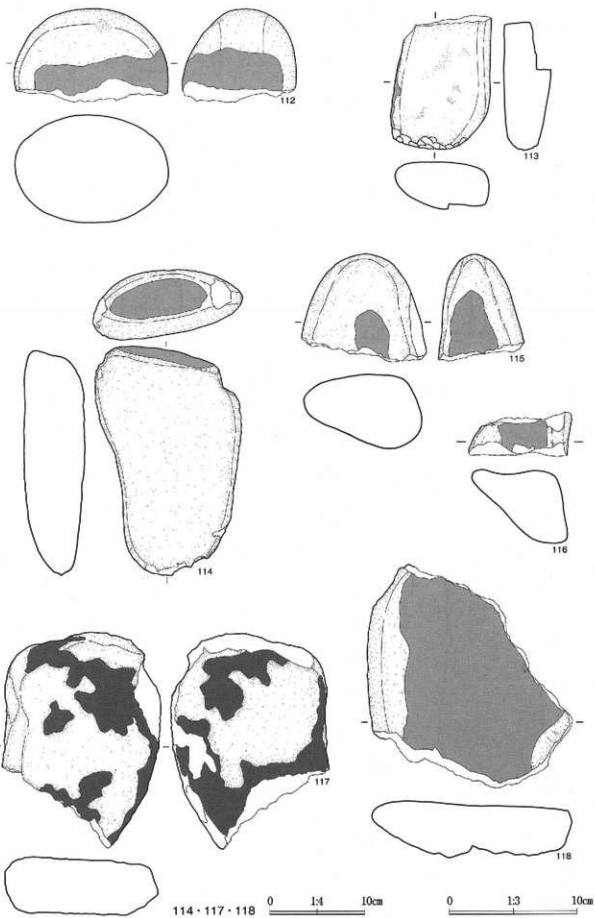


第114圖 陶磁器(2)

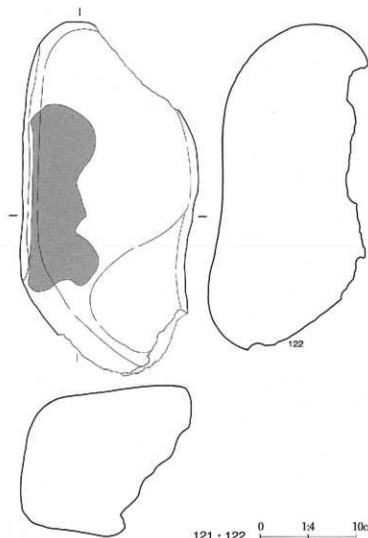
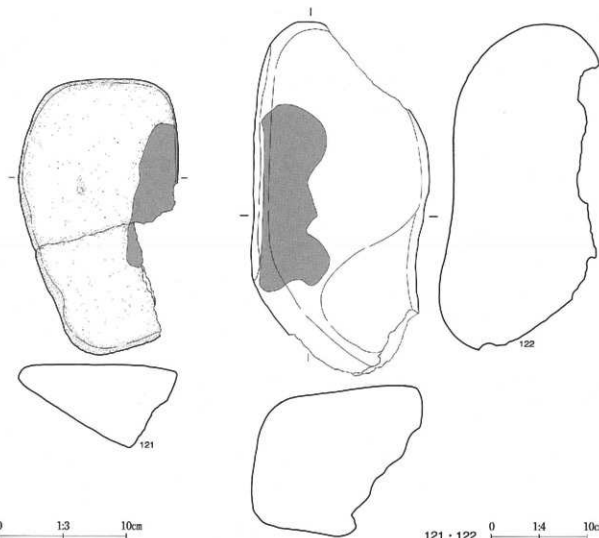
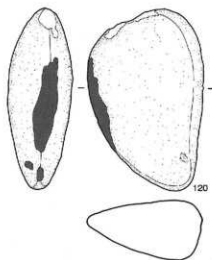
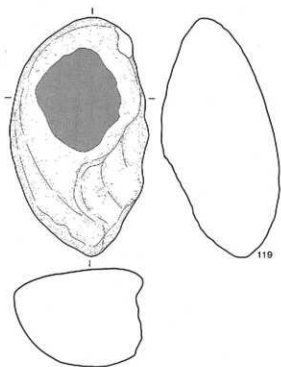


第115図 金属製品、石器・石製品 (1)





第116圖 石器・石製品 (2)

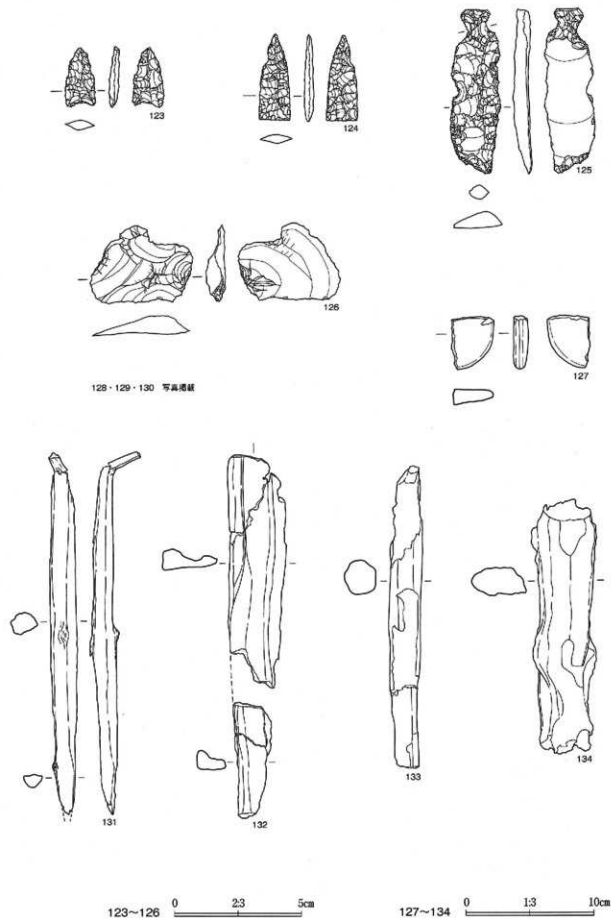


0 1:3 10cm

121・122 0 1:4 10cm

第117図 石器・石製品 (3)

4 出土遺物



第118図 石器・石製品(4)、木製品

第39表 土器調査表(1)

調査 No.	山土地点・方位	種類	形状	残存 部位	残存率 (%)	色相	土名外周陶器 (国一辨)	土名内周陶器 (社一辨)	底産	土質検査(%)		備考	図版 写真
										土層	夾層		
1	S01 Q2 黒土	土師器 杯	口一底	5	10	灰	同土ナ	同土ナ	同底産	-	(5.0)	[1.95]	108 108
2	S01 P03	土師器 鉢	口一底	4	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	5.3	3.15	108 108
3	S01 無土	土師器 鉢	口一底	5	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	8.3	108 108
4	S01 P01	土師器 蓋	口一底	5	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	2.3	108 108
5	S01 Q4 黒土	土師器 蓋	口一底	5	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	-	108 108
6	S01 P01 灰濁面上	土師器 蓋	口一底	10	10	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	7.9	[4.0]	108 108
7	S01 P05	土師器 蓋	口一底	10	10	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	17.2	[4.2]	108 108
8	S01 カマヤ	土師器 蓋	口一底	3	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	[6.1]	108 108
9	S01 無土・S08 14	土師器 蓋	口一底	3	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	[6.4]	108 108
10	S01 灰濁面上・SK28 14	土師器 蓋	口一底	10	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	19.0	[8.9]	108 108
11	S01 灰濁面・SK25 14	土師器 蓋	口一底	30	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	8.0	[5.2]	108 108
12	S02 SK01 灰濁面上・SK27 灰濁面上	土師器 蓋	口一底	40	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	19.0	[16.0]	108 108
13	S02 Q2 黒土	土師器 杯	口一底	13	10	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	15.4	[4.2]	108 108
14	S02 Q2 黒土	土師器 杯	口一底	10	10	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	12.4	[2.5]	108 108
15	S02 土師	土師器 杯	口一底	80	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	6.4	4.85	108 108
16	S02 土師2	土師器 杯	口一底	70	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	17.2	108 108
17	S02 Q2 黒土	土師器 杯	口一底	3	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	13.7	[3.7]	108 108
18	S02 土師	土師器 杯	口一底	70	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	6.0	5.1	109 108
19	S02 P00<ト>14	土師器 杯	口一底	50	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	5.8	4.8	109 108
20	S02 土師4	土師器 杯	口一底	70	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	5.9	3.7	109 108
21	S02 土師2	土師器 蓋	口一底	10	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	21.0	-	109 108
22	S02 土師5	土師器 蓋	口一底	5	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	16.0	[1.65]	109 109
23	S02 P00<ト>14 土層	土師器 蓋	口一底	10	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	6.2	[2.0]	109 109
24	S02 Q2 黒土	土師器 蓋	口一底	20	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	13.1	[3.7]	109 109
25	S02 Q2 黒土土師・遺物6	土師器 杯	口一底	20	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	6.2	4.5	109 109
26	S02 Q2 黒土土師・遺物6	土師器 杯	口一底	90	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	5.7	5.0	109 109
27	S02 Q2 黒土土師・遺物6	土師器 杯	口一底	90	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	13.5	5.8	109 109
28	S02 Q4	土師器 杯	口一底	10	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	11.0	-	109 109
29	S02 Q4 黒土	土師器 鉢	口一底	5	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	7.4	109 109
30	S02 Q4 黒土	土師器 鉢	口一底	5	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	6.1	[1.85]	109 109
31	S02 Q2 黒土土師・遺物6	土師器 蓋	口一底	90	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	-	[11.4]	109 109
32	S02 Q2 黒土土師・遺物6	土師器 蓋	口一底	10	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	7.8	2.52	109 109
33	S03 カマヤ土層・二次発掘土・P09 14	土師器 蓋	口一底	10	40	黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	10.4	4.0	109 109
34	S03 遺物7	土師器 蓋	口一底	30	40	に灰い黄緑	同土ナ	同土ナ	同底産	-	7.8	16.05	110 109







## VI 自然科学分析

### 1 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

#### (1) 測定対象試料

水尻遺跡、四反田 I 遺跡、古城方八丁遺跡の3遺跡で得られた試料をまとめて報告する。

水尻遺跡は岩手県奥州市前沢区古城字水尻113ほか(北緯39° 04' 32", 東経141° 08' 27")に所在する。測定対象試料は、獨立柱建物跡 S B01を構成する柱穴 P 46出土木炭 (No 1 : IAAA-92726)、同 P 12出土木炭 (No 2 : IAAA-92727)、合計2点である。

四反田 I 遺跡は、岩手県奥州市前沢区古城字四反田154-1ほか(北緯39° 04' 31", 東経141° 08' 52")に所在し、北上川左岸の低位段丘上に立地する。標高31mである。測定対象試料は、S K01土坑出土木炭 (3 (1) : IAAA-91549)、S K06土坑出土木炭 (4 (2) : IAAA-91550)、S B01獨立柱建物 pit 7出土木炭 (5 (3) : IAAA-91551)、合計3点である。

古城方八丁遺跡は岩手県奥州市前沢区古城字宿ノ前153ほか(北緯39° 04' 32", 東経141° 09' 03")に所在する。測定対象試料は、S K31出土木炭 (7 (2) : IAAA-92974)、S K23出土木炭 (6 (1) : IAAA-92975)、合計2点である。

#### (2) 測定の意義

遺構・遺物の年代や前後関係、及び集落の継続期間を明らかにする。

#### (3) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・上等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA : Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。  
最初の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液(80℃)を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80℃)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

#### (4) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を



使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### (5) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。
- 2)  $^{14}\text{C}$  年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3)  $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- 4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度の割合である。
- 5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース (Reimer et al2004) を用い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

### (6) 測定結果

水尻遺跡出土試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、No.1が $1170 \pm 30\text{yrBP}$ 、No.2が $1180 \pm 30\text{yrBP}$ である。同じ建物跡

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-91549	3(1)	国反田 I 遺跡 SK01十坑 白色テフラ層	木炭	AAA	-24.17 ± 0.52	1,240 ± 30	85.66 ± 0.35
IAAA-91550	4(2)	国反田 I 遺跡 SK06十坑 黒土中位	木炭	AAA	-23.66 ± 0.46	1,160 ± 30	86.56 ± 0.34
IAAA-91551	5(3)	国反田 I 遺跡 SB01獨立柱建物 p47 黒土下位	木炭	AAA	-21.87 ± 0.71	1,140 ± 30	86.78 ± 0.34
IAAA-92726	No.1	水尻遺跡 P46 (SB01構成) 2層	木炭	AAA	-25.15 ± 0.69	1,170 ± 30	86.50 ± 0.33
IAAA-92727	No.2	水尻遺跡 P12 (SB01構成) 埋土	木炭	AAA	-27.23 ± 0.60	1,180 ± 30	86.36 ± 0.32
IAAA-92974	7(2)	古城方八丁遺跡 SK31 炭化物層	木炭	AAA	-25.73 ± 0.54	1,190 ± 30	86.23 ± 0.29
IAAA-92975	6(1)	古城方八丁遺跡 SK23 焼土	木炭	AAA	-24.81 ± 0.61	1,350 ± 30	84.49 ± 0.31

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91349	1,230 $\pm$ 30	85.81 $\pm$ 0.34	1,243 $\pm$ 32	689AD-753AD (43.7%) 760AD-782AD (14.2%) 790AD-809AD (10.3%)	683AD-873AD (95.4%)
IAAA-91550	1,140 $\pm$ 30	86.80 $\pm$ 0.33	1,159 $\pm$ 31	782AD-789AD (3.7%) 811AD-846AD (19.2%) 856AD-888AD (29.1%) 920AD-946AD (16.2%)	777AD-905AD (67.6%) 912AD-970AD (27.8%)
IAAA-91551	1,090 $\pm$ 30	87.34 $\pm$ 0.31	1,139 $\pm$ 31	880AD-906AD (19.5%) 911AD-971AD (48.7%)	781AD-790AD (2.2%) 888AD-984AD (93.2%)
IAAA-92726	1,170 $\pm$ 30	86.47 $\pm$ 0.30	1,165 $\pm$ 30	782AD-789AD (4.5%) 810AD-848AD (24.6%) 855AD-896AD (31.3%) 925AD-937AD (7.7%)	776AD-903AD (74.7%) 916AD-968AD (20.7%)
IAAA-92727	1,220 $\pm$ 30	85.96 $\pm$ 0.30	1,178 $\pm$ 29	782AD-791AD (6.6%) 808AD-889AD (61.6%)	773AD-900AD (85.8%) 918AD-962AD (9.6%)
IAAA-92974	1,200 $\pm$ 30	86.10 $\pm$ 0.27	1,190 $\pm$ 27	783AD-790AD (6.5%) 810AD-881AD (61.7%)	726AD-738AD (1.5%) 771AD-897AD (91.6%) 923AD-940AD (2.4%)
IAAA-92975	1,330 $\pm$ 30	84.52 $\pm$ 0.30	1,354 $\pm$ 29	649AD-676AD (68.2%)	635AD-710AD (90.1%) 747AD-766AD (5.3%)

[参考値]

を構成する柱穴から出土した2点の値は、誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲で重なり合い、ほぼ同年代であることを示す。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、No 1 が8~9世紀、No 2 が8~10世紀頃の範囲となっている。

四反田I遺跡出土試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、3 (1) が $1240 \pm 30\text{yrBP}$ 、4 (2) が $1160 \pm 30\text{yrBP}$ 、5 (3) が $1140 \pm 30\text{yrBP}$ である。3 (1) は若干古い値であるが、4 (2) と5 (3) は非常に近い値となった。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、3 (1) が7~9世紀、4 (2) が8~10世紀、5 (3) が9~10世紀頃となっている。較正曲線の波形が比較的平坦になる部分を含むことから、かなり年代幅を持って示されている。

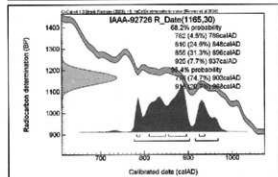
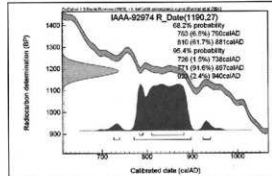
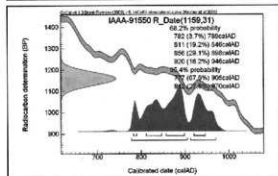
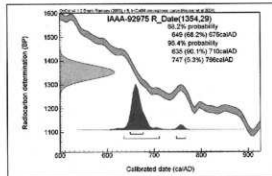
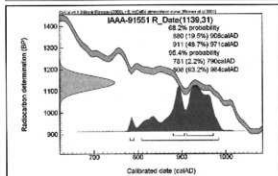
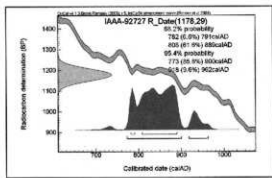
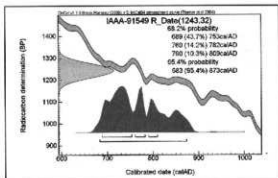
占城方八丁遺跡出土試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、7 (2) が $1190 \pm 30\text{yrBP}$ 、6 (1) が $1350 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、7 (2) が8~9世紀、6 (1) が7世紀頃の範囲で示される。

炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

#### 参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19, 355-363  
 Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2), 425-430  
 Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363  
 Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43 (2A), 381-389  
 Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

# 1 放射性炭素年代測定



## 2 検出土坑の内容物（水尻遺跡）

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県奥州市前沢区水尻遺跡の発掘調査では、旧石器時代から平安時代にかけての遺構・遺物が検出されている。今回の分析調査では、火葬骨を一括廃棄した可能性が疑われる10世紀頃の土坑（SK01）について、葬送儀礼関連遺構か否か検討することを目的として、土坑覆土のリン酸、カルシウム分析を実施し、遺体成分の痕跡を確認する。なお、リン酸はとくに骨に多量に含まれ、土壌中では比較的拡散・移動しにくいいため、その局所的な濃集状況から遺体、骨が埋葬されたことを判断する方法として有効な手法であり、カルシウムもまたリン酸とともに骨の主成分であるため、その濃集状況も遺体埋葬の手がかりとなる。

### (1) 試料

調査対象とされた土坑は、SK01のI基である。試料は、土坑内の埋土（試料No.2）1点のほかに、対比試料として基本土層II a層（試料No.1）を用いる。

### (2) 分析方法

リン酸は硝酸・過塩素酸分解-バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解-原子吸光度法でそれぞれ行った（土壌標準分析・測定法委員会、1986）。以下に操作工程を示す。

#### 1) 分析試料の調製

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉碎し、0.5mm篩を全通させ、粉碎上試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

#### 2) リン酸・カルシウム含量

粉碎上試料1.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、はじめに硝酸（ $\text{HNO}_3$ ）約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（ $\text{HClO}_4$ ）約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容して、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（ $\text{P}_2\text{O}_5$ ）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（ $\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ ）とカルシウム含量（ $\text{CaOmg/g}$ ）を求める。

### (3) 結果および考察

リン酸・カルシウム分析結果を、表1に示す。

リンは生物にとって主要な構成元素であり、動植物中に普遍的に含まれる元素であるが、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成する。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壌ではリン酸の固定力が高いため、遺跡での生物起源残留物の痕跡確認などに有効である。

ところで、土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量についてはいくつかの報告事例があるが（Bowen, 1983；Bolt・Bruggenwert, 1980；川崎ほか, 1991；天野ほか, 1991）、これらの事例から推定される天然賦存量の上限は約 $3.0\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ 程度である。また、人為的な影響（化学肥料の施用など）を受けた黒ボク土の既耕地では $5.5\text{P}_2\text{O}_5\text{mg/g}$ （川崎ほか, 1991）という報告例があり、当社

におけるこれまでの分析調査事例では骨片などの痕跡が認められる土壌では、 $6.0P_2O_5$ mg/g を越える場合が多い。一方、カルシウムの天然賦存量は、普通1～

50CaOmg/g（藤貫, 1979）と言われている。含量幅がリン酸よりも大きく、またリン酸よりも流亡しやすいため、分解位置での残存確認が難しいが、骨片が残存するような状況においてはリン酸に追従した含量の変化が見られることから、遺体痕跡を検証する上での補助的な役割をなす。

調査対象とした基本土層のⅡa層（試料No1）とSK01の堆積土（試料No2）は、どちらも暗褐色（10YR3/3）を呈する重粘質な土壌であり、その色調から土壌腐植（有機物）の量比には大きな差はないことが伺えるが、リン酸含量は基本土層のⅡa層が $2.12P_2O_5$ mg/gであるのに対し、SK01の埋土は $3.21P_2O_5$ mg/gと天然賦損量をやや上回る高い値である。また、カルシウム含量も基本土層のⅡa層が $3.13CaO$ mg/gであるのに対し、SK01の埋土は $4.76CaO$ mg/gであり、リン酸・カルシウムともにSK01の堆積土で高い傾向にある。

SK01の埋土により多くのリン酸とカルシウムが含まれる事実は、土坑内にこれらの成分を富化する内容物が存在していたことが示唆され、発掘調査所見より墓の可能性が指摘されていることを踏まえれば、SK01が葬送儀礼に関連した遺構であることは矛盾しない結果と言える。

ただし、本遺跡付近の土地利用は現況で水田や畑地であり、耕作に伴う施肥の影響も無視はできない。

また、SK01埋土においてリン酸やカルシウムが高い値を示しているものの、天然賦損量を著しく上回る高い値ではないことを考慮すれば、葬送儀礼にともない土坑内に投棄された骨などの遺体成分の痕跡と断定するにはいたらない。今後、脂質分析や微細遺物分析などの他の調査手法を併用し、総合的に検証していくことが望まれる。

## 引用文献

- 天野洋司・太田 健・草場 敬・中井 保, 1991, 中部日本以北の土壌型別寄積リンの形態別計量, 農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壌寄積リンの再生循環利用技術の開発, 28-36.
- Bowen, H. J. M. 1983, 環境無機化学-元素の循環と生化学, 浅見真男・井野允男訳博友社, 297p.
- Bolt, G. H.・Bruggenwert, M. G. M. 1980, 土壌の化学, 岩田進午・三輪啓太郎・井上隆弘・陽 捷行訳, 学会出版センター, 309p.
- 土壌標準分析・測定法委員会編, 1986, 土壌標準分析・測定法, 博友社, 354p.
- 藤貫 正, 1979, カルシウム地質調査所化学分析法, 5257-61.
- 川崎 弘・吉田 淳・井上恒久, 1991, 九州地域の土壌型別寄積リンの形態別計量, 農林水産省 農林水産技術会議事務局編 土壌寄積リンの再生循環利用技術の開発, 23-27.
- 農林省農林水産技術会議事務局編, 1967, 新版標準土色帖.
- ペドロジスト懇談会, 1984, 野外土性の判定, ペドロジスト懇談会編 土壌調査ハンドブック, 博友社, 39-40.

表1. リン酸・カルシウム分析結果

試料名	土性	土色	$P_2O_5$ (mg/g)	CaO(mg/g)
試料No1 基本土層のⅡa層	HC	10YR3/3 暗褐色	2.12	3.13
試料No2 SK01の堆積土	HC	10YR3/3 暗褐色	3.21	4.76

注.(1)土色:マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議編, 1967)による。  
(2)土性:土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編, 1984)の野外土性による。  
HC→重粘土(粘土45~100%、シルト0~55%、砂0~55%)

## 3 炭化種実分析（四反田Ⅰ遺跡）

吉川 純子（古代の森研究会）

## (1) はじめに

四反田Ⅰ遺跡は、奥州市前沢区古城に位置する平安時代以降の遺跡である。分析試料は平安時代の竪穴住居と平安時代以降とみられる土坑の試料を水洗して得られた種実である。

## (2) 同定結果

表1に各遺構より出土した種実の同定結果をまとめた。平安時代の竪穴住居跡（S101）からは穀類のオオムギ、イネとともにブドウ、クマノミズキを出土した。

平安時代以降とみられる土坑からは、すべての試料からオオムギとイネを出土し、これらのほかにSK06からはヒエとエゴマ、SK12からはコムギ、SK14からはオニグルミを出土した。

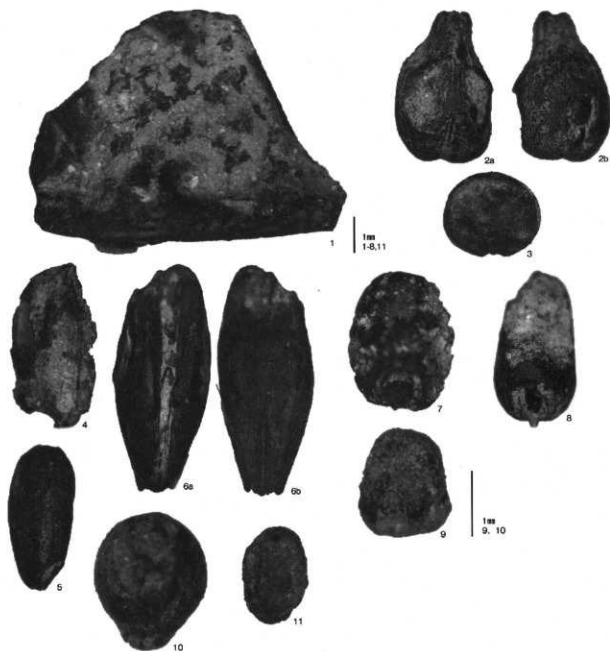
## (3) 考察

本遺跡では、平安時代の住居跡と平安時代以降の土坑の出土種類に大きな違いは見られなかった。すなわち、すべての試料からオオムギとイネを出土し、この穀類をおもに利用していたと考えられる。県内の古代の遺跡では、宮古市の木戸井内Ⅳ遺跡でオオムギ、コムギにキビ、ヒエと雑穀に依存した傾向が見られたが、隣接する隠里Ⅲ・隠里Ⅳ遺跡ではイネへの依存度が比較的高い傾向にあり、盛岡市の細谷地遺跡ではイネを主体としてオオムギと雑穀をともに出土するなど、ほぼ同時代であっても集落間で違いが見られることから、出土傾向は生活形態の違いを反映している可能性がある。

表1 四反田Ⅰ遺跡から出土した炭化種実

分類群	遺構 出土部位・番号	S101	SK06	SK07	SK12	SK14
		1	2	3	4	5
オニグルミ	炭化内果皮破片	-	-	-	-	(4)
ブドウ	炭化種子	1	-	-	-	-
クマノミズキ	内果皮半分	1	-	-	-	-
イネ	炭化籾	-	1	-	-	-
	炭化胚乳	5	13	2(1)	6	1
オオムギ	炭化種子	4	5(1)	1	11(1)	1
コムギ	炭化種子	-	-	-	19(1)	-
オオムギまたはコムギ	炭化種子破片	(2)	-	-	(2)	(1)
ヒエ	炭化種子	-	1	-	-	-
エゴマ	炭化果実	-	1	-	-	-
不明		-	1	-	-	-

( )内は破片数



図版1 四反田 I 遺跡出土炭化種実

1. オニグルミ、炭化内果皮破片(SK14) 2. フドウ、炭化種子 a. 腹面, b. 背面(SI01) 3. クマノミズキ、炭化内果皮半分(SI01) 4. イネ、炭化穎(SK06) 5. イネ、炭化胚乳(SI01) 6. オオムギ、炭化種子 a. 腹面, b. 背面(SI01) 7, 8. コムギ、炭化種子 腹面(SK12) 9. ヒエ、炭化種子(SK06) 10. エゴマ、炭化果実(SK06) 11. 不明(SK06)

## 4 炭化材樹種同定（古城方八丁遺跡）

吉川 純子（古代の森研究会）

## (1) はじめに

古城方八丁遺跡は奥州市前沢区の北上川西岸の微高地に位置する遺跡で、古代の堅穴住居跡、中世の井戸などが検出されている。中世の井戸からは杭と見られる木材が確認され、古代の堅穴住居からは若干の炭化材が出土した。そこで各時期の木材利用を調査するため5試料の樹種同定を行った。炭化材片は剃刀で横断面、放射断面、接線断面を割取り、プレパラートに固定、反射顕微鏡で観察・同定した。木材は剃刀で横断面、放射断面、接線断面の切片を作製しガムクロラルで封入し生物顕微鏡で観察・同定した。

## (2) 同定結果

出土した炭化材の同定結果を表1に示す。中世の杭はクリであった。炭化材はサクラ属、アサダ、ウルシ属、クリであった。以下に炭化材の木材解剖学的記載を行う。

アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) 中くらの管孔が放射方向に数個複合して年輪内に平等に分布し、晩材部ではやや径を減じる。道管の穿孔板は単一で隔壁は交互状環孔、らせん肥厚がある。放射組織は異性で1-3細胞幅である。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) 年輪のはじめに大きな道管が2-3列集合し、その後径が急減して火炎状に小管孔が配列する環孔材。道管の穿孔板は単一で放射組織は単列で同性である。

サクラ属 (*Prunus*) 2-6個のやや小さい管孔が斜めないし塊状に連結して年輪内に散在する散孔材。晩材部で管孔はやや小さくなる。道管の穿孔板は単一で道管内にはらせん肥厚がある。放射組織は3-4細胞幅で異性である。

ウルシ属 (*Rhus*) 年輪はじめに大きい道管が数列、単独ないし数個複合して分布し、その後急に径を減じて壁が厚く小さい管孔が単独ないし放射方向に数個複合して配列する環孔材。道管の穿孔は単一、放射組織は異性で1-3細胞幅である。

## (3) 考察

中世の井戸から出土した杭とみられる材はクリであった。クリは水湿に比較的に強い材のため土木材としての利用は一般的であり(山田1993)、当時の井戸杭として普通に用いられていたと考えられる。

古代の堅穴住居から出土した炭化材は、種はサクラ属、ビツトはアサダ、土坑はウルシ属とそれぞれ異なる種類を出土した。サクラ属、アサダは木材が緻密で堅く、用途は広い。どのような用途に使われていた材がどのような経緯で炭化したかは不明であるが、これら3種は薪としても用いられる。

近世の可能性のある土坑から出土したクリは、火はねが著しく生業での燃料材としては向かないが、野外や工業用の窯などでは用いられる。

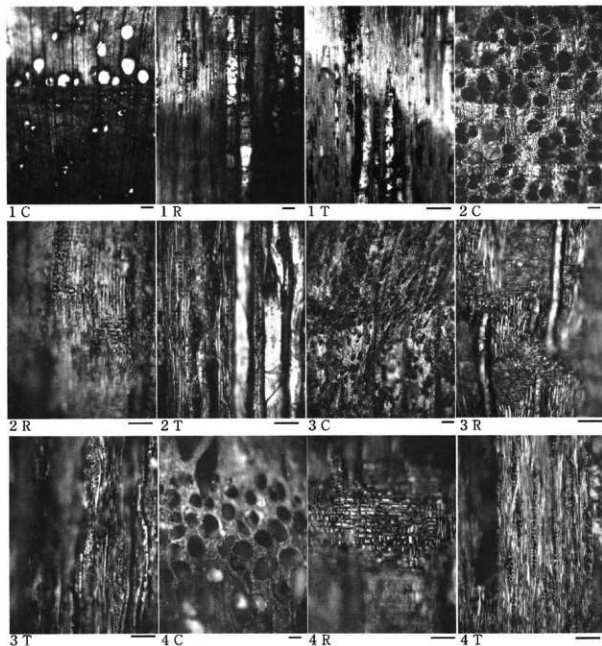
## 引用文献

- 山田昌久, 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成-用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究特別第1号. 植生史研究会, 1-244.



表1 古城方八丁遺跡から出土した木材の樹種

試料番号	遺構	地点	層位	時期	樹種	状況
1	SF01井戸		底面付近	中世	クリ	朽?
2	SK03竪穴住居	カマド	底面	古代	サクラ属	炭化材
3	SK01竪穴住居	Pit1	2層	古代	アサダ	炭化材
4	SK02竪穴住居	SK01	礎土	古代	ウルシ属	炭化材
5	SK01土坑		底面直上	近世?	クリ	炭化材



図版 古城方八丁遺跡出土木材の顕微鏡写真

1. クリ(1)2. アサダ(3)3. サクラ属(2)4. ウルシ属(4)C:横断面, R:放射断面, T:接線断面, スケールは0.1mm

## 5 石帯の化学分析 (古城方八丁遺跡)

（株）第四紀地質研究所 井上 巖

## (1) 実験条件

分析は、エネルギー分散型蛍光X線分析装置で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法 (FP法) による自動定量計算システムが採用されており、6 C~92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源 (最大30kV、4mA) の採用で微量試料~最大290mmφ×80mm Hまでの大型試料の測定が可能である。小型試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

実験条件は、バルクFP法 (スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒 (有効分析時間) である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は試料の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度 (重量%) でSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, CaO-Na<sub>2</sub>Oの2組の組み合わせで図を作成した。

## (2) 分析試料

分析に供した試料は第1表化学分析表に示すように古城方八丁遺跡S K 31出土の石帯 (第115図108、表面と裏面を分析) と岩手県軽米町駒板3遺跡から出土したヒスイ製遺物1個、及び比較対象試料として北海道埋蔵文化財センターの柏木川13遺跡から出土した石製品と薄片、産地同定用の試料として北海道埋蔵文化財センター所有のベンケユクトラシナイ沢で採取した原石、斜里町立知床博物館より提供していただいた日高ヒスイ、井上が糸魚川翡翠峡の周辺で採取したヒスイの原石である (北海道埋蔵文化財センター2004)。

## (3) 分析結果

3-1 SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関について

第1図SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図に示すように柏木川13遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠はSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>の相関においておのおの異なる領域に集中する。しかし、ベンケユクトラシナイ沢の原石は全体に分散し、組成に類似性がない。柏木川13遺跡出土の石製品はSiO<sub>2</sub>が52~60%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が2~6%の領域、日高ヒスイはSiO<sub>2</sub>が48~55%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が0~0.1%の領域、糸魚川翡翠はSiO<sub>2</sub>が98~100%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が0~6%の領域におのおの集中する。

古城方八丁遺跡の石帯はSiO<sub>2</sub>が95~97%、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が0~0.5%の領域にあり、糸魚川翡翠と領域を同じくする。駒板3遺跡のヒスイはこれらの各原石と柏木川13遺跡の出土遺物の領域とは異なり、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が20%以上の高い領域にあり、該当する原石はない。

### 3-2 CaO-Na<sub>2</sub>Oの相関について

第2図CaO-Na<sub>2</sub>O図に示すように柏木川13遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠はおのおの異なる領域に集中する。しかし、ベンケユクトラシナイ沢の原石は全体に分散し、組成に類似性がない。柏木川13遺跡出土の石製品はCaOが7~22%、日高ヒスイはCaOが21~25%、糸魚川翡翠はCaOが0~3%の領域におのおの集中する。

古城方八丁遺跡の石帯はCaOが0.2~0.5%の領域にあり、糸魚川翡翠と領域を同じくする。

駒板3遺跡のヒスイはこれらの各原石と柏木川13遺跡の出土遺物の領域とは異なり、Na<sub>2</sub>Oが13%以上の高い領域にあり、該当する原石はない。

### (4)ま と め

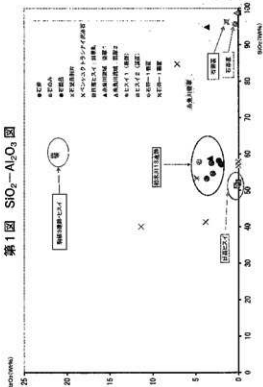
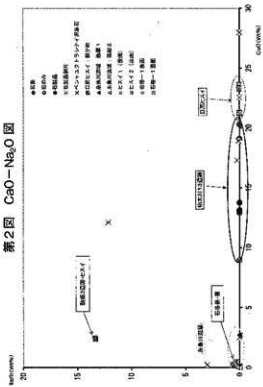
- 1) 第1図~第2図に示すように、古城方八丁遺跡の石帯は糸魚川翡翠の化学組成の領域にあり、組成的に類似性が認められる。駒板3遺跡出土のヒスイ製造物は柏木川13遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠などは化学組成が異なり、現在の対比試料では原産地の判断は難しい。
- 2) 糸魚川の翡翠のうち良質の固いものは石英脈にヒスイ輝石の生成したもので、SiO<sub>2</sub>が98~100%と高いのが特徴で、古城方八丁遺跡の石帯は化学組成的にも、肉眼的な観察による岩相でも糸魚川の翡翠に似ている。

### 引用文献

- 井上 巖(2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析(XRF) 北越考古学, 第11号, 23-38/  
井上 巖(2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言, 軽石学雑誌, 第7号 23-51.  
上野修一・二宮修二・網干 守・大沢真澄(1986) 石器時代の本県域における黒曜石の利用について, 栃木県立博物館紀要, 第3号, 91-115.  
藤井義雄・佐藤博明(2000) 平凡社地学辞典, 地学団体研究会, p493.  
周藤賢治・小山内康人(2002) 共立出版, 記載岩石学上, 5-20.  
Suzuki M. (1973) Chronology of Prehistoric Human Activity in Kanto, Japan Journal of the Faculty of Science, the University of Tokyo Sec. V Vol. IV, Part 3, pp. 241-318.  
白滝団体研究会(1963) 白滝遺跡の研究, 白滝団体研究会, 9-10.  
神保小虎(1886) 黒曜石比較研究諸言, 人類学会報告, 第二号, 24.  
高橋 豊・西田史郎(1986) 伊豆半島の縄文遺跡出土黒曜石の原産地, 考古学と自然科学, 19, 29-41.  
手島秀一・河内晋平(1994) 和田峠東方・鷹山火山岩類の地質と岩石, 信州大学志賀自然教育研究施設研究業績, 31, 1-8.  
堤 隆(1998) 水期の終末と縄石刃文化の出現, 科学, 岩波書店, VOL68 No.4 329-336.  
東村武信・薬科哲男(1982) 黒曜石製石器の産地推定-蛍光X線による石器産地の推定, 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学, 昭和56年度特定研究, 141-163.  
財団法人北海道文化財センター(2004) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書, 第203集, 柏木川13遺跡,  
塚月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里(1994) 遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について-沼津市上土上遺跡BBV票, 北海道立地下資源調査所, 40.  
渡辺 仁(1948) 北海道の黒曜石, 人類学雑誌, 第60巻, 第1号

第1表 化学分析表

分析名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	Fe2O3	K2O	CaO	TiO2	MnO	FeO	P2O5	ZrO2	Total	備考		
検体1-1	0.000	181.317	3.791	53.350	0.128	0.1414	15.980	0.0597	0.1985	5.2019	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体1-2	0.000	16.831	3.073	54.036	0.130	0.2715	20.302	0.0592	0.2559	4.6923	0.000	0.000	99.999	化学分析		
検体2-1	0.000	27.985	1.913	57.062	0.2571	0.1715	13.125	0.0600	0.1591	3.8452	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体2-2	0.000	21.189	2.152	57.219	0.256	0.1358	15.476	0.0596	0.1567	4.6228	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体3-1	0.000	34.769	2.3152	58.185	0.000	0.1258	13.928	0.0853	0.1445	6.6152	0.000	0.000	99.999	化学分析		
検体3-2	0.000	20.100	2.9802	57.265	0.0750	0.1278	13.764	0.0853	0.2155	5.8417	0.000	0.000	99.999	化学分析		
検体6-1	0.000	34.052	1.3629	40.132	0.0334	0.0317	25.121	0.0464	0.1977	10.622	0.000	0.015	0.000	100.000	化学分析	
検体6-2	0.000	22.121	3.5511	41.359	0.0386	0.1542	27.818	0.2820	0.2518	1.2413	0.000	0.042	0.000	100.000	化学分析	
検体7	0.0108	6.840	7.1335	84.725	0.8167	0.0913	0.275	0.1447	0.0423	2.0714	0.000	0.006	0.000	100.000	化学分析	
検体8-1	0.000	15.659	0.0229	57.257	0.3139	0.1915	22.527	0.0680	0.1386	3.782	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体8-2	0.2578	19.287	0.000	56.598	0.3514	0.0271	18.030	0.0455	0.1692	4.181	0.000	0.000	99.999	化学分析		
検体8-3	0.000	17.208	0.000	57.508	0.1511	0.0632	17.284	0.0465	0.1884	4.2111	0.000	0.016	0.000	100.000	化学分析	
検体9	0.0256	20.894	0.0796	53.819	1.7799	0.4810	12.146	0.1134	0.2859	6.719	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体10	0.000	19.887	0.000	52.850	0.1355	0.1390	24.510	0.000	0.0889	3.887	0.000	0.002	0.000	99.999	化学分析	
検体11	0.000	19.129	0.000	52.107	0.1357	0.1390	24.510	0.000	0.0889	3.887	0.000	0.002	0.000	99.999	化学分析	
検体12	0.000	19.129	0.000	52.126	0.1356	0.1389	24.509	0.000	0.0887	3.728	0.000	0.004	0.000	99.999	化学分析	
検体13	0.000	22.055	0.2940	51.367	0.8696	0.6872	21.213	0.000	0.0601	4.300	0.000	0.000	99.999	化学分析		
検体14	0.000	25.228	3.352	50.689	0.7412	0.1835	12.701	0.1258	0.6239	0.0222	0.019	0.010	0.030	100.000	化学分析	
検体15	0.0268	0.000	0.000	58.836	94.8013	1.1284	0.000	0.000	0.0955	0.000	0.000	0.000	99.999	化学分析		
検体16	0.2399	0.000	0.000	98.5212	0.7050	0.1081	0.079	0.000	0.0946	0.000	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体17	0.000	0.0996	0.1251	98.7823	0.3341	0.1976	0.000	0.0199	0.0145	0.1374	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体18	0.2012	0.083	0.2243	98.6830	0.4384	0.1835	0.000	0.0006	0.0035	0.0627	0.000	0.000	100.000	化学分析		
検体19	0.000	19.543	1.053	53.062	0.0397	0.0645	0.000	0.000	0.6529	24.0672	0.000	0.000	0.000	0.000	100.000	化学分析
検体20	13.4132	236.65	21.2914	59.7482	0.0000	0.0000	24.798	0.0276	69.131	0.7042	0.000	0.000	0.000	100.000	化学分析	
検体21	13.5324	233.99	21.0390	59.6160	0.0000	0.0000	24.801	0.0189	69.127	0.6867	0.000	0.012	0.000	0.000	100.000	化学分析
化学式計算	0.6660	0.1679	0.1156	93.6863	2.1466	0.0000	0.2700	0.0406	0.0379	0.3016	0.000	0.002	0.000	100.000	化学式	
化学式調整	0.5533	0.2907	0.1411	96.2385	0.2971	0.0006	0.5264	0.0488	0.0235	0.4693	0.000	0.002	0.000	0.000	100.000	化学式

第1図 SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 図第2図 CaO-Na<sub>2</sub>O 図



古城方八丁遺跡の石帯（裏面）



駒坂遺跡のヒスイ製造物（裏面）



古城方八丁遺跡の石帯（表面）



駒坂遺跡のヒスイ製造物（表面）

## 6 鉄関連資料の金属考古学的調査結果

岩手県立博物館 赤沼 英男

### (1) はじめに

国場事業整備に伴う岩手県奥州市古城方八丁遺跡の緊急発掘調査によって、平安時代の遺構から鉄製品が、中世と推定される遺構から腕形滓が検出された<sup>1)</sup>。最近、岩手県一関市花泉町に所在する中村城跡から出土した鋼製鉄器の金属考古学的調査が実施され（赤沼 2010）、岩手県南地域から出土した鉄器の組成が明らかにされてはいるものの、調査例が乏しく、鉄器地金の組成に基づき岩手県南地域の平安時代における鉄器普及の変遷を議論する状況にはいたっていない。後述するように、検出された腕形滓はほぼ同形状をした2つの腕形滓が溶着した資料である。その特異な形状に組成を加味することによって、その成因を推定できる可能性がある。

岩手県南地域における平安時代の鉄器組成に関する基礎資料を得ること、および出土した鉄滓の成因を推定することを目的として、古城方八丁遺跡出土鉄関連資料の金属考古学的調査を実施した。以下に調査結果を報告する。

### (2) 調査資料

調査資料は表1に示す3資料である。資料は肉眼観察によって、鉄器および腕形滓に分類された。鉄器はNo.1 鎌（報告書掲載番号100）およびNo.2 釘（報告書掲載番号102）、腕形滓はNo.3（報告書掲載番号104）である。No.3はほぼ同一形状をした2つの腕形滓が融着した資料で、凸部外表面に木炭の噛込みや固着はみられない。本資料を、鉄滓が混在した固体鉄を加熱・鍛打し純化する過程で、固体鉄から分離した鉄滓や副産した鉄滓が、新たに生成した酸化鉄と共に火崖炉に入った後、火崖炉の底で溶融または部分溶融し固化した資料とみることが難しい。この点を考慮に入れ、調査資料の組成分析結果を検討する。

### (3) 調査試料の抽出

鉄器からの調査試料の抽出は、岩手県立博物館で実施された保存処理の際に撮影されたX線透過写真の読影結果に基づき、残存状況が良好と判断された部位から、ダイヤモンドカッターを装着したハンドドリル（以下、ハンドドリルという）を使って行われた。抽出した0.1~0.2gの試料をさらに2分し大きい方を組織観察に、小さい方を化学成分分析に用いた。腕形滓については、上層 [図2 (1) Sa<sub>1</sub>] および下層 [図2 (1) Sa<sub>2</sub>] にハンドドリルでV字状の切り込みを入れ、それぞれの部位から1~2gの試料を切り出した。抽出した試料を2分し、一方を組織観察に、もう一方を化学成分分析に供した。

### (4) 調査方法

組織観察用試料はエポキシ樹脂に埋め込み、エメリー紙、ダイヤモンドペーストを使って研磨した。研磨面を金属顕微鏡で観察し、鉄器の素材となった地金の成因を推定するうえで重要と判断された領域および非金属介在物を、エレクトロン・プローブ・マイクロアナライザー（EPMA：日本電子株式会社・JXA 8230）で分析した。

化学分析用試料は表面に付着する土砂、錆をハンドドリルで丹念に削り落とし、エチルアルコール、

アセトンで超音波洗浄した。洗浄した試料を130℃で2時間以上乾かし、メノー乳鉢で粉砕した後テフロン分解容器に直接秤量し、塩酸、硝酸、およびフッ化水素酸を使って溶解した。溶液を蒸留水で定溶とし、T.Fe (全鉄)、Cu (銅)、ニッケル (Ni)、コバルト (Co)、マンガン (Mn)、リン (P)、チタン (Ti)、ケイ素 (Si)、鉛 (Pb)、錫 (Sn)、アンチモン (Sb)、ジルコニウム (Zr)、カルシウム (Ca)、アルミニウム (Al)、マグネシウム (Mg)、バナジウム (V)、砒素 (As)、モリブデン (Mo)、および硫黄 (S) の19元素を高周波誘導結合プラズマ発光分光分析法 (ICP-AES法: パーキンエルマー株式会社 Optima 4300) で分析した。

## (5) 調査結果

### 5-1 鉄器から抽出した試料の調査結果

No 1 (図 1 a<sub>1</sub>) から抽出した試料のマクロ組織はその全域が錆化していて、いたるところに亀裂や空隙がみられる。マクロ組織 (図 1 b<sub>1</sub>) 領域 (Reg. 1) 内部のEPMAによる反射電子組成像 (BEI) には、細線 (Cm) が層状に並び、島状領域を形成した組織がみられる (図 1 c<sub>1</sub>)。これまでに行われた出土鉄器および鉄塊の組織観察結果に基づけば、Cmはパーライト中のセメンタイトが欠落して生じた組織、とみなすことができる (佐々木・村田 1984)。Cmによって構成される島状領域を錆化前の地金のパーライトとし、錆化による組織の膨張を無視したうえで、マクロ組織に占める島状組織の分布状況を標準炭素鋼の腐食組織 (東北大学金属材料研究所編 1953) (佐藤編 1968) と比較すると、錆化前の地金は炭素量0.2~0.3mass%の鋼と推定される。鋼中には局所的にウスイタイト (Wus) と微細な粒子が混在したガラス化した領域 (Ma) からなる非金属介在物が見出されている (図 1 d<sub>1</sub>、表 4)。

No 2 (図 1 e<sub>1</sub>) から抽出した試料は錆化が著しく、錆化前の地金の炭素量を推定できる組織および非金属介在物を見出すことができなかった。(図 1 f<sub>1</sub>)。

### 5-2 鉄器・鉄塊・鉄塊系資料から抽出した試料の化学組成

No 1 のT.Feは47.87mass%、No 2 のT.Feは58.69mass%で、共に錆化が進んだ試料が分析されている (表 2)。No 1・2からは0.006mass%以上のNi、Co、およびMn、0.023mass%以上のTiおよびS、0.1mass%以上のPが、No 2からは0.019mass%のCuが検出されている (表 2)。

No 1 およびNo 2 はいずれも錆化が進んだ試料のため、化学成分の埋蔵環境下からの富化、あるいは埋蔵環境下への溶出を吟味する必要がある (佐々木・村田 1984)。これまでに行われてきた出土鉄器と鉄器に固着する土砂の化学組成に関する分析結果によると、土砂中に含有されるCu、Ni、およびCo三成分はいずれも0.05mass%未満であることが報告されている (赤沼 2004; 2009)。表 2 の分析結果に基づけば、No 1・2から検出されたNiおよびCo、No 2から検出されたCuのほとんどは錆化前の地金に含有されていた可能性が高い。No 1 のCuについては0.001mass%未満と含有量がきわめて低く、埋蔵環境下からの富化があってもその影響はきわめて低い。一方、P、Mn、およびTiについては埋蔵環境下から富化される可能性のあることが指摘されている (佐々木・村田 1984) (赤沼 2004; 2009)。Sについては埋蔵環境下からの富化に関する議論がなされていない。本稿では、P、Mn、Ti、およびS含有量に基づく資料分類は見合わせることにする。

### 5-3 鉄滓の調査結果

No 3は碗形滓である (図 2 (1) a<sub>1,4</sub>)。凸面および凹面とも茶褐色を呈し溶融または部分溶融し

ている。凸面に木炭の噛み込みや固着はみられない。図2(1)  $a_1Sa_1$ から抽出した試料には大小多数の空隙がみられる [図2(1)  $b_1$ ]。マクロ組織領域 (Reg.1) 内部のEPMAによる反射電子組成像にはウスタイト (Wus) と鉄かんらん石 (Fa) が一面に析出していて、その周りをガラス質ケイ酸塩 (Gl) が取り囲んでいる [図2(1)  $c_{1,2}$ ]。ガラス質ケイ酸塩中には微細なFe-S系化合物 (IS) もみられる [図2(1)  $c_{1,2}$ 、表4]。図2(1)  $a_2Sa_2$ から抽出した試料にも図2(1)  $a_1Sa_1$ から抽出した試料同様、多数の空隙が観察される [図2(2)  $d_1$ ]。マクロ組織領域 (Reg.1) 内部は、マグネタイト (Mag)、鉄かんらん石 (Fa)、Fe-Al-Ti-O系化合物 (Ha)、および微細粒子が混在するガラス化した領域 (Ma) によって [図2(2)  $e_{1,3}$ 、表4]、領域 (Reg.2) 内部はマグネタイト (Mag)、鉄かんらん石 (Fa)、および微細粒子が混在するガラス化した領域 (Ma) によって構成されている [図2(2)  $f_{1,2}$ 、表4]。

抽出した2試料 ( $Sa_{1,2}$ ) のT.Feはそれぞれ61.70mass%、58.16mass%、Tiは0.5mass%未満、Siは7.07mass%、8.81mass%、Alは1.74mass%、2.15mass%で、いずれも酸化鉄に富んだ試料である (表3)。

## (6) 考 察

### 6-1 組成分析結果に基づく調査鉄器の分類

古代には複数の鋼製造法があった可能性が高い (赤沼・佐々木・伊藤 2000) (赤沼・福田 1997)<sup>2)</sup>。いずれの方法が用いられたとしても、多段階の工程を経て目的とする鋼が製造されたことは確実である。出発物質として同一の製鉄原料が使用されたとしても、製造方法や製造条件に応じ、最終的に得られる鋼の組成にはばらつきが生じる。錆化が進んだ資料の場合、埋蔵環境からの富化の影響についても検討する必要がある。従って、金属考古学的調査結果、とりわけ抽出した試料の組成分析結果を単純に比較するという解析方法では、実態を反映した資料の分類結果を得ることは難しい。製造法の如何に係らず、地金を精度高く分類する方法の確立が必要である。

銅 (Cu)、ニッケル (Ni)、およびコバルト (Co) の三成分は鉄よりも錆びにくい金属であるため、鉄中に取り込まれた後は、そのほとんどが鉄中にとどまると推定される。5-2で述べたとおり、調査資料のCu・Ni・Co三成分に対する埋蔵環境下からの富化の影響は乏しい。従って、合金添加が行われていなかったとすると、その組成比は鋼製造法の如何に関わらず、製鉄原料の組成比に近似すると推定される。

表2の分析結果からNa1およびNa2の(mass%Co)/(mass%Ni) (本稿ではCo\*と記載) と(mass%Cu)/(mass%Ni) (本稿ではCu\*と記載)、(mass%Ni)/(mass%Co) (本稿ではNi\*\*と記載) と(mass%Cu)/(mass%Co) (本稿ではCu\*\*と記載) をそれぞれ求めると、表2右欄のとおりとなる。それらの値をプロットしたものが図3である。図では非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されなかった鋼製鉄器を白丸 (○)、鉄チタン酸化物が見出された鋼製鉄器を黒丸 (●)、銑鉄塊を白四角 (□) で示した。図には、群馬県太田市 (旧新田町) 出土殿手刀 (NTN1: 7世紀代) (赤沼 2004: 2009)、群馬県前橋市荒戸上ノ坊遺跡出土鉄器 (ARK1-4: 8世紀後半~9世紀前半) (赤沼 1996)、岩手県盛岡市志波城跡出土刀子 (SWA1: 9世紀初頭) (関・女鹿、高橋、赤沼、佐々木 2007)、千葉県山武市島戸東遺跡出土資料 (SMH1: 7世紀後半) (関・女鹿・赤沼・佐々木 2009)、岩手県一関市中村城跡出土資料 (NKM1-3: 古代~中世) (赤沼 2010) の分析結果も示してある。

図から明らかのように、No.1  $Sa_1$  とほぼ同じCu・Ni・Co三成分比をとる鉄器はみられない。No.2  $Sa_1$  についてはARK3、NTN1、およびSMH1に近い値をとる。この分析結果を見る限り、No.2については関東地方出土7世紀~9世紀前半の遺構から出土した鉄器および鉄塊の三成分比に近似するよう



にみえるが、この点についてはさらに類例の蓄積を図り、検討することとしたい。

## 6-2 椀形滓の成因

No3は、2つのほぼ同一形状を呈する椀形滓が融着した資料で、凸部には木炭の噛み込みや固着はみられない。抽出した試料の組織観察結果に基づけば、マグネタイトと鉄かんらん石を主体とし、その周りをガラス化した組織が取り囲んだ組織からなる、酸化鉄に富んだ鉄滓である。このような形状および組成の鉄滓を、製錬、あるいは固体鉄を加熱・鍛打する鍛冶操作で生成した資料とみることは難しい。本資料の成因として、鉄鉄の脱炭操作過程（精錬操作）での生成が考えられる。

鉄鉄を脱炭して鋼を製造する操作を円滑に進めるためには、脱炭に不可欠な熱源の確保が課題となる。この点に対する対処として少なくとも、①るつば状容器の加熱、②るつば状容器または設備に生成した溶鉄（必要に応じ造滓材を添加）の空気酸化による脱炭、という2つが想定される。①において、溶鉄中に送り込まれた空気中の酸素は鉄中の炭素および鉄と反応し、前者は二酸化炭素として、後者は酸化鉄として鉄浴から排出される。鉄の酸化に伴う発熱が、脱炭反応の円滑な進行に寄与すると推定される。脱炭操作終了後、容器内に生成した鋼塊は回収されるが、鋼が椀形の容器に固着し分離が難しい場合には加熱・鍛打して剥離し、回収したものと考えられる。今後の調査によって遺跡内およびその周辺から、鉄塊、るつば容器、および空気酸化に必要な肉厚で気道内径が細いノズル状の羽口などが検出されれば、精錬が実施されていた可能性が高まるものと思われる。

## (7) ま と め

古城方八丁遺跡出土鉄器および椀形滓の金属考古学的解析結果について述べてきた。これまでの調査結果を整理すると、以下の3点を指摘できる。

- (1) 出土鉄器のうち1点は鋼製鉄器で亜共析鋼を素材としている。
- (2) 鉄鉄の化学組成は、関東地方出土7世紀～9世紀前半の遺構から出土した鉄器および鉄塊の3成分比に近似する。
- (3) ほぼ同形状の資料が溶着した椀形滓は、その組成を考慮すると、鉄鉄を脱炭し鋼を製造するという操作の過程で生成した可能性がある。

上記(1)～(3)を考慮に入れて、岩手県南地域の古代～中世における鉄関連資料の金属考古学的調査を進めることにより、古代～中世における当該地域の鉄・鉄器生産活動および鉄器普及の実態が一層みえてくるにちがいない。

## 注

- 1) 財団法人岩手県文化振興事業団理蔵文化財センター・村田淳氏からのご教授による。
- 2) 古代の鋼製造法については複数の方法が提案されている。製錬産物である鉄は炭素量に応じて、鋼と鉄鉄に分類される。製錬炉で得られた鉄から極力鋼部分を抽出し、含有される不純物を除去するとともに、炭素量の増減を行って目的とする鋼を製造する。そのようにして製造された鋼を使って、製品鉄器が製作されたとする見方がある。製錬炉で直接に鋼がつくり出されるという意味でこの方法は、近世たたら吹製鉄における郷押法によって生産された鉄塊を純化する操作に近似する。また、この方法によって得られた鉄（炭素量が不均一で鉄滓が混在した鉄（主に鋼からなるが鉄鉄も混在すると考えられている）を精製し目的とする鋼に変える操作は、精錬鍛冶と呼ばれている。古代に鋼を溶融する技術は未確立であったと考えられるので（溶融温度は炭素量によって異なるが、炭素量0.1～0.2mass%の鋼を溶融するためには少なくとも炉内温度を1550℃以上に保つ必要がある）、主として鋼から成る鉄から鉄滓を分離・除去する際の基本操作は加熱・鍛打によってと推定される。組成が不均一な鉄から純化された鋼を得る操作に精錬鍛冶という用語が用いられたのは、上述の事情に

よるものと推察される。

夥しい数の鉄仏や鉄鍋、鉄釜をはじめとする鑄造鉄器の普及が示すように、遅くとも9世紀には鑄鉄を生産する技術、すなわち炉内で生成した鑄鉄を炉外に流し出す製錬法が確立されていたとする見方が提示されている。得られた鑄鉄を溶解し鑄型に注ぎ込むことによって鑄造鉄器が製作される。また、生産された鑄鉄を鍛造することにより鋼の製造も可能となる。この方法による鋼製造は鑄鉄を経由して鋼が製造されるという意味で、間接製鋼（鉄）法に位置づけられる。

## 引用文献

- 赤沼英男 1996 「荒戸上ノ坊遺跡出土鉄製遺物の金属学的解析」財団法人群馬県歴史文化財調査事業団発掘調査報告書第203集、pp.159-174
- 赤沼英男 2004 「出土遺物の組成からみた物質文化交流」岩手県立博物館
- 赤沼英男 2009 「東北地方北部および北海道出土刀剣類の形態と組成からみた日本刀成立過程」岩手県立博物館、pp.22-59
- 赤沼英男 2010 「金属製品分析－中村城跡出土資料の金属考古学的調査結果」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第560集、pp.126-132
- 赤沼英男・福川豊彦 1997 「鉄の生産と流通からみた北方世界」国立歴史民俗博物館研究報告、72、pp.1-40
- 佐藤知康編 1968 「鋼の顕微鏡写真と解説」丸善株式会社
- 佐々木稔・村田朋美 1984 「古墳出土鉄器の材質と地金の製法」季刊考古学、8、pp.27-33
- 関博充・女鹿潤哉・高橋誠明・赤沼英男・佐々木整 2007 「律令期の陸奥国官営施設における鉄器獲得方法について（2）」岩手県立博物館研究報告第24号、pp.43-54
- 関博充・女鹿潤哉・赤沼英男・佐々木整 2009 「律令期の陸奥国官営施設における鉄器獲得方法について（3）」岩手県立博物館研究報告第26号、pp.11-22
- 東北大学金属材料研究所編 1953 「金属顕微鏡組織」

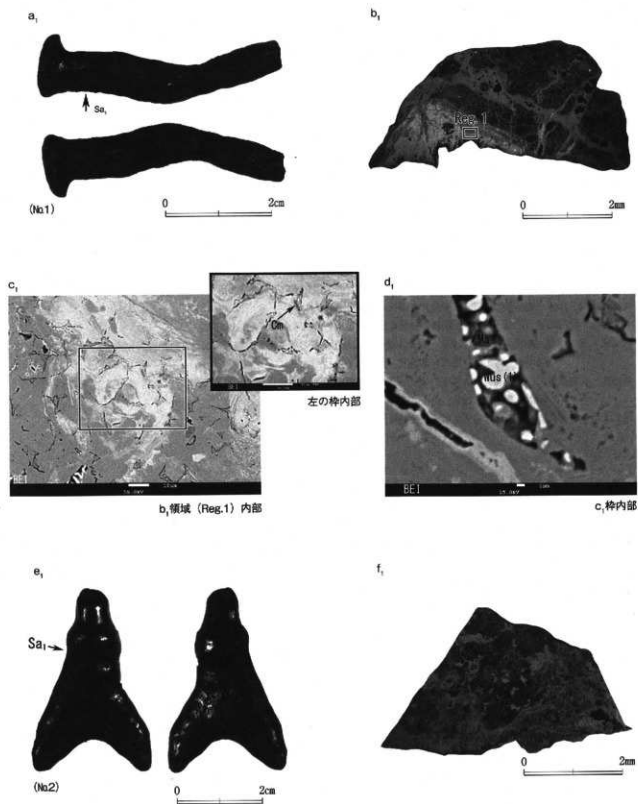


図1 No. 1・2から抽出した試料の組織観察結果

a<sub>1</sub>・e<sub>1</sub>:それぞれNo. 1, 2の外観(保存処理後)。矢印は試料抽出位置。b<sub>1</sub>・f<sub>1</sub>:抽出した試料のマクロ組織。c<sub>1</sub>:b<sub>1</sub>領域(Reg.1)内部のEPMAによる反射電子組成像(BEI)。右はc,枠内部。Cmはセメントライトまたはその欠落孔。d<sub>1</sub>:罫中に見出された非金属介在物のEPMAによる反射電子組成像。Wus=ウスタイト、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。

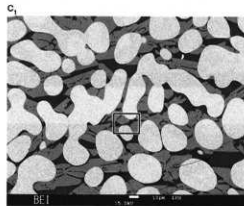
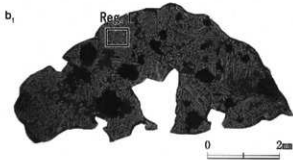
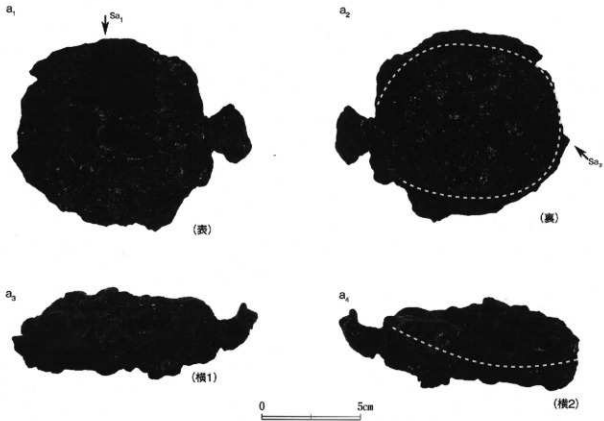
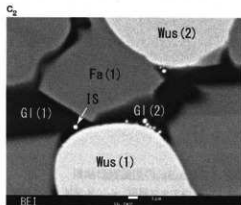
 $b_1$ の領域 (Reg.1) の内部 $c_1$ の幹内部

図2 (1) №3から抽出した試料の組織観察結果

$a_{1,2}$ : 外観。矢印は試料位置。 $b_1$ :  $a_1Sa_1$ のマクロ組織。 $c_{1,2}$ :  $b_1$ 領域 (Reg.1)内部のEPMAによる反射電子組成像。 $c_2$ は $c_1$ の幹内部。Wus=ウスタイト、Fa=鉄かんらん石、IS=Fe-S系化合物、Gl=ガラス質ケイ酸塩。

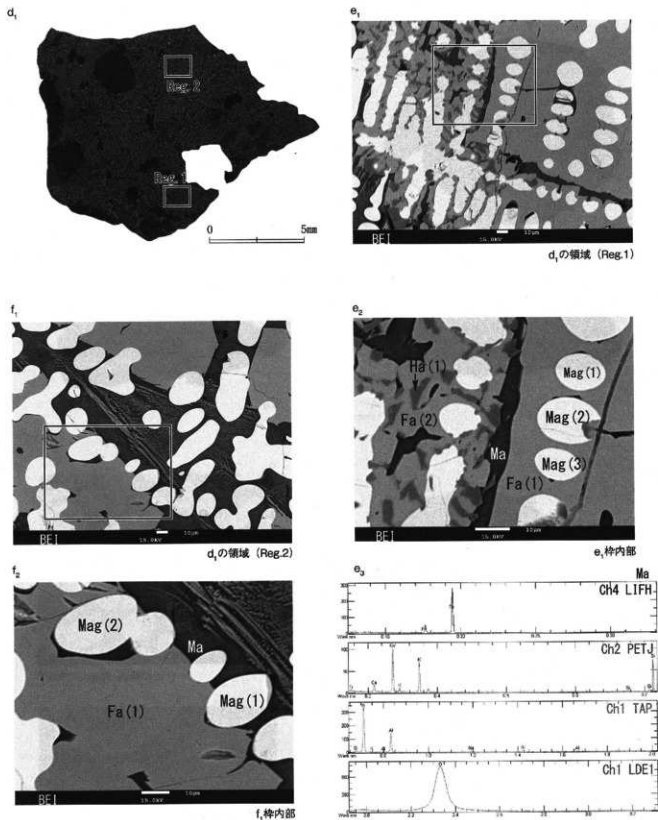
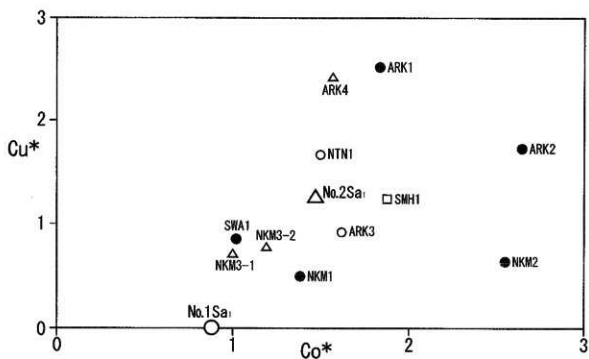


図2 (2) a<sub>2</sub>Sa<sub>2</sub>の組織観察結果

d<sub>1</sub>: a<sub>2</sub>Sa<sub>2</sub>のマクロ組織。e<sub>1</sub>, e<sub>2</sub>: d<sub>1</sub>領域(Reg.1)内部のEPMAによる反射電子組成像と定性分析結果。Mag=マグネタイト、Ha=Fe-Al-Ti化合物、Fa=鉄かんらん石、Ma=微細粒子が混在するガラス化した領域。f<sub>1</sub>, f<sub>2</sub>: d<sub>1</sub>領域(Reg.2)内部のEPMAによる反射電子組成像。

a,



b,

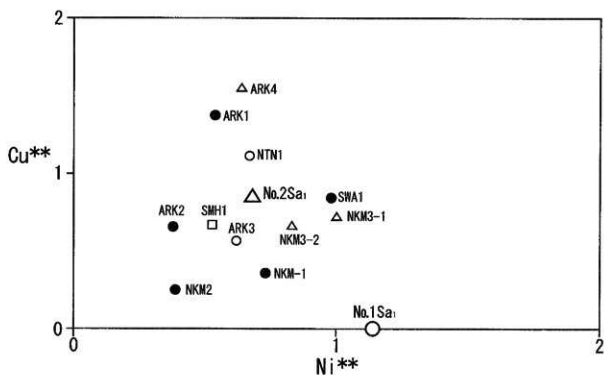


図3 鉄器に含有されるCu・Ni・Co三成分比

Noは表1に対応。白丸(○)は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出されなかった資料、黒丸(●)は非金属介在物中に鉄チタン酸化物が見出された資料、白三角(△)は非金属介在物が見出されなかった資料、白四角(□)は鉄鉄塊、 $Co^* = (\text{mass}\% Co) / (\text{mass}\% Ni)$ 、 $Cu^* = (\text{mass}\% Cu) / (\text{mass}\% Ni)$ 、 $Ni^{**} = (\text{mass}\% Ni) / (\text{mass}\% Co)$ 、 $Cu^{**} = (\text{mass}\% Cu) / (\text{mass}\% Co)$ 。NTN = 群馬県太田市(旧新田町)出土資料(兼手刀)、ARK = 群馬県前橋市荒戸上ノ坊遺跡出土資料、SWA = 岩手県盛岡市志和城跡出土資料(刀子)、SMH = 千葉県山武市烏戸東出土資料(鉄鉄塊)、NKM = 岩手県一関市中村城跡出土資料。

表1 調査資料の概要

分析 材料番号 (No.)	本番号	分析位置		分析時期	分析値	
		砂層	土上地点・母岩		種別	重量(g)
1	100	501	SE02 1層	鉄製品	28	0.5
2	102	202	SP03 1層	鉄製品	4.89	6.5
3	104	306	SP03 1層	鉄屑	—	—
				鋼屑	—	332.5

\*分析位置は、分析位置記号(1)と分析位置(2)の間に「/」を挿入して示す。例) 100/501 SE02 1層

表2 鉄質の分析結果

No.	試料 番号	化学組成(mass%)														分析値 種別	分析値 重量(g)								
		TiFe	Ca	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Fe	Su	Sh	Zr	Ca	Al			Mg	V	As	Mo	S			
1	Se	47.87	<0.01	0.008	0.007	0.027	0.22	0.039	1.78	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.064	1.09	0.955	<0.01	<0.01	<0.01	0.07	Cr(0.243)	W(0.45)	0.88	1.14
2	Se	58.69	0.019	0.015	0.022	0.096	0.10	0.022	2.12	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.042	0.70	0.995	<0.01	<0.01	0.001	0.06	0.06	—	—	1.47	1.27

\*本表は1)に同じ。分析値の単位は%とAESSによる。  
\*Cr=セレンナイト、W=ウスタイト、Ni=ニッケル、Co=コバルト、Mn=マンガン、P=リン、Ti=チタン、Si=シリコン、Fe=鉄、Su=スズ、Sh=鉛、Zr=ジルコニウム、Ca=カルシウム、Al=アルミニウム、Mg=マグネシウム、V=バナジウム、As=亜鉛、Mo=モリブデン、S=硫黄

表3 鉄質の分析結果

No.	試料 番号	化学組成(mass%)														分析値 種別	分析値 重量(g)								
		TiFe	Ca	Ni	Co	Mn	P	Ti	Si	Fe	Su	Sh	Zr	Ca	Al			Mg	V	As	Mo	S			
3	Se	58.16	<0.01	<0.01	<0.01	0.070	0.18	0.057	8.81	<0.01	<0.01	<0.01	0.011	1.15	2.15	0.994	<0.01	<0.01	<0.01	0.06	0.06	—	—	0.07	0.07

\*本表は1)に同じ。分析値の単位は%とAESSによる。

\*Cr=セレンナイト、W=ウスタイト、Ni=ニッケル、Co=コバルト、Mn=マンガン、P=リン、Ti=チタン、Si=シリコン、Fe=鉄、Su=スズ、Sh=鉛、Zr=ジルコニウム、Ca=カルシウム、Al=アルミニウム、Mg=マグネシウム、V=バナジウム、As=亜鉛、Mo=モリブデン、S=硫黄

表4 鉄系非金属系化合物および鉄液中に混入された鉄相のEPMAによる定量分析結果

分析 材料番号 (No.)	試料 番号	測定位置	化学組成(mass%)														合計
			SrO	FeO	CaO	ZnO	SrO	MgO	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	K <sub>2</sub> O	TiO <sub>2</sub>	MnO	V <sub>2</sub> O <sub>5</sub>			
1	146	Wax(1)	1	0.43	97.3	<0.01	<0.01	—	0.12	0.91	0.78	0.01	0.15	0.01	0.07	96.86	
		Wax(1)	1	0.39	97.2	<0.01	0.01	—	0.11	0.83	1.13	0.05	1.00	0.05	0.05	99.99	
		Wax(2)	1	0.39	96.5	<0.01	<0.01	—	0.16	0.01	1.28	<0.01	1.02	0.06	0.08	99.49	
		Fe(1)	1	29.3	67.2	0.71	0.07	—	1.91	0.03	0.47	0.03	0.13	0.17	<0.01	100.02	
		Fe(1)	1	37.9	26.6	36.8	<0.01	—	0.09	0.09	2.38	20.7	0.09	0.25	0.05	<0.01	98.32
		Fe(2)	1	34.4	24.6	37.7	0.01	0.27	0.08	2.53	19.4	6.99	0.31	0.07	0.02	98.35	
3	2015	Mag(1)	1	0.28	96.0	<0.01	<0.01	—	0.14	0.02	1.11	<0.01	1.57	0.03	0.14	99.25	
		Mag(2)	1	0.40	97.1	<0.01	<0.01	—	0.11	0.01	0.89	<0.01	1.82	0.01	0.02	102.54	
		Mag(3)	1	0.44	96.0	<0.01	<0.01	—	0.07	<0.01	0.72	<0.01	1.70	0.07	0.16	99.31	
		Fe(1)	1	0.49	80.3	<0.01	0.04	—	0.23	<0.01	0.16	0.01	2.06	0.03	0.06	100.01	
		Fe(1)	1	28.8	60.9	0.76	0.01	—	0.75	0.01	0.15	0.01	1.17	0.17	0.06	99.72	
		Fe(2)	1	28.6	61.3	0.42	0.07	—	1.08	0.02	0.18	<0.01	1.45	0.19	<0.01	98.88	
2215	2215	Mag(1)	1	0.39	95.3	<0.01	<0.01	—	0.07	<0.01	1.40	0.01	1.45	0.08	0.13	98.97	
		Mag(2)	1	0.37	94.8	<0.01	<0.01	—	0.13	<0.01	1.17	<0.01	1.35	0.07	0.14	98.16	
		Fe(1)	1	28.9	66.3	0.39	0.01	—	2.41	<0.01	0.22	<0.01	1.13	0.13	0.03	98.33	

\*本表は1)に同じ。

\*Mag=マグネシウム、Wax=ウスタイト、Fe=鉄、Ca=カルシウム、Zn=亜鉛、Sr=セレンナイト、Al=アルミニウム、Si=シリコン、Fe=鉄、K=カリウム、Ti=チタン、Mn=マンガン、V=バナジウム、As=亜鉛、Mo=モリブデン、S=硫黄

## Ⅶ 調査のまとめ

### 1 水尻遺跡

検出遺構は、第Ⅲ章第1節の記載と同じく、石器集中部6ヵ所、礫群1基、竪穴住居状遺構1棟、掘立柱建物跡4棟、土坑7基、柱穴列4条、溝11条、周溝1条、柱穴217個、である。遺構の主な構築時期は旧石器時代と平安時代に分けられる。

出土遺物は、旧石器305点、礫群構成礫38点、単独出土礫42点、縄文土器47点、上師器・須恵器大コンテナ1.5箱、緑釉陶器1点、瀬美産陶器2点、東北産中世陶器1点、基石2点、土壁26点、石鏃、石錐、石筥など縄文時代以降の剥片石器137点、磨石、敲石など礫石器2点である。年代は後期旧石器時代、縄文時代、9世紀後半～10世紀前半、12世紀代に大別される。

#### (1) 旧石器時代の調査

B区において石器集中部6ヵ所、礫群1基、出土石器305点、礫80点が確認された。A・C区では旧石器が確認されなかったが、Ⅲ層の堆積状況は良好で、今後さらなる発掘調査が及ぶことがあれば、旧石器遺物が発見される可能性は十分にある。

##### a) 遺物平面分布の傾向と解釈

1.5mの範囲に5点以上の石器があることを条件に、石器集中部を6ヵ所設定した。これらは、より新しい時代の遺構や攪乱によって分断された結果の分布である。典型的なのがSD04に分断された石器集中部2・3・4で、本来これら石器集中部は分離できない分布状況だったかもしれない。いずれの石器集中部もトール類が少なく、剥片・碎片主体あるいは剥片・碎片のみで構成される。出土石器全体に占める自然面残存資料の比率が低いことから、水尻遺跡は原石搬入から石器製作を頻繁に行った場ではなく、ある程度加工された石核、素材剥片とトール類を持ち込んで、それらを適宜加工・使用・メンテナンスした場として利用されたと考えられる。その結果、ごく僅かに剥片・碎片を中心とした石器集中部が形成されたと想定される。また、平面分布が細長い石器集中2・6については、流水によって形成された可能性も考えられる。

##### b) 遺物垂直分布密度の傾向と解釈

垂直分布は層厚約20cm程度にまとまり、分布のピークがⅡb層～Ⅲ層上部にくる。層厚の薄さや母岩の小ささなどから、細分は困難であるため、1文化層と捉えて報告した。遺物の形態的特徴からは複数の時期に跨るような根拠を見いだせない。旧石器が出土したB区は、ほ場整備によって削平されているため、Ⅱa層以上の堆積物のほとんどは消失したと考えられる。

##### c) 石器群の年代論的位置

本石器群はトール類が少ないため、より限定された時期決定を行うことができないが、水尻遺跡では台形石器と打面残置ナイフ形石器が組成する。これらの組成は後期旧石器時代前半期に盛行する。大枠ではAT降下前後までの約32,000～26,000BPの範囲である。本遺跡の石器群もこの範囲内にあると考えられる。ただし、遺物の数量や指標となる石器にそれほど恵まれていないため、時期細分は困



難である。また、現在でも東北地方において後期旧石器時代前半期の層位的事例は非常に少なく、文化層区分についていくつかの遺跡で提示されているが、層厚の薄い地域での文化層設定ということもあり、石器群の時期細分についてはコンセンサスを得るには至っていない。したがって、ここでは、本遺跡に関わる後期旧石器時代前半期研究の現状と課題を簡潔に整理し、今後の資料増加に備えることとする。なお、奥州市内では上萩森遺跡、岩洞堤遺跡、瀧ノ木遺跡、二ノ台長根遺跡で台形石器群が確認されており、後期旧石器時代前半期の遺跡数が増加しているため、今後の研究によっては、本遺跡を含む総合的な検討が可能になるものと期待される。

さて、北東北における後期旧石器時代前半期の研究は、資料の豊富な秋田県内の石器群を中心に進められてきた。最近の研究でも、南関東地方の武蔵野編年に照らし、秋田県の台形石器群を武蔵野Ⅸ層段階とⅩ層段階に位置付ける編年案が示されている（渋谷・石川2010、石川2010）。この編年案は、水尻遺跡の隣接遺跡である奥州市前沢区瀧ノ木遺跡の石器群を、台形石器の形態とその組み合わせから武蔵野Ⅸ層段階に位置付けている。一方、後期旧石器時代前半期の研究で、システム論的視座に基づく研究がある（佐藤1992）。この研究で佐藤は、従来進められてきた石器形態や石器製作技術を区分する手法とは異なる編年を提示している。具体的成果としては、台形石器の形態や製作技術を重視した編年研究によって武蔵野Ⅸ層段階に対比された奥州市上萩森遺跡Ⅱb文化層や秋田市地蔵田遺跡（旧地蔵田B遺跡）の石器群を、佐藤の研究では武蔵野Ⅶ層段階に対比している（佐藤前掲）。

地質学的にみた武蔵野台地立川ロームⅩ～Ⅸ層の形成年代は28,000～32,000BPとされる。較正年代では32,000～36,000calBPの範囲内である。これに対し、武蔵野台地立川ロームⅦ層の形成はAT(25,000～26,000BP)を包含するⅦ層より古い26,000～30,000BPと考えられる。後期旧石器時代前半期の石器群はこれら測定年代の範囲内に収まると考えられる。

前半期の年代測定成果は、岩手県内でも増加している。最近成果が公表されている（施又2010）ので再記させていただく。AT降下以前の石器群として著名な西和賀町大渡Ⅱ遺跡第1文化層では、 $27,740 \pm 920$ BPと $27,330 \pm 970$ BPの測定値が報告されている（中川ほか1995）。大渡Ⅱ第1文化層はいわゆる東山系石器群を伴う。奥州市岩洞堤遺跡第Ⅱ文化層の石器集中区Ⅱ3では $28,190 \pm 150$ BP、 $27,920 \pm 160$ BPと報告されている（村木・濱田2009）。岩洞堤遺跡では、ナイフ形石器、台形石器、楔形石器などが出土している。半石町板橋Ⅲ遺跡では $27,160 \pm 130$ BP、 $28,390 \pm 150$ BPの測定値が報告されている（柴田2008）。ここでは楕形の台形石器、基部加工ナイフ形石器が出土している。また、現在未報告で、奥州市の上萩森Ⅱb文化層の測定値が近く公表予定であるという。これらを年代順にすると、板橋Ⅲ・岩洞堤Ⅱ文→大渡ⅡⅠ文となる。

北東北における後期旧石器時代前半期石器群の問題点を、上記の問題点とともに列記してみる。

- ① 秋田県と岩手県の該期石器群が武蔵野編年に対比されるものの、研究方法の違いによって、その対比される石器群の編年の位置が異なっている。
- ② 放射性炭素年代測定の蓄積によって、後期旧石器時代前半期の年代はAT降下以前の26,000～32,000BPである。
- ③ 第Ⅱ章でふれたとおり、水尻遺跡が立地する胆沢扇状地低位段丘面のひとつである水沢高位段丘は、その形成年代が約20,000BPとの測定成果が提示されているものの、その測定機関や引用文献が判然としない。また、別の研究では水沢高位段丘面が武蔵野台地の立川面の形成時期に対比されて、31,000～20,000BPの形成と考えられている。
- ④ 堆積層が薄く、文化層設定やその細分が困難な場合が多い。
- ⑤ 年代測定値順に岩手県内の遺跡を並べると、基部加工ナイフ、台形石器、楔形石器を伴う石器

群から、石刃技法によって製作された縦長剥片や石刃を素材とするナイフ形石器を主体とする石器群へと移っていくようである。

これらの問題点からみて、水尻遺跡の資料はどのような位置付けになるであろうか。水尻遺跡では年代測定を実施していないため、炭素年代による新旧は議論できない。しかし、③の問題がその年代的な位置関係を左右することになる。従来考えられてきた水沢高位段丘面の形成年代に従えば、水尻遺跡は20,000BP以降の後期旧石器時代後半期の石器群と言えるが、石器群の内容から考えて前半期の石器群であり、渡邊の提示した水沢高位段丘面の形成を立川面に対比する31,000～20,000BPという年代（渡邊1991）に妥当性があるだろう。次に①の問題であるが、可変性に富む石器を型式学的特徴によって時系列に並べることは容易なことではなく、いかなるものが新出の要素であるのか、④の問題を抱える地域にとってはいつも頭の痛い問題である。しかし、⑤の傾向からすれば、少なくとも、大渡Ⅱ遺跡第1文化層よりも古い石器群の特徴をもつと考えられる。また武蔵野Ⅸ層段階でみられる盃形の台形石器を伴っていない。本遺跡のナイフ形石器（6）は、素材となった縦長剥片のボジ面から、貝殻状剥片を剥離した石核を、さらに素材端部に急斜度調整している。このナイフ形石器については台形石器と評価できなくもないが、その加工のあり方からは、台形石器製作技術とナイフ形石器製作技術のそれぞれが独立したものでなく、ひとつの石器の中に両者の技術が未分化の状態であることを示している。筆者は6の最終剥離面を急斜度調整と捉え、器機名をナイフ形石器としたが、最終剥離面を打面調整と捉えれば、石核との評価もできる。このようなナイフ形石器と台形石器の製作技術の未分化の状態は後期旧石器時代初頭の石器群に見られるようである。

以上のことから、現状では水尻遺跡の石器群を積極的に武蔵野編年に対比できないものの、大渡Ⅱ遺跡第1文化層よりも確実に古いこと、また、岩手県内の後期旧石器時代資料としては最古期に位置する可能性もあると考えておきたい。

#### d) 石材

本遺跡では、石器石材として主に頁岩が利用されていることが明らかとなった。その他に凝灰質頁岩、玉ずいが利用されている。

#### ※追記

平成23年2月4日、東京大学大学院佐藤宏之教授に水尻遺跡の旧石器時代資料について実見していただいた。本書の校正中であったため、詳細については紙面の余裕がないことから、佐藤教授許可のもと、資料に対するコメントの概略をここに記す。

- ・上記の6の資料について、武蔵野編年Ⅹ層段階の石器群の特徴をもっている。
- ・岩手県内において、水尻遺跡は峠山牧場ⅠA遺跡と並び後期旧石器時代初頭の石器群である。
- ・武蔵野Ⅹ層段階の石核は6のように薄い資料が多く、ナイフ形石器製作を意図しているのか台形様石器製作を意図しているのか分からない点が特徴のひとつであり、それに対しⅨ層段階では厚手となる傾向がある。
- ・水尻遺跡の石器群は、別時期の資料も混在している可能性も否定できないが、大枠では武蔵野Ⅹ層段階と考えられる。

（米田）

## (2) 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は4棟検出した。そのうち平安時代の建物跡は3棟、時期不明の建物跡は1棟である。各建物跡の構造、時期、主な出土遺物については以下の表のとおりである。

遺構名	構造	時期	主な出土遺物	備考
SB01	3×2間の側柱建物・四面庇切妻造	9世紀後半～10世紀前半	土師器、須恵器、碇石、緑釉陶器破片、鉄滓	SB03と重複、SB03より古い
SB02	2×1間以上の側柱建物	不明	なし	
SB03	7×2間の側柱建物・二面庇	10世紀前半以降	土師器、須恵器	SD01と重複、SD01より新しい
SB04	2×1間以上の側柱建物	9世紀～10世紀	土師器	

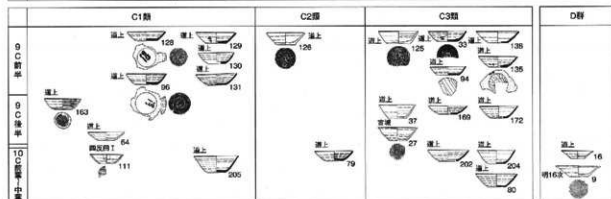
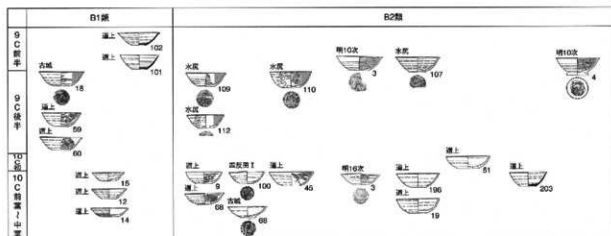
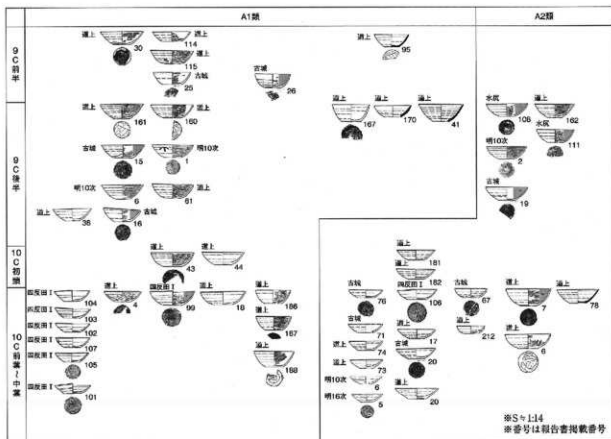
SB01は、3間×2間の側柱建物に四面庇が付く建物跡である。建物跡を構成する柱穴から、東濃産の緑釉陶器破片と碇石が出土している。これらを一般民衆が持っていたとは考え難く、この建物跡の格式の高さを窺わせている。また、鉄滓が24.1g出土している。時期は出土遺物より9世紀後半から10世紀前半と思われる。そして、身舎（母屋）内にSK01が位置している。SK01から、内面黒色処理の土師器杯、内面黒色処理のミニチュア甕、羽釜、碇石などが出土している。遺物の年代は9世紀後半～10世紀前半に位置づけられ、SB01の出土遺物と同じ時期である。このため、SK01はSB01と同時期の遺構の可能性が高い。また、SK01からは焼土塊も見つかっており、出土した土師器杯の中には、二次被熱を受けているものがある。胆沢地域では出土例が少ない羽釜や内面黒色処理のミニチュア甕と一緒に焼土塊も出土していることから、SK01の性格は火を用いた儀礼や祭祓的な様相を帯びていると推測される。このように、SB01は建物構造や出土遺物などから格式のある建物であったと思われる。

SB03は7間×2間の側柱建物に二面庇が付く建物跡で、今回の調査で見つかった建物跡の中で最も大きい。建物跡を構成する柱穴の中に、SB01の柱穴を再利用した痕跡をもつものを確認している。このことから、SB03はSB01の廃絶後に建てられたものと考えられる。時期は重複関係から10世紀前半以降と考えられるが、出土遺物が少ないため特定は困難である。

SB02・04は調査区外へ続いているため、建物構造や性格の詳細は不明である。SB02は時期不明であるが、SB04は土師器が出土しており、平安時代の建物跡の可能性はある。

以下では、SB01の性格について胆沢地方および和賀地方でこれまでに確認された庇が付く掘立柱建物跡と比較し、いくつかの可能性を述べたい。

本遺跡が所在する胆沢地方において、平安時代の掘立柱建物跡が確認された集落遺跡は、水沢区膳性遺跡、西大畑遺跡、石田遺跡、崩田遺跡、林前Ⅱ遺跡、林前南館遺跡などが挙げられる。そのうち、庇が付く掘立柱建物跡が確認された林前Ⅱ遺跡では、3間×2間の側柱建物に一面庇が付いた建物跡と共に、2間×2間の総柱建物と側柱建物および1間×1間の建物跡が見つまっている。建物の構造や配置などから、前者は倉庫群の事務所で、後者は倉庫群である可能性が示唆されている（佐藤ほか2008）。林前Ⅱ遺跡のように胆沢地方で確認されている掘立柱建物跡は、数棟の建物が配置を揃えて並んでいる場合が多いとのことである。このような掘立柱建物群についての仮説として、豪農・富裕層と呼ばれる階層が、菅田と番桶を梶子に台頭してくる背景と見ることもできる（伊藤 2007）という見解がある。しかし、本遺跡で確認された掘立柱建物跡の中にSB01と明確に配置を揃えて並ぶものは確認されなかった。時期が異なるものや遺構を検出した調査区が離れているため、他の遺跡と同様に配置を揃えるものなのか今回の調査範囲では不明である。ただし、調査区外に建物跡がいくつか存在する可能性があり、配置を揃えて並んでいる可能性も否定できないことから、SB01の性格の一



第119図 土器変遷図

つとして有力者に関連する施設（住居あるいは公的施設など）である可能性が考えられる。

S B01に四面庇が付くことに注目すると、S B01の建物構造に類似する同時期の掘立柱建物跡が胆沢地方にはまだ確認されていないが、隣接する和賀地方の北上市岩崎台地遺跡、南部工業団地内遺跡にみられる。2遺跡で確認された建物跡は、仏教関連建物と指摘されている（沼山 1999、2002）。北上盆地における仏教の伝来は、胆沢城や志波城の造営にともなう付属寺院の建立が契機となったと考えられる。掘立柱建物による一堂の仏堂建物を集落内もしくはその近辺に建立する例が、10世紀に急速に普及しており、仏教が民衆一般に広く受け入れられるようになったことを示している（杉本 2003）ため、S B01も仏教の普及に伴い建てられた仏教関連建物である可能性も考えられる。

以上からS B01の性格として、有力者の関連施設（住居あるいは公的施設など）や仏教関連建物などの可能性が考えられる。

### (3) 土師器・須恵器

近年の発掘調査により、古城地区および白山地区の土師器と須恵器の出土資料が増加している。そこで、古城地区の水尻遺跡、四反田I遺跡、古城方八丁遺跡、および明後沢遺跡、そして白山地区の道上遺跡から出土した土師器と須恵器の坏類の変遷を試みた。分析方法は、道上遺跡第3次調査における分類と年代の検討（丸山ほか 2009）に基づいて行った。ただし、第119図の土器変遷図において、道上第3次調査の分類を焼成の違い、内面黒色処理の有無、法量の大小、体部の形状（丸みの強弱）に応じてさらに細分して並べている。分析資料は、口縁から底部までの全体形を判別できる資料を対象に行った。各遺跡の分析資料は、水尻遺跡S K01出土資料、四反田I遺跡S K06出土資料、古城方八丁遺跡S I02・03、S K29・33、S E01出土資料、明後沢遺跡第10次調査S K159出土資料と第16次調査S I06出土資料、道上遺跡第3次調査1号遺物包含層、1号遺物包含層旧河跡②、1号遺物捨て場出土資料である。以下では、時期ごとに土器様相の変化をみていきたい。なお、資料は丸山ほか2009に同じくA・B・C・D群に大別し、それらをA1～3類、B1・2類、C1～3類、D群に細分した。また、各分析資料の器高と口径/底径の値の関係を第120図に示した。

#### 9世紀前半

道上遺跡第3次調査1号遺物包含層第Ⅶ層、1号遺物包含層旧河跡②第Ⅷ・Ⅸ層、古城方八丁遺跡S I03出土資料が該当する。A1、B1、C1～3類があり、須恵器C群が主体である。土師器は内黒が主体である。器形は、器高が低く、底径が大きい傾向である。器高の平均値は、土師器4.5cm、須恵器3.7cmである。口径/底径の平均値は、土師器2.2、須恵器2.0である。調整は、底部回転ヘラ切りと回転糸切りのものがある。また、底部切り離し後に外面下位や底部にかけてケズリ調整が施されているものがある。

#### 9世紀後半

道上遺跡第3次調査1号遺物包含層第Ⅶ層、1号遺物包含層旧河跡②第Ⅶ層、水尻遺跡S K01、古城方八丁遺跡S I02、明後沢遺跡第10次調査S K159出土資料が該当する。A1、B1、C1・3類が引き続きみられる。ただし、B1類は須恵器から内黒土師器に移り変わっている。また、新たにA2、B2類が出現している。さらに、A1、B2類の中に非内黒土師器が現れることが注目される。この時期の主体は須恵器Cから内黒土師器AおよびBへ移り変わっており、須恵器が減少している。器形は、器高が前時期に比べて高くなり、底径が小さくなっている。器高の平均値は、土師器5.0cm、須恵器4.3cmである。口径/底径の平均値は、土師器2.5、須恵器2.2である。調整は、底部回転糸切りのものと、切り離し後にケズリ調整が施されるものがある。また、外面下位にケズリ調整が施されるものもある。その他に、高台付坏がみられるようになる。

## 10世紀初頭

道上遺跡第3次調査1号遺物包含層第IV層、1号遺物包含層旧河跡②第4層出土資料が該当する。A1、A2、B2類がある。今回、この時期に該当する資料は土師器のみである。器高の平均値は4.2cmで、口径/底径の平均値は2.3である。引き続き、須恵器は減少しており、さらに内黒土師器も減少傾向にあることが窺える。しかしその反面、非内黒土師器が増加傾向にある。

## 10世紀前半～中葉

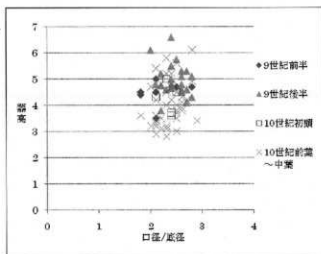
道上遺跡第3次調査1号遺物包含層第III層、1号遺物包含層旧河跡②第III層、1号遺物捨て場、四反田I遺跡SK06、古城方八丁遺跡SE01、SK29・33、明後沢遺跡第16次調査SI06出土資料が該当する。すべての分類が存在し、器形のバリエーションが豊富になる。特に、D群の出現と非内黒土師器A群の急増が目ざされる。器形は、非内黒土師器の器高と底径が小型化し、皿のようになる。そのうち、非内黒土師器A2類は口径と体部の丸みの強弱によってさらに細分できる可能性がある。また、非内黒土師器B1類の3点は、胆沢城出土資料で伊藤氏による分類(伊藤1998)の皿B・C・Dに類似している。そして、前時期に主体となっていた内黒土師器は、器高が低くなるもの(B2類)と、ほとんど変わらないもの(A1、A2類)がある。しかし、非内黒土師器に比べて法量の大きいものがほとんどである。器高の平均値は、土師器4.0cm、須恵器5.4cmである。口径/底径の平均値は、土師器2.3、須恵器2.4である。調整は、体部回転ナデ、底部回転糸切り後のものが大半を占める。

## まとめ

主体となる土器は時期ごとに、須恵器C群(9世紀前半)→内黒土師器A・B群(9世紀後半)→非内黒土師器A・B群(10世紀代)へと移り変わる。法量の変化については、器高は土師器が9世紀後半に最も高くなり深みが増すが、10世紀になると再び低くなる。反対に須恵器は徐々に器高が高くなっていく。同様に、口径/底径の平均値も土師器は9世紀後半に最大値となるが、10世紀になると再び値が小さくなる。須恵器は時代が新しくなるにつれて値が大きくなる。須恵器は9世紀後半以降に減少する。また、9世紀前半は須恵器の器形に規格性が認められるが、9世紀後半以降は認められない結果となった。

9世紀第3四半期になると、城柵からも須恵器の量が減少し、須恵器生産の衰退と拡散が始まっており、大規模な須恵器窯は衰退し、数基の窯での小規模な操業へ変化する(八木2007)。古城、白山地区においても須恵器生産の衰退と拡散の傾向が窺える。

以上より、土器の消長と形態変化の画期が9世紀後半、10世紀前葉にあるとみられる。9世紀後半は志波城と徳丹城の廃絶に伴い胆沢城の支配領域が拡大する時期に当たり、10世紀前葉は十和田A火山灰降下の時期に当たる。当地域の土器も胆沢城からの支配体制の変化、須恵器生産の衰退と拡散、そして自然災害などの様々な要因が関わって変遷するものとみられる。(高橋)



第120図 土器相關図

## 2 四反田Ⅰ・Ⅱ遺跡

今回の発掘調査、および整理作業で明らかになった事項は下記のとおりである。

## 四反田Ⅰ遺跡

## (1) 立 地

遺跡は水沢高位段丘縁辺部に立地し、南流する北上川の西方約1.5kmの地点に位置する。調査区の東方300mには丑ノ子付近で西側から大きく南へ流路を変えた明後沢川が、南流する北上川へと注ぎ込む。調査区は、胆沢扇状地扇頂部から東流する小河川と、遺跡東方を南流する北上川とがぶつかり合う地点の、低地および微高地上にかかる471㎡である。

## (2) 検 出 遺 構

発掘調査の結果、遺跡は平安時代の集落跡であることが判明した。調査区内の基本層序は、第Ⅰ層から第Ⅲ層に分けられる。Ⅲ層上面が近世～古代の遺構検出面で、それ以下から遺構・遺物は確認されていない。検出遺構は、平安時代の竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、土坑14基、溝跡6条、性格不明土坑1基、畑跡1箇所、時期不明の柱穴36個である。なお、遺構の所属時期は重複関係、供伴遺物、埋土の状況などから総合的に判断したものである。

## 〈平安時代の遺構〉

竪穴住居1棟、掘立柱建物1棟、土坑14基が該当する。

竪穴住居は西側調査区西寄りから1棟を検出した(SI01)。耕地造成および、H20年度文化課試掘トレンチにより埋土上位が削平されており、残存状態は不良である。住居内には北東と南東のコーナー部分にそれぞれ1基、計2基の貯蔵穴と、北東壁に沿ってそれぞれ2本、計4本の壁外柱穴を持っている。カマドは調査範囲からは確認されていない。床面には貼り床に相当する4・5層を掘りぬいて、計48基の小ピットが掘削されている。これらピットの埋土には焼土・炭化物ブロック・地山ブロックが多量に混入しており、貯蔵穴としたPit1・2、柱穴としたPit3～6とは様相が異なっている。これら小ピットは竪穴住居のプラン内にはほぼ隙間なく掘削されている点、埋土に焼土・炭化物・焼成粘土塊などを含むことから、水捌けなどを考慮した土壌改良のための床面構築(貼り床)などの可能性が考えられる。竪穴住居の床面埋土を対象に土壌の水洗選別を実施している。その結果、イネ、オオムギ他の炭化種子が得られ、当時の食物利用について知りうる良好な資料となった。

掘立柱建物は1棟検出されている(SB01)。北半部が調査区域外にかかるため、全容は不明であるが、梁間2間以上、桁行5間の建物跡であると推定され、廂が付属すると仮定した場合は、東西辺3間の構造を持つことになり、3間×3間の総柱建物となる可能性もある。桁行の柱間寸法は257cm(8.5尺)を基準とし、梁間の柱間寸法は229cm(7.6尺)を基準としている。建物を構成するPitの埋土中からは、平安時代の遺物が出土している。しかしながら本遺構の周辺には当該期の遺構が近接しており、柱穴掘削時に周辺の遺物が混入した可能性も排除できない。この為、時期推定の根拠となる化学的分析も必要と考え、本遺構を構成するPit7の底面付近から採取した炭化材の放射性炭素年代測定(AMS測定)を実施している。その結果、暦年較正年代で808AD-984AD(93.2%)の数值が得られている。これと出土遺物の時期を考慮すると、本遺構の時期は、古くは平安時代まで遡る可能性がある。当遺跡の西方約400mに位置する水尻遺跡では、2間×3間の櫓柱建物に1間の廂が付属する建物跡が確認されている。この遺構からは緑釉陶器、小形壺形土器など、宗教色を帯びた特殊

遺物が出上している。本遺跡のS B01からは墨書のある土師器坏片が1片出土したほかは、普通の土師器・須恵器片が少量出土したに過ぎない。柱穴の規模や形状、出土遺物による比較からは本遺跡の独立柱建物は水尻遺跡のものとは性格が異なるように思われる。

土坑は14基を検出した。東側調査区にまとまりを持つものである。土坑の規模は0.53～2.87cmの幅に収まり、円形基調のものが多く、S K01は第2層に白色テフラが堆積している。2層採取の炭化物のAMS測定結果から9世紀後半代という値が得られており、To-a降下火山灰と見て大過ないことが判明した。このことから、10世紀前葉には土坑が使用されなくなり、すでに埋没が始まっていたことが判明した。土坑西側には階段状の付属施設を有しており、出入りを容易にするための昇降施設（階段）であったと考えられる。S K01と重複する土坑群の底面からは鉢、須恵器甕壺片などが出土していることから、これら土坑の性格は貯蔵穴であったと推測される。但し、S K01のみ1m以上の深さを持つことから井戸の可能性も想定される。S K06は土師器坏片がまとめて出土した土坑である。S K07・S K11も、焼土粒と共に土師器坏片・甕片が比較的多く出土しており、規模・形状もS K06と似る。これら3基の土坑は、何らかの祭祀行為に関わった遺構である可能性も考えられる。また、近接する水尻遺跡・占城方八町遺跡でもこれと似た遺構が検出されており、類似性が指摘できる。

このうち、S K06・07・12・14の埋土を対象に土壌の水洗選別を実施している。その結果イネ、オオムギ、コムギなど多量の炭化種子が得られ、当時の食物利用について知りうる良好な資料となった。また、遺構の前後関係および集落の存続期間を明らかにするためにS K01第2層白色テフラ中から出土した炭化材と、S K06埋土中位から出土した炭化材の放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施している。その結果、780～892ADの幅に2点が含まれ、土坑の時期が9世紀代に相当することが判明した。

#### 〈時期不明の遺構〉

時期不明の遺構としては溝跡、柱穴などがある。西側調査区から3条、東側調査区から3条の計6条である。西側調査区の3条については、規模・軸方向に共通性が見られることから、同時期の溝跡であると考えられる。埋土からは土師器・須恵器片が出土しており、これより新しい遺物は皆無であることから、占くは平安時代まで遡る可能性がある。東側調査区から検出された3条も埋土から須恵器片が出土しているが、詳しい時期は不明である。柱穴は西側調査区から計36基を検出した。明確な出土遺物、柱穴配置を伴わないことから時期不明としている。平面形は円形～楕円形を呈し、規模は径16～47、深さ14～67cmの範囲に収まる。

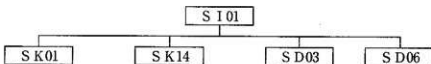
#### 〈近世以降〉

近世以降の遺構としては性格不明土坑と畑跡がある。

S X01性格不明土坑の埋土からは炭化材（一部未炭化）、壁材とみられる焼成粘土塊が多量に出土し、このほかに陶磁器片が1点出土している。土地所有者の方によると、過去に住宅火災があったと伝え聞いた場所とのことである。埋土の状況から判断して、この火災後の整理のために剝削されたごみ穴である可能性が高いと考えられる。土坑埋め立て後は、畑が耕作され、その後東半部のみ盛土されて宅地となり、現況の畑のある地形になっていることが判明した。

#### 【遺物接合関係・重複関係・放射性炭素年代測定から見た遺構の時期】

##### 遺物の接合関係



S I 01資料と接合した資料の出土地点



## 重複関係 (旧→新)

S I01→S B01、S K08→S K14・09→S K01、S D02→S K02、S K03→S X02、S K13→S X01  
年代測定結果

S B01 Pit7 埋土下位 808AD-984AD (93.2%) 9世紀初頭～10世紀全般、S K06埋土中位 777AD-905AD (67.6%)、912AD-970AD (27.8%) 8世紀後葉～10世紀初頭・10世紀前葉～後葉、S K01 To-a f 埋土下位683AD-873AD (95.4%) 7世紀後葉～9世紀後葉

これと前述の出土土器による年代観を併考すれば、本遺跡の時期には大きく3期あると捉えられる。

1期：堅穴住居と西側調査区西半部の土坑群、溝跡で構成される段階…9世紀後半代

S I01、S K01・08・09・14、S D03・06 (S D01・02・04・05も含まれる可能性有)

2期：掘立柱建物と西側調査区東半部の土坑群で構成される段階…10世紀前半代

S B01、S K06・07、S K10～12 (S K02・03・05・14も含まれる可能性有)

3期：性格不明土坑、畑が耕作される段階…19世紀以降

S X01・02、柱穴

## (3) 出土遺物

出土遺物の内訳は、土師器、須恵器、土製品、石器、陶磁器である。総量は大コンテナ (40×30×30cm) でおおよそ4箱分である。殆どは遺構内から出土した土師器・須恵器で、これらは器種・製作技法などの特徴から概ね9～10世紀代の特徴を持つものである。このほか、土製品として土錘が1点、縄文時代の石鏃が1点、近世の陶磁器片1点ほかが出土している。

## 四反田Ⅱ遺跡

## (1) 立地

遺跡は水沢高位段丘の縁辺部に立地し、南流する北上川の西方約1.7kmの地点に位置する。また、調査区の東方500mには、丑ノ子付近で西側から大きく南に流路を変えた明後沢川が、南流する北上川と合流して北上川へと注ぐ。四反田Ⅱ遺跡は、胆沢扇状地の扇端部と、南流する北上川、さらに胆沢扇状地を東西に流れる小河川とがぶつかる複雑な地形にある。調査区は低地および微高地上にかかる60㎡で、四反田Ⅰ遺跡の西方約200mに位置する。

## (2) 検出遺構

検出した遺構は、土坑3基、溝跡5条、柱穴5個である。

〈近世以降〉

近世の可能性のあるのは、南半部から検出されたS K01・02、S D01～03である。S K01からは木製品の下駄が出土している。これらの遺構埋土は、いずれも炭化物ブロックを含む青灰色シルト主体で構成され、Ⅱ層田耕作土下層のⅢ層上面を検出面としている。また、南半部では常に湧水があるため、これら遺構堆積土は一律に還元色を呈している。S K01から木製品の下駄が出土していることと、埋土の状況、土坑の近接地点にまとまるように遺構が分布することから判断して、これらはS K01と同時期の近世の遺構と考えられる。その他、中央部以北の遺構については出土遺物がない為、時期の詳細は不明である。S K03、S D04・05については掘削腐位、深度から判断して前述の遺構よりやや新しく、近現代にかかるものを含む可能性がある。

### (3) 出土遺物

遺構内出土遺物は木製品が2点、加工痕ある木片が3点のみである。遺物の特徴から近世に位置づけられると考えられる。その他の遺構外出土遺物は土師器・須恵器・陶磁器片がそれぞれ小片で数点表土から出土したのみで、圃場整備の際に他所から混入したものと判断している。

#### まとめ

今回の発掘調査で明らかになったのは以下の点である。

#### 四反田Ⅰ遺跡

- \* 出土遺物や放射性炭素年代測定（AMS測定）の結果から、9～10世紀代の集落跡であることが判明した
- \* 竪穴住居は床面に2基の貯蔵穴と壁際に4本の壁外柱穴を持つ。
- \* 竪穴住居床面にはほぼ全面に小ピットが掘削されている。小ピットの埋土には焼土・炭化物粒・焼成粘土塊等が混入している。このピットは柱穴や貯蔵穴とは様相を異にしており、床面構築（貼床）などの可能性がある。
- \* 独立柱建物は竪穴住居を切って作られており、これより新しい。規模は3×5間以上である。柱穴埋土下位から検出した炭化物の放射性炭素年代測定（AMS測定）の結果からは808AD-984AD（93.2%）の値が得られた。これと出土遺物の時期を考慮すれば平安時代に位置づけられる可能性が高いことが判明した。
- \* 土坑は14基見つかっている。土坑からは土師器の坏がまとまって見つかったSK06のほか、埋土から焼土粒と共に土師器片が底面から出土したSK07、SK11があり、遺構の構築地点、規模や形状、出土遺物などに類似性が看取される。SK06の放射性炭素年代測定（AMS測定）の結果からは777AD-905AD（67.6%）、912AD-970AD（27.8%）の値が得られ、9～10世紀後半にかけての遺構であることが判明した。
- \* 溝は6条見つかっている。埋土から土師器・須恵器片が出土しているものもあり、古く見て古代に位置づけられる可能性がある。
- \* 西側調査区については、土地所有者の方によると、過去に火災のあった場所であることが判明している。炭化材・焼成粘土塊（土壁材？）が多量に出土したSX01性格不明土坑については、火災後の建築材の整理のために掘削された穴である可能性が高いのではないかと判断している。調査区南側の土層観察からは埋め立て後、同地点に畑の畝が耕作され、その後、現地形で盛り土がなされ、宅地や畑地として利用されていることが判明した。

#### 四反田Ⅱ遺跡

- \* 調査範囲が狭小であるためごく限られた範囲での調査となったが、調査範囲内においては近世以降に土坑や溝が作られる等、人為的な土地利用の痕跡が確認された。
  - \* 調査区南側のSK01からクリ材製の下駄が2点、加工痕ある木片が2点出土した。
  - \* 遺構外の表上から、土師器・須恵器片、陶磁器片が少量出土している。これらは、圃場整備の際に周辺から混入した遺物と考えられる。
- 今回の調査で、両遺跡が平安時代から近世以降の集落の一部であったことが判明した。近接する水尻遺跡・古城方八町遺跡との検出遺構・出土遺物については共通点も見られ、4遺跡の所在する範囲

一帯に古代の集落が広がっていたと考えられる。今後、周辺域の調査が進むことで本遺跡を含めた周辺の様相が更に明らかになってくるものと思われる。  
(丸山)

### 3 古城方八丁遺跡

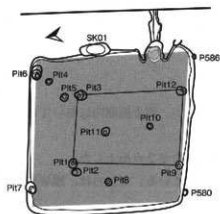
今回の調査では縄文時代～近世に属する多岐にわたる遺構・遺物を検出した。このなかでも特徴的な遺構・遺物について若干の検討を加えることで調査のまとめとしたい。

#### (1) 竪穴住居

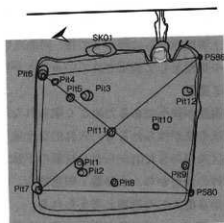
A区で2棟、D区で1棟検出した。このうち1棟全体を調査できたのはD区で検出したS I 03のみであり、今回はこのS I 03について検討を加える。

S I 03は一边が5 mを超える平行四辺形に近いプランの竪穴住居で、出土した土器の年代観から9世紀前半代に構築・使用されたものと考えられる。本住居には東壁の南東コーナー付近に住居壁面より外側に若干張り出すようにカマドが1基設置されているが、このような形態のカマドは岩手県内ではほとんど事例が無く、東北地方では秋田県や宮城県で数例確認されている(高橋1984)。秋田県内を中心にカマドの類型化作業を行った高橋学は、このような形態のカマドが出現することにより、「竪穴内のみを居住空間としていたものが「受け口」(カマド本体部)が壁外に移行するのに呼応して居住空間が竪穴外にも広がっていった」ものと想定している(高橋1984)。確かにカマドが壁外に張り出す形態の竪穴住居の場合、竪穴の外縁に沿って壁を構築するとカマドが壁のライン上あるいはその外側に位置することになり上屋を構築することができない。したがって上屋をかける為の壁は竪穴外に位置することになり、それに伴って竪穴外にまで居住(使用)空間が広がることになる。

S I 03について柱穴の配置を検討してみたい。まず竪穴内の柱穴のみで配置を考えるとPit 1・3・9・12が主柱穴となる可能性がある。しかし、これらの柱穴を利用して竪穴の外縁に壁を巡らせるとするとカマドの本体部が壁のライン上に位置することになり(下図左)、前述の通り竪穴内のみでは上屋をかけることができない。一方、竪穴外の柱穴も含めて再度検討すると、竪穴内では北壁際のPit 6・7、中央のPit 11、竪穴外では南壁で本遺構に切られていると判断したP 580・586を使用して



※竪穴内の柱穴のみを使用して竪穴の外縁沿いに壁面を構築した場合の推定図



※竪穴外の柱穴もを使用して竪穴外に壁面を構築した場合の推定図

みると若干いびつな方形プランの配置が考えられる。この配置の柱穴で上屋を架橋したと考えると、壁面は堅穴より外に構築されることになりカマドは住居内に取まることとなる（前頁下図右）。また、本住居に伴うものと判断した上坑 S K01についても上屋の想定範囲内に取まることになり、堆積土の状況に照らし合わせても矛盾しないと考えられる。

以上から、S I 03は堅穴外に壁面を構築した住居跡と考えられ、居住（使用）空間は堅穴部分以外にも広がっていたものと考えられる。周辺の遺跡で堅穴外に壁面を構築した可能性がある建物としては四反田 I 遺跡 S I 01があり（第IV章）、この地域では少数ながらこのような形態の住居が存在していたものと考えられる。なお、このような構造の変化は堅穴部分の小型化や無柱穴化という現象とも関連するものと考えられるが、本住居は堅穴部分が一辺5m以上という比較的大型のものであり単純にそれらの現象の中で理解することは難しい。現段階ではどのような経緯・意図で導入されたかという点に関しては不明と言わざるを得ないが、この点については今後の調査事例の蓄積を待って再度検討を加える必要があろう。

## （2）陶器埋設遺構

A区中央で円筒状の土坑内に陶器大甕を埋設した遺構を1基検出した（S Z 01陶器埋設遺構）。本遺構は後世の盗掘により埋設された陶器の大部分が失われ、さらにその影響で内部には多量の土と礫が落ち込んでいるなど遺存状況は悪かった。しかし、一方で盗掘の痕跡が確認されたことにより、その当時本遺構は視認できる構造物（＝立体構造物）として存在していたのではないかと考えられた。では、陶器を使用する立体構造物として考えられるものとは何であろうか。推定されるものとしては経塚が挙げられる。東北地方では約110の経塚遺跡（遺構）が確認されているが、実際に経典が出土する事例はほとんど無い。しかし、『岩手の経塚』（岩手県立博物館 2000）では経典が出土しないものも含めて遺構・遺物の遺存状況から経塚を定義していることから、これを基に本遺構が経塚に該当するものか検討してみる。東北地方の経塚は、経典を納める容器が銅製の経筒または陶磁器の壺・甕類で、さらに外容器を有するものがあり、及川真紀の分析によると組み合わせは7種類あるということである（及川2004）。上部構造は失われたものが多いが、盛土または積石によってマウンドが形成される。本遺跡周辺では前沢区の古城・白山地区に寺ノ上経塚や同五輪経塚（第121図）、やや離れて平泉町金鶏山経塚などがあり、金鶏山経塚では経典や経筒、寺ノ上経塚と五輪経塚は経容器と考えられる陶器壺が出土している。

本遺構では経典・経筒は出土しておらず、また上部構造であるマウンドも検出されていない。しかし、出土した陶器大甕は明らかに内部に何かを納めるために埋設されたものであること、内部に落ち込んでいた礫が別の場所から持ち込まれたものであることを積極的に評価するならば、本遺構は経塚の中心部分が残存したものであり、多量の礫は積石に使われていたものが盗掘の際の崩落で内部に落ち込んだものと考えられる。また、掘り方の下位に堆積していた粘土についても被覆の為に使用されていたものと考えられることができる。この想定が妥当であれば、本遺構では陶製甕が使用されていること、大きさを考慮するとこの大甕内に直接経典を納めたとは考えがたいことから、及川の分類でいう「④銅製経筒を陶製甕に納めるもの」に該当する経塚であったと考えることができよう。出土した深美窟産大甕は12世紀前半頃（第二四半期）に属するものであることから、本遺構はこの時期（以降）に構築されたものと考えられる。なお、周辺遺跡では寺ノ上経塚と金鶏山経塚で深美窟産陶器が使用されており、金鶏山経塚が12世紀前半、寺ノ上経塚が12世紀後半と考えられている。

なお、本遺構が経塚であったとしてその構築過程を推定すると、①埋設する陶器の大きさに合わせ

て掘り方を掘削する、②陶器を埋設する、③陶器及び掘り方を粘土で被覆する、④礫を積み上げる、⑤盛土で全体を被覆して塚状にするという工程を経て完成されたものと考えられる。

以上、本遺構の推定される性格についてみてきた。經典やマウンドといった直接的に経塚といえる証拠は検出されていないが、外容器と考えられる陶器大甕、被覆に用いられたと考えられる礫や粘土の存在から本遺構が経塚であった可能性は高いと考えられる。なお、今回はあくまで遺構の構造復元についてのみ検討を行った為、構築の意図や周辺遺跡との関係といった点については全く検討を行うことができなかった。この点については別稿で検討を加えることにしたい。

### (3) 堀

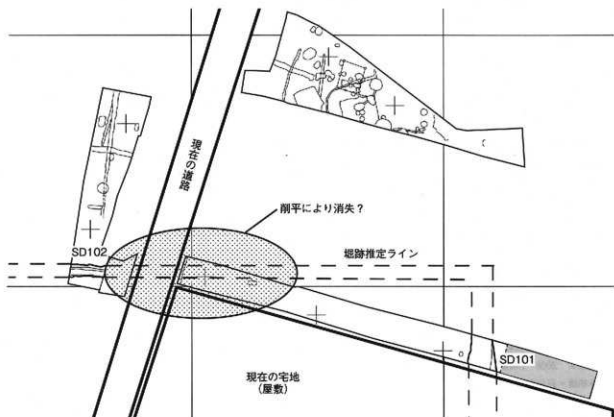
調査区の関係でわずかな範囲しか検出できなかったが、B・C区で各1条検出した。いずれも本来的には上面幅が3～5m、深さが1m以上と推定される人規模なものである。SD101は南北方向に走る堀であるが、その延長線上に位置するA区東端付近で検出されていないことからA区とB区の間で終結するか、あるいは東西方向に角度を変えているものと考えられる。SD102は東西方向に走る堀で、東側の延長線上に位置するB区内では検出されていない。旧地形をみると、現在の道路部分からB区西側の辺りが遺跡内で最も標高の高い地点であり、削平の度合いも大きかったと考えられる。したがってSD102が元々こちら側まで延びていなかったのか、削平により消失したかは不明であるが、仮にSD102が削平により消失、さらにSD101が調査区外で西側に角度を変えているとすると、両者は調査区外で繋がっている可能性がある(次頁図参照)。両者が一連のものであるとすると方形に巡る堀となり、今回の調査では北辺と西辺の一部を調査したのと考えられる。

このように方形に巡る堀の性格として想定されるのは、環濠屋敷に伴う堀としての機能である。本遺跡の位置する胆江地域では、環濠屋敷と呼ばれる周囲を堀で区画した屋敷跡の存在が確認されている(第121図)。環濠屋敷は中世末～近世に築かれた屋敷であり、発掘調査が実施された亀田遺跡や川岸場Ⅱ遺跡などでは堀と堀の区画内から建物跡が検出されている。今回検出した堀は近世に属すると見える情報(遺物・重複関係)に乏しいこと、堀の区画内で建物跡が検出されていないことなど問題点が多い。しかし、堀が検出されたB・C区の南側には現存する屋敷があり、この屋敷の敷地内に当時の建物が存在していたとすれば、環濠屋敷に伴う施設である可能性は高いと言えよう。

### (4) 石 帯

A区SK31の埋土中から鈎帯を構成する飾り具である石帯が1点出土した(第115図108、以下本資料とする)。鈎帯とは帯金具や石帯で裝飾された革帯のことで、律令官人の朝服と制服に伴う腰帯である。鈎帯は、帯留金具である「鉸具」、帯の先端を飾る「鉈尾」、留め穴周辺を飾る「巡方」「丸鞆」で構成される。岩手県内では、14遺跡で石帯の出土が報告されている(第122図)。県北部では馬淵川流域、中～南部では北上川流域の遺跡で出土しているが、北上川流域では盛岡市域と奥州市・平泉町域に集中する。出土遺跡のほとんどが集落遺跡で、堅穴住居から1～2点出土する事例が多い。種別は丸鞆が最も多く、次いで鉈尾・巡方となる。材質は瑪瑙・凝灰岩・砂岩・粘板岩等が多く、色調は黒・灰色主体となる。これらと本資料を比較すると、出土遺跡の性格や出土状況は他の事例と類似するが、翡翠製であり色調が青緑色であることが特徴であるといえる。

律令期の官人は「養老衣服令」などの法令で位階に応じて所有できる鈎帯の大きさや色が決められていた。したがって、鈎帯はその色調(材質)や寸法から所有者の位階が推定できる遺物といえる。衣服令では黒色以外の色は五位以上の役人、都以外では国司級の役人のみが身に付けられると規定さ



れている。これに基づく本資料は色調が青緑色であることから、これを持つことができた人物は五位以上の役人に相当すると考えられる。また、松村恵司が「平城京・宮出土銚帯金具を対象として行った分析によると、革帯幅に1分単位8段階の規格差が存在し、革帯幅＝濠方横幅＝丸軋横幅という相関があるということである（松村2002）。出土遺跡・材質の相違がある為単純に援用することはできないが、これを参考として本資料を見ると本来の横幅は4cm以上あったと推定されることから、六位以上の官位に相当する人物が保有できたものと考えられる。

今回出土したのは丸軋1点のみの出土であること、土坑内の人為的廃土から土器片や焼土とともに出土したことを考えると、本資料が銚帯の本来的な性格を保持していたものかについては疑問な部分が多い。しかし、本資料が五位以上、地方でいうと国司級の人物が保有できた石帯の特徴を有するものであり、全国的には絶対数が決して多くないものであることから、本遺跡内にこの官位に相当する人物がいた可能性があることを示す遺物であるということではできよう。

## (5) 総括

以上、今回の調査で検出された特徴的な遺構・遺物について若干の検討を加えた。この他にも縄文時代の陥し穴状遺構が検出されており、遺跡周辺には埋設時期は不明ながら旧河道が存在していたことも確認されたことから縄文時代には狩猟場として利用されていたことも判明した。また、鉄滓の分析結果から明確な時期は不明ながら、本遺跡あるいはその周辺で鉄生産に関わる活動が行われていた可能性も指摘できた。このように、今回の調査では、古城方八丁遺跡は縄文時代から近世に亘って断続的ながら様々な目的に応じて利用されていたことが明らかとなった。なかでもカマドが壁外に張り出す堅穴住居、経塚と考えられる埋設遺構、中央官人との関連を想定させる石帯など、古代に属する遺構・遺物の中に特筆すべき発見が多くあった。今回は紙数の制約もあって十分な検討には至らなかつ

たが、これらについては今後の調査による事例の蓄積を待って再度検討を行ってきたい。(村田)

## 引用・参考文献

- 阿部 一 2000 「岩手県前沢町の12世紀の経塚について」『館研究』第2号 岩手の館研究会
- 石川恵美子 2010 「秋田県後期旧石器時代前半期石器群の概要」〔第24回 東北日本の旧石器文化を語る会予稿集〕
- 伊藤博幸 1998 「後半期の集落」『岩手考古学』第9号 岩手考古学会
- 伊藤博幸 2007 「胆沢地方の古代掘立柱建物群とその評価」『岩手考古学』第19号 岩手考古学会
- 岩手県立博物館 2000 「岩手の経塚」第50回企画展図録
- 遠藤栄一 2007 「胆沢地方における豪族屋敷の成立と展開」『岩手考古学』第19号 岩手考古学会
- 遠藤勝博ほか 1981 「上田面遺跡」『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第23集
- 及川真紀 2004 「東北地方の経塚と陶磁器」『貿易陶磁研究』No.24 日本貿易陶磁学会
- 及川真紀ほか 2005 「明後沢遺跡群第7・10・15次発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第18集  
前沢町教育委員会
- 鹿又喜隆 2010 「後期旧石器時代前半期石器群の機能的考察」〔第24回 東北日本の旧石器文化を語る会予稿集〕
- 板井芳彦 1992 「比呂館 第9・10次発掘調査報告書」紫波町文化財報告書第24集
- 佐藤宏之 1992 「日本旧石器文化の構造と進化」柏書房
- 佐藤良和 2008 「林前Ⅱ遺跡・寺ノ前遺跡発掘調査報告書」奥州市埋文センター文化財調査報告書第19集  
奥州市埋文センター
- 柴田慈幸 2008 「板橋Ⅲ遺跡発掘調査報告書」宇石町埋文センター文化財調査報告書第11集
- 渋谷孝雄・石川恵美子 2010 「2 東北地方」『講座日本の考古学Ⅰ 旧石器時代(上)』青木書店
- 杉本 良 1994 「南部工業団地内遺跡Ⅱ」北上市埋文センター文化財調査報告書第18集 北上市教育委員会
- 同 2003 「国見山麓寺跡」北上市埋文センター文化財調査報告書第55集 北上市教育委員会
- 菅原正一 1993 「志羅山遺跡第21次調査」『平泉遺跡群発掘調査報告書』岩手県平泉町文化財調査報告書第34集
- 瀬川可男 1982 「東大畑遺跡」『金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書(Ⅱ)』岩手県埋文センター文化財調査報告書第44集
- 高田和徳 1981 「田中4遺跡」『一戸バイパス関係埋文センター文化財報告書1』一戸町文化財報告書第1集
- 田鎖寿夫 1984 「江刺家遺跡発掘調査報告書」岩手県埋文センター文化財調査報告書第70集
- 高橋信雄ほか 1979 「力石Ⅱ遺跡」『主要地方道一関・北上線関連遺跡発掘調査報告書』  
岩手県埋文センター文化財調査報告書第8集
- 高橋 学 1984 「奈良、平安時代の堅穴住居跡復原 カマドの類型化作業を通じて」『秋田考古学』第38号 秋田考古学会
- 高橋千晶 2006 「城廓の終末-胆沢城を中心として-」〔第35回岩手考古学会研究大会発表資料〕
- 高橋興行・門ほか 1995 「岩崎台地遺跡群発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋文センター文化財調査報告書第214集
- 田中宏明 2003 「地方の豪族と古代の官人 -考古学が説く古代社会の権力構造」柏書房
- 千川幸生 2004 「伯濟寺遺跡」『水沢遺跡群総論調査 -平成14年度発掘調査報告書概報-』水沢市教育委員会  
独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 2002 「鈎帯をめぐる諸問題」
- 中川重紀ほか1995 「大渡Ⅱ遺跡群発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋文センター文化財調査報告書第215集
- 中野昭久 1995 「常滑・遼美」『概説 中沢の土器・陶磁器』真蔭社
- 日本考古学協会 2001 「郡市・平泉 -成立とその構成-」日本考古学協会2001年度年度大会発表資料集
- 沼山淳吉治 1999 「北上盆地の古代集落における仏神信仰(Ⅰ)」『北上市立埋文センター文化財センター紀要第1号』  
北上市立埋文センター
- 同 2002 「北上盆地における古代集落の仏神信仰(Ⅱ)」『北上市立埋文センター文化財センター紀要第2号』  
北上市立埋文センター
- 濱島正士 2010 「国見山麓寺跡の建物-古代寺院建築からの展望-」平成21年度北上市発掘調査報告会発表資料
- 村木 敬・濱田 宏 2009 「岩洞堤遺跡群発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋文センター文化財調査報告書第531集
- 本多準一郎ほか 2004 「明後沢遺跡群第16次発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋文センター文化財調査報告書第442集
- 前沢町教育委員会 1974 「前沢町史 上巻」
- 前沢町教育委員会 1998 「町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ 古城・白山地区」岩手県前沢町文化財調査報告書第6集
- 松村恵司 2002 「鈎帯金具の位置表示機能」鈎帯をめぐる諸問題 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所
- 丸山浩治ほか 2009 「道土遺跡第3次、合野遺跡、小林繁長遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋文センター文化財調査報告書

第544集

三浦謙一ほか 1995 『傳之御所跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第228集

村田 淳ほか 2008 「飯岡才川遺跡第7・13次調査」「飯岡才川遺跡第7・13次、細谷地遺跡第12次、矢込遺跡第9次発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第508集

安井俊則 2010 「瀧美富出土の壺・甕類の押印文について」『愛知県史研究』第14号

八木光則 2007 「蝦夷と「律令」」「九世紀の蝦夷社会」高志書院

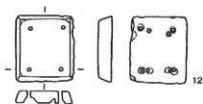
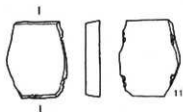
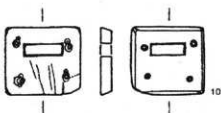
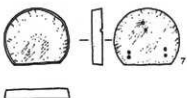
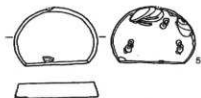
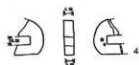
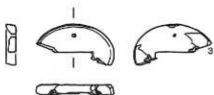
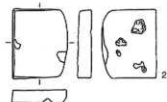
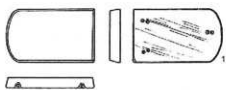


祭祀関連遺跡(=12世紀遺物出土遺跡)

1. 古城方八丁 2. 寺ノ上段塚 3. 水尻 4. 五輪跡環 5. 田高Ⅱ 6. 川前 7. 道 上  
環濠屋敷関連遺跡  
a. 古城方八丁 b. 龜田 c. 要害Ⅰ d. 要害Ⅱ e. 境田 f. 中ノ町 g. 川岸Ⅱ

第121図 古城地区祭祀関連遺跡及び環濠屋敷数分布図





- |          |          |
|----------|----------|
| 1: 飯岡才川  | 2: 岩崎台地  |
| 3: 古城方八丁 | 4-9: 力石2 |
| 5: 江刺家   | 6: 田中4   |
| 7: 東大畑   | 8: 伯濟寺   |
| 10: 比爪館  | 11: 柳之御所 |
| 12: 志羅山  |          |

縮尺1/2

第122図 岩手県内出土石帯の諸例

# 写 真 图 版





遺跡遺景（南東から）



遺跡遺景（東から）



写真図版2 遺跡全景



B区現況（北から）



A区表土掘削風景（南から）



B区基本土層



B区ロングセクション



石器集中部1調査風景



石器集中4ナイフ形石器・石刃出土状況



石器集中4東側Ⅳ層遺物出土状況（南西から）



石器集中4Ⅳ層遺物出土状況（東から）



全景（南から）



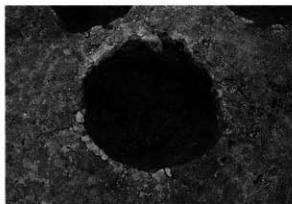
断面（東から）



断面（南から）



全景 (南から)



P 4完掘 (南から)



P 4断面 (南から)

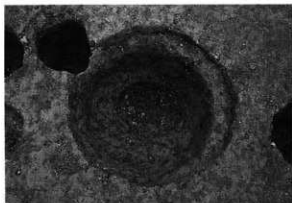


P 13完掘 (南から)



P 13断面 (南から)

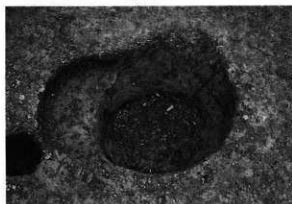




P16完掘 (南から)



P16断面 (南から)



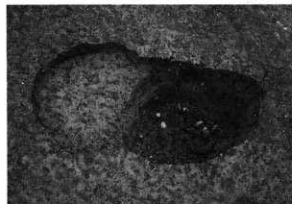
P12完掘 (西から)



P12断面 (東から)



P12断面 (西から)



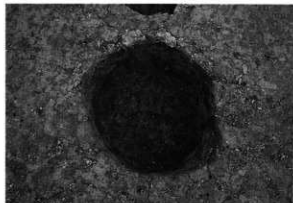
P20完掘 (西から)



P20断面 (東から)



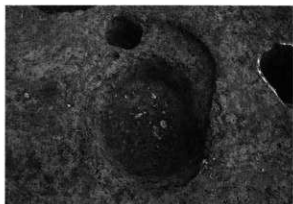
P20断面 (西から)



P26完掘 (南から)



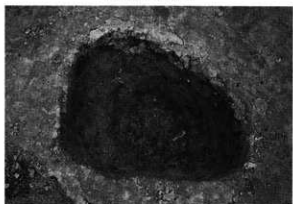
P26断面 (南から)



P38完掘 (南から)



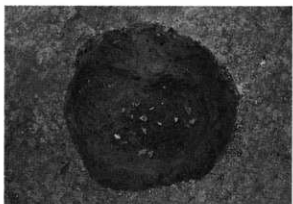
P38断面 (南から)



P43完掘 (南から)



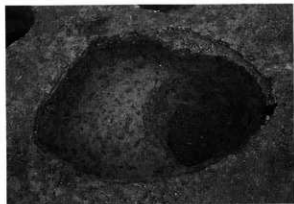
P43断面 (南から)



P45完掘 (南から)



P45断面 (南から)



P46完掘 (南から)



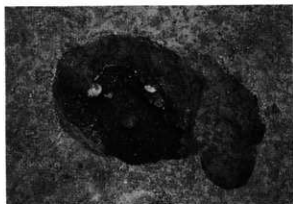
P46断面 (南から)



P48完掘 (南から)



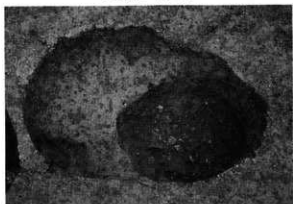
P48断面 (南から)



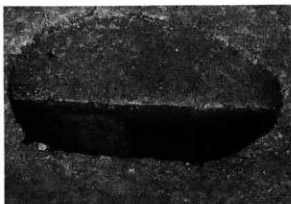
P54完掘 (南から)



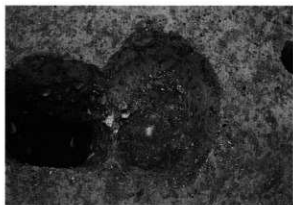
P54断面 (南から)



P55完掘 (南から)



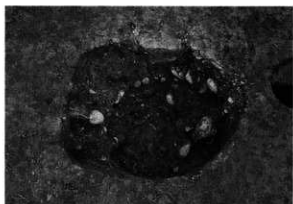
P55断面 (南から)



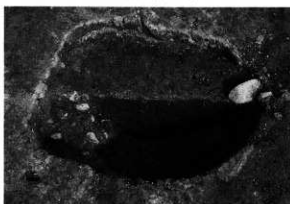
P59完掘 (西から)



P59断面 (西から)



P60完掘 (南から)



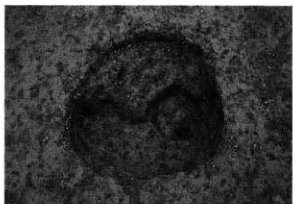
P60断面 (南から)



P63完掘 (南から)



P63断面 (南から)



P75完掘 (西から)



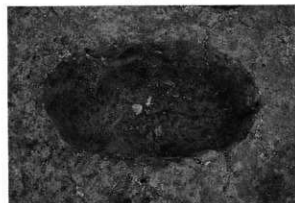
P75断面 (西から)



P78完掘 (南から)



P78断面 (南から)



P79完掘 (南から)



P79断面 (南から)



P104完掘 (南から)



P104断面 (南から)



P139断面 (南から)



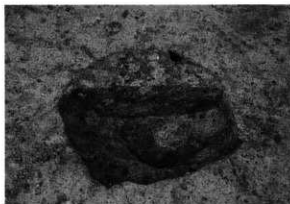
P148断面 (南から)



全景 (南から)



P303断面 (西から)



P302断面 (西から)



P301断面 (西から)



P304断面 (南から)



全景（西から）



全景（西から）



P 7断面 (南から)



P10断面 (南から)



P19断面 (南から)



P21断面 (南から)



P37完掘 (南から)



P37断面 (南から)



P39断面 (南から)



P47断面 (南から)

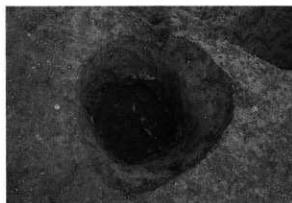




P50断面 (南から)



P71断面 (南から)



P64完掘 (南から)



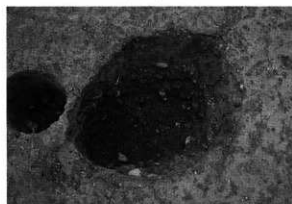
P64断面 (南から)



P77完掘 (西から)



P77断面 (西から)



P89完掘 (西から)



P89断面 (南から)



P90断面 (南から)



P108断面 (南から)



P110断面 (南から)



P126断面 (南から)



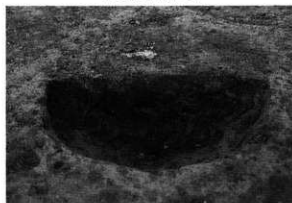
P127断面 (南から)



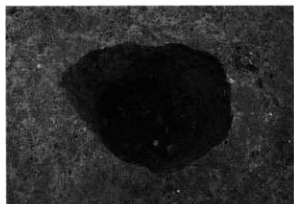
P137断面 (南から)



P140断面 (南から)



P150断面 (南から)



P147完掘 (南から)



P147断面 (南から)



P152断面 (南から)



P155断面 (東から)



P171断面 (東から)



P207断面 (東から)



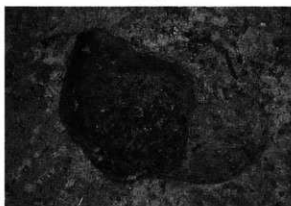
全景 (西から)



P510完掘 (南から)



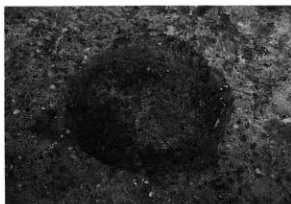
P510断面 (東から)



P512完掘 (南から)



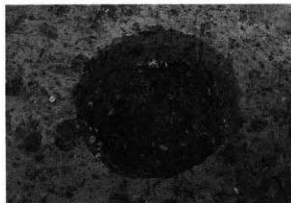
P512断面 (南から)



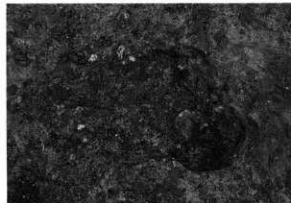
P514完掘 (南から)



P514断面 (南から)



P509完掘 (南から)



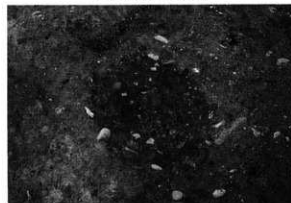
P511完掘 (南から)



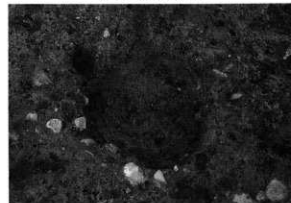
SA01全景S (南から)



P519完掘 (西から)



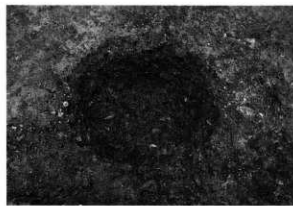
P520完掘 (西から)



P521完掘 (西から)



全景 (西から)



P522完掘 (南から)



P522断面 (南から)



P523完掘 (南から)



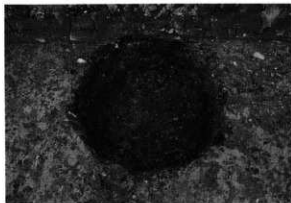
P523断面 (南から)



P524完掘 (南から)



P524断面 (南から)



P525全景 (南から)



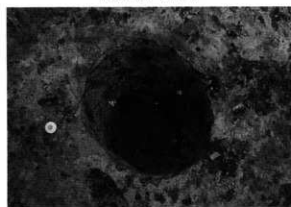
P525断面 (南から)



SA04全景 (西から)



P526断面 (南から)



P538完掘 (南から)



P539完掘 (南から)



P540完掘 (南から)



SK01遺物出土状況 (南から)



SK01全景 (南から)



SK01断面 (南から)



SK02完掘 (南から)



SK02断面 (南から)





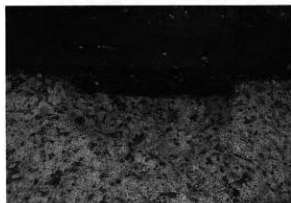
S K03完掘 (南から)



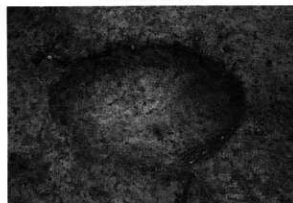
S K04断面 (東から)



S K05断面 (南から)



S K06断面 (南から)



S K07完掘 (西から)



S K07遺物出土状況 (西から)



S K07検出 (西から)



S K07断面 (西から)



SD01・02・03全景（東から）



SD01・02断面（東から）



SD03完掘（南から）



SD03断面（南から）



全景 (南から)



調査区断面 (東から)



断面 (西から)



遺物出土状況 (東から)



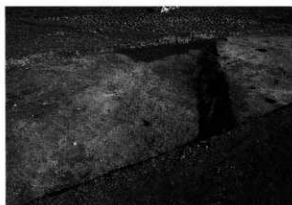
全景 (東から)



SD05全景 (南から)



SD05断面 (西から)



SD06全景 (南西から)



SD06断面 (南西から)



SD07全景 (北から)



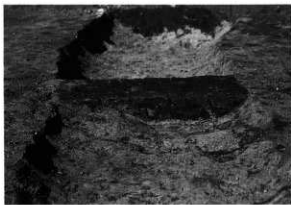
SD07断面 (南から)



SD07底面遺物出土 (北から)



SD08全景 (南から)



SD08断面 (南から)



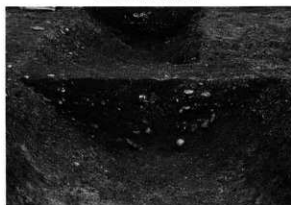
SD09全景 (南から)



SD09断面 (南から)



SD10全景 (南から)



SD10断面 (南から)



SD11全景 (南から)



SD11断面 (南から)



S X01・02全景 (南から)



S X01・02断面 (東から)



S X01・02断面 (南から)



S X01断面 (南から)



S X03完掘 (南から)



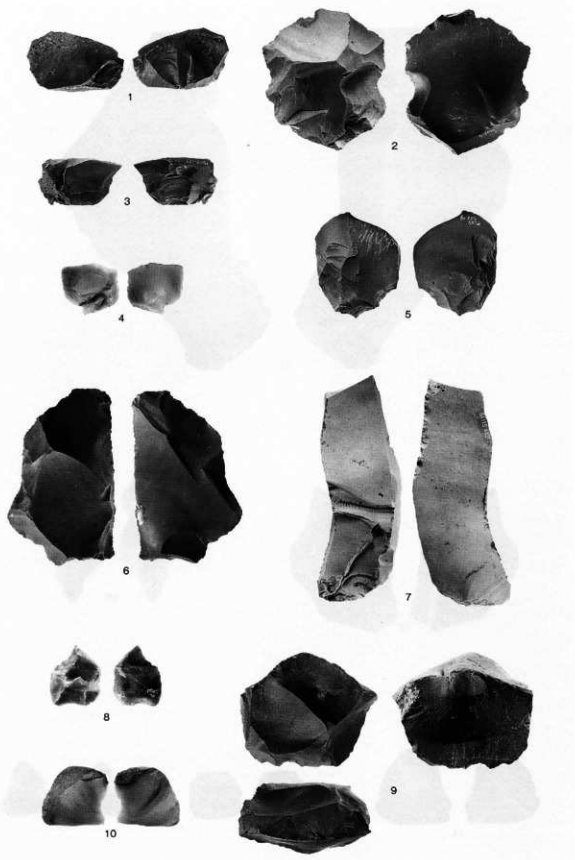
S X04完掘 (南から)



現地説明会風景

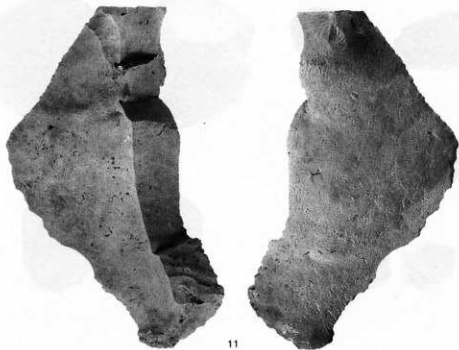


S X04断面 (南から)



写真図版29 石器 (1)





11



12



13



14



15



16



17



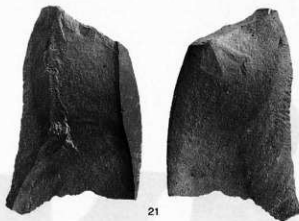
18



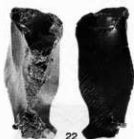
20



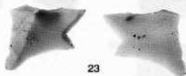
19



21



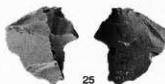
22



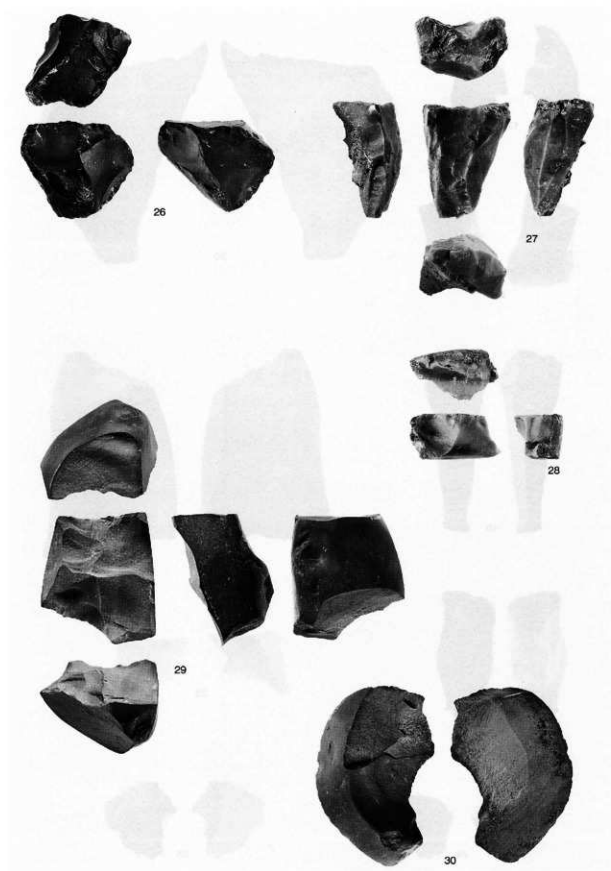
23



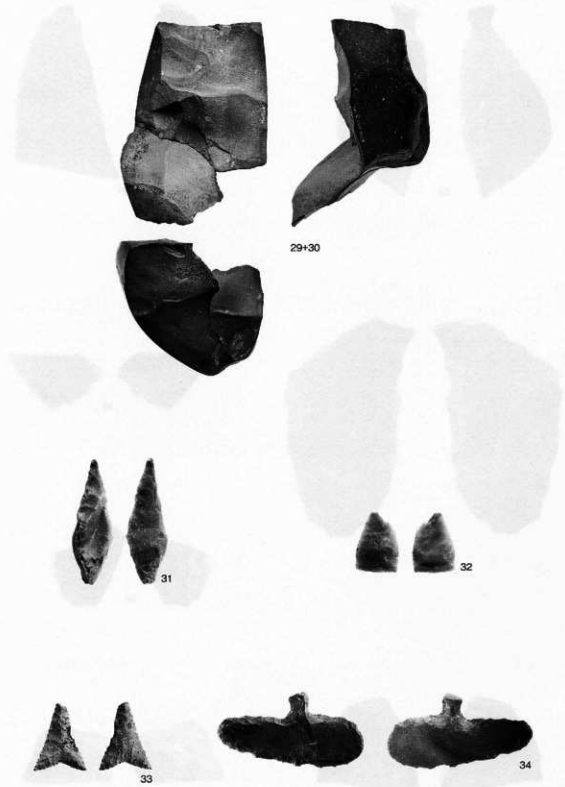
24



25



写真図版32 石器(4)



写真図版33 石器 (5)



35



36



37



38



39



40



41



写真図版34 石器(6)



42



43



44



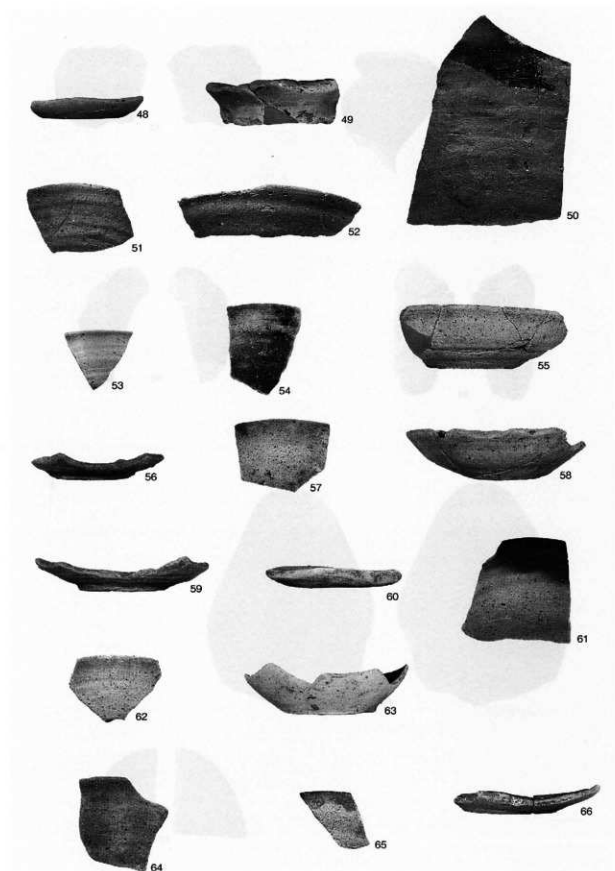
45



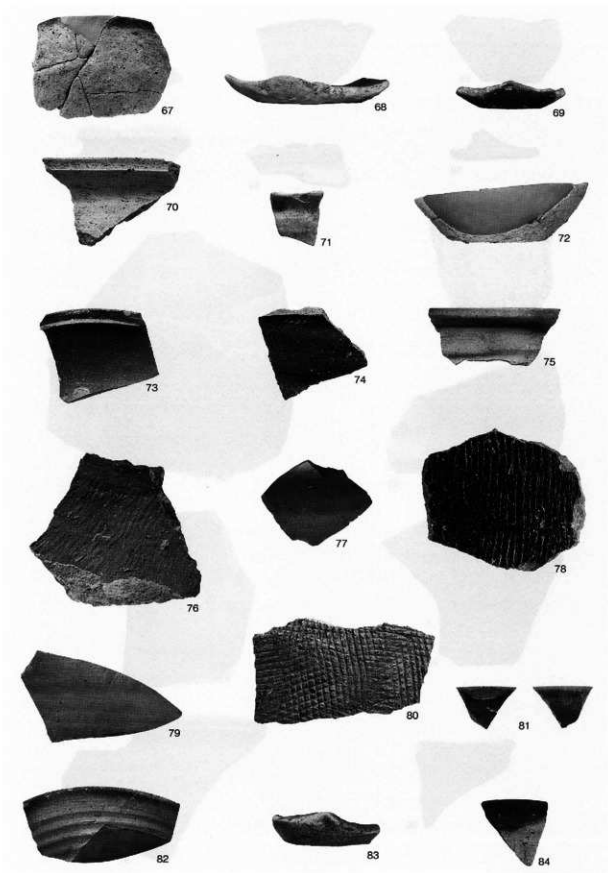
46



47

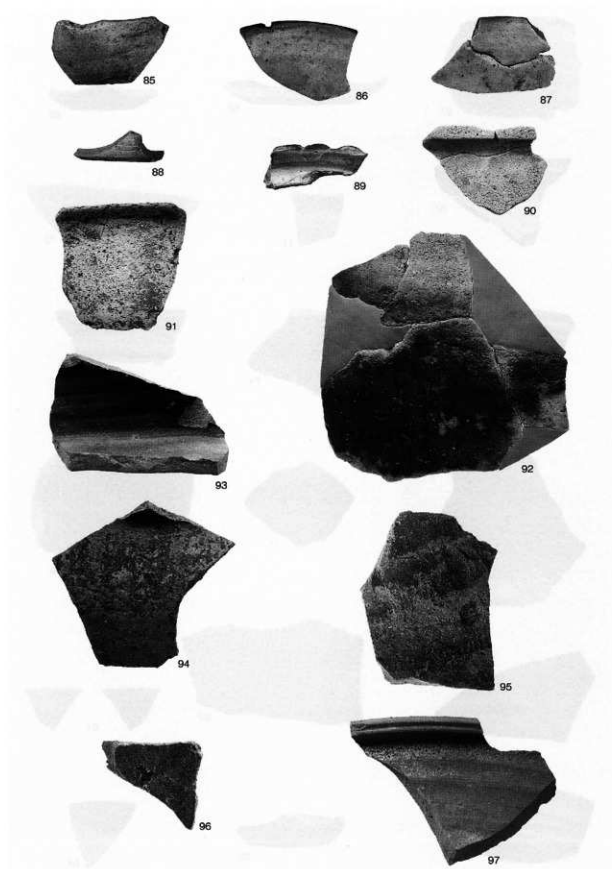


写真図版36 土器 (1)

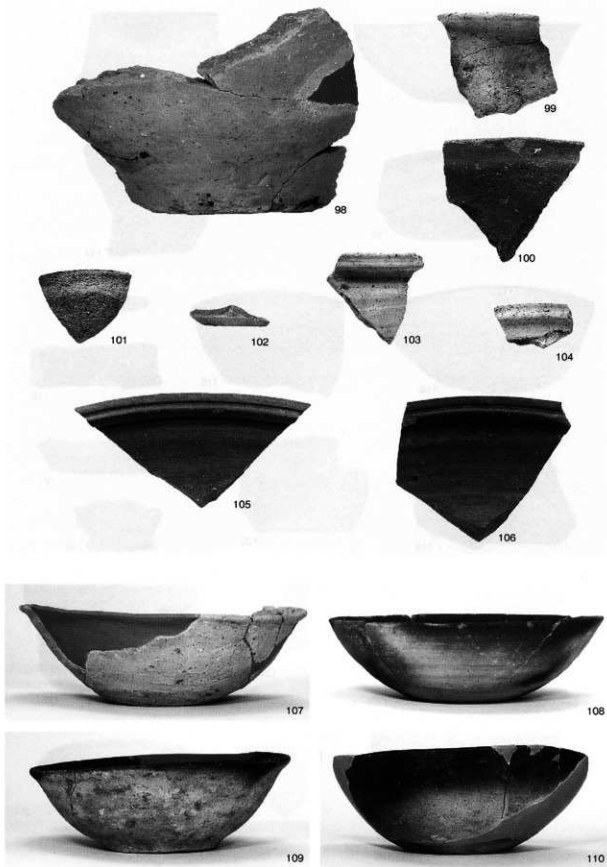


写真図版37 土器 (2)、陶器 (1)

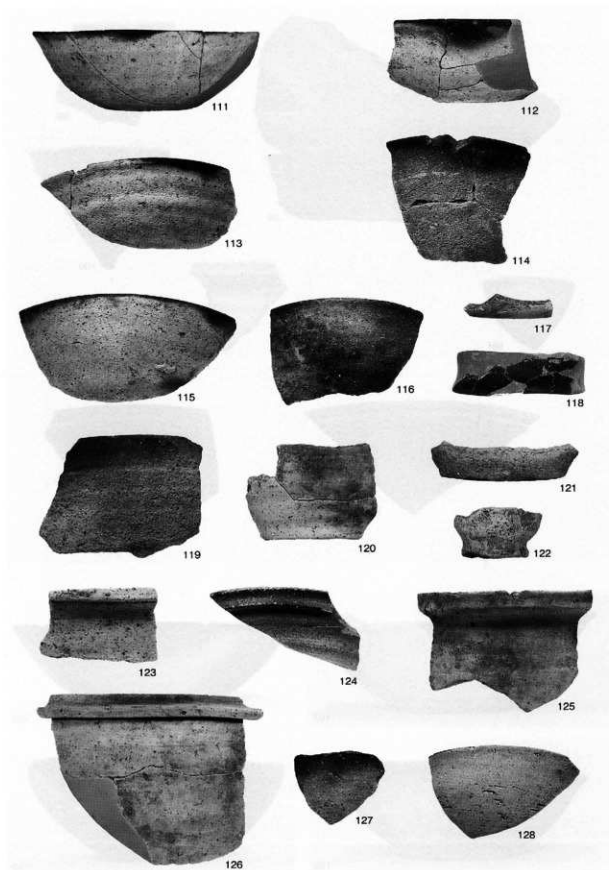




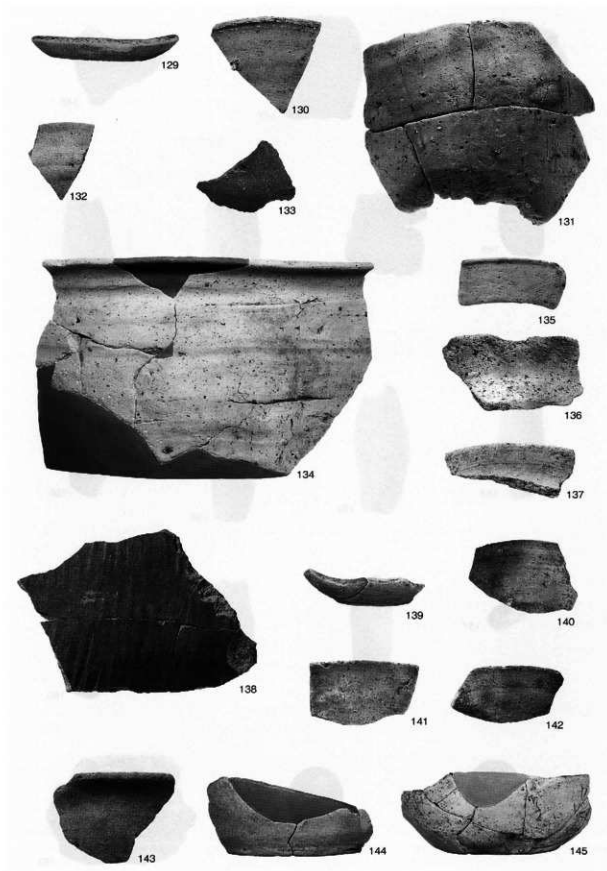
写真図版38 土器(3)、陶器(2)



写真図版39 土器(4)、陶器(3)



写真図版40 土器(5)



写真図版41 土器(6)



146



147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163

写真図版42 土器(7)、土製品、基石、鉄滓



四反田 I・II 遺跡遠景 (西から)



四反田 I 遺跡調査区全景 (南から)



西側調査区調査前現況 (北東から)



試掘 (北東から)



S101検出状況 (西から)



SB01検出状況 (東から)



西側調査区遺構検出状況 (西から)



東側調査区遺構検出状況 (東から)



作業風景 (東から)



作業風景 (南から)

写真図版44 調査前現況、試掘、検出



平面（北から）



断面（北から）



断面（西から）





Pit1 平面 (北から)



Pit1 断面 (南から)



Pit1 遺物出土状況 (西から)



作業風景



Pit3 平面 (南から)



Pit3 断面 (南から)



Pit5 平面 (南東から)



Pit6 断面 (南から)



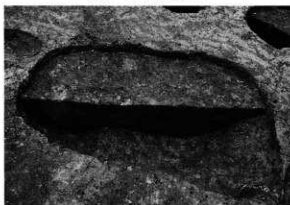
Pit7・8平面(南から)



Pit7・8断面(南から)



Pit9平面(南から)



Pit9断面(西から)



Pit10平面(南から)



Pit10断面(西から)



Pit11・12平面(南東から)



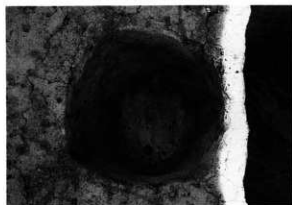
Pit11・12断面(西から)



Pit13・14平面（西から）



Pit13・14断面（南西から）



Pit13平面（南西から）



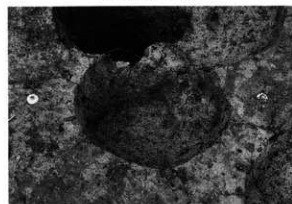
作業風景



Pit15平面（南から）



Pit15断面（南から）



Pit19平面（北西から）



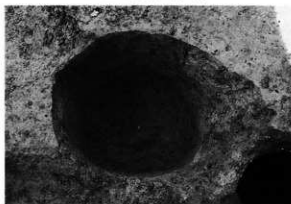
Pit19断面（北西から）



Pit22・23断面 (南から)



Pit25平面 (南から)



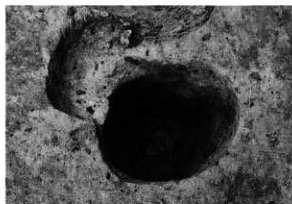
Pit26平面 (南から)



Pit27~29平面 (南から)



Pit27~29断面 (南から)



Pit33・34平面 (西から)



Pit31・32平面 (西から)



Pit31・32断面 (西から)



Pit40~42平面 (西から)



Pit43断・平面 (北から)



Pit43断・平面 (北から)



Pit45断・平面 (北から)



作業風景



平面（東から）



Pit 1 断面（南から）



Pit 2 断面（南から）



Pit 3 断面（北から）



Pit 4 断面（西から）



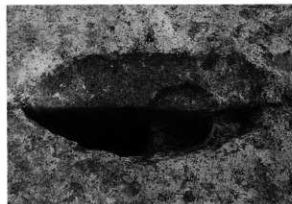
Pit5断面 (南から)



Pit6断面 (南から)



Pit7断面 (南から)



Pit8断面 (南から)



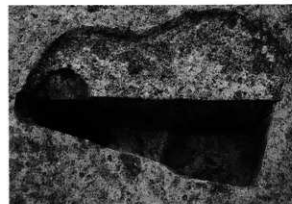
Pit12断面 (南から)



Pit13断面 (南から)



Pit14断面 (南から)



Pit15断面 (南から)



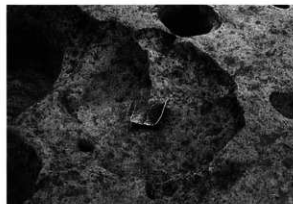
SK01・08・09・14平面 (北から)



SK01平面 (南から)



SK08平面 (南西から)



SK09平面 (東から)



SK14平面 (東から)





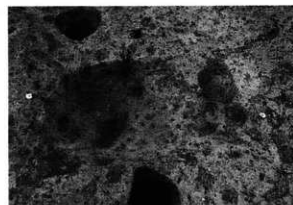
SK01白色テフラ検出状況(北西から)



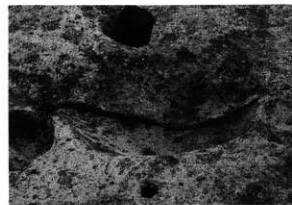
SK08・09・14断面(北東から)



SK01断面(南東から)



SK10(北から)



SK10断面(南から)



SK02平面 (北から)



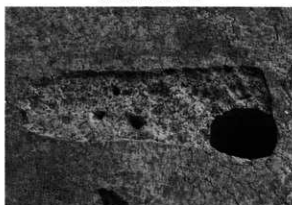
SK02断面 (北から)



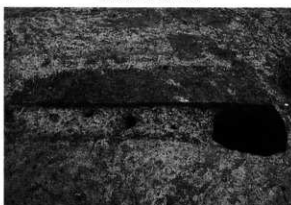
SK03平面 (南から)



SK03断面 (南から)



SK04平面 (西から)



SK04断面 (西から)



SK05平面 (北から)



SK13平面 (南から)



SK06平面 (東から)



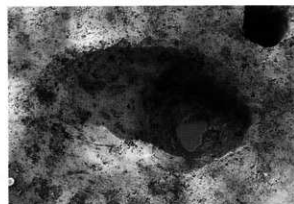
SK06断面 (東から)



SK07平面 (東から)



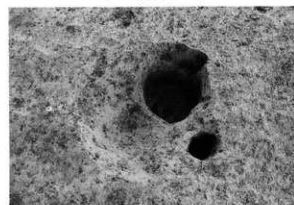
SK07断面 (東から)



SK11平面 (北から)



SK11断面 (北から)



SK12平面 (東から)



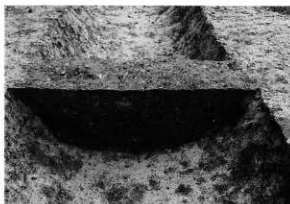
SK12断面 (東から)



SD01平面 (北から)



SD01断面A-A' (北から)



SD01断面B-B' (北から)



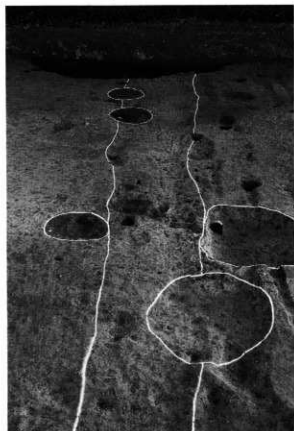
SD02平面 (北から)



SD02断面B-B' (北から)



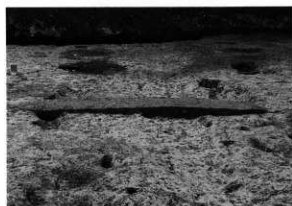
SD02断面C-C' (北から)



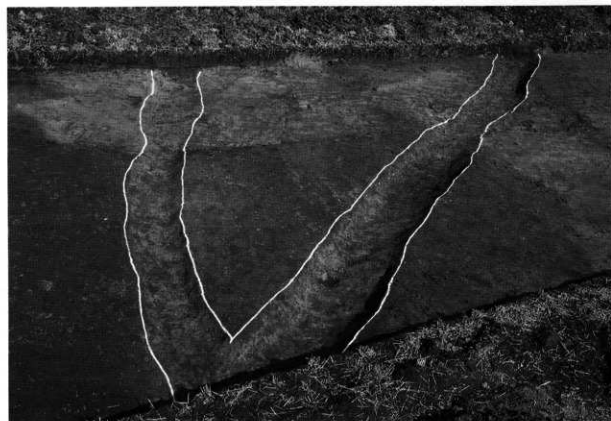
S D03平面 (北から)



S D03断面A-A' (北から)



S D03断面B-B' (北から)



S D04・05平面 (南から)



SD04断面A-A' (南から)



SD04断面B-B' (南から)



SD05断面C-C' (南から)



SD05断面D-D' (南から)



SD06平面 (南西から)



SD06断面A-A' (南西から)



SD06断面B-B' (北西から)



S X01性格不明土坑平面 (北東から)



S X01性格不明土坑断面 (北から)



S X02細跡完選 (北から)



S X02細跡検出 (北から)



S X02細跡断面 (北から)



現地説明会風景



東側調査区全景 (東から)



調査区全景 (南から)



S K01平・断面 (西から)



S K02平面 (西から)



S K03平面 (東から)



S K03断面 (東から)

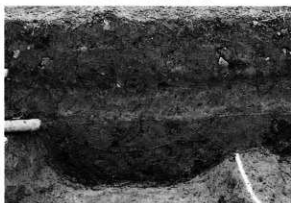




SD01・02平面 (西から)



SD01断面 (東から)



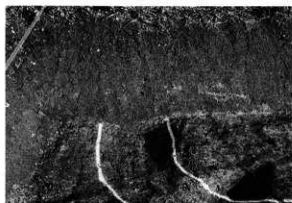
SD02断面 (東から)



SD03平・断面 (西から)



SD04平・断面 (西から)



SD05断面 (西から)

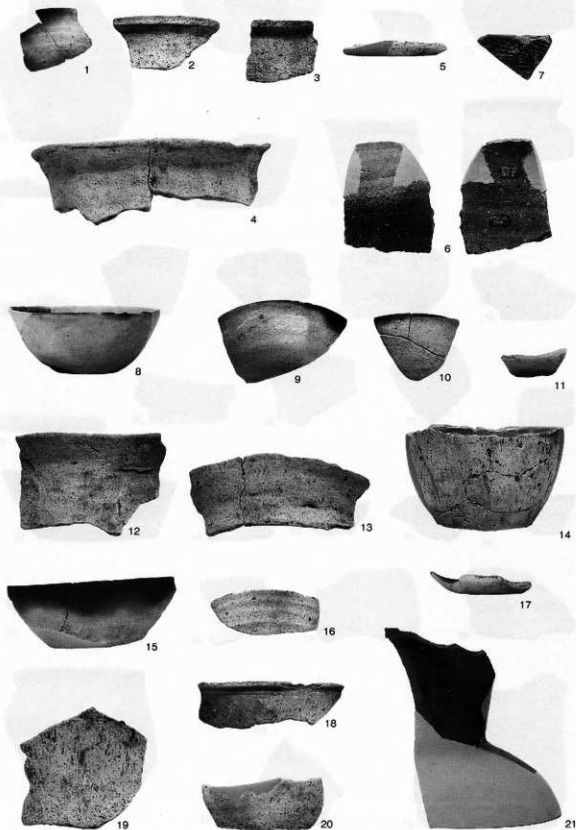


SD05平面 (南西から)

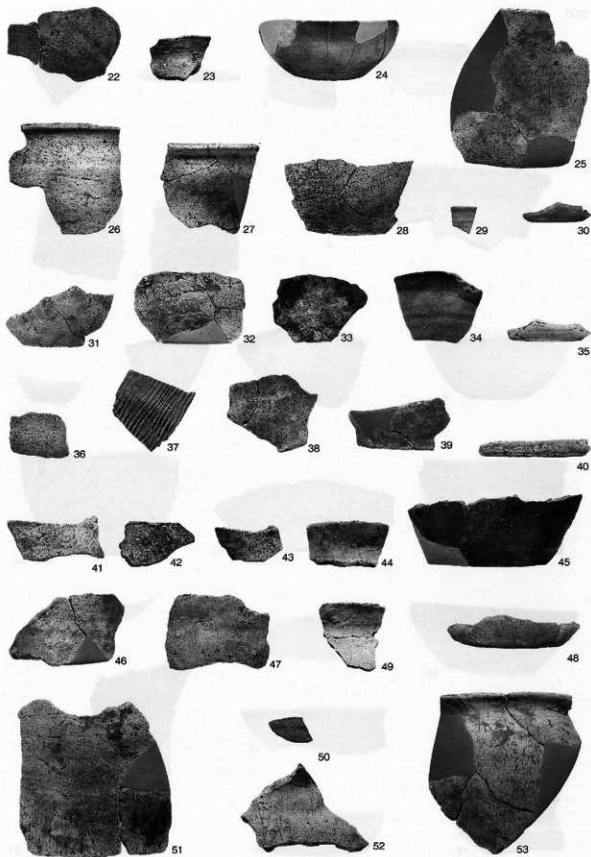


柱穴検出状況 (西から)

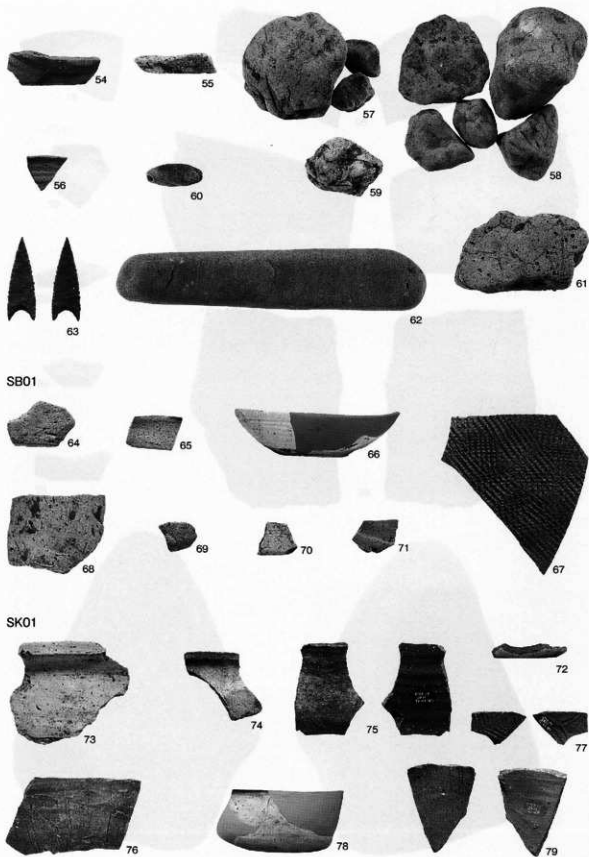
S101



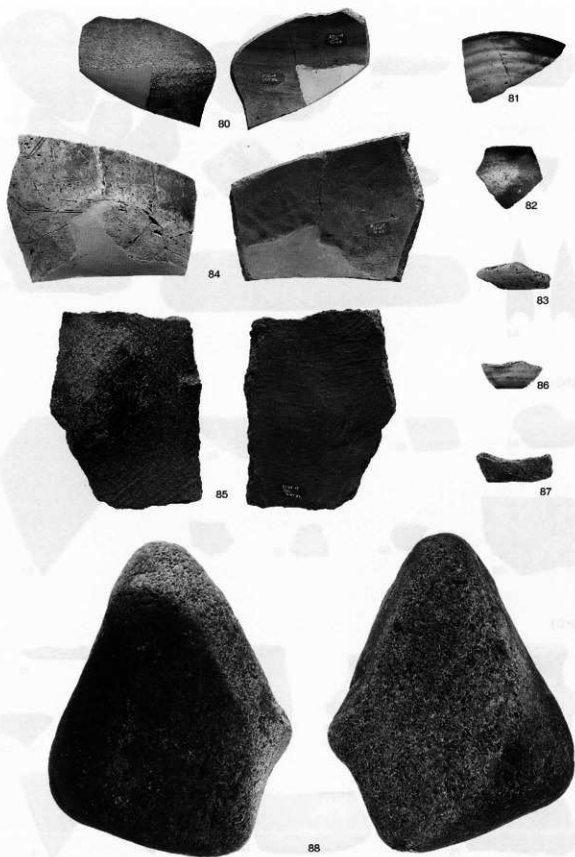
写真図版63 S101出土遺物(1)



写真図版64 S101出土遺物(2)



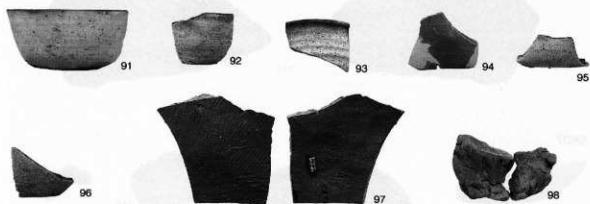
写真図版65 S I 01、S B 01、S K 01出土遺物



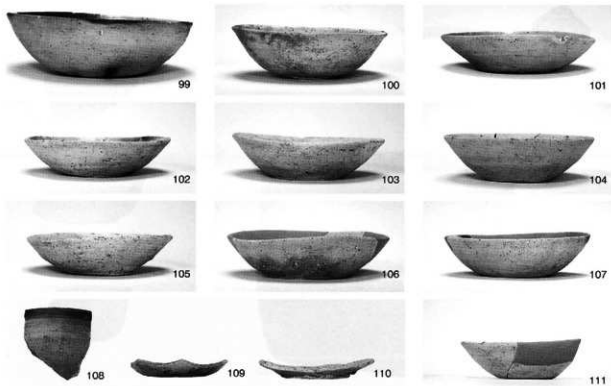
写真図版66 SK01出土遺物

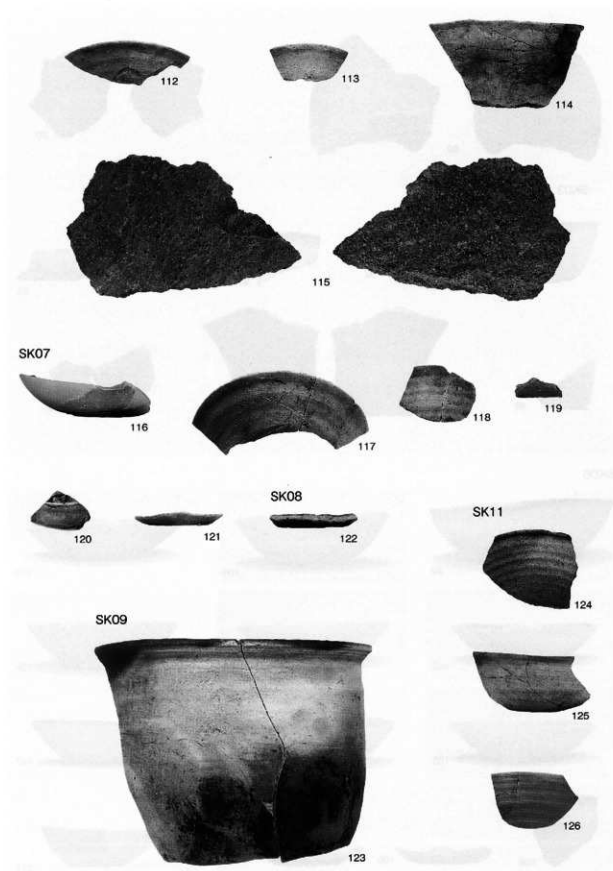


SK03

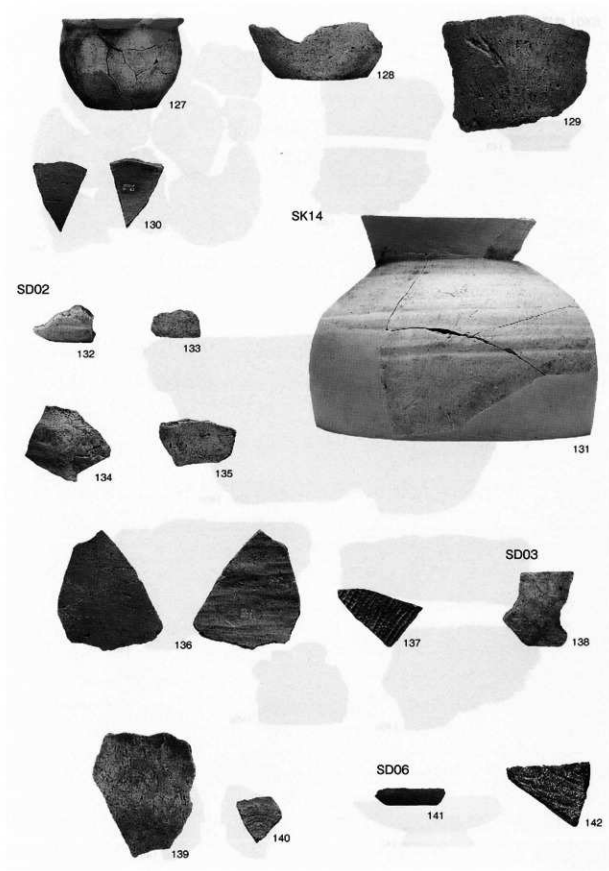


SK06





写真図版68 SK06~09・11出土遺物



写真図版69 SK11・14、SD02・03・06出土遺物



SX01 性格不明土坑



143



146



144



145a



145b



145c



145d



145e



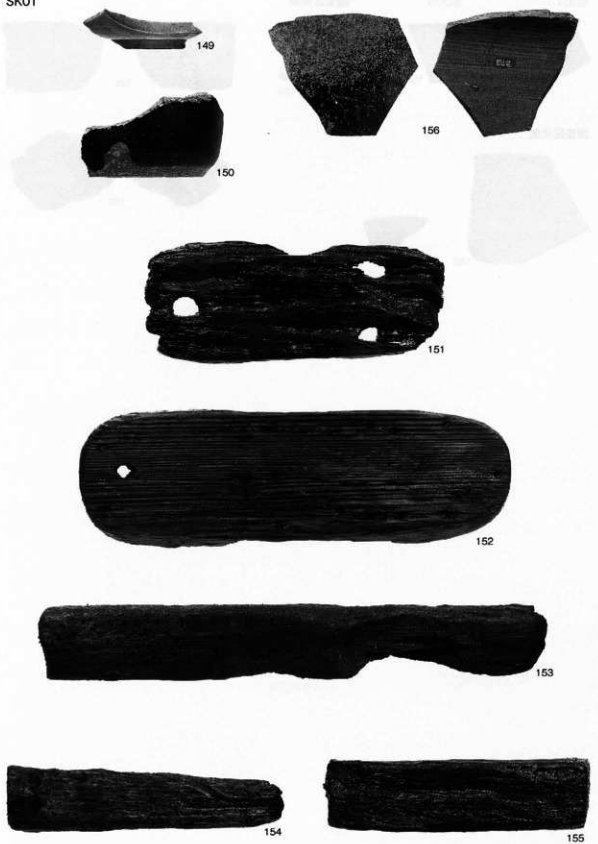
147



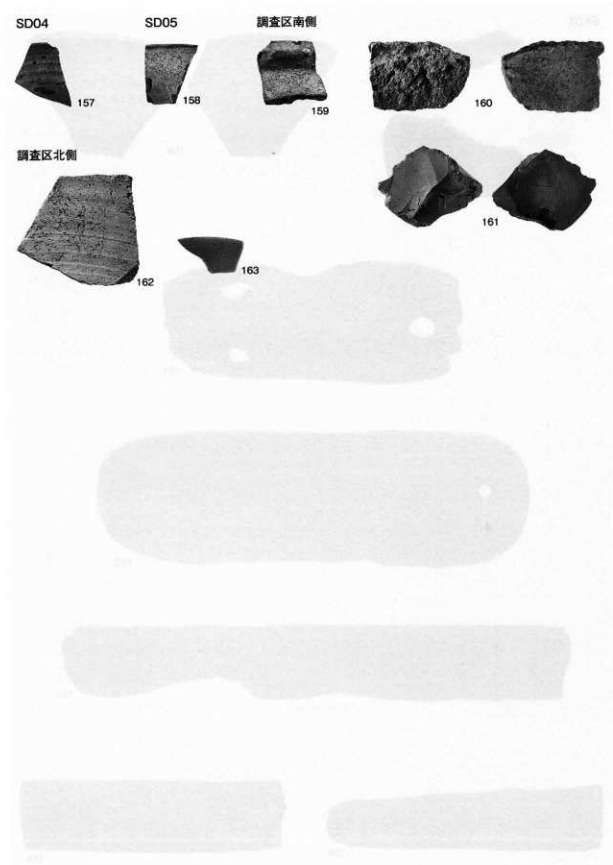
148

写真図版70 SX01性格不明土坑、遺構外出土遺物

SK01



写真図版71 SK01出土遺物



写真図版72 SD04・05、遺構外出土遺物



調査区全景（直上）



A区全景（西から）



C区全景（南から）



D区全景（南から）

写真図版74 調査区全景（2）



B区全景① (北東から)



B区全景② (北東から)



A区調査前現況 (北西から)



A区試掘トレンチ (南から)



B区調査前現況 (西から)



B区試掘トレンチ (南から)



C区調査前現況 (北東から)



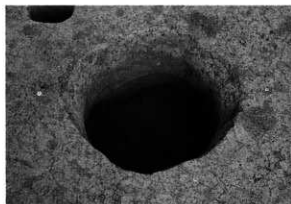
D区調査前現況 (南東から)



基本層序 (西から)



A区旧河道 (東から)



S K101完掘 (南から)



S K101断面 (南から)



S K102完掘 (西から)



S K102断面① (東から)



S K102断面② (西から)



完掘（南から）



南北断面（西から）



遺物出土状況（北西から）



床面（北西から）





カマド (南から)



カマド燃焼部 (南西から)



カマド断面 (南から)



煙道断面 (西から)



カマドたちわり (南から)



Pit 7 断面 (東から)



Pit 1 焼土面 (東から)



Pit 1 焼土断面 (東から)



完掘 (北西から)



断面 (北東から)



SK01断面 (西から)



焼土 (北西から)



焼土断面 (北西から)



完掘 (西から)



南北断面 (西から)



土器№27・31出土 (西から)



検出状況 (西から)



カマド (西から)



カマド横出状況 (西から)



カマド断面 (南西から)



カマド断面 (南から)



カマドたちわり (西から)



Pit1・2 (南から)



Pit6 (北から)



Pit11 (西から)



S K01完掘 (南から)



S K01断面 (南西から)



S K02完掘 (南から)



S K02断面 (東から)



S K03完掘 (南東から)



S K03断面 (東から)



S K04完掘 (南東から)



S K04断面 (南東から)



SK05完掘・断面（北から）



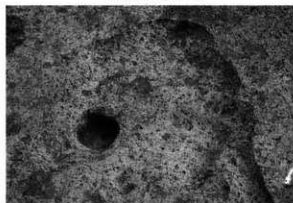
SK10完掘（西から）



SK06完掘（東から）



SK10断面（西から）



SK07完掘（南から）



SK07断面（南から）



SK08完掘（西から）



SK08断面（西から）



SK09完掘 (西から)



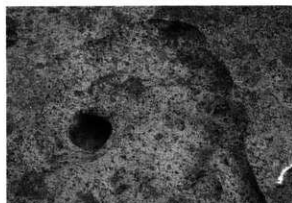
SK09断面 (西から)



SK11完掘 (東から)



SK11断面 (東から)



SK12完掘 (西から)



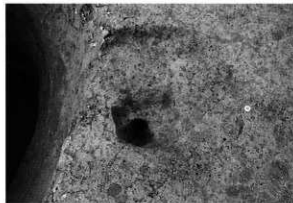
SK12断面 (南西から)



SK13完掘 (東から)



SK13断面 (東から)



SK14完掘 (東から)



SK14断面 (東から)



SK15完掘 (南から)



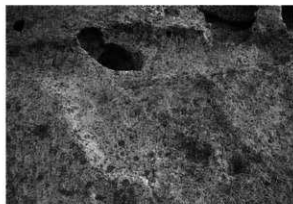
SK15断面 (南から)



SK15焼土 (南から)



SK15焼土断面 (西から)



SK16完掘 (北から)



SK16断面 (北東から)





SK17完掘 (北から)



SK17断面 (北から)



SK18完掘 (西から)



SK18断面 (西から)



SK19完掘 (北から)



SK19断面 (北から)



SK20完掘 (東から)



SK20断面 (東から)



SK21完備 (南西から)



SK21断面 (南から)



SK22完備 (東から)



SK22断面 (東から)



SK23完備 (南から)



SK23断面 (東から)



SK23焼土 (南東から)



SK23焼土断面 (南から)



S K24完掘 (南東から)



S K24断面 (南東から)



S K25完掘 (北東から)



S K25断面 (南東から)



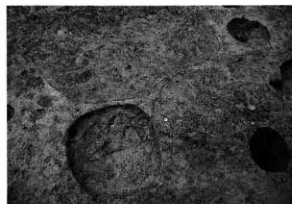
S K26完掘 (東から)



S K26断面 (東から)



S K26遺物出土 (南東から)



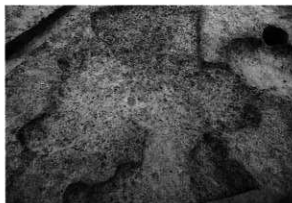
S K26・27検出 (南西から)



S K27完掘 (南から)



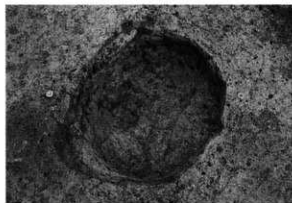
S K28断面 (南から)



S K28完掘 (南から)



S K28断面 (南から)



S K29完掘 (南西から)



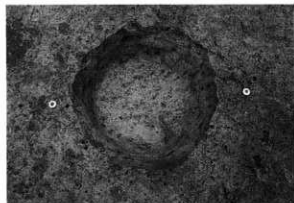
S K29断面 (南西から)



S K29遺物出土 (南から)



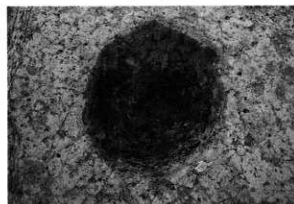
現地説明会の様子



S K30完掘 (南から)



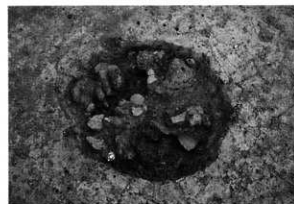
S K30断面 (南から)



S K31完掘 (東から)



S K31断面① (東から)



S K31焼土塊・土器出土 (南から)



S K31断面② (東から)



S K32完掘 (西から)



S K32断面 (西から)



S K33完掘 (北から)



S K33断面 (北から)



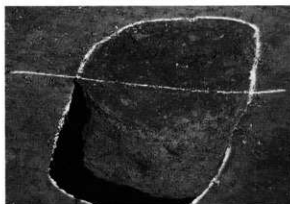
S K34完掘 (北から)



S K34断面 (南から)



S K35完掘 (南から)



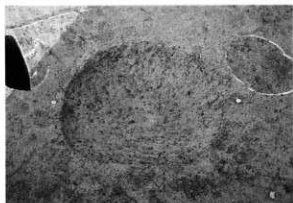
S K35断面 (南から)



S K36完掘 (南東から)



S K36断面 (南から)



S K37完掘 (南から)



S K37断面 (南から)



S K38完掘 (南から)



S K38断面 (南から)



S K39完掘 (南から)



S K39断面 (南から)



S K40完掘 (南から)



S K40断面 (南から)



SK41完掘 (南から)



SK41断面 (南から)



SK42完掘 (西から)



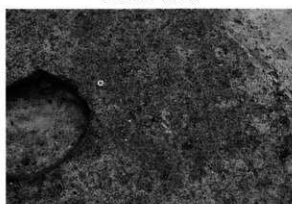
SK42断面 (東から)



SF01検出 (北から)



SF01断面 (東から)



SF02検出 (東から)



SF02断面 (北から)





SE01完掘 (南から)



SE01断面 (東から)



SE01底面付近燻・木製品出土 (北西から)



SE01木製品№131出土 (北西から)



SE02完掘 (南から)



SE02断面 (南から)



SE03完掘 (東から)



SE03断面 (東から)



完掘（北東から）



断面（北から）



完掘（東から）



断面（東から）



SD01完掘 (西から)



SD01断面 (東から)



SD02完掘 (北から)



SD02断面② (北から)



SD03完掘 (北東から)



SD03断面① (西から)



SD03断面② (北東から)



SD04完掘 (東から)



SD04断面① (西から)



SD05完掘 (南から)



SD05断面① (南から)



SD06完掘 (北東から)



SD06断面 (東から)



SD07完掘 (北から)



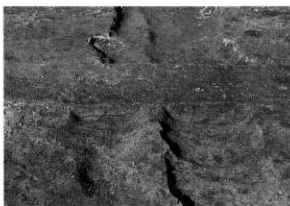
SD07断面 (北から)



SD08・09完掘 (南から)



SD09完掘 (南から)



SD08・09断面 (南から)



SD08b完掘 (南から)



SD08b断面 (南から)



SD10完掘 (西から)



SD10断面 (西から)



SD11完掘 (南から)



SD11断面 (南から)



SD12・13完掘 (西から)



SD12断面 (西から)



SD13断面 (西から)



遺跡見学の様子



検出状況 (南東から)



断面① (南から)



検出土① (南東から)



断面② (南から)



検出土② (南東から)



断面③ (南から)



陶器№94出土 (南西から)



完掘 (南から)





完掘（東から）



P72断面（北から）



P80断面（南から）



P83断面（西から）



作業風景



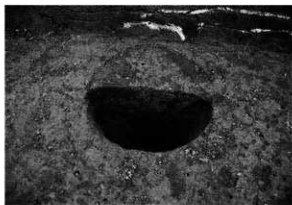
完掘 (北西から)



P418断面 (南から)



P501~504断面 (西から)



P507断面 (西から)



P513・514断面 (西から)



完掘（北西から）



P424断面（南から）



P430断面（南から）



P434断面（南から）



P435断面（西から）



完掘 (北から)



P495断面 (南から)



P499断面 (南から)



P508断面 (南から)



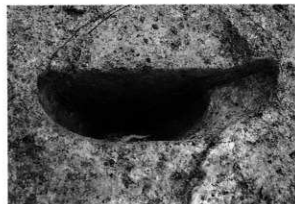
P511断面 (南から)



P1断面 (北から)



P57断面 (西から)



P95断面 (東から)



P120断面 (南東から)



P201断面 (東から)



P214断面 (東から)



P312断面 (南から)



P313断面 (南から)



P345断面 (南から)



P356断面 (南から)



P505断面 (南から)



P537断面 (西から)



P592銭貨出土 (南から)



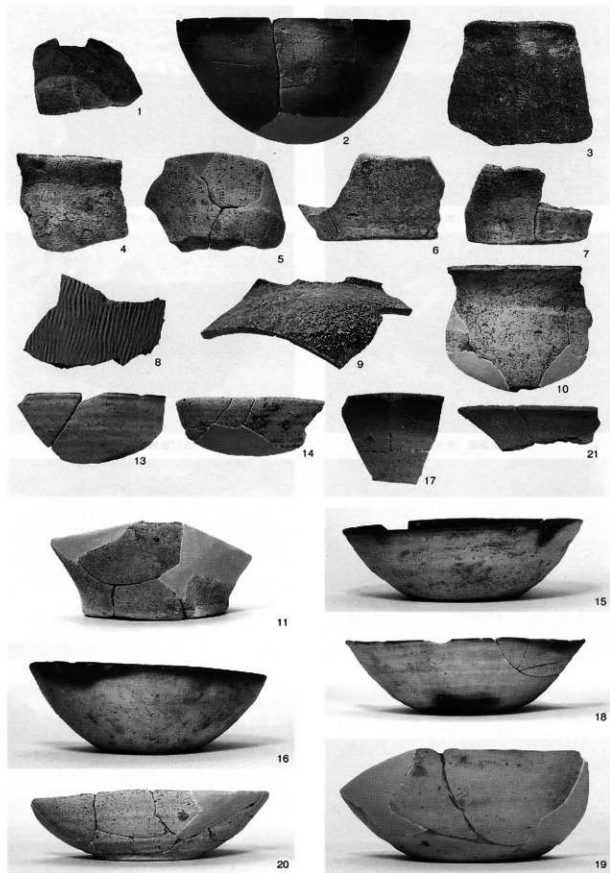
P592断面 (南から)



SX01完掘 (南西から)



SX01断面 (南西から)

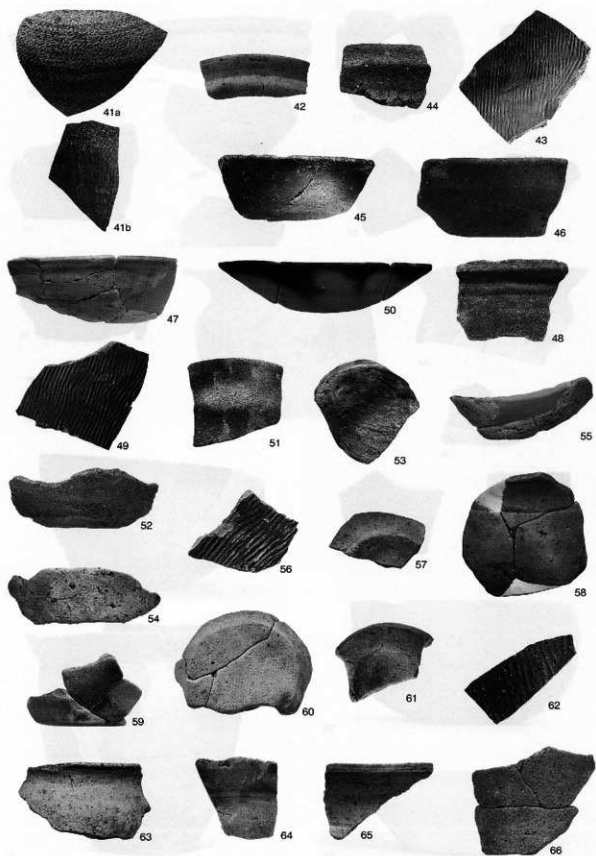


写真図版108 出土遺物(1)

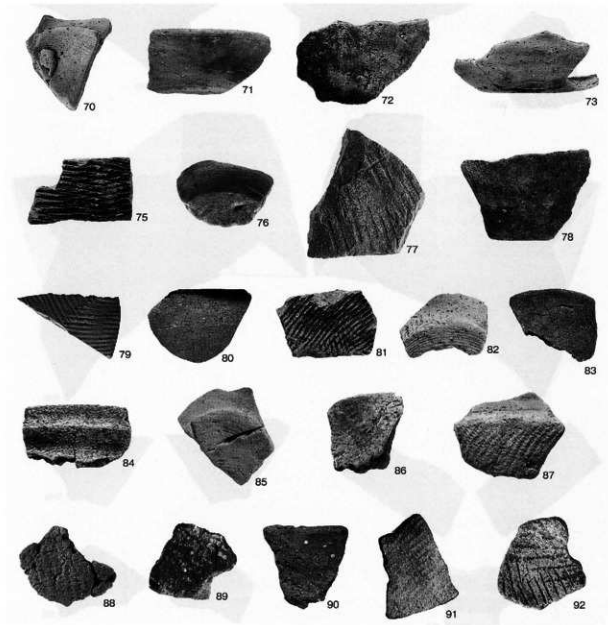


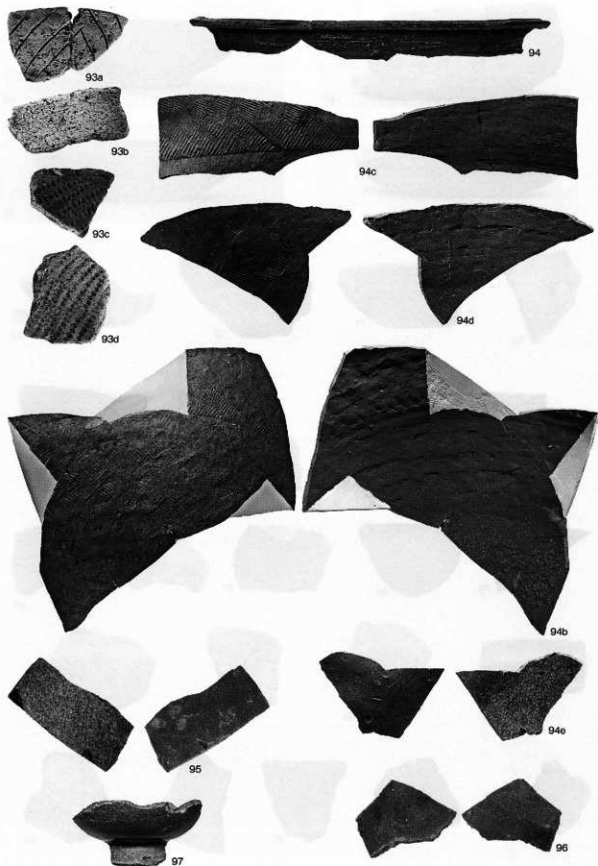
写真図版109 出土遺物(2)





写真図版110 出土遺物(3)

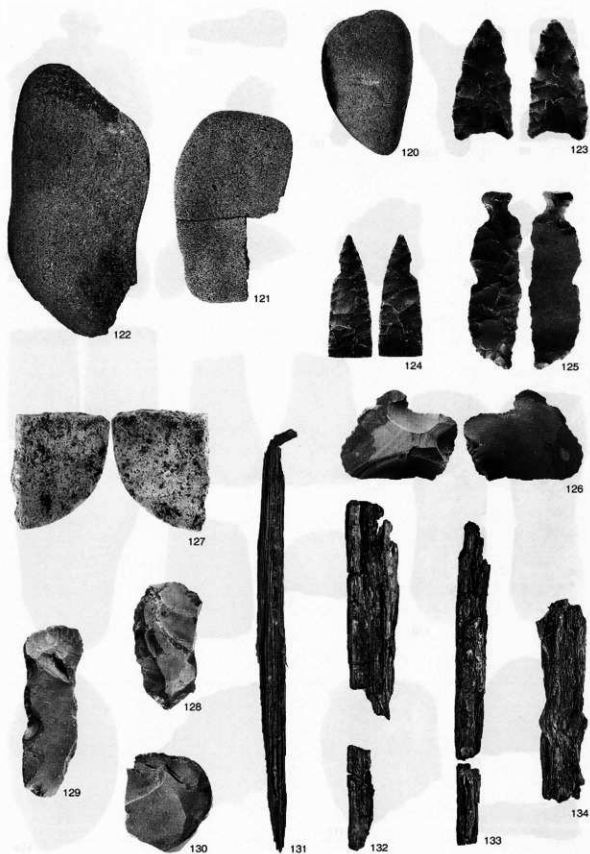




写真図版112 出土遺物 (5)



写真図版113 出土遺物(6)



写真図版114 出土遺物(7)

## 報告書抄録

ふりがな	みずしりいせき・したんだいせき・したんだいせき・こじょうほうほちゅういせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・古城方八丁遺跡発掘調査報告書							
副書名	経営体育成基盤整備事業古城2期地区関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第587集							
編著者名	米田 寛・丸山直美・村田 淳・高橋静歩							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2011年3月23日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °	東経 °	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
水尻遺跡	岩手県奥州市前沢 区古城字水尻113 ほか	03215	NE46-0370	39度 04分 32秒	141度 08分 27秒	2009.10.01 ～ 2009.11.27	1,496㎡	経営体育 成基盤整 備事業古 城2期地区
四反田Ⅰ遺跡	岩手県奥州市前沢 区古城字四反田154- 1ほか		NE46-0394	39度 04分 31秒	141度 08分 52秒	2009.10.01 ～ 2009.11.16	500㎡	
四反田Ⅱ遺跡	岩手県奥州市前沢 区古城字四反田6 ほか		NE46-0383	39度 04分 31秒	141度 08分 43秒	2009.10.01 ～ 2009.11.16	60㎡	
古城方八丁遺跡	岩手県奥州市前沢 区古城字宿ノ前153 ほか		NE46-1307	39度 04分 32秒	141度 09分 03秒	2009.10.01 ～ 2009.11.27	1,285㎡	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
水尻遺跡	集落跡	旧石器 縄文 古代	石器集中部6ヵ所、環状1基 竪穴住居状遺構1棟、 掘立柱建物跡4棟、 土坑7基、柱穴列4条、 溝11条、周溝1条、柱穴217個		台形石器、ナイフ形石器 石匙、石鏃、縄文土器 須恵器、土師器、緑釉陶器、 土師、渥美窯産陶器、基石		約2～3万年 前の石器群。 堂跡、もしくは 有力者の居館 の可能性がある 掘立柱建物跡。	
四反田Ⅰ遺跡	集落跡	古代 近世以降	竪穴住居1棟、土坑14基、 掘立柱建物跡1棟 畑跡1箇所、 性格不明土坑1基 溝6条、柱穴36個		須恵器、土師器、土鍾、 炭化種子		9世紀～10世紀 にかけての 集落を構成す る施設群。	
四反田Ⅱ遺跡	集落跡	近世 時期不明	土坑1基 土坑2基、溝5条、柱穴5個		須恵器、土師器 木製品(下駄)、木片			
古城方八丁遺跡	集落跡	縄文～ 弥生 古代 近世(以降)	陥し穴状遺構2基  竪穴住居3棟、土坑26基、 陶器埋設遺構1基、溝13条 堀2条、掘立柱建物跡5棟、		縄文土器、弥生土器、 石鏃、石匙、磨石、鼓石 須恵器、土師器、石帯、 渥美窯産陶器、鉄鏃、刀子		小型の土坑から 石帯が出た。 また、経塚と 考えられる陶 器埋設遺構を 検出。	

要約	<p>奥州市前沢区古城字水尻・字四反田・字宿ノ前に位置する。遺跡は胆沢扇状地の低位段丘面である水沢段丘面上に立地する。</p> <p>水尻遺跡では後期旧石器時代前半期のナイフ形石器、台形石器を含む石器集中部6ヶ所が確認された。資料数は少ないものの、水沢高位段丘面上に後期旧石器時代前半期の石器群が確認されたことは、段丘面形成過程を考えるうえで重要である。また、古代の調査では、3×2間の竪柱建物に四面庇が付く掘立柱建物が確認された。ここからは9世紀後半～10世紀前半の遺物が出上しており、そのなかでも、礫石や東濃窯産緑釉陶器は、有力者の存在を窺わせる貴重な資料となった。この建物については有力者の居館のほか、堂のような公共性のある施設の可能性が考えられる。また、古代の周溝から12世紀の瀬美窯産陶器が出土している。</p> <p>四反田Ⅰ遺跡からは、古代の堅穴住居、掘立柱建物跡を含む集落を構成する施設群が確認された。また、To-a火山灰が堆積した土坑も確認されており、10世紀前半についても引き続き四反田Ⅰ遺跡を含む周辺地域での人々の活動痕跡が明らかとなった。近世以降では畑跡が確認されている。</p> <p>四反田Ⅱ遺跡は狭い範囲の調査に限られたものの、近世の土坑のほか、時期不明の遺構が複数確認された。このなかで、近世の土坑からは、木製の下駄が出上している。</p> <p>古城方八丁遺跡では、縄文時代～近世の遺構が確認された。このうち古代については、堅穴住居や土坑が確認された。中でも土坑から石帯が出上ったことから、官衙や郡衙など公共性の高い施設と関わりをもつ人物の存在が想定される。また、12世紀の経塚と考えられる陶器埋設遺構が確認された。使用された陶器は瀬美窯産である。近世では、前沢区内に多数みられる環濠環敷を囲むと考えられる堀が調査された。</p>
----	--

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第587集  
**水尻遺跡・四反田Ⅰ遺跡・四反田Ⅱ遺跡・  
古城方八丁遺跡発掘調査報告書**

経営体育成基盤整備事業古城2期地区関連遺跡発掘調査

印刷 平成23年3月18日

発行 平成23年3月23日

編集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発行 岩手県南広域振興局農政部農村整備室  
〒023-1111 岩手県奥州市江刺区大通り7-13  
電話 (0197) 35-8440

(財)岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印刷 川口印刷工業株式会社  
〒020-0841 岩手県盛岡市羽場10-1-2  
電話 (019) 632-2211



